

2024年度

講義計画と内容

教育学研究科

【注意事項】

UTAS (<https://utas.adm.u-tokyo.ac.jp/campusweb/>) の内容と相違がある場合には、UTASの内容を正としてください。

2024年3月22日

目 次

I. 2024年度 大学院教育学研究科授業日程	1
II. 教育学研究科の成績評価基準について	4
III. 試験時の不正行為について	5
IV. レポート作成時の留意点について	6
V. 授業科目表	7
VI. 講義内容（シラバス）	
総合教育科学専攻	
基礎教育学専修	
基礎教育学コース	17
教育社会科学専修	
比較教育社会学コース	45
生涯学習基盤経営コース	87
大学経営・政策コース	111
心身発達科学専修	
教育心理学コース	134
臨床心理学コース	167
身体教育学コース	198
学校教育高度化専攻	
教職開発コース	221
教育内容開発コース	244
学校開発政策コース	267
vii. 教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧	289
viii. 事務室のオフィスアワー及び連絡方法一覧	299
ix. 地図	300

2024年度教育学研究科授業日程

進学ガイダンス	4月3日(水) 〔※大学経営・政策コースは4月6日(土)〕		
[S 1 S 2]		[A 1 A 2]	
授業期間	4月5日(金)～7月29日(月)	授業期間	10月2日(水)～1月31日(金)
祝日授業実施	5月4日(土)：みどりの日	祝日授業実施	11月4日(月)：振替休日（文化の日）
授業曜日振替	5月7日(火)：月曜日の授業を行う 5月15日(水)：金曜日の授業を行う	授業曜日振替	11月13日(水)：月曜日の授業を行う
授業休止	4月12日(金)：入学式（東京大学記念日） 5月17日(金)午後のみ：五月祭準備 5月18日(土)：五月祭	授業休止	11月21日(木)：駒場祭準備 11月22日(金), 11月23日(土)：駒場祭 11月25日(月)午前のみ：駒場祭片付け 12月29日(日)～1月5日(日)：冬季休業 1月17日(金)：大学入学共通テスト準備 1月18日(土)：大学入学共通テスト
修了試験	7月16日(火), 7月17日(水), 7月18日(木), 7月19日(金), 7月22日(月) 〔※大学経営・政策コースは7月20日(土)〕	修了試験	1月16日(木), 1月21日(火), 1月22日(水), 1月24日(金), 1月27日(月) 〔※大学経営・政策コースは1月11日(土)〕
補講・集中講義	7月23日(火), 7月24日(水), 7月25日(木), 7月26日(金), 7月29日(月) 〔※大学経営・政策コースは7月27日(土)〕	補講・集中講義	1月23日(木), 1月28日(火), 1月29日(水), 1月30日(木), 1月31日(金) 〔※大学経営・政策コースは1月25日(土)〕
※5月17日(金)午前のみ, 5月30日(木)は、S 1 科目の補講日のため、S 1 S 2 科目の授業を休止する。		※11月25日(月)午後のみ, 11月26日(火), 11月27日(水)は、A 1 科目の補講日のため、A 1 A 2 科目の授業を休止する。	
[S 1]		[A 1]	
授業期間	4月5日(金)～6月1日(土)	授業期間	10月2日(水)～11月27日(水)
祝日授業実施	5月4日(土)：みどりの日	祝日授業実施	11月4日(月)：振替休日（文化の日）
授業曜日振替	5月7日(火)：月曜日の授業を行う 5月15日(水)：金曜日の授業を行う	授業曜日振替	11月13日(水)：月曜日の授業を行う
授業休止	4月12日(金)：入学式（東京大学記念日） 5月17日(金)午後のみ：五月祭準備 5月18日(土)：五月祭	授業休止	11月21日(木)：駒場祭準備 11月22日(金), 11月23日(土)：駒場祭 11月25日(月)午前のみ：駒場祭片付け
修了試験	5月23日(木), 5月27日(月), 5月28日(火), 5月29日(水), 5月31日(金) 〔※大学経営・政策コースは6月1日(土)〕	修了試験	11月14日(木), 11月15日(金), 11月18日(月), 11月19日(火), 11月20日(水) 〔※大学経営・政策コースは11月16日(土)〕
補講・集中講義	5月17日(金)午前のみ, 5月30日(木)	補講・集中講義	11月25日(月)午後のみ, 11月26日(火), 11月27日(水)
[S 2]		[A 2]	
授業期間	6月3日(月)～7月29日(月)	授業期間	11月28日(木)～1月31日(金)
		授業休止	12月29日(日)～1月5日(日)：冬季休業 1月17日(金)：大学入学共通テスト準備 1月18日(土)：大学入学共通テスト
修了試験	7月16日(火), 7月17日(水), 7月18日(木), 7月19日(金), 7月22日(月) 〔※大学経営・政策コースは7月20日(土)〕	修了試験	1月16日(木), 1月21日(火), 1月22日(水), 1月24日(金), 1月27日(月) 〔※大学経営・政策コースは1月11日(土)〕
補講・集中講義	7月23日(火), 7月24日(水), 7月25日(木), 7月26日(金), 7月29日(月) 〔※大学経営・政策コースは7月27日(土)〕	補講・集中講義	1月23日(木), 1月28日(火), 1月29日(水), 1月30日(木), 1月31日(金) 〔※大学経営・政策コースは1月25日(土)〕
夏季休業	7月30日(火)～9月30日(月)	春季休業	2月1日(土)～3月31日(月)
集中講義（夏季）	8月1日(木)～9月6日(金)		

[修士論文関係日程]

修士論文題目届提出期間	11月25日(月)～12月2日(月)
修士論文提出期間	1月6日(月)～1月9日(木)
修士論文要旨提出期間	1月6日(月)～1月10日(金)

[授業時間割]

	時限	(105分授業)
午前	第 1 時限	08時30分 ～ 10時15分
	第 2 時限	10時25分 ～ 12時10分
午後	第 3 時限	13時00分 ～ 14時45分
	第 4 時限	14時55分 ～ 16時40分
	第 5 時限	16時50分 ～ 18時35分
	第 6 時限	18時45分 ～ 20時30分

2024年度教育学研究科授業日程

〔Sセメスター授業等日程〕

○授業期間 4月5日(金)～7月29日(月)

○祝日授業実施 5月4日(土)：みどりの日

○授業曜日振替 5月7日(火)：月曜日の授業を行う 5月15日(水)：金曜日の授業を行う

○授業休止 4月12日(金)：入学式(東京大学記念日) 5月17日(金)午後のみ：五月祭準備
5月18日(土)：五月祭

〔S1S2科目〕

週1コマ		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	修了試験
月曜日	午前	04/08	04/15	04/22	05/07 (火)	05/13	05/20	05/27	06/03	06/10	06/17	06/24	07/01	07/08	07/22
	午後														
火曜日	午前	04/09	04/16	04/23	04/30	05/14	05/21	05/28	06/04	06/11	06/18	06/25	07/02	07/09	07/16
	午後														
水曜日	午前	04/10	04/17	04/24	05/01	05/08	05/22	05/29	06/05	06/12	06/19	06/26	07/03	07/10	07/17
	午後														
木曜日	午前	04/11	04/18	04/25	05/02	05/09	05/16	05/23	06/06	06/13	06/20	06/27	07/04	07/11	07/18
	午後														
金曜日	午前	04/05	04/19	04/26	05/10	05/15 (水)	05/24	05/31	06/07	06/14	06/21	06/28	07/05	07/12	07/19
	午後														
土曜日	午前	04/13	04/20	04/27	05/04 (祝日)	05/11	05/25	06/01	06/08	06/15	06/22	06/29	07/06	07/13	07/20
	午後														

○補講・集中講義 7月23日(火), 7月24日(水), 7月25日(木), 7月26日(金), 7月29日(月)〔※大学経営・政策コースは7月27日(土)〕

※5月17日(金)午前のみ, 5月30日(木)は、S1科目の補講日のため、S1S2科目の授業を休止する。

〔S1科目〕

1日2コマ連続	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回							
							修了試験							
月曜日	午前 午後	04/08	04/15	04/22	05/07 (火)	05/13	05/20	05/27						
火曜日	午前 午後	04/09	04/16	04/23	04/30	05/14	05/21	05/28						
水曜日	午前 午後	04/10	04/17	04/24	05/01	05/08	05/22	05/29						
木曜日	午前 午後	04/11	04/18	04/25	05/02	05/09	05/16	05/23						
金曜日	午前 午後	04/05	04/19	04/26	05/10	05/15 (水)	05/24	05/31						
土曜日	午前 午後	04/13	04/20	04/27	05/04 (祝日)	05/11	05/25	06/01						
週2コマ	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	修了試験
月曜日	午前	04/08	04/11	04/15	04/18	04/22	04/25	05/02	05/09	05/13	05/16	05/20	05/23	05/27
木曜日	午後													
火曜日	午前	04/05	04/09	04/16	04/19	04/23	04/26	04/30	05/10	05/14	05/18	05/21	05/24	05/28
金曜日	午後													

○補講・集中講義 5月17日(金)午前のみ, 5月30日(木)

〔S2科目〕

1日2コマ連続	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回							
							修了試験							
月曜日	午前 午後	06/03	06/10	06/17	06/24	07/01	07/08	07/22						
火曜日	午前 午後	06/04	06/11	06/18	06/25	07/02	07/09	07/16						
水曜日	午前 午後	06/05	06/12	06/19	06/26	07/03	07/10	07/17						
木曜日	午前 午後	06/06	06/13	06/20	06/27	07/04	07/11	07/18						
金曜日	午前 午後	06/07	06/14	06/21	06/28	07/05	07/12	07/19						
土曜日	午前 午後	06/08	06/15	06/22	06/29	07/06	07/13	07/20						
週2コマ	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	修了試験
月曜日	午前	06/03	06/06	06/10	06/13	06/17	06/20	06/24	06/27	07/01	07/04	07/08	07/11	07/18
木曜日	午後													
火曜日	午前	06/04	06/07	06/11	06/14	06/18	06/21	06/25	06/28	07/02	07/05	07/09	07/12	07/16
金曜日	午後													

○補講・集中講義 7月23日(火), 7月24日(水), 7月25日(木), 7月26日(金), 7月29日(月)〔※大学経営・政策コースは7月27日(土)〕

[Aセメスター授業等日程]

○授業期間 10月2日(水)～1月31日(金)

○祝日授業実施 11月4日(月)：振替休日(文化の日)

○授業曜日振替 11月13日(水)：月曜日の授業を行う

○授業休止 11月21日(木)：駒場祭準備 11月22日(金), 11月23日(土)：駒場祭

11月25日(月)午前のみ：駒場祭片付け 12月29日(日)～1月5日(日)：冬季休業

1月17日(金)：大学入学共通テスト準備 1月18日(土)：大学入学共通テスト

[A 1 A 2科目]

週1コマ	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	修了試験
月曜日	午前 午後	10/07	10/21	10/28	11/04 (祝日)	11/11	11/18	12/02	12/09	12/16	12/23	01/06	01/20	01/27
火曜日	午前 午後	10/08	10/15	10/22	10/29	11/05	11/12	11/19	12/03	12/10	12/17	12/24	01/07	01/21
水曜日	午前 午後	10/02	10/09	10/16	10/23	10/30	11/06	11/20	12/04	12/11	12/18	12/25	01/08	01/22
木曜日	午前 午後	10/03	10/10	10/17	10/24	10/31	11/07	11/14	11/28	12/05	12/12	12/19	12/26	01/09
金曜日	午前 午後	10/04	10/11	10/18	10/25	11/01	11/08	11/15	11/29	12/06	12/13	12/20	12/27	01/10
土曜日	午前 午後	10/05	10/12	10/19	10/26	11/02	11/09	11/16	11/30	12/07	12/14	12/21	12/28	01/11

○補講・集中講義 1月23日(木), 1月28日(火), 1月29日(水), 1月30日(木), 1月31日(金)〔※大学経営・政策コースは1月25日(土)〕

※11月25日(月)午後のみ, 11月26日(火), 11月27日(水)は、A 1 科目の補講日のため、A 1 A 2 科目の授業を休止する。

[A 1 科目]

1日2コマ連続		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回 修了試験							
月曜日	午前	10/07	10/21	10/28	11/04 (祝日)	11/11	11/13 (水)	11/18							
	午後														
火曜日	午前	10/08	10/15	10/22	10/29	11/05	11/12	11/19							
	午後														
水曜日	午前	10/02	10/09	10/16	10/23	10/30	11/06	11/20							
	午後														
木曜日	午前	10/03	10/10	10/17	10/24	10/31	11/07	11/14							
	午後														
金曜日	午前	10/04	10/11	10/18	10/25	11/01	11/08	11/15							
	午後														
土曜日	午前	10/05	10/12	10/19	10/26	11/02	11/09	11/16							
	午後														
週2コマ		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	修了試験
月曜日	午前	10/03	10/07	10/10	10/17	10/21	10/24	10/28	10/31	11/04 (祝日)	11/07	11/11	11/13 (水)	11/14	11/18
木曜日	午後														
火曜日	午前	10/04	10/08	10/11	10/15	10/18	10/22	10/25	10/29	11/01	11/05	11/08	11/12	11/15	11/19
金曜日	午後														

○補講・集中講義 11月25日(月)午後のみ, 11月26日(火), 11月27日(水)

[A 2 科目]

1日2コマ連続		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回 修了試験							
月曜日	午前 午後	12/02	12/09	12/16	12/23	01/06	01/20	01/27							
火曜日	午前 午後	12/03	12/10	12/17	12/24	01/07	01/14	01/21							
水曜日	午前 午後	12/04	12/11	12/18	12/25	01/08	01/15	01/22							
木曜日	午前 午後	11/28	12/05	12/12	12/19	12/26	01/09	01/16							
金曜日	午前 午後	11/29	12/06	12/13	12/20	12/27	01/10	01/24							
土曜日	午前 午後	11/30	12/07	12/14	12/21	12/28	01/04	01/11							
週2コマ		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	修了試験
月曜日	午前	11/28	12/02	12/05	12/09	12/12	12/16	12/19	12/23	12/26	01/06	01/09	01/16	01/20	01/27
木曜日	午後														
火曜日	午前	11/29	12/03	12/06	12/10	12/13	12/17	12/20	12/24	12/27	01/07	01/10	01/14	01/21	01/24
金曜日	午後														

○補講・集中講義 1月23日(木), 1月28日(火), 1月29日(水), 1月30日(木), 1月31日(金)〔※大学経営・政策コースは1月25日(土)〕

教育学研究科の成績評価基準について

本研究科の成績評価は、以下の基準に基づいて行なわれます。

評価	基 準
優	授業の科目目標となっている課題を十分に満たす、優秀な学習・研究成果を示した。
良	授業の科目目標となっている課題を満たす学習・研究成果を示した。
可	授業の科目目標となっている課題に関して、ある程度の学習・研究成果を示した。
不可	授業の科目目標となっている課題に関して、評価できる学習・研究成果を示すことができなかった。

試験時の不正行為について

1. 筆記試験による場合

試験は公正に行われるべきであり、不正行為は許されない。

不正行為を行ったと認められた者は、その学期の全科目の得点を無効とされ、学生処分の対象となる。

2. 平常点による場合

授業中に不正行為を行ったと認められた者も、試験の際の不正行為と同様、その学期の全科目の得点を無効とされ、学生処分の対象となる。

3. レポートによる場合

科目によっては学生が提出したレポートに基づいて成績の評価を行うことがある。その際、教員から特別な指示がない限り、レポートは学生個人が自己の責任において作成するものである。レポートで他の文章やデータ、URL を引用する場合は、引用符などで引用箇所を明示し、出典を明記しなければならない。これに反する不正行為が認められた場合は、当該レポートが無効と判定されるだけでなく、試験の際の不正行為と同様、その学期の全科目の得点を無効とされ、学生処分の対象となる。またレポート提出者のみならず、不正なレポート作成に協力した者も、同様に取り扱われる。

レポート作成時の留意点について

レポートは学生個人が自己の責任において作成するものである。レポートで他者の文章やデータ、Web 上の情報等を引用する場合は、引用符などで引用箇所を明示し、出典を明記しなければならない。これに反する不正行為が認められた場合は、当該レポートが無効となるだけでなく、試験の際の不正行為と同様、その学期の全科目の得点が無効とされ、学生処分の対象となる。また、レポート提出者のみならず、不正なレポート作成に協力した者も同様に取り扱われる。

(2) 教育学研究科授業科目表

〔 自 2024年4月 〕
〔 至 2025年3月 〕

総合教育科学専攻 基礎教育学専修

基礎教育学コース

【備考欄の＊印は、基礎教育学コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	曜 日	時 限	備考	教職課程 認定区分 (教科)
23-211-01	教育哲学基本研究	教育哲学演習Ⅰ	教授 非常勤講師	山名 淳 渡名喜 庸哲	2	S1S2	木	2		*2
23-211-02	教育人間学基本研究	教育思想演習	客員教授	小玉 重夫	2	S1S2	金	4		*2
23-211-03	教育人間学基本研究	教育人間学基本演習	准教授	片山 勝茂	2	S1S2	木	4		*2
23-211-04	教育史基本研究	日本教育史演習Ⅰ	教授	小国 喜弘	2	S1S2	金	3		*2
23-211-05	教育史基本研究	高等教育・研究の歴史Ⅰ	教授	隠岐 さや香	2	S1S2	火	4		*2
23-211-06	教育臨床学基本研究	臨床現象学Ⅰ	准教授	大塚 類	2	S1S2	木	3		
23-211-07	基礎教育学特殊研究	基礎教育学総合演習	客員教授 客員教授 教授 教授 教授 准教授 准教授	田中 智志 小玉 重夫 山名 淳 小国 喜弘 隠岐 さや香 片山 勝茂 大塚 類	2	通年	水	4	* 隔週	*2
23-211-08	教育哲学特殊研究	教育哲学演習Ⅱ	教授 非常勤講師	山名 淳 Markus Rieger- Ladich	2	A1A2	木	2		*2
23-211-09	教育人間学特殊研究	教育政治学演習	客員教授	小玉 重夫	2	A1A2	金	4		*2
23-211-10	教育人間学特殊研究	教育人間学特殊研究	准教授	片山 勝茂	2	A1A2	木	4		*2
23-211-11	教育史特殊研究	日本教育史演習Ⅱ	教授	小国 喜弘	2	A1A2	金	3		*2
23-211-12	教育史特殊研究	高等教育・研究の歴史Ⅱ	教授	隠岐 さや香	2	A1A2	火	4		*2
23-211-13	教育臨床学特殊研究	臨床現象学Ⅱ	准教授	大塚 類	2	A1A2	木	3		
23-211-14	教育哲学論文指導	教育哲学論文指導	教授	山名 淳	2	通年	月	1	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-15	教育哲学論文指導	教育哲学論文指導	教授	山名 淳	2	通年	月	1	* 隔週 博士課程のみ	
23-211-16	教育人間学論文指導	教育思想論文指導	客員教授	小玉 重夫	2	通年	月	1	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-17	教育人間学論文指導	教育思想論文指導	客員教授	小玉 重夫	2	通年	月	1	* 隔週 博士課程のみ	
23-211-18	教育人間学論文指導	教育人間学論文指導	准教授	片山 勝茂	2	通年	月	1	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-19	教育人間学論文指導	教育人間学論文指導	准教授	片山 勝茂	2	通年	月	1	* 隔週 博士課程のみ	
23-211-20	教育史論文指導	日本教育史論文指導	教授	小国 喜弘	2	通年	月	1	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-21	教育史論文指導	日本教育史論文指導	教授	小国 喜弘	2	通年	月	1	* 隔週 博士課程のみ	
23-211-22	教育史論文指導	西洋教育史論文指導	教授	隠岐 さや香	2	通年	月	1	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-23	教育史論文指導	西洋教育史論文指導	教授	隠岐 さや香	2	通年	月	1	* 隔週 博士課程のみ	
23-211-24	教育臨床学論文指導	教育臨床学論文指導	客員教授	田中 智志	2	通年	月	1	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-25	教育臨床学論文指導	教育臨床学論文指導	客員教授	田中 智志	2	通年	月	1	* 隔週 博士課程のみ	
23-211-26	教育臨床学論文指導	臨床現象学論文指導	准教授	大塚 類	2	通年	月	1	* 隔週 修士課程のみ	
23-211-27	教育臨床学論文指導	臨床現象学論文指導	准教授	大塚 類	2	通年	月	1	* 隔週 博士課程のみ	

比較教育社会学コース

【備考欄の＊印は、比較教育社会学コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	曜 日	時 限	備考	教職課程 認定区分 (教科)
23-212-01	教育社会学基本研究	現代日本社会における教育・仕事・家族	教授	本田 由紀	2	S2	火金	4		*2
23-212-02	教育社会学基本研究	市民社会・国家・教育	教授	仁平 典宏	2	S1	月	3-4		*2
23-212-03	教育社会学基本研究	比較教育学の理論と方法	准教授	萩巢 崇世	2	S1S2	金	3		*2
23-212-04	高等教育論基本研究	教育と不平等の社会学Ⅰ	准教授	多喜 弘文	2	S1S2	木	3		*2
23-212-05	比較教育システム論基本研究	教育社会学の古典を読む	教授	中村 高康	2	S1	火	3-4		*2
23-212-06	比較教育システム論基本研究	教育社会学方法論研究	非常勤講師	藤原 翔	2	S2	月	3-4		*2
23-212-07	教育社会学特殊研究	教育社会学の研究課題	教授	本田 由紀	2	A1A2	木	5		*2
23-212-08	教育社会学特殊研究	教育言説の社会学	教授	仁平 典宏	2	A2	月	3-4		
23-212-09	高等教育論特殊研究	教育と不平等の社会学Ⅱ	准教授	多喜 弘文	2	A1A2	木	3		
23-212-10	教育社会学特殊研究	障害の社会学理論を読む	教授	星加 良司	2	S1S2	木	4		
23-212-11	教育社会学特殊研究	教育研究における量的調査設計	准教授	石田 賢示	2	S1S2	水	5		*2
23-212-12	教育社会学特殊研究	格差・不平等研究のための社会的埋め込み論	准教授	石田 賢示	2	A1A2	月	5		
23-212-13	教育社会学特殊研究	Ethnicity, Nationalism and Education	非常勤講師	高橋 史子	2	A1A2	月	2		
23-212-14	教育社会学特殊研究	国際教育開発の研究課題	准教授	萩巢 崇世	2	A1A2	金	3		*2
23-212-15	比較教育システム論特殊研究	教育と選抜の諸問題	教授	中村 高康	2	A1A2	金	4		*2
23-212-16	比較教育学特殊研究	質的方法論研究	教授	額賀 美紗子	2	A1	火	3-4		*2
23-212-17	比較教育学特殊研究	グローバリゼーションと教育	教授	額賀 美紗子	2	A2	火	3-4		
23-212-18	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	教授	本田 由紀	2	通年	金	1	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-19	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	教授	本田 由紀	2	通年	金	1	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-20	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	教授	仁平 典宏	2	通年	金	1	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-21	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	教授	仁平 典宏	2	通年	金	1	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-22	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	教授	星加 良司	2	通年	金	1	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-23	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	教授	星加 良司	2	通年	金	1	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-24	教育社会学論文指導	計量教育社会学論文指導	教授	佐藤 香	2	通年	金	2	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-25	教育社会学論文指導	計量教育社会学論文指導	教授	佐藤 香	2	通年	金	2	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-26	教育社会学論文指導	計量教育社会学論文指導	客員教授	三輪 哲	2	通年	金	1	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-27	教育社会学論文指導	計量教育社会学論文指導	客員教授	三輪 哲	2	通年	金	1	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-28	教育社会学論文指導	計量教育社会学論文指導	准教授	石田 賢示	2	通年	金	1	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-29	教育社会学論文指導	計量教育社会学論文指導	准教授	石田 賢示	2	通年	金	1	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-30	高等教育論論文指導	高等教育論論文指導	准教授	多喜 弘文	2	通年	金	1	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-31	高等教育論論文指導	高等教育論論文指導	准教授	多喜 弘文	2	通年	金	1	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-32	高等教育論論文指導	高等教育論論文指導	客員教授	橋本 鉦市	2	通年	金	1	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-33	高等教育論論文指導	高等教育論論文指導	客員教授	橋本 鉦市	2	通年	金	1	* 隔週 博士課程のみ	

23-212-34	比較教育システム論論文指導	比較教育システム論論文指導	教授	中村 高康	2	通年	金	1	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-35	比較教育システム論論文指導	比較教育システム論論文指導	教授	中村 高康	2	通年	金	1	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-36	比較教育学論文指導	比較教育学論文指導	教授	額賀 美紗子	2	通年	金	1	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-37	比較教育学論文指導	比較教育学論文指導	教授	額賀 美紗子	2	通年	金	1	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-38	比較教育学論文指導	比較教育学論文指導	准教授	萩巣 崇世	2	通年	金	1	* 隔週 修士課程のみ	
23-212-39	比較教育学論文指導	比較教育学論文指導	准教授	萩巣 崇世	2	通年	金	1	* 隔週 博士課程のみ	
23-212-40	比較教育システム論特殊研究	Gender inequality, labor markets and employment in contemporary Japan	客員教授	Mary Brinton	2	8-9月	集中	-	集中講義(8-9月)	

総合教育科学専攻 教育社会科学専修

生涯学習基盤経営コース

【備考欄の*印は、生涯学習基盤経営コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	曜 日	時 限	備考	教職課程 認定区分 (教科)
23-213-01	生涯学習論基本研究	生涯学習論基本研究Ⅱ	教授	牧野 篤	2	S1	火	5-6		*2
23-213-02	図書館情報学基本研究	図書館情報学研究方法論	教授	影浦 峯	2	S1S2	木	2		*2
23-213-03	図書館情報学基本研究	図書館情報学総合研究	教授	影浦 峯	2	通年	金	1	隔週	
23-213-04	生涯学習論特殊研究	生涯学習論特殊研究Ⅱ	教授	李 正連	2	A1	火	5-6		*2
23-213-05	社会教育学特殊研究	コンパッションに支えられた コミュニティ-概念と実践	非常勤講師	堀田 聡子	2	A1	金	2-3		
23-213-06	社会教育学特殊研究	プログラム評価論	非常勤講師	安田 節之	2	8-9月	集中	-	集中講義(8-9月)	*2
23-213-07	図書館情報学特殊研究	情報媒体構造論	講師	宮田 玲	2	A1A2	火	2		*2
23-213-08	図書館情報学特殊研究	図書館情報学理論研究	准教授	河村 俊太郎	2	S1S2	月	3		*2
23-213-09	図書館情報学特殊研究	学術コミュニケーション論	客員准教授	池内 有為	2	S1S2	金	3		
23-213-10	図書館情報学特殊研究	情報可視化の理論と実践	非常勤講師	朱 心茹	2	A1A2	金	2		
23-213-11	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	教授	牧野 篤	2	通年	火	2	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-12	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	教授	牧野 篤	2	通年	火	2	* 隔週 博士課程のみ	
23-213-13	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	教授	李 正連	2	通年	火	2	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-14	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	教授	李 正連	2	通年	火	2	* 隔週 博士課程のみ	
23-213-15	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	准教授	新藤 浩伸	2	通年	火	2	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-16	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	准教授	新藤 浩伸	2	通年	火	2	* 隔週 博士課程のみ	
23-213-17	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	教授	影浦 峯	2	通年	月	1	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-18	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	教授	影浦 峯	2	通年	月	1	* 隔週 博士課程のみ	
23-213-19	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	准教授	河村 俊太郎	2	通年	月	1	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-20	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	准教授	河村 俊太郎	2	通年	月	1	* 隔週 博士課程のみ	
23-213-21	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	客員准教授	池内 有為	2	通年	月	1	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-22	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	客員准教授	池内 有為	2	通年	月	1	* 隔週 博士課程のみ	
23-213-23	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	講師	宮田 玲	2	通年	月	1	* 隔週 修士課程のみ	
23-213-24	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	講師	宮田 玲	2	通年	月	1	* 隔週 博士課程のみ	

大学経営・政策コース

【備考欄の＊印は、大学経営・政策コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	曜 日	時 限		教職課程 認定区分 (教科)
23-214-01	大学経営政策基本研究	高等教育論	教授	阿曾沼 明裕	2	S2	土	3-4		*2
23-214-02	大学経営政策基本研究	高等教育政策論	教授	阿曾沼 明裕	2	A1A2	土	3		*2
23-214-03	大学経営政策基本研究	大学経営政策演習(1)	教授 教授 教授	阿曾沼 明裕 福留 東土 両角 亜希子	2	通年	土	1	隔週	*2
23-214-04	大学経営政策基本研究	大学経営政策研究	教授 教授 教授	阿曾沼 明裕 福留 東土 両角 亜希子	2	通年	土	1	* 隔週	*2
23-214-05	大学経営政策基本研究	比較大学論	教授	福留 東土	2	A1A2	土	5		*2
23-214-06	大学経営政策基本研究	大学経営論	教授	両角 亜希子	2	S1	土	3-4		*2
23-214-07	大学経営政策特殊研究	大学経営政策各論(3)	教授 非常勤講師 客員教授	福留 東土 鳥居 朋子 米澤 彰純	2	S1S2	土	5		*2
23-214-08	大学経営政策特殊研究	大学経営政策各論(4)	教授 非常勤講師 客員教授	両角 亜希子 稲永 由紀 溝上 慎一	2	A1A2	土	4		*2
23-214-09	大学経営政策特殊研究	高等教育調査の方法と解析(1)	非常勤講師	大多和 直樹	2	8-9月	集中	-	* 集中講義(8-9月)	*2
23-214-10	大学経営政策特殊研究	高等教育調査の方法と解析(2)	非常勤講師	濱中 義隆	2	A1A2	木	6		*2
23-214-11	大学経営政策特殊研究	比較大学経営論(2)	教授	福留 東土	2	S2	集中	-	集中講義(S2)	*2
23-214-12	大学経営政策特殊研究	大学経営事例研究(1)	教授	両角 亜希子	2	通年	-	-	不定期開講(詳細は掲示等参照)	*2
23-214-13	大学経営政策論文指導	大学経営政策論文指導	教授 教授 教授 客員教授 客員教授	阿曾沼 明裕 福留 東土 両角 亜希子 栗田 佳代子 米澤 彰純 溝上 慎一	2	通年	土	2	* 隔週 修士課程のみ	
23-214-14	大学経営政策論文指導	大学経営政策論文指導	教授 教授 教授 客員教授 客員教授	阿曾沼 明裕 福留 東土 両角 亜希子 栗田 佳代子 米澤 彰純 溝上 慎一	2	通年	土	2	* 隔週 博士課程のみ	

教育心理学コース

【備考欄の＊印は、教育心理学コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	曜 日	時 限		教職課程 認定区分 (教科)
23-215-01	教授・学習心理学基本研究	教授・学習過程の心理学Ⅰ	准教授	清河 幸子	2	S1S2	金	2		
23-215-02	発達心理学基本研究	感情と進化・文化	教授	遠藤 利彦	2	S1S2	月	3		*2
23-215-03	発達心理学基本研究	ことばと認知の発達Ⅰ	教授	針生 悦子	2	S1S2	火	4		*2
23-215-04	教育認知科学基本研究	創造的認知の心理学Ⅰ	教授	岡田 猛	2	S1S2	金	3	合併科目(学察情報学府)	*2
23-215-05	教育情報科学基本研究	心理統計学演習	准教授	岡田 謙介	2	S1S2	月	4		
23-215-06	教育情報科学基本研究	心理統計学特論	准教授	岡田 謙介	2	A1A2	月	4		
23-215-07	教育認知科学基本研究	教育認知科学特論	准教授	植阪 友理	2	S1S2	月	2		
23-215-08	教授・学習心理学特殊研究	教授・学習過程の心理学Ⅱ	准教授	清河 幸子	2	A1A2	金	2		
23-215-09	発達心理学特殊研究	関係性と子どもの社会情緒的発達	教授	遠藤 利彦	2	A1A2	月	3		*2

23-215-10	発達心理学特殊研究	ことばと認知の発達Ⅱ	教授	針生 悦子	2	A1A2	火	4		*2
23-215-11	教育認知科学特殊研究	創造的認知の心理学Ⅱ	教授	岡田 猛	2	A1A2	金	3	合併科目(学際情報学府)	*2
23-215-12	教育情報科学特殊研究	量的研究法	准教授	宇佐美 慧	2	S1S2	木	3		
23-215-13	教育情報科学特殊研究	心理統計学の近年の展開	准教授	宇佐美 慧	2	A1A2	火	3		
23-215-14	教育認知科学特殊研究	教育認知科学演習	准教授	植阪 友理	2	A1A2	月	2		
23-215-15	教育情報科学特殊研究	教育学・心理学のための多変量解析の基礎	非常勤講師	山下 直人	2	S1S2	水	3		
23-215-16	教育情報科学特殊研究	計算認知科学概論	非常勤講師	日高 昇平	2	8-9月	集中	-	集中講義(8-9月)	
23-215-17	教授・学習心理学特殊研究	教育実践と心理学	非常勤講師	奈須 正裕	2	8-9月	集中			
23-215-18	教授・学習心理学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	清河 幸子	2	通年	火	5	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-19	教授・学習心理学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	清河 幸子	2	通年	火	5	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-20	教育認知科学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	植阪 友理	2	通年	火	5	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-21	教育認知科学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	植阪 友理	2	通年	火	5	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-22	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	教授	遠藤 利彦	2	通年	火	5	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-23	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	教授	遠藤 利彦	2	通年	火	5	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-24	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	教授	針生 悦子	2	通年	火	5	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-25	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	教授	針生 悦子	2	通年	火	5	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-26	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	野澤 祥子	2	通年	水	1	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-27	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	野澤 祥子	2	通年	水	1	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-28	教育認知科学論文指導	教育心理学論文指導	教授	岡田 猛	2	通年	火	5	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-29	教育認知科学論文指導	教育心理学論文指導	教授	岡田 猛	2	通年	火	5	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-30	教育情報科学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	岡田 謙介	2	通年	火	5	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-31	教育情報科学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	岡田 謙介	2	通年	火	5	* 隔週 博士課程のみ	
23-215-32	教育情報科学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	宇佐美 慧	2	通年	火	5	* 隔週 修士課程のみ	
23-215-33	教育情報科学論文指導	教育心理学論文指導	准教授	宇佐美 慧	2	通年	火	5	* 隔週 博士課程のみ	

総合教育科学専攻 心身発達科学専修

臨床心理学コース

【備考欄の*印は、臨床心理学コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	曜 日	時 限		教職課程 認定区分 (教科)
23-216-01	臨床心理システム論基本研究	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)	教授 講師 特任講師 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師	高橋 美保 野中 舞子 稲吉 玲美 日下華奈子 瀧井有美子 林 潤一郎	1	S1S2	金	5-6	* 修士2年必須	*5
23-216-02	臨床心理システム論基本研究	臨床心理実習Ⅱ	教授 講師 特任講師	高橋 美保 野中 舞子 稲吉 玲美	1	A1A2	火	1-2	* 修士2年必須	*5
23-216-03	臨床心理カリキュラム論基本研究	臨床心理学特論Ⅰ	教授 講師	能智 正博 野中 舞子	2	S1S2	金	4	* 修士1年必須	*5
23-216-04	臨床心理システム論基本研究	臨床心理学特論Ⅱ	教授	高橋 美保	2	A1A2	金	3	* 修士1年必須	*5
23-216-05	臨床心理システム論基本研究	臨床心理面接特論Ⅱ	教授	能智 正博	2	A1A2	月	2	* 修士1年必須	*5
23-216-06	臨床心理カリキュラム論基本研究	臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	准教授	滝沢 龍	2	S1S2	木	2	* 修士1年必須	*5

23-216-07	発達臨床心理学基本研究	臨床心理査定演習Ⅱ	准教授 教授	滝沢 龍 高橋 美保	2	A1A2	木	2	* 修士1年必須	*5
23-216-08	臨床心理カリキュラム論基本研究	臨床心理基礎実習Ⅰ	教授 講師 特任講師	高橋 美保 野中 舞子 稲吉 玲美	1	S1S2	金	1-2	* 修士1年必須	*5
23-216-09	発達臨床心理学基本研究	臨床心理基礎実習Ⅱ	教授 教授	高橋 美保 能智 正博	1	S1S2	木	5-6	* 修士1年必須	*5
23-216-10	発達臨床心理学基本研究	臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	教授 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師	高橋 美保 日下華奈子 瀧井有美子 林 潤一郎	2	A1A2	金	2	* 修士1年必須	*5
23-216-11	臨床心理カリキュラム論特殊研究	臨床心理学研究法	教授 准教授	能智 正博 滝沢 龍	2	S1S2	月	2		*2
23-216-12	発達臨床心理学特殊研究	メンタルヘルスマネジメント基礎(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	教授	高橋美保	2	S1S2	水	1	*(ただし、GCLコース生は可) 隔年で開講。2025年度は開講しない。	*5
23-216-13	発達臨床心理学特殊研究	メンタルヘルスマネジメント応用(心の健康教育に関する理論と実践)	非常勤講師	林 潤一郎	2	A1A2	金	1	*(ただし、GCLコース生は可)	*5
23-216-14	臨床心理カリキュラム論特殊研究	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	客員教授	大橋 靖史	2	8-9月	集中	-	* 隔年で開講。2025年度は開講しない。	
23-216-15	臨床心理システム論特殊研究	コミュニティアプローチ特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	教授 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師	高橋 美保 大瀧 玲子 安 婷婷 田中 究	2	A2	集中	-	*	
23-216-16	発達臨床心理学特殊研究	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	准教授	滝沢 龍	2	A1A2	木	1		*2
23-216-17	発達臨床心理学特殊研究	心理療法特論:スーパービジョンⅠ	非常勤講師	田中 究	2	S1S2	火	4	*	*2
23-216-18	発達臨床心理学特殊研究	心理療法特論:スーパービジョンⅡ	非常勤講師	田中 究	2	A1A2	火	4	*	*2
23-216-19	発達臨床心理学特殊研究	障害学演習	特任教授	福島 智	2	A1A2	木	3		*2
23-216-20	臨床心理システム論論文指導	臨床心理学論文指導	教授	高橋 美保	2	通年	火	5	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-21	臨床心理システム論論文指導	臨床心理学論文指導	教授	高橋 美保	2	通年	火	5	* 隔週 博士課程のみ	
23-216-22	臨床心理システム論論文指導	臨床心理学論文指導	客員教授	大橋 靖史	2	通年	火	5	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-23	臨床心理システム論論文指導	臨床心理学論文指導	客員教授	大橋 靖史	2	通年	火	5	* 隔週 博士課程のみ	
23-216-24	臨床心理カリキュラム論論文指導	臨床心理学論文指導	教授	能智 正博	2	通年	火	5	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-25	臨床心理カリキュラム論論文指導	臨床心理学論文指導	教授	能智 正博	2	通年	火	5	* 隔週 博士課程のみ	
23-216-26	臨床心理カリキュラム論論文指導	臨床心理学論文指導	准教授	滝沢 龍	2	通年	火	5	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-27	臨床心理カリキュラム論論文指導	臨床心理学論文指導	准教授	滝沢 龍	2	通年	火	5	* 隔週 博士課程のみ	
23-216-28	発達臨床心理学論文指導	臨床心理学論文指導	講師	野中 舞子	2	通年	火	5	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-29	発達臨床心理学論文指導	臨床心理学論文指導	講師	野中 舞子	2	通年	火	5	* 隔週 博士課程のみ	
23-216-30	発達臨床心理学論文指導	障害学論文指導	特任教授	福島 智	2	通年	月	5	* 隔週 修士課程のみ	
23-216-31	発達臨床心理学論文指導	障害学論文指導	特任教授	福島 智	2	通年	月	5	* 隔週 博士課程のみ	
	発達臨床心理学特殊研究	心理療法特論:スーパービジョンⅢ	-	-	2	-	-	-	* 2024年度は開講しない。	
	発達臨床心理学特殊研究	心理療法特論:スーパービジョンⅣ	-	-	2	-	-	-	* 2024年度は開講しない。	
	発達臨床心理学特殊研究	メンタルヘルスマネジメント基礎(福祉分野に関する理論と支援の展開)	-	-	2	-	-	-	* 隔年で開講。2024年度は開講しない。	

	発達臨床心理学特殊研究	メンタルヘルスマネジメント 応用(教育分野に関する理 論と支援の展開)	-	-	2	-	-	-	* 隔年で開講。2024年度は 開講しない。	
--	-------------	---	---	---	---	---	---	---	---------------------------	--

総合教育科学専攻 心身発達科学専修

身体教育学コース

【備考欄の*印は、身体教育学コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	曜 日	時 限		教職課程 認定区分 (教科)
23-217-01	身体教育学基本研究	身体教育学の諸問題Ⅰ	教授	野崎 大地	2	S1S2	木	2		*7
23-217-02	教育生理学基本研究	身体システム論Ⅰ	教授 准教授	山本 義春 森田 賢治	2	S1S2	金	3		*7
23-217-03	発達脳科学基本研究	発達脳科学特論Ⅰ	教授	多賀 厳太郎	2	S1	月	3-4		*7
23-217-04	健康教育学基本研究	健康教育学の諸問題Ⅰ	教授 教授	佐々木 司 東郷 史治	2	S1S2	月	2		*6
23-217-05	身体教育学特殊研究	身体教育学の諸問題Ⅱ	教授	野崎 大地	2	A1A2	木	2		*7
23-217-06	教育生理学特殊研究	身体システム論Ⅱ	教授 准教授	山本 義春 森田 賢治	2	A1A2	金	3		*7
23-217-07	発達脳科学特殊研究	発達脳科学特論Ⅱ	教授	多賀 厳太郎	2	A1	月	3-4		*7
23-217-08	健康教育学特殊研究	健康教育学の諸問題Ⅱ	教授 教授	佐々木 司 東郷 史治	2	A1A2	月	2		*6
23-217-09	健康教育学特殊研究	予防科学で支える思春期 のwell-being	客員教授	西田 淳志	2	A1	集中	-	集中講義	
23-217-10	身体教育学論文指導	身体教育学論文指導	教授	野崎 大地	2	通年	金	4	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-11	身体教育学論文指導	身体教育学論文指導	教授	野崎 大地	2	通年	金	4	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-12	身体教育学論文指導	身体教育学論文指導	准教授	森田 賢治	2	通年	金	4	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-13	身体教育学論文指導	身体教育学論文指導	准教授	森田 賢治	2	通年	金	4	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-14	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	教授	山本 義春	2	通年	金	4	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-15	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	教授	山本 義春	2	通年	金	4	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-16	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	教授	東郷 史治	2	通年	金	4	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-17	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	教授	東郷 史治	2	通年	金	4	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-18	発達脳科学論文指導	発達脳科学論文指導	教授	多賀 厳太郎	2	通年	金	4	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-19	発達脳科学論文指導	発達脳科学論文指導	教授	多賀 厳太郎	2	通年	金	4	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-20	健康教育学論文指導	健康教育学論文指導	教授	佐々木 司	2	通年	金	4	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-21	健康教育学論文指導	健康教育学論文指導	教授	佐々木 司	2	通年	金	4	* 隔週 博士課程のみ	
23-217-22	健康教育学論文指導	健康教育学論文指導	客員教授	西田 淳志	2	通年	金	4	* 隔週 修士課程のみ	
23-217-23	健康教育学論文指導	健康教育学論文指導	客員教授	西田 淳志	2	通年	金	4	* 隔週 博士課程のみ	

学校教育高度化専攻

教職開発コース

【備考欄の*印は、教職開発コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	曜 日	時 限		教職課程 認定区分 (教科)
23-301-01	教職開発・理論研究 (授業研究・発展研究)	保育学研究	准教授	野澤 祥子	2	A1A2	月	3-4	隔週	*3
23-301-02	教職開発・理論研究 (カリキュラム研究・発展研究)	教職経験の研究	教授	浅井 幸子	2	S1	月	3-4		*3
23-301-03	教職開発・理論研究 (授業研究・基礎研究)	授業における学習研究	准教授	一柳 智紀	2	A1	火	3-4		*1
23-301-04	教職開発・理論研究 (カリキュラム研究・基礎研究)	授業研究の理論と方法	教授	藤江 康彦	2	S1	火	3-4		*1
23-301-05	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	現代思想と情動論の展開	非常勤講師	伊藤 守	2	A1A2	木	3	合併科目(教育内容開発 コース・学校開発政策コー ス)	*3

23-301-06	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	実践知と叡智:熟達化と生涯発達からの検討	非常勤講師	楠見 孝	2	8-9月	集中	-	集中講義(8-9月) 合併科目(教育内容開発 コース・学校開発政策コース)	*3
23-301-07	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	教職専門性開発研究概論	非常勤講師	木村 優	2	8-9月	集中	-	集中講義(8-9月) 合併科目(教育内容開発 コース・学校開発政策コース)	*3
23-301-08	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	国語科教育の理論と実践	非常勤講師	濱田 秀行	2	8-9月	集中	-	集中講義(8-9月) 合併科目(教育内容開発 コース・学校開発政策コース)	*1
23-301-09	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	地球規模課題とESD	非常勤講師	永田 佳之	2	8-9月	集中	-	集中講義(8-9月) 合併科目(教育内容開発 コース・学校開発政策コース)	*3
23-301-11	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	子どもの権利の諸問題	非常勤講師	齋藤 宙治	2	A1A2	火	2	合併科目(法政治学研究 科総合法制専攻・教育内容 開発コース・学校開発政策 コース)	*3
23-301-12	教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	教育制度の公共政策分析	非常勤講師	宗前 清貞	2	A1A2	月	5	合併科目(教育内容開発 コース・学校開発政策コース)	*1
23-301-13	教職開発・実践研究 (カリキュラム研究・事例研究)	カリキュラムの事例研究	教授	浅井 幸子	2	S2	火	1-2	合併科目(教育内容開発 コース)	*1
23-301-14	教職開発・実践研究 (授業研究・事例研究)	授業の事例研究	教授	藤江 康彦	2	A2	火	1-2	合併科目(教育内容開発 コース)	*1
23-301-15	教職開発・実践研究 (教職開発・事例研究)	教科教育の心理学的事例 研究	教授	藤村 宣之	2	S1S2	木	1	合併科目(教育内容開発 コース)	*1
23-301-16	教職開発・実践研究 (教職開発・実地研究)	授業の実地研究	准教授	一柳 智紀	2	A1A2	水	2	合併科目(教育内容開発 コース)	*1
23-301-17	教職開発・実践研究 (教職開発・実地研究)	教科学習の実地研究	教授	北村 友人	2	A1A2	月	3	合併科目(教育内容開発 コース)	*1
23-301-18	教職開発・論文指導 (授業研究・論文指導)	授業研究論文指導	准教授	一柳 智紀	2	通年	火	5	* 隔週 修士課程のみ	
23-301-19	教職開発・論文指導 (授業研究・論文指導)	授業研究論文指導	准教授	一柳 智紀	2	通年	火	5	* 隔週 博士課程のみ	
23-301-20	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指導)	カリキュラム研究論文指導	教授	藤江 康彦	2	通年	火	5	* 隔週 修士課程のみ	
23-301-21	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指導)	カリキュラム研究論文指導	教授	藤江 康彦	2	通年	火	5	* 隔週 博士課程のみ	
23-301-22	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指導)	カリキュラム研究論文指導	教授	浅井 幸子	2	通年	火	5	* 隔週 修士課程のみ	
23-301-23	教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指導)	カリキュラム研究論文指導	教授	浅井 幸子	2	通年	火	5	* 隔週 博士課程のみ	

学校教育高度化専攻

教育内容開発コース

【備考欄の*印は、教育内容開発コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	曜 日	時 限		教職課程 認定区分 (教科)
23-302-01	教育内容開発・理論研究 (数学・科学教育・基礎研究)	数学的・科学的思考の発達 と学習過程	教授	藤村 宣之	2	A1A2	木	2		*1
23-302-02	教育内容開発・理論研究 (言語教育・基礎研究)	英語教授法	客員教授	斎藤 兆史	2	S1S2	火	4		*1
23-302-03	教育内容開発・理論研究 (人文社会教育・基礎研究)	Education in the Era of Globalization: Asian Contexts	教授	北村 友人	2	A1	月	1-2	合併科目(新領域創成科学 研究科・総合文化研究科)	*3
23-302-04	教育内容開発・理論研究 (言語教育・発展研究)	国語科教育の理論と実践	非常勤講師	濱田 秀行	2	8-9月	集中	-	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発コース・ 学校開発政策コース)	*1
23-302-05	教育内容開発・理論研究 (人文社会教育・発展研究)	地球規模課題とESD	非常勤講師	永田 佳之	2	8-9月	集中	-	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発コース・ 学校開発政策コース)	*3
23-302-07	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	Research Methods in Education	非常勤講師	荒木 啓史	2	8-9月	集中	-	集中講義(8-9月)	
23-302-08	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	現代思想と情動論の展開	非常勤講師	伊藤 守	2	A1A2	木	3	合併科目(教職開発コース・ 学校開発政策コース)	*3
23-302-09	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	実践知と叡智:熟達化と生 涯発達からの検討	非常勤講師	楠見 孝	2	8-9月	集中	-	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発コース・ 学校開発政策コース)	*3
23-302-10	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	教職専門性開発研究概論	非常勤講師	木村 優	2	8-9月	集中	-	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発コース・ 学校開発政策コース)	*3
23-302-11	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	子どもの権利の諸問題	非常勤講師	齋藤 宙治	2	A1A2	火	2	合併科目(法政治学研究 科総合法制専攻・教職開発 コース・学校開発政策コ ース)	*3
23-302-12	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	教育制度の公共政策分析	非常勤講師	宗前 清貞	2	A1A2	月	5	合併科目(教職開発コース・ 学校開発政策コース)	*1
23-302-13	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	教科教育の心理学的事例 研究	教授	藤村 宣之	2	S1S2	木	1	合併科目(教職開発コース)	*1
23-302-14	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	カリキュラムの事例研究	教授	浅井 幸子	2	S2	火	1-2	合併科目(教職開発コース)	*1

23-302-15	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	授業の事例研究	教授	藤江 康彦	2	A2	火	1-2	合併科目(教職開発コース)	*1
23-302-16	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)	教科学習の実地研究	教授	北村 友人	2	A1A2	月	3	合併科目(教職開発コース)	*1
23-302-17	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)	授業の実地研究	准教授	一柳 智紀	2	A1A2	水	2	合併科目(教職開発コース)	*1
23-302-18	教育内容開発・論文指導 (言語教育・論文指導)	外国語教育論文指導	客員教授	斎藤 兆史	2	通年	木	5	* 隔週 修士課程のみ	
23-302-19	教育内容開発・論文指導 (言語教育・論文指導)	外国語教育論文指導	客員教授	斎藤 兆史	2	通年	木	5	* 隔週 博士課程のみ	
23-302-20	教育内容開発・論文指導 (人文社会教育・論文指導)	人文社会教育論文指導	教授	北村 友人	2	通年	金	4	* 隔週 修士課程のみ	
23-302-21	教育内容開発・論文指導 (人文社会教育・論文指導)	人文社会教育論文指導	教授	北村 友人	2	通年	金	4	* 隔週 博士課程のみ	
23-302-24	教育内容開発・論文指導 (教育内容開発・論文指導)	教育内容開発論文指導	教授	藤村 宣之	2	通年	木	3	* 隔週 修士課程のみ	
23-302-25	教育内容開発・論文指導 (教育内容開発・論文指導)	教育内容開発論文指導	教授	藤村 宣之	2	通年	木	3	* 隔週 博士課程のみ	

学校教育高度化専攻

学校開発政策コース

【備考欄の*印は、学校開発政策コース所属学生のみ履修可】

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	曜 日	時 限		教職課程 認定区分 (教科)
23-303-01	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・基礎研究)	教育政策基礎論	教授 准教授	村上 祐介 橋野 晶寛	2	S1S2	木	4		*3
23-303-02	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・基礎研究)	子どもの権利の諸問題	非常勤講師	齋藤 宙治	2	A1A2	火	2	合併科目(法學政治学研究 科総合法制専攻・教職開発 コース・教育内容開発コース)	*3
23-303-03	学校開発政策・理論研究 (学校教育経営・基礎研究)	現代学校改革の諸問題	教授	勝野 正章	2	S1S2	木	5		*1
23-303-04	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・発展研究)	教育政策研究方法論Ⅱ	准教授	橋野 晶寛	2	S1S2	金	4		*1
23-303-05	学校開発政策・理論研究 (教育政策研究・発展研究)	教育制度の公共政策分析	非常勤講師	宗前 清貞	2	A1A2	月	5	合併科目(教職開発コース・ 教育内容開発コース)	*1
23-303-06	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	現代思想と情動論の展開	非常勤講師	伊藤 守	2	A1A2	木	3	合併科目(教職開発コース・ 教育内容開発コース)	*3
23-303-07	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	実践知と叡智:熟達化と生涯 発達からの検討	非常勤講師	楠見 孝	2	8-9月	集中	-	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発コース・ 教育内容開発コース)	*3
23-303-08	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	教職専門性開発研究概論	非常勤講師	木村 優	2	8-9月	集中	-	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発コース・ 教育内容開発コース)	*3
23-303-09	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	国語科教育の理論と実践	非常勤講師	濱田 秀行	2	8-9月	集中	-	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発コース・ 教育内容開発コース)	*1
23-303-10	学校開発政策・理論研究 (学校開発政策・発展研究)	地球規模課題とESD	非常勤講師	永田 佳之	2	8-9月	集中	-	集中講義(8-9月) 合併科目(教職開発コース・ 教育内容開発コース)	*3
23-303-12	学校開発政策・実践研究 (教育政策研究・事例研究)	教育行政事例研究Ⅱ	教授	村上 祐介	2	8-9月	集中	-	集中講義(8-9月)	*1
23-303-13	学校開発政策・実践研究 (学校教育経営・事例研究)	学校経営実践の開発Ⅱ	非常勤講師	福岡 尚子	2	A1A2	月	3		*3
23-303-14	学校開発政策・実践研究 (教育政策研究・実地研究)	教育行政実地研究	教授	村上 祐介	2	A1A2	火	5		*1
23-303-15	学校開発政策・実践研究 (教育政策研究・実地研究)	教育政策実地研究	准教授	橋野 晶寛	2	A1A2	金	3		
23-303-16	学校開発政策・実践研究 (学校教育経営・実地研究)	学校経営実地研究	教授	勝野 正章	2	A1A2	金	1		*1
23-303-17	学校開発政策・論文指導	学校経営研究論文指導	教授	勝野 正章	2	通年	金	2	* 隔週 修士課程のみ	
23-303-18	学校開発政策・論文指導	学校経営研究論文指導	教授	勝野 正章	2	通年	金	2	* 隔週 博士課程のみ	
23-303-19	学校開発政策・論文指導	教育行政研究論文指導	教授	村上 祐介	2	通年	金	2	* 隔週 修士課程のみ	
23-303-20	学校開発政策・論文指導	教育行政研究論文指導	教授	村上 祐介	2	通年	金	2	* 隔週 博士課程のみ	
23-303-21	学校開発政策・論文指導	教育政策研究論文指導	准教授	橋野 晶寛	2	通年	金	2	* 隔週 修士課程のみ	
23-303-22	学校開発政策・論文指導	教育政策研究論文指導	准教授	橋野 晶寛	2	通年	金	2	* 隔週 博士課程のみ	

共通科目

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	曜 日	時 限		教職課程 認定区分 (教科)
23-214-15	共通科目	大学教育開発論	教授	栗田 佳代子	2	S1S2	木	3-4	研究科規則第6条2項及び第7条2項における他コース科目と同様の扱いとする。	
23-214-16					2	S1S2	金	3-4	隔週。 本科目は同一の内容を4回実施する。 本科目は1回のみの履修とし、年度に関わらず複数回履修することはできない。	
23-214-17					2	A1A2	木	3-4	「Teaching Development in Higher Education in English」は本科目とは別の科目として履修できる。	
23-214-18					2	A1A2	金	3-4		
23-214-19	共通科目	Teaching Development in Higher Education in English	教授 非常勤講師	栗田 佳代子 Gabriel Hervas	2	未定	集中	-	未定	

教育研究創発国際卓越大学院

時間割 コード	授業科目	講義題目	職名	担当教員	単 位 数	開講 時期	曜 日	時 限		教職課程 認定区分 (教科)
23-901-01	教育研究創発国際研修	教育研究創発国際研修Ⅰ	-	各教員	1	その他	-	-	WINGS-CERプログラム生限定。 研究科規則第6条2項及び第7条2項における他コース科目と同様の扱いとする。 ただし、課程修了要件には算入されない。	
23-901-02	教育研究創発国際研修	教育研究創発国際研修Ⅱ	-	各教員	1	その他	-	-	WINGS-CERプログラム生限定。 研究科規則第6条2項及び第7条2項における他コース科目と同様の扱いとする。 ただし、課程修了要件には算入されない。	
23-901-03	教育研究創発国際研修	教育研究創発国際研修Ⅲ	-	各教員	1	その他	-	-	WINGS-CERプログラム生限定。 研究科規則第6条2項及び第7条2項における他コース科目と同様の扱いとする。 ただし、課程修了要件には算入されない。	

教職課程認定区分(教科)	記号
中高専修(本学で認定されている課程の教科すべて)	*1
中専修社会・保健体育・保健、高専修地歴・公民・保健体育・保健	*2
小専修、中専修社会、高専修地歴・公民	*3
小専修	*4
中専修社会、高専修公民	*5
中専修保健、高専修保健	*6
中専修保健体育、高専修保健体育	*7

時 間 割 コー ド	23-211-01	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	山名 淳、渡名喜 庸哲				
授 業 科 目	教育哲学基本研究				
講 義 題 目	教育哲学演習 I Seminar in Educational Philosophy I				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育哲学および教育思想史の知見を基盤として現代における人間形成と教育の問題を考察することはいかにして可能だろうか。本授業では、教育哲学におけるいくつかの鍵概念をとりあげ、関連するテキストを読解しつつ現代の人間と文化の問題を検討する。今回のテーマは、「カストロフィ・人間・文化」である。一生のうちにカストロフィに遭遇しなかった思想家などいたのだろうか。本授業では、個人と社会をその根底から揺るがす困難な状況下で生じた思考を起点として、人間と文化の問題を考える糸口を探る。授業は体系的な構成であるというよりも、授業担当者が選択した複数のテキストを皆で検討する形式を採用。検討するテキストは哲学・思想にかかわるものが多いが、そうしたテキストもまたあくまでも表現の一種であると捉えたうえで、同時代のアートや文学などのような多様な表象との関連性を意識したい。それらの表現の検討によって、制度や慣習に大きな変化をもたらすカストロフィ状況とはいったい何であるかという問いに迫ってみたい。そのことはまた、ビルドアップの問題領域と、つまり人間がその周りとの関係性のなかで変化し、またその環境を変化させる力動性の問題領域と関わるはずである。本授業を通じて、受講生は(1)教育哲学・思想史の基礎概念および問題構成を習得することができる。(2)現代社会における教育について批判的に論じる基本的な構えを身につけることができる。(3)以上のことを前提として、各受講生の個人研究を批判的に再検討する一視点を獲得することができる。
授 業 計 画	テキストごとに担当受講生を決めて報告を行っていただく。その内容をもとにしてディスカッションを行う。上級者においては、個人の研究関心を本授業の問題関心とかわからせつつ、関連文献を紹介し、議論の発展可能性について考察を行う。今回のキーワードは「カストロフィ・人間・文化」である。4月11日 1回目 ガイダンス(自己紹介、テキスト割り振り)4月18日 2回目 なぜ「カストロフィ・人間・文化」か4月25日 3回目 ゲスト・スピーカーによるレクチャー(カストロフィと絵画)5月2日 4回目 (オンデマンド講義)5月9日 5回目 報告①5月16日 6回目 報告②5月23日 7回目 報告③5月30日 8回目 報告④6月6日 9回目 報告⑤6月13日 10回目 報告⑥6月20日 11回目 報告⑦6月27日 12回目 報告⑧7月4日 13回目 報告⑨7月11日 14回目 報告⑩(もしくは総括)7月18日(試験期間)振り返り感想文提出
授 業 の 方 法	授業担当者によるイントロダクションの後、各テキスト担当受講生による報告(あるいは授業担当者もしくはゲスト・スピーカーによるレクチャー)を行う。その後、まず受講生は各自の感想をメモに記す。その記述をもとにしてディスカッションを行う。ディスカッションの形式(グループ討議か全体討議か)については受講生数によりあらためて判断する。最後に、もう一度リアクションペーパーに各自のコメントを記す。授業担当者は次回授業の最初にそれらを紹介し、次のテキストへと向かう。
成 績 評 価 方 法	平常点(毎時授業の出席状況および議論への貢献度)および担当報告の総合評価とする(前者 50 パーセント、後者 50 パーセント)。
教 科 書	指定しない。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	「教育哲学演習Ⅱ」も合わせて受講することが望ましい。受講生の積極的な参加を求める。
そ の 他	【重要】学際情報学府本館2階教室で行います。昨年度の同授業と同じ場所です。おわかりにならない方は、授業初日の午前10時10分頃に山名研究室においでください。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-02	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	小玉 重夫				
授 業 科 目	教育人間学基本研究				
講 義 題 目	教育思想演習 Seminar in Educational Thought				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	学校の民主主義を活性化させる条件は何か。本演習ではこの問題を考える切り口として、学校が「主体を集める場所」から、「エージェンシーが自発的に集まる場所」へと転換する条件を考えたいと思います。そのための素材として、2023 年に放映された生方美久「いちばんすきな花」を通して、二者性の問題を多声性へと開いていく条件、他者の声を聞きつつ自らの声を取り戻していく可能性を考えます。さらに、エージェンシー問題のひとつの理論的到達点であり、かつポストヒューマン教育学の典拠としての意味をもつバラッド『宇宙の途上で出会う』のエッセンスを検討します。
授 業 計 画	今のところ予定している授業計画(シラバス)は以下の通りであるが、一部変更する可能性もある。第 1 回ガイダンス第 2 回～第 4 回 『いちばんすきな花』(上)シナリオブック、扶桑社、の検討と視聴第 5 回～第 7 回 『いちばんすきな花』(下)シナリオブック、扶桑社、の検討と視聴第 8 回～第 10 回 バラッド『宇宙の途上で出会う』人文書院、第 1 章第 11 回～第 14 回 バラッド『宇宙の途上で出会う』人文書院、第 4 章第 15 回 まとめ
授 業 の 方 法	講義とグループによる討論を主とし、論文作成支援を兼ねたレポート作成と授業中の院生によるプレゼンを、随時導入する。各人の感心に応じて、論文の準備にも資するようにしたい。
成 績 評 価 方 法	レポート・発表と平壤点によって行う。授業中にプレゼン、発表が求められる。
教 科 書	関連する資料、教材をウェブサイトアップして、受講者がダウンロードできるようにする。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	初回の授業時に発表の分担等を行う予定である。
そ の 他	本授業は原則、教室での対面で行う予定であるが、一定の条件で、希望者のオンラインでの受講も認める。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-211-03	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	片山 勝茂				
授 業 科 目	教育人間学基本研究				
講 義 題 目	教育人間学基本演習 Basic Seminar in Educational Anthropology				

授 業 の 目 標・概 要	「ケアの倫理と教育」をテーマに、以下の英語文献と日本語文献(教科書)を講読することで、日本語文献と英語文献を精確に読み、理解する能力を向上させるとともに、テーマに関する問題について、(他の人々とコミュニケーションをとりながら)批判的に考える力を身につけることを目標とする。
授 業 計 画	授業の初回にオリエンテーションを行い、説明する。奇数回(オリエンテーションと日本語文献講読と研究報告会)が対面、偶数回(英語文献講読)がオンライン授業の予定。
授 業 の 方 法	文献講読を基本とする。英語文献については、訳読による精読とディスカッションを行う。日本語文献については、報告者が概要と(疑問点や討論の論点を提示する)コメントを発表し、討論を行う。また、各自の研究を発表する研究報告会も行う予定である。対面とオンラインを隔週で組み合わせる予定。授業で使用する教材やレジュメは ITC-LMS やメールを通じて電子的に配布します。
成 績 評 価 方 法	毎回 ITC-LMS の「課題」から提出するコメントとゼミでの報告および討論を合わせて総合的に評価する。
教 科 書	Nel Noddings & Michael Slote (2003) Changing notions of the moral and of moral education, in: Nigel Blake et al. eds. (2003) The Blackwell Guide to the Philosophy of Education (Oxford: Blackwell Publishing). マイケル・ストーロ(2021)『ケアの倫理と共感』早川正祐・松田一郎訳、勁草書房。
履修上の注意・備考	正当な理由があつて欠席する人や通信環境の問題でオンライン授業に参加できなかった人は配慮するので、ITC-LMS の「課題」から欠席連絡を提出すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-04	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	小国 喜弘				
授 業 科 目	教育史基本研究				
講 義 題 目	日本教育史演習 I Seminar in Japanese Educational History I				

授 業 の 目 標・概 要	二つの目的をもって演習を設定する。第一に修論・博士論文執筆に向けて、教育史の研究手法、論文作法について、各自の論文発表を通じて習熟すること。第二に、教育実践に焦点をあて、教育実践からどんな教育史像が浮かび上がるのかについて検討すること。今年度は、前半において共通文献を、後半において個人発表を行うこととする。
授 業 計 画	第一回:オリエンテーション第二回:文献購読 1 第三回:文献購読 2 第四回:文献購読 3 第五回:文献購読 4 第六回:文献購読 5 第七回:事例検討 1 第八回:事例検討 2 第九回:事例検討 3 第十回:事例検討 4 第十一回:事例検討 5 第十二回:事例検討 6 第十三回:事例検討 7
授 業 の 方 法	基本的に対面のみで行う。ただし事情がありオンラインでの参加を希望される場合は個別にご相談ください。
成 績 評 価 方 法	個別の発表によって評価する。3分の2以上の出席をもって、単位認定の最低要件とする。
教 科 書	適宜指示する。
履 修 上 の 注 意・備 考	初回に発表の順番を決めるので、初回に欠席する場合は予め連絡をすること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-211-05	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	隠岐 さや香				
授 業 科 目	教育史基本研究				
講 義 題 目	高等教育・研究の歴史 I History of Higher Education and Research I				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	18 世紀の西洋は近代社会の枠組みを形作る知識や世界観が発展する上で重要な時代として知られる。また、この時代はとりわけ欧州において数多くの百科事典が作られた時代でもある。百科事典は当時の欧州の人の教育観や科学観を伝えると共に、植民地侵略が本格化する前の18世紀において、世界の諸地域について彼ら彼女らのまなざしがいかに形作られていたのかを物語る。このゼミでは、歴史史料として前年に続きフランスのディドロ、ダランベールによる『百科全書』(Encyclopédie, 1751-1772)を扱う。『百科全書』は周知の通り現代の大型事典やオンライン事典等のルーツともいえる代表的な書物であるが、教育制度も含めた当時の宗教・政治体制一般への異議申し立ての意図を含んだ闘争的かつ革新的な書物としても知られる。また、今年は同書の企画を生んだ英国の事典、チェンバースの『サイクロペディア』(Cyclopaedia, 1728-1751)にも視野を広げる。同書は『百科全書』ほどは明確な思想性が指摘されてはいないが、画期的であったことには変わりない。だが、これらの書物は画期的であると同時に、今日からすると保守的であったり、差別的であるような思想も内包している。とりわけ、「脱植民地主義の歴史」(histoire décoloniale)の視点による分析では、両書が 19 世紀以降の近代的人権思想を用意する一方で、科学的人種差別の萌芽的状态を記録した史料として扱われることもある。受講生は本ゼミを通じて、初期近代における教育観、科学観、それらが位置付けられていた当時の人々の世界観の概要を理解した上で、「脱植民地主義化」の視点を意識しつつ、研究の中で歴史資料を分析・考察するにあたり留意すべき事項を学ぶことが出来るであろう。
授 業 計 画	以下は暫定的な案なので、受講者との議論の上変更もありうる1 イントロダクション2 百科事典と知の分類、序列化—教育史、科学史的視点から3 歴史方法論としての脱植民地主義4 『サイクロペディア』および『百科全書』の成立背景5 文献講読 6 文献講読 7 文献講読 8 文献講読 9 文献講読 10 文献講読 11 文献講読 12 文献講読 13 総合討論
授 業 の 方 法	最初に近年の啓蒙思想史、教育史、科学史等における「脱植民地主義化」の視点からの研究動向について触れた後、『チェンバース』および『百科全書』の背景や史料の構造について理解を深めるための講義を行う。文献講読では教育、科学、植民地あるいは非西洋世界に関連のある項目読解を行う。テキストは各人の語学能力に応じて日本語訳のない英語、フランス語の項目を選択すること。発表の機会がなかった者には同程度の作業量となるレポートを課す。
成 績 評 価 方 法	平常点(毎時授業の出席状況および議論への貢献度)および担当報告の総合評価とする(前者 50%、後者 50%)。
教 科 書	各人が解読可能な言語のバージョンを選択する『サイクロペディア』第 4 版(英語版のみ) Digital edition, Ephraïm Chambers, Cyclopaedia, or, An Universal Dictionary of Arts and Sciences, 2 vols., (1741), ARTFL, University of Chicago, 2020, https://artfl-project.uchicago.edu/content/chambers-cyclopaedia 『百科全書』英語版(翻訳版) The Encyclopedia of Diderot & d'Alembert. Collaborative Translation Project https://quod.lib.umich.edu/d/did/ 『百科全書』フランス語版(原典のオンライン校訂版) ENCREE 版 l'Édition Numérique Collaborative et CRitique de l'Encyclopédie de Diderot, de D'Alembert et de Jaucourt (1751-1772) http://encree.academie-sciences.fr/encyclopedia/ シカゴ大学版 Encyclopédie, ou dictionnaire raisonné des sciences, des arts et des métiers, etc., eds. Denis Diderot and Jean le Rond d'Alembert. University of Chicago: ARTFL Encyclopédie Project (Autumn 2022 Edition), Robert Morrissey and Glenn Roe (eds), http://encyclopedia.uchicago.edu/ .
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	初回に必要な文献を配付し、発表の順番を決めるので、初回に欠席する場合は予め連絡をすること。
そ の 他	重要事項は適宜 ITC-LMS で告知する

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-06	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	大塚 類				
授 業 科 目	教育臨床学基本研究				
講 義 題 目	臨床現象学Ⅰ Seminar in Clinical PhenomenologyⅠ				

授 業 の 目 標・概 要	【授業の目標】本ゼミのタイトルも「臨床現象学」であるが、現在日本では、●●現象学、現象学的△△、といった研究領域が多数展開している。しかし、何をもち●●現象学、現象学的△△と称しうるのは明確ではない。狭義には、現象学者の知見を理論的背景にすることが現象学的な研究であるが、広義には、ものごとを捉えるスタンスを現象学に依拠することも現象学的な研究に含まれる、と講義者は考えている。本ゼミでは、日本において臨床現象学のカテゴリに含まれる書籍を検討することにより、初級者レベルの現象学の知見に触れつつ、臨床現象学とは何かを改めて考える機会としたい。【授業の概略】授業の概略は以下のとおりである。講読する文献を受講者と共に決める。候補となる書籍は以下のとおりである。その他、受講者からの推薦も受け付ける。①榊原哲也 2023『現代に生きる現象学:意味・身体・ケア』放送大学出版会②村上靖彦 2008『自閉症の現象学』勁草書房③中田基昭 1997『現象学から授業の世界へ』東京大学出版会④中田基昭 2011『表情の現象学:日常生活の現象学への誘い』東京大学出版会⑤木村敏 2012『臨床哲学講義』創元社
授 業 計 画	第1回 イントロダクション第2回 文献講読①第3回 文献講読②第4回 文献講読③第5回 文献講読④第6回 文献講読⑤第7回 文献講読⑥第8回 文献講読⑦第9回 文献講読⑧第10回 文献講読⑨第11回 中間相談:閑話休題第12回 文献講読⑩第13回 文献講読⑪第14回 文献講読⑫授業計画は受講者との相談により変更される場合があります。1) Introduction 2) Literature reading (1) 3) Literature reading (2) 4) Literature reading (3) 5) Literature reading (4) 6) Literature reading (5) 7) Literature reading (6) 8) Literature reading (7) 9) Literature reading (8)10) Literature reading (9) 11) Mid-term consultation 12) Literature reading (10) 13) Literature reading (11) 14) Literature reading (12)The lesson plan is subject to change in consultation with the students.
授 業 の 方 法	基本的に対面での演習形式で行う。受講人数にもよるが、おそらく各回担当発表制になると思われる。Basically, it will be conducted in the form of face-to-face exercises. Depending on the number of students, there will probably be a presentation system for each session.
成 績 評 価 方 法	【評価方法】発表者は平常点、未発表者はレポート【評価基準】(1)授業への参加状況 ①事前に文献を読み、授業中の議論に積極的に加わって、理解を深めている。②文献に関する固有の解釈にもとづいて、自分なりの見解を発言している。③他者の発言に耳を傾け、自分の見解と関連させて、議論を展開させている。(2)レポート ①本授業で扱う題材について自分なりの関心にもとづいて要点を捉えている。②授業中の議論にもとづいて自分なりの論点を明らかにして議論している。③独創性のある論点が提示されており、説得力のある議論が展開されている。(1) Participation in class ①Students read the literature in advance, actively participate in class discussions and deepen their understanding of the material. ②Students express their own opinions based on their own interpretations of the literature. ③Listen to the comments of others, relate them to their own views and develop the discussion.(2) Reports ①Students are able to grasp the main points based on their own interest in the subject matter covered in this class. ②Students clarify and discuss their own points of view based on the discussions in class. ③It presents original arguments and develops persuasive arguments.
教 科 書	データは授業時に配布する予定です。Data will be distributed in class.
履修上の注意・備考	当事者性をもった積極的な参加を期待します。できれば通年での受講が望ましいです。Active participation is expected. It is preferable to attend the course throughout the year if possible.
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-211-07	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	田中 智志、山名 淳、小国 喜弘、小玉 重夫、片山 勝茂、大塚 類、隠岐 さや香				
授 業 科 目	基礎教育学特殊研究				
講 義 題 目	基礎教育学総合演習 Colloquium in Basic Theories of Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	基礎教育学における研究は、教育諸学・教育実践を基礎づけ方向づける社会的・倫理的な志しをもつ内容でなければならない。この授業は、そうした基礎教育学研究者の社会的・倫理的な志しを鼓舞し、ともに高めあう協同的な研究教育の場である。具体的には、基礎教育学コースに属する教員スタッフ及び大学院生が各自、研究発表を行い、その内容について、検討する。とりわけ学位論文の執筆予定者は、この場で研究構想を発表し、各研究領域から、哲学的な意味で「批判的」である吟味を受けることが望ましい。日程等については、事前にコース内に掲示する。
授 業 計 画	それぞれの回の担当者は早めに決めて、十分な準備をしてもらう。そして当日、それぞれの研究領域内容に従った特定の研究対象について、系統的なプレゼンテーションをしてもらう。その後、教員全員、ならびに当日の参加者との間で質疑応答をする。一年を通して、取り上げるのが特定の研究領域に集中しないように、適宜バランスをとる事に配慮する。
授 業 の 方 法	研究発表者が毎回、自分の研究内容について発表し、参加者から、哲学的な意味で「批判的」である吟味を受け、それらをもとに自分の研究についてふりかえり、よりよい研究展開の契機とする。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	適宜紹介する。
履修上の注意・備考	基礎教育学コースの院生は必ず履修すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-211-08	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	山名 淳、RIEGER-LADICH MARKUS				
授 業 科 目	教育哲学特殊研究				
講 義 題 目	教育哲学演習 II Seminar in Educational Philosophy II				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育哲学および教育思想史の知見を基盤として現代における人間形成と教育の問題を考察することはいかにして可能だろうか。本授業では、教育哲学におけるいくつかの鍵概念をとりあげ、関連するテキストを読解しつつげんだいの人間と社会の問題を検討する。本授業を通じて、受講生は(1)教育哲学・思想史の基礎概念および問題構成を習得することができる。(2)現代社会における教育について批判的に論じる基本的な構えを身につけることができる。(3)以上のことを前提としつつ、各受講生の個人研究を批判的に再検討する一視点を得ることができる。
授 業 計 画	指定されたテキストの内容をもとにしてディスカッションを行う。またそれに関するテキストを授業担当者もしくは受講生自身が選定し、その内容を検討することによって、議論のさらなる展開の可能性を探究する。上級者においては、個人の研究関心を本授業の問題関心とかかわらせつつ、関連文献を紹介し、議論の発展可能性について考察を行う。今回は「アート」と「感性論(美学)」にかかわるテキストを読む。
授 業 の 方 法	授業担当者によるイントロダクションの後、各章担当受講生による報告(あるいは授業担当者もしくはゲスト・スピーカーによるレクチャー)を行う。その後、まず受講生はリアクションペーパーに各自の感想を記す。その記述をもとにしてディスカッションを行う。ディスカッションの形式(グループ討議か全体討議か)については受講生数によりあらためて判断する。最後に、もう一度リアクションペーパーに各自のコメントを記す。授業担当者はそれを持ち帰り、次の授業においてそれに対するコメントを行い、次の内容へと向かう。
成 績 評 価 方 法	平常点(毎時授業の出席状況および議論への貢献度)および担当報告の総合評価とする(前者 50 パーセント、後者 50 パーセント)。
教 科 書	教科書は使用しない。授業で用いるテキストは授業初日に配布する。
履修上の注意・備考	「教育哲学演習 I」も合わせて受講することが望ましい。受講生の積極的な参加を求める。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-09	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	小玉 重夫				
授 業 科 目	教育人間学特殊研究				
講 義 題 目	教育政治学演習 Seminar in Politics of Education				

授 業 の 目 標・概 要	近代教育を規定してきたマジョリティ／マイノリティの境界線を脱構築し、奪われた声を取り戻すための理論的視座を共に考えていきたいと思います。夏学期に引き続き、エージェンシーに関する理論的な到達点であり、ポストヒューマン教育学の典拠ともなっているバラッドの『宇宙の途上で出会う』のエッセンスを読み解きつつ、2023 年に上映され、マイノリティの表象と学校教育のとらえ方をめぐって議論になった坂元裕二『怪物』をもとに、現代におけるエージェンシーと時空の再構成の可能性を議論していきます。
授 業 計 画	今のところ予定している授業計画(シラバス)は以下の通りであるが、一部変更する可能性もある。第 1 回ガイダンス第 2 回～第 5 回 坂元裕二『怪物』シナリオブック、KADOKAWA、の検討と視聴第 6 回～第 9 回 バラッド『宇宙の途上で出会う』人文書院、第 1 章第 10 回～第 14 回 バラッド『宇宙の途上で出会う』人文書院、第 6 章第 15 回 まとめ
授 業 の 方 法	講義とグループによる討論を主とし、論文作成支援を兼ねたレポート作成と授業中の院生によるプレゼンを、随時導入する。各人の感心に応じて、論文の準備にも資するようにしたい。
成 績 評 価 方 法	レポート・発表と平壤点によって行う。授業中にプレゼン、発表が求められる。
教 科 書	関連する資料、教材をウェブサイトアップして、受講者がダウンロードできるようにする。
履修上の注意・備考	初回の授業時に発表の分担等を行う予定である。
そ の 他	本授業は原則、教室での対面で行う予定であるが、一定の条件で、希望者のオンラインでの受講も認める。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-10	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	片山 勝茂				
授 業 科 目	教育人間学特殊研究				
講 義 題 目	教育人間学特殊研究 Seminar in Educational Anthropology				

授 業 の 目 標・概 要	「教育人間学基本演習」に引き続き、「ケアの倫理と教育」をテーマに、以下の英語文献と日本語文献(教科書)を講読することで、日本語文献と英語文献を精確に読み、理解する能力を向上させるとともに、テーマに関する問題について、(他の人々とコミュニケーションをとりながら)批判的に考える力を身につけることを目標とする。
授 業 計 画	授業の初回にオリエンテーションを行い、説明する。奇数回(オリエンテーションと日本語文献講読と研究報告会)が対面、偶数回(英語文献講読)がオンライン授業の予定。
授 業 の 方 法	文献講読を基本とする。英語文献については、訳読による精読とディスカッションを行う。日本語文献については、報告者が概要と(疑問点や討論の論点を提示する)コメントを発表し、討論を行う。また、各自の研究を発表する研究報告会も行う予定である。対面とオンラインを隔週で組み合わせる予定。授業で使用する教材やレジュメは ITC-LMS やメールを通じて電子的に配布します。
成 績 評 価 方 法	毎回 ITC-LMS の「課題」から提出するコメントとゼミでの報告および討論を合わせて総合的に評価する。
教 科 書	Nel Noddings & Michael Slote (2003) Changing notions of the moral and of moral education, in: Nigel Blake et al. eds. (2003) The Blackwell Guide to the Philosophy of Education (Oxford: Blackwell Publishing).マイケル・ストロー(2021)『ケアの倫理と共感』早川正祐・松田一郎訳、勁草書房。
履 修 上 の 注 意・備 考	S1S2 タームの「教育人間学基本演習」を受講していない人でも、受講を歓迎する。また、正当な理由があって欠席する人や通信環境の問題でオンライン授業に参加できなかった人は配慮するので、ITC-LMS の「課題」から欠席連絡を提出すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-11	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	小国 喜弘				
授 業 科 目	教育史特殊研究				
講 義 題 目	日本教育史演習Ⅱ Seminar in Japanese Educational History Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	二つの目的をもって演習を設定する。第一に修論・博士論文執筆に向けて、教育史の研究手法、論文作法について、各自の論文発表を通じて習熟すること。第二に、教育実践に焦点をあて、教育実践からどんな教育史像が浮かび上がるのかについて検討すること。今年度は、前期に引き続き、1960年代高度経済成長期に焦点を当てることとし、前半において共通文献を、後半において個人発表を行うこととする。
授 業 計 画	第一回:オリエンテーション第二回:文献購読 1 第三回:文献購読 2 第四回:文献購読 3 第五回:文献購読 4 第六回:文献購読 5 第七回:事例検討 1 第八回:事例検討 2 第九回:事例検討 3 第十回:事例検討 4 第十一回:事例検討 5 第十二回:事例検討 6 第十三回:事例検討 7
授 業 の 方 法	基本的に対面で行う。オンラインでの参加を希望される場合は、個別にご相談ください。
成 績 評 価 方 法	個別の発表によって評価する。3分の2以上の出席をもって、単位認定の最低要件とする。
教 科 書	適宜指示する。
履 修 上 の 注 意・備 考	初回に発表の順番を決めるので、初回に欠席する場合は予め連絡をすること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-12	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	隠岐 さや香				
授 業 科 目	教育史特殊研究				
講 義 題 目	高等教育・研究の歴史Ⅱ History of Higher Education and Research Ⅱ				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	The Oxford Handbook of the History of Education を読み、グローバルな教育史の歴史記述について考察する。ただし、「グローバル」な歴史記述が英語によりなされていることによる方法論的な特徴についても意識的な検討を行う予定である。そのため、同時に日本の教育史や教員の詳しいフランスの教育史の方法論についての比較的視点からの議論も行う。また、ジェンダー史や科学技術史と教育史との接点についても取り扱うことになる。受講者はグローバルな視点からの教育史のあり方やその対象の捉え方について理解し、自らの研究においても参照することができるようになるであろう。
授 業 計 画	1 イントロダクション2 The Oxford Handbook of the History of Education について—グローバルとナショナル3 教育史とジェンダー史、科学技術史4 補足的な講義／文献講読5 文献講読6 文献講読7 文献講読8 文献講読9 文献講読10 文献講読11 文献講読12 文献講読13 総合討論
授 業 の 方 法	講義の回と発表の回で構成される。講義の回では教科書として指定した文献の特徴や、教育史とナショナリズム、教育史とジェンダー史、科学技術史との関係などについて触れる。発表の回においては、教員から短い説明の時間があつたあと、担当者が教科書および参考文献等の内容を踏まえて発表し、その後全体でディスカッションを行う。詳細は授業の初回に説明する。
成 績 評 価 方 法	平常点(毎時授業の出席状況および議論への貢献度)および担当報告の総合評価とする(前者 50%、後者 50%)。
教 科 書	Rury, John L., and Eileen H. Tamura (eds), The Oxford Handbook of the History of Education, Oxford Handbooks (2019; online edn, Oxford Academic, 13 June 2019), https://doi.org/10.1093/oxfordhb/9780199340033.001.0001
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	授業の初回で担当を決めるため、参加出来ない場合は連絡すること。
そ の 他	重要事項は ITC-LMS で告知する。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-211-13	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	大塚 類				
授 業 科 目	教育臨床学特殊研究				
講 義 題 目	臨床現象学Ⅱ Seminar in Clinical PhenomenologyⅡ				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	【授業の目標】本ゼミのタイトルも「臨床現象学」であるが、現在日本では、●●現象学、現象学的△△、といった研究領域が多数展開している。しかし、何をもって●●現象学、現象学的△△と称しうるのかは明確ではない。狭義には、現象学者の知見を理論的背景にすることが現象学的な研究であるが、広義には、ものごとを捉えるスタンスを現象学に依拠することも現象学的な研究に含まれる、と講義者は考えている。本ゼミでは、前期でスタンスとしての現象学が共通理解にもたらされたという前提のもと、現象学のスタンスから、人間の本質的な在りようについて考える。その際、ドキュメンタリー作品、小説、マンガ等を手がかりにする。【授業の概要】昨年度から引き続き、人間の在りようを描いている作品と、実際の人間の在りようを研究することの相違についても考えてみたい。こうした歩みのなかで、1年間を通じて、「現象学的」とは何なのかという問いや、具体的なできごとに基づく(現象学的な)倫理について触れることになる。何を観るか何を読むかは、受講者と相談の上決定する。参考【昨年度扱った作品】・遷延性意識障害に関するドキュメンタリー・平野勝之 2011『監督失格』(愛する人の死に直面することについて)・NHK スペシャル「海辺にあった、町の病院」(命の選別)・大前栗生『ぬいぐるみとしゃべる人はやさしい』・魚豊『チ。』・日向武史『あひるの空』・楳図かずお「戦闘」『おろち』Objectives of the class. The title of this seminar is also "Clinical Phenomenology", but there are currently many research fields in Japan, such as ●● phenomenology and phenomenological -△△△. However, it is not clear what can be called "phenomenology" or "phenomenological phenomenology". In a narrow sense, phenomenological research is to use the findings of phenomenologists as a theoretical background, but in a broader sense, the lecturers believe that phenomenological research includes relying on phenomenology as the stance from which things are perceived. In this seminar, based on the premise that phenomenology as a stance was brought to a common understanding in the first semester, we will consider the essential nature of human beings from the stance of phenomenology. In doing so, documentary works, novels and manga will be used as clues. Outline of the class. Continuing from last year, we will also consider the difference between works depicting the nature of human beings and research into the actual nature of human beings. In these steps, throughout the year, we will touch on the question of what is 'phenomenological' and on (phenomenological) ethics based on concrete events. What to watch and what to read will be decided in consultation with the students.
授 業 計 画	第1回 イン트로ダクション:スタンスとしての現象学 第2回 文献講読あるいは映像視聴①第3回 文献講読あるいは映像視聴②第4回 文献講読あるいは映像視聴③第5回 文献講読あるいは映像視聴④第6回 文献講読あるいは映像視聴⑤第7回 中間相談タイム第8回 文献講読あるいは映像視聴⑦第9回 文献講読あるいは映像視聴⑧ 第10回 文献講読あるいは映像視聴⑨第11回 文献講読あるいは映像視聴⑩第12回 文献講読あるいは映像視聴⑪第13回 文献講読あるいは映像視聴⑫第14回 本ゼミのまとめ授業計画は受講者との相談の上変更されることがあります。1) Introduction: phenomenology as a stance 2) Literature reading or video viewing (1) 3) Literature reading or video viewing (2) 4) Literature reading or video viewing (3) 5) Literature reading or video viewing (4) 6) Literature reading or video viewing (5) 7) Mid-term consultation time 8) Literature reading or video viewing (7) 9) Literature reading or video viewing (8) 10) Literature reading or video viewing (9) 11) Literature reading or video viewing (10) 12) Literature reading or video viewing (11) 13) Literature reading or video viewing (12) 14) Summary of this seminar The lesson plan is subject to change in consultation with the students.
授 業 の 方 法	演習形式で行う。受講人数にもよるが、おそらく各回担当発表制になると思われる。受講者からもおすすめの文献や映像作品を募りたい。The course will be conducted in the form of exercises. Depending on the number of participants, it is likely that each session will be presented in charge. We would also like to solicit recommen

成績評価方法	【評価方法】発表者は平常点、未発表者はレポート【評価基準】(1)授業への参加状況 ①事前に文献を読み、授業中の議論に積極的に加わって、理解を深めている。②文献に関する固有の解釈にもとづいて、自分なりの見解を発言している。③他者の発言に耳を傾け、自分の見解と関連させて、議論を発展させている。(2)レポート ①本授業で扱う題材について自分なりの関心にもとづいて要点を捉えている。②授業中の議論にもとづいて自分なりの論点を明らかにして議論している。③独創性のある論点が提示されており、説得力のある議論が展開されている。(1) Participation in class (i) Students read the literature in advance and actively participate in class discussions to deepen their understanding of the material. (2) Students express their own opinions based on their own interpretations of the literature. (3) Listen to the comments of others, relate them to their own views and develop the discussion.(2) Reports (i) Students are able to grasp the main points based on their own interest in the subject matter covered in this class. (2) Students clarify and discuss their own points of view based on the discussions in class. (iii) It presents original arguments and develops persuasive arguments.
教科書	特になし。授業中使用する文献は基本的にデータでお渡します。None in particular. Literature used in class will basically be provided as data.
履修上の注意・備考	当事者性をもった積極的な参加を期待します。現象学の知識は不要です。さまざまなバックグラウンドを備えた自分が何を感じ、何を考えるのかを語る場にしたいです。前期受講していること(つまり通年での受講)が望ましいです。Active participation with a sense of partyhood is expected. Knowledge of phenomenology is not required. We want to provide an opportunity to talk about
その他	

本研究科他コース学生	履修可
本学他研究科学生	履修可
他大学生(特別聴講学生等)	履修可

時 間 割 コー ド	23-211-14	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	山 名 淳				
授 業 科 目	教育哲学論文指導				
講 義 題 目	教育哲学論文指導 Dissertation Research in Philosophy of Education				

授 業 の 目 標・概 要	基礎学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。 なお、修士学位論文は 400 字詰め原稿用紙に換算して 200 枚以内にまとめること。本授業を通じて、(1)教育哲学に関する専門論文を執筆する上での基礎を身につけることができる、(2)自らの問題関心に基づいて専門家に対して研究成果を発信することができる、(3)さまざまな専門的見解を受容しつつ自らの研究をさらに発展させることができる。
授 業 計 画	1. 研究倫理について 2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』 3. 研究テーマの設定 4. 先行研究の調べ方と検討方法 5. リサーチ・クエッションの立て方 6. アブストラクトに書くべきこと 7. アウトラインの作成 8. 論証の妥当性 9. テキストの読み込み 10. 引用の方法 11. 反対意見の検討 12. まとめの書き方 13. 参考文献の書き方 14. 投稿雑誌の選び方 15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』
履修上の注意・備考	「教育哲学概説(教育思想史)」を履修しておくことが望ましい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-211-15	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	山 名 淳				
授 業 科 目	教育哲学論文指導				
講 義 題 目	教育哲学論文指導 Dissertation Research in Philosophy of Education				

授 業 の 目 標・概 要	基礎学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。 なお、修士学位論文は 400 字詰め原稿用紙に換算して 200 枚以内にまとめること。本授業を通じて、(1)教育哲学に関する専門論文を執筆する上での基礎を身につけることができる、(2)自らの問題関心に基づいて専門家に対して研究成果を発信することができる、(3)さまざまな専門的見解を受容しつつ自らの研究をさらに発展させることができる。
授 業 計 画	1. 研究倫理について 2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』 3. 研究テーマの設定 4. 先行研究の調べ方と検討方法 5. リサーチ・クエッションの立て方 6. アブストラクトに書くべきこと 7. アウトラインの作成 8. 論証の妥当性 9. テキストの読み込み 10. 引用の方法 11. 反対意見の検討 12. まとめの書き方 13. 参考文献の書き方 14. 投稿雑誌の選び方 15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』
履修上の注意・備考	「教育哲学概説(教育思想史)」を履修しておくことが望ましい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-211-16	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	小 玉 重 夫				
授 業 科 目	教育人間学論文指導				
講 義 題 目	教育思想論文指導 Dissertation Research in Educational Thought				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。
授 業 計 画	1. 研究倫理について2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込み10. 引用の方法11. 反対意見の検討12. まとめの書き方13. 参考文献の書き方14. 投稿雑誌の選び方15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2017)『信頼される論文を書くために第3版』
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	履修者はあらかじめ担当教員に履修の相談をする。また、入学時には、コースのガイダンスに出席する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-211-17	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	小 玉 重 夫				
授 業 科 目	教育人間学論文指導				
講 義 題 目	教育思想論文指導 Dissertation Research in Educational Thought				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。
授 業 計 画	1. 研究倫理について2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込み10. 引用の方法11. 反対意見の検討12. まとめの書き方13. 参考文献の書き方14. 投稿雑誌の選び方15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2017)『信頼される論文を書くために第3版』
履修上の注意・備考	履修者はあらかじめ担当教員に履修の相談をする。また、入学時には、コースのガイダンスに出席する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-211-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	片山 勝茂				
授 業 科 目	教育人間学論文指導				
講 義 題 目	教育人間学論文指導 Dissertation Research in Educational Anthropology				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。
授 業 計 画	1. オリエンテーション2. 研究倫理と論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込みと引用の方法10. 反対意見の検討11. まとめの書き方12. 参考文献の書き方13. 投稿雑誌の選び方14. 査読とリライトのプロセス15. まとめ
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2023)『信頼される論文を書くために 第4版』
履修上の注意・備考	指導教員の開講するゼミを合わせて履修すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-211-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	片山 勝茂				
授 業 科 目	教育人間学論文指導				
講 義 題 目	教育人間学論文指導 Dissertation Research in Educational Anthropology				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コースの学位論文(博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。
授 業 計 画	1. オリエンテーション2. 研究倫理と論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込みと引用の方法10. 反対意見の検討11. まとめの書き方12. 参考文献の書き方13. 投稿雑誌の選び方14. 査読とリライトのプロセス15. まとめ
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2023)『信頼される論文を書くために 第4版』
履修上の注意・備考	指導教員の開講するゼミを合わせて受講すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-211-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	小国 喜弘				
授 業 科 目	教育史論文指導				
講 義 題 目	日本教育史論文指導 Dissertation Research in Japanese Educational History				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。
授 業 計 画	1. 研究倫理について2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込み10. 引用の方法11. 反対意見の検討12. まとめの書き方13. 参考文献の書き方14. 投稿雑誌の選び方15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	博士課程対象。学年ごとに月 1 回程度の指導会を開催する。他学年の指導会にも極力参加するものとする。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	適宜配布する
履修上の注意・備考	研究室に所属する院生は必ず履修すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-211-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	小国 喜弘				
授 業 科 目	教育史論文指導				
講 義 題 目	日本教育史論文指導 Dissertation Research in Japanese Educational History				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。
授 業 計 画	1. 研究倫理について2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込み10. 引用の方法11. 反対意見の検討12. まとめの書き方13. 参考文献の書き方14. 投稿雑誌の選び方15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	学年ごとに月1回程度の指導会を開催する。他学年の指導会にも極力参加するものとする。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	適宜配布する
履修上の注意・備考	研究室に所属する院生は必ず履修すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-211-22	単 位 数	2	学 期	通年
担 当 教 員	隠岐 さや香				
授 業 科 目	教育史論文指導				
講 義 題 目	西洋教育史論文指導 Dissertation Research in Western Educational History				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。
授 業 計 画	1. 研究倫理について2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込み10. 引用の方法11. 反対意見の検討12. まとめの書き方13. 参考文献の書き方14. 投稿雑誌の選び方15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2017)『信頼される論文を書くために第3版』
履修上の注意・備考	履修者はあらかじめ担当教員に履修の相談をする。もしくは、入学時には、コースのガイダンスに出席する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-211-23	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	隠岐 さや香				
授 業 科 目	教育史論文指導				
講 義 題 目	西洋教育史論文指導 Dissertation Research in Western Educational History				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。
授 業 計 画	1. 研究倫理について2. 論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. リサーチ・クエッションの立て方6. アブストラクトに書くべきこと7. アウトラインの作成8. 論証の妥当性9. テキストの読み込み10. 引用の方法11. 反対意見の検討12. まとめの書き方13. 参考文献の書き方14. 投稿雑誌の選び方15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2017)『信頼される論文を書くために第3版』
履修上の注意・備考	履修者はあらかじめ担当教員に履修の相談をする。もしくは、入学時には、コースのガイダンスに出席する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-211-24	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	田中 智志				
授 業 科 目	教育臨床学論文指導				
講 義 題 目	教育臨床学論文指導 Dissertation Research in Clinical Approach to Education				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コース(教育臨床学領域)の学位論文の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。研究テーマは、教育臨床学・教育実践論のなかから選択することが望ましい。論文指導は、個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
授 業 計 画	履修者は複数回にわたり、自分の論文の研究主題についての報告を行う。その報告のために、履修者は事前に教員から資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等についての指導を受け、十分な準備をしなければならない。報告においては、自分の研究内容についての系統的なプレゼンテーションをしなければならない。その報告を受けて、担当教員ならびに当日の参加者との間で質疑応答を行う。第1回 論文指導オリエンテーション 第2回 論文作成における留意点 第3回 論文作成のためのガイドライン 第4回 論文作成のための主題選択(個別指導)1 第5回 論文作成のための主題選択(個別指導)2 第6回 論文作成の方法(個別指導)1 第7回 論文作成の方法(個別指導)2 第8回 個別の報告・全体の指導1 第9回 個別の報告・全体の指導2 第10回 個別の報告・全体の指導3 第11回 個別の報告・全体の指導4 第12回 中間報告 第13回 直前指導1 第14回 直前指導2 第15回 論文指導のまとめ
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	必要な文献については、各自のテーマに即して指示する。
履修上の注意・備考	教育学・教育思想についての基礎的知見を要する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-211-25	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	田中 智志				
授 業 科 目	教育臨床学論文指導				
講 義 題 目	教育臨床学論文指導 Dissertation Research in Clinical Approach to Education				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コース(教育臨床学領域)の学位論文の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。研究テーマは、教育臨床学・教育実践論のなかから選択することが望ましい。論文指導は、個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
授 業 計 画	履修者は複数回にわたり、自分の論文の研究主題についての報告を行う。その報告のために、履修者は事前に教員から資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等についての指導を受け、十分な準備をしなければならない。報告においては、自分の研究内容についての系統的なプレゼンテーションをしなければならない。その報告を受けて、担当教員ならびに当日の参加者との間で質疑応答を行う。第1回 論文指導オリエンテーション 第2回 論文作成における留意点 第3回 論文作成のためのガイドライン 第4回 論文作成のための主題選択(個別指導)1 第5回 論文作成のための主題選択(個別指導)2 第6回 論文作成の方法(個別指導)1 第7回 論文作成の方法(個別指導)2 第8回 個別の報告・全体の指導1 第9回 個別の報告・全体の指導2 第10回 個別の報告・全体の指導3 第11回 個別の報告・全体の指導4 第12回 中間報告 第13回 直前指導1 第14回 直前指導2 第15回 論文指導のまとめ
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	必要な文献については、各自のテーマに即して指示する。
履修上の注意・備考	教育学・教育思想についての基礎的知見を要する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-211-26	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	大塚 類				
授 業 科 目	教育臨床学論文指導				
講 義 題 目	臨床現象学論文指導 Dissertation Research in Clinical Phenomenology				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コースの学位論文(博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。With the aim of completing a dissertation (doctoral thesis) in the basic education course, guidance is given as appropriate, starting with the thematisation of each student's problematic interest as an academic research theme, the suitability of material selection, methodological considerations and methods of argumentation.
授 業 計 画	1. オリエンテーション2. 研究倫理と論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. 事例研究の方法①フィールドの策定6. 事例研究の方法②対象者の策定7. 事例研究の方法③研究倫理8. 事例の取り方・描き方9. 理論に基づく事例の考察10. 反対意見の検討11. まとめの書き方12. 参考文献の書き方13. 投稿雑誌の選び方14. 査読とリライトのプロセス15. まとめ 1. orientation2. research ethics and guidelines for writing a thesis 'To write a credible thesis' 3. setting a research theme 4. how to research and review previous studies 5. case study methods 1. field development 6. case study methods 2. subject development 7. case study methods 3. research ethics 8. how to take and draw a case 9. How to write a summary 12. How to write a bibliography 13. How to choose a journal for submission 14. Peer review and rewrite process 15. Summary
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。The focus is on individual instruction, but there are also opportunities for group instruction where necessary.
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。Evaluation is based on the achievement of each individual's goals and research results.
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』
履 修 上 の 注 意・備 考	指導教員の開講するゼミを合わせて受講すること。The seminar should be taken in conjunction with the seminar offered by the supervisor.
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-211-27	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	大塚 類				
授 業 科 目	教育臨床学論文指導				
講 義 題 目	臨床現象学論文指導 Dissertation Research in Clinical Phenomenology				

授 業 の 目 標・概 要	基礎教育学コースの学位論文(修士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。With the aim of completing the thesis (master's thesis) of the basic education course, guidance is given as appropriate, starting with the thematisation of each student's problematic interest as an academic research theme, the suitability of material selection, methodological considerations and methods of argumentation.
授 業 計 画	1. オリエンテーション2. 研究倫理と論文執筆のガイドライン『信頼される論文を書くために』3. 研究テーマの設定4. 先行研究の調べ方と検討方法5. 事例研究の方法①フィールドの策定6. 事例研究の方法②対象者の策定7. 事例研究の方法③研究倫理8. 事例の取り方・描き方9. 理論に基づく事例の考察10. 反対意見の検討11. まとめの書き方12. 参考文献の書き方13. 投稿雑誌の選び方14. 査読とリライトのプロセス15. まとめ 1. orientation2. research ethics and guidelines for writing a thesis 'To write a credible thesis'3. Establishing a research topic4. How to research and review previous research5. Case study methods (1) Field development6. Case study methods (2) Formulation of the subject7. Case study methods (3) Research ethics8. How to take and draw case studies9. Consideration of case studies based on theory10. Consideration of opposing views11. How to write a summary12. How to write references13. How to choose a journal for submission14. Peer review and rewrite process15. Summary
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。The focus is on individual instruction, but there are also opportunities for group instruction where necessary.
成 績 評 価 方 法	個人の達成度によって評価を行う。Evaluation is based on the achievement of each individual's goals and research results.
教 科 書	東京大学大学院教育学研究科学務委員会(2012)『信頼される論文を書くために 改訂版』
履 修 上 の 注 意・備 考	指導教員の開講するゼミを合わせて受講すること。The seminar should be taken in conjunction with the seminar offered by the supervisor.
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-212-01	単 位 数	2	学 期	S2
担 当 教 員	本田 由紀				
授 業 科 目	教育社会学基本研究				
講 義 題 目	現代日本社会における教育・仕事・家族 Education, Work and Family in the Present Japanese Society				

授 業 の 目 標・概 要	日本社会における家族・教育・仕事の関係性の特徴とその変化について、様々な文献やデータを読み取り議論することを通じて、現在の日本社会が抱える諸課題とそれらへの対策について認識を深めるとともに、多様な研究手法について知り適用可能性を考察する。一般的・抽象的なレベルでは、ある社会の構造とその変動を俯瞰的に捉える見方、国際比較により社会間の体制の相違を知り特定の社会状況を相対化する見方、図表を読み取りながらデータが意味している事柄を解釈する力、ある社会で支配的な言説や規範を批判的にとらえ返す力などをつけることを目標とする。
授 業 計 画	授業計画第1回：オリエンテーションおよび概論第2回：アジアの社会学第3回：教育のリターン第4回：ゲスト回に向けての事前準備第5回：ゲスト回第6回：学歴インフレ第7回：学校から仕事への移行第8回：ジェンダー第9回：結婚意識第10回：子育てと仕事の両立第11回：移民第12回：不平等とメリトクラシー第13回：期末レポート構想発表
授 業 の 方 法	各回の購読文献をふまえ、受講者が購読文献を補足する他の文献・統計・事例・報道などを紹介しあいつつ議論を行うことにより、現代日本社会の現実と、目下進行中の様々な変革の動きや取り組みについて知り、その中で個人がいかなる役割を果たしてゆけるか、いかなる研究が可能かについての認識を形成する。授業では出席者全員が購読文献について購読票を記載した上で持参する。授業で得た知識をふまえ、期末レポートでは現代日本の家族・教育・仕事に関わるミニ研究を課す。
成 績 評 価 方 法	授業時に提出する購読票と、期末レポートを7:3の比率で評価する。
教 科 書	購読文献は初回の授業で指示する。
履修上の注意・備考	現代の親子関係、若年労働市場、教育政策、社会福祉などについて社会的課題と研究上の課題を幅広く押さえる内容の授業であるため、それらに関する実証的研究に取り組もうとする者にとって直接的に役立つことはもちろん、社会学の方法論・理論についての基礎教養を得ることができる。
そ の 他	オンライン

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-212-02	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	仁平 典宏				
授 業 科 目	教育社会学基本研究				
講 義 題 目	市民社会・国家・教育 Civil Society, State, and Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	近年、社会政策において教育の役割への関心が高まっている。例えば、就学前の子どもへの保育・教育投資が長期の貧困リスクの削減につながる事が指摘され、また、雇用の流動化の中で、職場の外部で職業訓練を行い「自立支援」を行う場が急激に求められつつある。つまり「教育」の論理が、従来の制度的範囲を超えて要請されている。既存の学校教育で行われる一般教育・職業教育も、貧困・格差の削減という観点から評価されるようになってきている。この変化に伴い、福祉国家も直接給付型の社会保障から、人的資本形成を中心に据えたものへと変貌を遂げてきている。世界中で見られるこのトレンドを社会保障の「教育」化と呼んでもいいだろう。しかし、社会保障機能を「教育」に委ねていいのだろうか？ 換言すれば、教育は本当に（本当だとして）いかなる形で平等や社会的包摂に結びついているのだろうか？ 例えば教育は、たとえ属性の効果を完全に除去できたとしても、業績主義が徹底するだけで、人を序列し、配分していくことには変わらない。再分配率を変えたり、ベーシックインカムなどの普遍主義的な給付によって社会権を保障する方が、格差・貧困問題の解消に直接寄与するという主張もある。加えて人間の安全保障を包括的に考えるなら「恐怖からの自由」という論点も必要だが、教育社会学においてこれまでほとんど扱えてこなかった。以上を踏まえた上で、教育に期待される社会保障機能の意義と限界について、経験的研究と規範理論の両方の知見を踏まえながら、多角的に考えていきたい。
授 業 計 画	第 1 回：イントロダクション 第 2 回：論文の検討とディスカッション（山口毅 2020「生存保障への教育社会学的アプローチの失敗」『教育社会学研究』106 巻） 第 3 回～第 14 回：論文購読に基づくディスカッション
授 業 の 方 法	原則として、毎回指定された文献や論文を購読した上で、当日は報告者が論点を提示し、それに基づいてディスカッションを行う。
成 績 評 価 方 法	平常点。具体的には、授業への出席・報告・議論への参加を重視する。（無断欠席は 1 回ごとに 1 段階評価が下がる）
教 科 書	初回の授業では、山口毅 2020「生存保障への教育社会学的アプローチの失敗」『教育社会学研究』106 巻の論文を検討する。 https://www.jstage.jst.go.jp/article/eds/106/0/106_99/_article/-char/ja/ もし可能であれば、簡単な感想やコメントをまとめた購読メモを作っておくこと。（形式任意）2 週目以降の授業で用いる論文については、初回に提示する。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	テーマに関心があれば専門領域は問わない。毎回指定された論文を事前に全員が読んだ上で、当日は報告者が論点を提示し、全体でディスカッションを行う。つまり事前の文献の読解と論点の検討は、報告者以外も必須となる。
そ の 他	初回の授業では、山口毅 2020「生存保障への教育社会学的アプローチの失敗」『教育社会学研究』106 巻の論文を検討する。 https://www.jstage.jst.go.jp/article/eds/106/0/106_99/_article/-char/ja/ もし可能であれば、簡単な感想やコメントをまとめた購読メモを作っておくこと。（形式任意）

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-03	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	荻 巢 崇 世				
授 業 科 目	教育社会学基本研究				
講 義 題 目	比較教育学の理論と方法 Comparative Education Theories and Methodologies				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	本講義では、比較教育学の研究書を中心とする文献を購読し、本領域の基礎となる理論と方法について議論する。比較教育学の歴史的な検討に加えて、教育におけるグローバル化の現象を理解するために、比較教育学からはどのようなアプローチが可能であるのかを検討する。ローカルで具体的な教育の事象をグローバルな視点から相対化して理解することを目指す。
授 業 計 画	スケジュールは履修者の学年や人数によって調整するため、第一回目のオリエンテーションで指示する。
授 業 の 方 法	文献購読を基本とし、個人発表と議論を中心に進める。
成 績 評 価 方 法	出席、個人発表、議論への貢献度、レポートなどから総合的に評価する。
教 科 書	特に指定しない
履修上の注意・備考	毎回の出席と数回の個人発表を求める。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-04	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	多喜 弘文				
授 業 科 目	高等教育論基本研究				
講 義 題 目	教育と不平等の社会学 I Sociological Perspectives on Education and Inequality I				

授 業 の 目 標・概 要	学校教育と不平等に関わる文献を読み進めることで、階層研究における当該領域の研究枠組みに対する理解を深める。今期はジェンダーや家族に着目した欧米の階層研究を中心的に扱うことで、日本を対象にした研究をどのように発信していけるのかを議論していく。
授 業 計 画	第 1 回:オリエンテーションと文献紹介、分担の取り決め第 2 回・第 3 回:当該領域の基本的な枠組みについての文献購読第 4 回～第 11 回:欧米における当該領域についての文献購読第 12 回:日本の対象とした研究の可能性について第 13 回:総括、レポートの構想発表
授 業 の 方 法	毎回担当者が文献の内容紹介と批判的検討をおこない、それをもとに全員でディスカッションをおこなう。文献の候補については初回授業時に示す。
成 績 評 価 方 法	担当文献の報告と毎回の議論への積極的参加(計 60%)および最終レポート(40%)で評価する。
教 科 書	適宜授業内に指示する。
履修上の注意・備考	毎回の出席と積極的な議論への参加を求めます。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-212-05	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	中村 高康				
授 業 科 目	比較教育システム論基本研究				
講 義 題 目	教育社会学の古典を読む Reading Classics in Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	教育社会学において様々な議論の前提となっている古典的な研究がある。しかしながら、研究の進展と蓄積によって、そうした古典的研究の原典に触れる機会は相対的に減ってきている。この授業では、古典として著名な研究でありながら、読み落とされがちな諸研究を講読することによって、教育社会学領域で研究を進めていくための脚力を鍛えていくことを目指す。
授 業 計 画	第1回 イン트로ダクション第2回 ミニ原典講読+ミニ応用事例検討第3回 教育社会学の古典講読①第4回 教育社会学の古典講読②第5回 教育社会学の古典講読③第6回 教育社会学の古典講読④第7回 教育社会学の古典講読⑤第8回 教育社会学の古典講読⑥第9回 教育社会学の古典講読⑦第10回 教育社会学の古典講読⑧第11回 教育社会学の古典講読⑨第12回 教育社会学の古典講読⑩第13回 教育社会学の古典講読⑪第14回 教育社会学の古典講読⑫
授 業 の 方 法	指定された文献について、毎回報告者を決めて内容を報告してもらう。そのうえで、内容理解のためのディスカッションを行なう。
成 績 評 価 方 法	平常点(報告を含む)と最終レポートによる。
教 科 書	初回に説明する。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-212-06	単 位 数	2	学 期	S2
担 当 教 員	藤原 翔				
授 業 科 目	比較教育システム論基本研究				
講 義 題 目	教育社会学方法論研究 Research Methods in Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	本授業では、教育社会学研究の特に量的調査研究において必要な計量分析の手法について説明し、実際の社会調査データを用いた分析を行う。データの記述、予測、因果推論というそれぞれの目的を達成するための適切な方法の習得を目指す。そして、リサーチクエスチョンや理論・仮説を適切に計量分析と結びつけ、そして解釈できること、そして計量分析手法をもちいた研究論文を執筆できるようになることを目標とする。
授 業 計 画	今年度は、目的別に多様な手法を学んでいくこととする。1:社会調査・統計解析・計量社会学2:データの記述とハンドリング3:統計的推定と検定の基礎4:二変数の関連5:統計的統制6:線形従属変数のモデリング7:二値従属変数のモデリング8:順序従属変数のモデリング9:名義従属変数のモデリング10:媒介と交互作用の検討11:潜在変数の利活用12:入れ子型/階層的データへのアプローチ13:因果推論の諸方法なお、内容については受講者の状況に応じて柔軟に対応する予定である。
授 業 の 方 法	講義、文献講読、分析演習により構成される。
成 績 評 価 方 法	課題レポート 40%、最終レポート 60%
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	ほぼ毎回、課題が課されます。計量的分析の初歩(クロス表、回帰分析など)についてはすでに習得していることを前提として授業を進めます。基礎的な計量分析の方法や R の使用方法については「教育調査分析法」を受講するなどしてください。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-212-07	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	本田 由紀				
授 業 科 目	教育社会学特殊研究				
講 義 題 目	教育社会学の研究課題 Research Issues in the Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	教育を対象とする社会学的研究は、これまで理論的・実証的な知見を蓄積してきた。しかし、社会経済構造の変化の中で、従来の理論枠組みや概念、研究方法では把握しきれない新たな研究課題が出現してきていると考えられる。これまでの教育社会学にとって盲点となってきたそれらの新たな研究課題を探り出し、実証研究に結び付けてゆく方途を検討することをこの授業では目標とする。
授 業 計 画	第1回(10月6日) オリエンテーション第2回(10月13日)文献① 第3回(10月20日)文献② 第4回(10月27日)文献③第5回(11月10日)文献④ 第6回(11月17日)文献⑤ 第7回(11月24日)文献⑥第8回(12月8日)文献⑦第9回(12月15日)文献⑧第10回(12月22日)ゲスト回第11回(1月5日) ワークショップ③第12回(1月12日) ワークショップ④第13回(1月19日) 期末レポート発表
授 業 の 方 法	授業の前半の回では、教育社会学の英語論文で国際学術誌に掲載されたものを講読文献とし、(1)どのようなロジックでオリジナリティや重要性を主張し、(2)国際比較の中で日本をどのようなケースとして扱っており、(3)どのようなデータをどのような手法で分析し、(4)どのような理論や分析枠組みを使用しているか、という観点から検討する。講読文献については受講者全員が指定の「講読票」に概要と意見を書いて授業に持参し、その記載内容に基づいて議論する。講読票は授業後に下記の提出先にアップロードする形で提出する。第8回の授業で
成 績 評 価 方 法	授業の内容をふまえ、最終的に参加者各自が、各自の研究テーマに関して英文レポートを執筆する。成績評価は、「講読票」、ワークショップでの発表、期末レポートを、3:4:3 の比重で評価する。「講読票」は出席確認の意味ももつ。原則として、3回欠席で評価が1ランク低下し、5回欠席で単位を認めない。
教 科 書	各回の授業で用いるテキストを初回に提示する。
履修上の注意・備考	学部において「教育社会学概論」および「教育社会学理論演習」を事前に履修していることが望ましいが、他大学からの大学院進学者でも受講できる。欧米を中心とした教育社会学の先端的イシューと研究方法を知ることができる授業であるため、教育社会学分野で研究を進めようとする者はもちろん、教育学および社会科学全般に従事する者および教育現場・教育行政に関わる者にとって有益な知識を得ることができる。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-212-08	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	仁平 典宏				
授 業 科 目	教育社会学特殊研究				
講 義 題 目	教育言説の社会学 Sociology of Discourse on Education				

授 業 の 目 標・概 要	教育社会学において言説や文字データを用いた研究は多いが、それが依拠する方法論／理論は、構築主義やフーコー的言説分析から、概念分析、自然言語処理を用いたテキストマイニングに至るまで、多岐にわたっている。その中で、知見の新規性はもちろん、分析の手続きの妥当性や、言説／社会の関係に関する存在論・認識論的な前提が厳しく問われることもある。本授業では、言説を対象とする研究にはどのような方法的立場があり、それぞれいかなる前提と課題を有しているのか、基本的な視座を習得することをめざす。基礎的な文献を講読した上で議論し、部分的には KH コーダー等を用いたワークも活用しながら理解を深めていきたい。なお受講者は言説研究の経験者である必要はない。むしろ、初めて言説を用いて修士論文、投稿論文、その他論文等を書く人も含め、本方法論に関する基本的な議論の布置を理解できるようになることが主な目的である。
授 業 計 画	1 回目 イントロダクション 2 回目 言説データに触れる 3 回 事例としてのいじめ言説 4 回目 言説と構築主義 5 回目 方法的構築主義の展開と困難 6 回目 言説と「実態」——統計の位置づけについて 7 回目 権力と言説 8 回目 歴史と言説 9 回目 概念分析について 10 回目 概念分析と構築主義 11 回目 概念分析の研究を読む 12 回目 計量テキスト分析の基礎 113 回目 計量テキスト分析の基礎 214 回目 計量テキスト分析の実際
授 業 の 方 法	毎回指定された論文を全員が購読した上で、当日は報告者が報告を行い、それに基づいて全体でディスカッションを行う。テキストマイニング等に関してはワークも併用する。
成 績 評 価 方 法	平常点。具体的には、授業への出席・報告・議論への参加を重視する。(無断欠席は1回ごとに1段階評価が下がる)
教 科 書	授業内で指示する。
履 修 上 の 注 意・備 考	言説を用いた調査・研究の経験者である必要はなく、初学者も歓迎する。毎回指定された論文を全員が購読した上で、当日は報告者が報告を行い、それに基づいて全体でディスカッションを行う。つまり事前の文献の読解と論点の検討は、報告者以外も必須となる。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-09	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	多喜 弘文				
授 業 科 目	高等教育論特殊研究				
講 義 題 目	教育と不平等の社会学Ⅱ Sociological Perspectives on Education and InequalityⅡ				

授 業 の 目 標・概 要	東アジアを対象にした教育と選抜に関する理論的および実証的な研究を検討することで、日本や東アジア社会を対象にした研究をどのように発信していけるのかについて議論していく。特に、今期はジェンダーや家族と教育の関わりに着目する。
授 業 計 画	第1回:オリエンテーションと文献紹介、分担の取り決め第2回～第5回:当該領域を扱う上での方法論的アプローチについての文献購読第6回～第12回:東アジアを対象とする当該領域の文献購読第13回:総括、レポートの構想発表
授 業 の 方 法	毎回担当者が文献の内容紹介と批判的検討をおこない、それをもとに全員でディスカッションをおこなう。文献の候補については初回授業時に示す。
成 績 評 価 方 法	担当文献の報告と毎回の議論への積極的参加(計60%)および最終レポート(40%)で評価する。
教 科 書	適宜授業内に指示する。
履修上の注意・備考	毎回の出席と積極的な議論への参加を求めます。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-10	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	星加 良司				
授 業 科 目	教育社会学特殊研究				
講 義 題 目	障害の社会理論を読む Social Theories of Disability				

授 業 の 目 標・概 要	<目的・目標>「障害(disability)」という現象は、「できなさ(disability)」を生み出し、意味づけ、価値づける社会の営みの合わせ鏡である。このように考えるとき、「障害」を解消しようとする試みは、社会変革を志向する企てとなり、その社会の中で既得権を持つ人々からの抵抗を呼び起こすものとなる。この授業では、ここに生じるコンフリクトを解きほぐすための手がかりを探りたい。<授業概要>1980年代に英米で学問分野として成立したディスアビリティ・スタディーズ(障害学)において、従来障害者個人への介入を志向する、医学を中核とした実践科学によって担われてきた障害研究は、ディスアビリティの構築に関与している現行の社会のありようを問うという、すぐれて社会学的なテーマと接続することになった。本授業ではこのパラダイムシフトの持つ意味を確認した上で、障害平等に向けた実践の基礎理論についての検討を行う。
授 業 計 画	1. ガイダンス2. 障害概念の探究 13. 障害概念の探究 24. 障害概念の探究 35. 障害概念の探究 46. 「障害平等」をめぐる理念と課題 17. 「障害平等」をめぐる理念と課題 28. 「障害平等」をめぐる理念と課題 39. 「障害平等」をめぐる理念と課題 410. 自由報告 111. 自由報告 212. 自由報告 313. 自由報告 4※受講者の人数や関心等により内容を変更することがある。
授 業 の 方 法	受講生による文献報告をはじめ、ディスカッションを中心に授業を展開する。
成 績 評 価 方 法	授業時の報告内容や討論への参加状況について、的確性・論理性・積極性等を考慮して総合的に評価する。
教 科 書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	障害問題についての予備的な知識は特に必要としない。受講者は、指定文献を予め熟読する等、授業でのディスカッションのための十分な準備を行うことが期待される。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-11	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	石田 賢示				
授 業 科 目	教育社会学特殊研究				
講 義 題 目	教育研究における量的調査設計 Quantitative Survey Design in Educational Research				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	この授業では、主として量的(統計的)社会調査の企画、設計と実施の方法を、講義と演習の往復を通じて修得することを目的としている。調査目的の立て方、目的・問いに対応する仮説設定、標本設計、標本抽出、調査票の作成、実査の管理、データの整理(自由回答データのコーディング、データクリーニング)、コードブックの作成、基礎的分析に関する知識と技能を学ぶ。また、上記の技術を応用してオンライン調査プラットフォームを用いた小規模な実査を予定している。受講者には、プログラム全体を通して、先端的な手法を含めて自ら調査を企画・実施できるようになることが期待される。This class aims to help students learn the methodology of social survey design and implementation through lectures and workshops. The lectures and workshops include defining the purpose of the survey, constructing hypotheses corresponding to the purpose and question, defining the target population and planned sample, sampling procedures, constructing questionnaires, managing survey implementation, organising dataset (coding free texts and data cleaning), creating a codebook, preliminary analyses. Based on the techniques above, we are also going to conduct a small-scale survey with an online survey platform (LimeSurvey). Through the whole program, the students participating in this class are expected to be able to design and conduct social surveys, including cutting-edge techniques, by themselves.
授 業 計 画	#01 社会調査とは何か 社会調査がどのような目的で行われるのかについての一般的理解を深める。また、一連の社会調査がどのような工程で実施されるのかについての全体像を理解する。#01 What does social research mean?We discuss a general understanding of the purpose of social research, and students will grasp the whole image of how social research proceeds.#02 調査目的、問いと仮説の構築「その調査がなぜ必要なのか」をどのように説得的に記述するのかについて、既存のメタデータなどを例としながら議論する。また、量的社会調査に適した問いと仮説の立て方についての理解を深める。#02 Constructing the purpose of the survey, research questions, and hypothesesWe discuss how to describe “Why is that survey necessary?” persuasively with existing metadata as examples. Then, students will understand more about how to construct research questions and hypotheses that are suitable for quantitative social research.#03 標本設計 標本設計に関する重要な諸概念を学ぶ。#03 Desining sampleStudents will learn about important concepts relevant to the sample design.#04 標本抽出 いくつかの標本抽出法について学び、その長所と短所を理解する。また、無作為抽出法、確率比例抽出法の実施方法を理解する。#04 Sampling proceduresStudents will learn several types of sampling procedures and understand their pros and cons. Then, in particular, they will discuss how to implement random sampling or probability proportional sampling methods.#05 調査方法 調査のモードの種類と、それらの長所と短所について議論する。#05 Modes of social surveyWe will discuss the types of survey mode and their pros and cons.#06 調査票の作成(1) 尺度の種類を理解し、それらに対応する質問文、回答選択肢の作成方法を学ぶ。また、調査票のレイアウトや構造、調査票作成時の注意点を理解する。#06 Designing questionnaire (1)Students will learn the types of measurements and how to create the question wordings and choices/alternatives corresponding to the measurements. Furthermore, they will understand the layout and structure of the questionnaire and what we should care about in designing the questionnaire.#07 調査票の作成(2) 近年、オンライン調査プラットフォームを用いて研究者自身がオンライン調査票を設計することが容易になった。この回では実際の操作を通じ、一般的な質問項目の作成やサーベイ実験などで必要となる無作為割当の方法を習得する。#07 Designing questionnaire (2)It has recently become easier for researchers to design online questionnaires with survey platforms. In this session, we will practice creating general survey questions and random assignment techniques, which are necessary for survey experiments, through the actual manipulation of the platform.#08 調査票作成の実践 調査票作成の技術にもとづき、各自の関心に即して作成した質問項目について発表する。#08

	Exercising questionnaire designBased on the questionnaire design techniques, students will present the survey items they create with LimeSurvey in line with their research interests.#09 調査実施に必要な資料作成 実査で必要なのは調査票だけではない。その他必要となる資料について理解する。#09 Documentation for survey implementationThe questionnaire is not only necessary for doing social research. In this session, students will understand other important documents.#10 質問票の点検とコーディング 回収票の点検の手続きについて理解する。自由回答データのコーディングの枠組みと手続きについて学ぶ。#10 Editing and codingStudents will learn about the procedure of checking and editing completed questionnaires. Then, they familiarise themselves with the framework and process of coding free-text answers.#11 データクリーニング データの質を高めるためには、回答間に深刻な矛盾がないことを検証する必要がある。この回ではデータクリーニングの手続きと、エラーが見つかった場合の対処方法について考える。#11 Data cleaningWe should verify that there are no serious inconsistencies between answers. In this session, we will discuss the procedure of data cleaning and measures after finding defined errors.#12 無回答への対処 無回答には非回収と項目無回答があり、調査設計においてより重要なのは非回収の問題である。無回答のメカニズムに関する一般的な理解を深め、非回収による偏りへの対処方法について考える。#12 How to deal with non-responseNon-response consists of the unit non-response and item non-response, and the former is a more serious problem in designing and conducting social research. Students will understand the general mechanisms of non-response and discuss correcting biases due to the unit non-response.#13 記述的分析とコードブックの作成 得られたデータによる基本的な集計、分析の仕方と、第三者が適切にデータを分析できるようにするためのコードブックの作成について学ぶ。#13 Descriptive analysis of the dataset and creating a codebookStudents will learn to tally and analyse the dataset obtained through the survey and to create a codebook so that the third person can use the dataset adequately.
授 業 の 方 法	Google Classroom を通じて配布する資料にもとづき講義、演習おこなう。一部の回ではオンライン調査プラットフォームの LimeSurvey を操作するため、ノート PC を持参できるとより望ましい(必須ではない)。We have each session based on the class material distributed through Google Classroom. Because we use LimeSurvey, an online survey platform, in som
成 績 評 価 方 法	各回の課題(20%)、プレゼンテーションの内容(20%)、および最終レポート(60%)により評価する。Student evaluation is based on course assignments for each session (20%), the quality of presentation (20%), and the term paper (60%).
教 科 書	なし none
履修上の注意・備考	学部レベルの社会調査法に関する知識を身に付けていることが望ましい。It is desirable to have learned social research methodology at the undergraduate level.
そ の 他	講義は日本語でおこなう。プレゼンテーションやレポートについては英語でも受け付ける。Each class is in Japanese. In presentation sessions and submitting the term paper, class participants can use English as well.

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-212-12	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	石田 賢示				
授 業 科 目	教育社会学特殊研究				
講 義 題 目	格差・不平等研究のための社会的埋め込み論 Social Embeddedness for Inequality Studies				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	格差・不平等は社会科学研究の主要なトピックの 1 つである。この授業では、なぜ格差・不平等が生じ、維持されるのかを理論的、概念的に説明する枠組みの 1 つとして、「埋め込み」に着目する。この概念は元々経済行為を対象としていたが、教育など社会科学の広い領域にも応用可能である。一方、「埋め込み」が 'umbrella concept' と呼ばれるように、その意味するところが研究者により多様であることから混乱が生じることもある。この授業の第 1 の目標は、「埋め込み」に関する必読文献の輪読を通じてこの概念の理解を深めることである。また、この枠組を自身の研究に応用する可能性や、(埋め込み論とは異なる) 自身の研究枠組みとの差異について説明できるようになることも、この授業のねらいである。 Inequality is one of the leading topics in social science research. This course pays attention to 'embeddedness,' which theoretically and conceptually explains why inequality emerges and persists. This concept has initially targeted economic actions but can apply to the broader field in social sciences such as education. In the meantime, as 'embeddedness' is called the 'umbrella concept,' we sometimes have confusion due to various meanings among scholars. Therefore, we primarily aim to get a deeper understanding of this concept by reading must-read literature about 'embeddedness.' Also, this course intends that participants get to explain how to apply to their research or how different they are from the 'embeddedness' concept.
授 業 計 画	以下の大まかなスケジュールに沿って文献の輪読と議論を進める。参加者が文献の内容を解説するが、担当はイントロダクションの回で割り振る予定である。授業の進行や受講者の関心に応じ、文献を変更する可能性がある。This class will follow the rough schedule below by reading the designated articles and discussing them. Participants are to introduce the literature contents assigned to them at the introduction session. We might change the literature to read as the class progresses and participants' interest. (1) イントロダクション Introduction 授業の目的と概要を講師が説明し、文献の割り振りを決める。The instructor will explain the purpose and overview of this class, and participants will select the literature to be assigned. (2) 「埋め込み」概念とそれに関連する枠組み The 'embeddedness' concept and relevant frameworks Mark Granovetter による Society and Economy を読む。社会ネットワークが信頼、権力などの創出を通じて個々人の行為にどのように影響してゆくのかについて議論する。In this part, we are going to read "Society and Economy: Framework and Principles," written by Mark Granovetter. Through this book, we will discuss how social networks affect individuals' actions by creating social trust, power, etc. (3) 組織フィールド Organisational Fields 格差・不平等を生み出す制度的文脈を説明する際、社会学的制度理論では「組織フィールド」に着目する。このパートでは、Neil Fligstein と Douglas McAdam による A Theory of Fields を読む。組織フィールド、およびそのなかでの行為者の振る舞いがいかにして一定の社会秩序(ひいては社会的不平等)を生み出すのかについて議論する。In explaining institutional contexts generating social inequalities, the sociological institutional theory focuses on 'Organisational Fields.' In this respect, we will read "A Theory of Fields" by Neil Fligstein and Douglas McAdam in this part. Through this book, we are going to discuss how the organisational fields and actions which the actors take in the fields generate a certain social order, which can result in social inequalities. (4) 不平等の源泉としての組織 Organisations as Sources of Inequalities このパートでは、組織内部における社会関係が生み出す不平等を扱う。この論点について議論するため、Donald Tomaskovic-Devey と Dustin Avent-holt による Relational Inequalities: An Organizational Approach を読む。In this part, we focus on social inequalities generated by social relations within organisations. To discuss this issue, we will read "Relational Inequalities: An Organizational Approach," written by Donald Tomaskovic-Devey and Dustin Avent-holt.
授 業 の 方 法	割り当てられた文献(章)の内容を参加者が紹介し、全員で議論する。必要に応じ、講師が関連する内容を解説する。授業言語は日本語を用いるが、部分的に英語を用いても構わない。The participants will

	introduce the contents of the assigned literature and discuss them together. The instructor will explain related matters as necessary. We will speak i
成績評価方法	関心のあるトピックについて、埋め込みアプローチを関連付けて論じたタームペーパーの内容。埋め込み概念に批判的な内容でも構わない。また、プレゼンテーションの内容も加味する。The term papers the participants wrote about the topic of interest concerning the embeddedness approach. It is possible to be critical toward the embeddedness concept. Also, the instructor will consider each presentation into account.
教科書	Granovetter, Mark, 2017, Society and Economy: Framework and Principles, The Belknap Press of Harvard University Press. Fligstein, Neil Fligstein, and Doug McAdam, 2012, A Theory of Fields, Oxford University Press. Tomaskovic-Devey, Donald, and Dustin Avent-holt, 2019, Relational Inequalities: An Organizational Approach, Oxford University Press.
履修上の注意・備考	この授業の肝は参加者相互の議論なので、できる限り毎回出席することが望ましい。The core of this class is the mutual discussion among participants. I hope they should attend every session.
その他	なし None

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時 間 割 コー ド	23-212-13	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	高橋 史子				
授 業 科 目	教育社会学特殊研究				
講 義 題 目	Ethnicity, Nationalism and Education Ethnicity, Nationalism and Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	The aim of this course is to introduce graduate students to some classic and recent sociological studies relevant to ethnicity, nationalism, and education, and to critically discuss their contribution and limitations. In Week 1, we'll have a course guidance and a short workshop about how to unpack the essay question and to prepare the outline. From Week 2, we'll spend four weeks (classes) to consider a question set up for each topic. From the 1st to 3rd class, students are expected to read the assignments before each class and bring questions and tentative ideas to answer the question. During class, we discuss the contribution and limitation of the articles, as well as exchange ideas and thoughts about the question. In the 4th class, students are expected to bring the outlines to answer the question, share them and discuss. After Week 13, you will be required to pick up one question from the three and write an essay by developing your prepared outline. Students will be able to -discuss the significance, contributions, and limitations of each paper, -critically examine the paper from the methodological point of view, and -discuss the essay question, based on the assigned literature.
授 業 計 画	Week 1 Course Guidance and Workshop: How to prepare an outline for an essay question Week 2 to 5 <Topic: Ethnicity > Week 6 to 9 <Topic: Nationalism> Week 10 to 13 <Topic: Whiteness> * We also include topics such as critical race theory, colorblindness etc. The reading list and essay questions will be announced and provided in the guidance and on ICT-LMS.
授 業 の 方 法	Discussion
成 績 評 価 方 法	Participation 20% Essay Outline 30% Final Essay 50%
教 科 書	none
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	The students are expected to be well-prepared and participate in discussion. If you're thinking to take this course and have any questions before the guidance, please contact the instructor via email either in English or Japanese.
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-14	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	荻 巢 崇 世				
授 業 科 目	教育社会学特殊研究				
講 義 題 目	国際教育開発の研究課題 Research on International Education Development				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	本講義では、国際教育開発論の研究書を中心とする文献を購読し検討することで、本領域の基礎となる理論と方法について議論する。国際教育開発の歴史的な潮流に加えて、具体的なプロジェクトについても検討し、国際教育開発が扱うテーマや課題、方法、倫理、限界などについて、理論と実践の両面からの理解を深める。
授 業 計 画	第一回の授業日に、参加者の人数や関心に従ってスケジュールを決定します。
授 業 の 方 法	本講義は文献購読を中心とし、講義は学生によるプレゼンおよびディスカッションによって進めます。
成 績 評 価 方 法	出席、議論への貢献度、個人発表、レポートなどをもとに評価します。
教 科 書	特になし(資料は授業内で指示・共有します。)
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	受講者は毎週指定された文献を読み、ディスカッションに参加することが求められます。また、個人発表の準備は基本的に授業時間外におこなう必要があります。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-212-15	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	中村 高康				
授 業 科 目	比較教育システム論特殊研究				
講 義 題 目	教育と選抜の諸問題 Issues in Education and Selection				

授 業 の 目 標・概 要	教育と選抜に関わる諸問題を理解するうえで重要な文献を読み進めていくなかで、現代における教育現象をいかに理解していくかを様々な視点から考察してゆく。特に今年度は、教育と地域に関する理論的・実証的研究に注目して、文献を読み進めてみたい。
授 業 計 画	第1回 イントロダクション第2回~第13回 教育と地域に関する理論的・実証的研究の文献の講読
授 業 の 方 法	毎回担当者を決めて報告してもらい、それをもとにディスカッションする演習方式。文献については初回授業時に示すが、進め方については、参加人数にもよるので初回に協議をして決定したい。
成 績 評 価 方 法	授業参加度＋最終レポートで評価する。
教 科 書	適宜授業内において指定する。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-212-16	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	額賀 美紗子				
授 業 科 目	比較教育学特殊研究				
講 義 題 目	質的方法論研究 Qualitative Research Methods				

授 業 の 目 標・概 要	この授業では、質的方法論の特長と多様なアプローチについて学び、質的方法を使って研究論文を執筆するための知識とスキル獲得をめざす。具体的には文献購読とデータを使った演習を組み合わせながら以下の 3 点を扱う。1) 質的方法論の基本的知識に関する文献購読 2) 質的方法論を使った文献の批判的考察 3) 学校参与観察の実践およびデータ分析授業では特にリフレキシビティ(再帰性)に自覚的である近年の質的研究法における展開に注目する。調査者と被調査者の関係性や、調査者の属性、立場や権力性がデータ収集や解釈に及ぼす影響について議論しながら、質的研究法がどのように理論生成へとつながり、人々の意味世界の理解に役立つかという点を考える。
授 業 計 画	第1週 1) 質的研究法とはなにか: 特長・リサーチデザイン・発展の経緯、主要系譜(エスノグラフィー、事例研究、ライフヒストリー、ライフストーリー、グラウンデッド・セオリー) 2) 質的研究を読む第2週 1) 参与観察のプロセス: データ収集からエスノグラフィー執筆まで 2) 現場で生起する問題: ポジショナリティ、リフレキシビティ、ラポール、倫理的問題第3週 1) エスノグラフィーの意義と有効性 2) フィールドワークの技法第4週 1) インタビューの手法: 半構造化インタビュー、ライフ・ストーリー、生活史研究 2) インタビューを使った研究デザイン第5週 1) 質的研究における理論とデータの関係 2) 質的研究の「質」と評価第6週 1) コーディングから仮説生成へ: インタビューデータの分析実践 2) 質的研究のプレゼンテーション第7週 グループプロジェクトの発表
授 業 の 方 法	演習形式
成 績 評 価 方 法	毎回の課題提出 40%、プロジェクト発表 20%、最終レポート 40%
教 科 書	フリック, U. 2011 『新版 質的研究入門—人間の科学のための方法論』春秋社. エマーソン, R. 1998. 『方法としてのフィールドノート—現地取材から物語作成まで』新曜社
履修上の注意・備考	積極的に議論に参加し、グループプロジェクトを実施することを求める。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-212-17	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	額賀 美紗子				
授 業 科 目	比較教育学特殊研究				
講 義 題 目	グローバル化と教育 Globalization and Education				

授 業 の 目 標・概 要	21 世紀は「移民の時代」といわれる。グローバル化の進展によって人・モノ・情報の国境を越えた移動が加速化し、一国内の多民族化・多文化化が進む中、これまでの国民国家を前提とした教育はさまざまな挑戦をつきつけられている。本講義では移民・マイノリティの生徒に対する教育理論について学び、増加する移民生徒に対する日本社会の教育的対応を批判的に検討する。日本の多文化化の状況とそれによって新たに生じている教育的課題を検討した後、アメリカ、スウェーデン、韓国における移民・難民生徒の増加とそれに応じた教育政策と実践の進展について理解を深める。国際比較の視点から学校教育を通じた移民生徒の包摂と排除のメカニズムを学び、マジョリティ中心の社会構造を批判的に捉え直すことで社会的に公正な教育の実現するための視座を獲得する。
授 業 計 画	第1回 イントロダクション:多民族化・多文化化する日本社会第2回 移民・マイノリティ生徒の学力不振と教育理論第3回 移民生徒をめぐる教育課題と施策・実践:①日本第4回 移民生徒をめぐる教育課題と施策・実践:②アメリカ第5回 移民生徒をめぐる教育課題と施策・実践:③スウェーデン第6回 移民生徒をめぐる教育課題と施策・実践:④韓国第7回 学校教育を通じた差別と偏見の再生産:どう乗り越えるか
授 業 の 方 法	演習形式各回の課題文献を読み、事前にコメントを作成して授業に参加すること。文献の内容にもとづくディスカッションを中心に授業を進める。
成 績 評 価 方 法	授業内課題 70%、最終レポート 30%
教 科 書	授業中に指定する
履修上の注意・備考	毎回の出席と積極的な議論への参加を求める
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	本田 由紀				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Social Systems				

授 業 の 目 標・概 要	博士論文の執筆に向けて、受講学生の進捗状況を年間6回程度発表し、参加者全体からの質疑に応答する形でさらなる進展や改善の方向性および具体策を検討する。
授 業 計 画	年間にわたり毎週1回ペースで開催し、コース内の全体指導会、研究科紀要提出期限、学術雑誌投稿期限などのタイミングと個々の学生の研究の進捗を照らし合わせながら、各学生に年6回程度の報告を求め、研究成果の達成に向けて教員および参加者の全員で議論を行う。
授 業 の 方 法	各学生は事前に報告レジュメを提出し、授業においては要点を 15 分程度で発表し、45 分程度をかけて参加者からの質疑を行う。必要な場合は事前に依頼したコメンテータからのコメントも行う。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特定の教科書は用いず、各学生の研究内容に即して適切な文献を指示する。
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	本田 由紀				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Social Systems				

授 業 の 目 標・概 要	博士論文の執筆に向けて、受講学生の進捗状況を年間6回程度発表し、参加者全体からの質疑に応答する形でさらなる進展や改善の方向性および具体策を検討する。
授 業 計 画	年間にわたり毎週1回ペースで開催し、コース内の全体指導会、研究科紀要提出期限、学術雑誌投稿期限などのタイミングと個々の学生の研究の進捗を照らし合わせながら、各学生に年6回程度の報告を求め、研究成果の達成に向けて教員および参加者の全員で議論を行う。
授 業 の 方 法	各学生は事前に報告レジュメを提出し、授業においては要点を 15 分程度で発表し、45 分程度をかけて参加者からの質疑を行う。必要な場合は事前に依頼したコメンテータからのコメントも行う。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特定の教科書は用いず、各学生の研究内容に即して適切な文献を指示する。
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	仁平 典宏				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	この授業では、修士論文、博士論文、投稿論文などに向けた研究計画や草稿を発表し、参加者の議論・検討を通して、論文の質を高めていくことを目的とする。
授 業 計 画	初回：イントロダクション各回：参加者の研究・構想発表と議論
授 業 の 方 法	受講生が研究計画や論文構想の発表を行い、参加者がそれぞれの専門性に基づいてコメントをし、議論を通してブラッシュアップを図る。
成 績 評 価 方 法	参加者の研究の進捗状況に基づいて評価を行う。
教 科 書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	特になし。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-212-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	仁平 典宏				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Sociology of Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	この授業では、修士論文、博士論文、投稿論文などに向けた研究計画や草稿を発表し、参加者の議論・検討を通して、論文の質を高めていくことを目的とする。
授 業 計 画	初回：イントロダクション各回：参加者の研究・構想発表と議論
授 業 の 方 法	受講生が研究計画や論文構想の発表を行い、参加者がそれぞれの専門性に基づいてコメントをし、議論を通してブラッシュアップを図る。
成 績 評 価 方 法	参加者の研究の進捗状況に基づいて評価を行う。
教 科 書	授業時に指示する。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	特になし。

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-212-22	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	星加 良司				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	受講者それぞれの学問的関心を拡張・深化させ、各自の論文の準備に向けて指導・支援することを目的とする。
授 業 計 画	初回に受講者の研究関心と研究計画を確認し、その後の指導計画を立てることとする。各回の授業は、受講者の研究発表と議論によって構成される。
授 業 の 方 法	受講者の研究関心や研究計画に沿って、教員及び受講者の専門性に基づいた議論により研究をブラッシュアップさせる。
成 績 評 価 方 法	受講者それぞれの研究の進捗を総合的に判断して評価する。
教 科 書	特に無し。
履 修 上 の 注 意・備 考	特に無し。
そ の 他	・初回ガイダンス:4/6(木) 17 時-18 時(赤門総合研究棟 326 号室)

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-23	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	星加 良司				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	教育社会学論文指導 Dissertation Research in Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	受講者それぞれの学問的関心を拡張・深化させ、各自の論文の準備に向けて指導・支援することを目的とする。
授 業 計 画	初回に受講者の研究関心と研究計画を確認し、その後の指導計画を立てることとする。各回の授業は、受講者の研究発表と議論によって構成される。
授 業 の 方 法	受講者の研究関心や研究計画に沿って、教員及び受講者の専門性に基づいた議論により研究をブラッシュアップさせる。
成 績 評 価 方 法	受講者それぞれの研究の進捗を総合的に判断して評価する。
教 科 書	特に無し。
履 修 上 の 注 意・備 考	特に無し。
そ の 他	・初回ガイダンス:4/6(木) 17 時-18 時(赤門総合研究棟 326 号室)

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-212-24	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	佐藤 香				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	計量教育社会学論文指導 Dissertation Research in Mathematical Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	計量的な社会調査データをもちいて学術論文を執筆しようとしており、投稿論文の執筆や学会発表などを予定するなど、強いインセンティブをもつ学生を対象とする。教育社会学の分野で研究が蓄積されてきたテーマであれば、テーマはとくに問わないが、使用しようとしているデータが特定されているほうが望ましい。統計手法の習熟度にかかわらず履修可能であるが、SPSS等の分析パッケージに容易にアクセスできる学習環境をもっていることを条件とする。
授 業 計 画	修士1年の場合は、まず卒業論文のリライトを通して論文の書き方について指導をおこない、修士論文の研究計画について検討する。修士2年の場合は、修士論文の指導をおこない、可能であれば学会誌への投稿をおこなう。博士課程の場合は、学会発表や投稿論文など、計画的に研究をおこない、博士論文の執筆を進めるよう指導する。いずれの場合でも、それぞれが年度当初に1年間の課題を設定した研究計画を報告し、その計画に沿って研究を進めていく。
授 業 の 方 法	指導のポイントは次の5点である。1)研究テーマと分析データの整合性、2)参照すべき先行研究と知見の整理、3)分析手法の理解、4)分析結果の読み取りかた、5)問題設定に即した結論の導出。本講義ではゼミ形式を中心とする。他の学生の研究テーマに対しても興味・関心をもち、さまざまな分析手法にふれながらディスカッションをおこなうことで、各学生の研究・論文の質を向上させていく。
成 績 評 価 方 法	出席については、60%以上の出席率が望ましい。年度当初に報告した計画に沿って研究を進め、課題が達成され、さらには、その課題の質が高い場合には、高く評価される。また、他の学生の課題についてのディスカッションにおける貢献度も加味して評価する。
教 科 書	とくに指定しない。テーマや必要な分析手法に合わせて指示する。
履修上の注意・備考	規則正しく出席して、分析作業や論文執筆のリズムを作っていくことに積極的に取り組むこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-212-25	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	佐藤 香				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	計量教育社会学論文指導 Dissertation Research in Mathematical Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	計量的な社会調査データをもちいて学術論文を執筆しようとしており、投稿論文の執筆や学会発表などを予定するなど、強いインセンティブをもつ学生を対象とする。教育社会学の分野で研究が蓄積されてきたテーマであれば、テーマはとくに問わないが、使用しようとしているデータが特定されているほうが望ましい。統計手法の習熟度にかかわらず履修可能であるが、SPSS等の分析パッケージに容易にアクセスできる学習環境をもっていることを条件とする。
授 業 計 画	修士1年の場合は、まず卒業論文のリライトを通して論文の書き方について指導をおこない、修士論文の研究計画について検討する。修士2年の場合は、修士論文の指導をおこない、可能であれば学会誌への投稿をおこなう。博士課程の場合は、学会発表や投稿論文など、計画的に研究をおこない、博士論文の執筆を進めるよう指導する。いずれの場合でも、それぞれが年度当初に1年間の課題を設定した研究計画を報告し、その計画に沿って研究を進めていく。
授 業 の 方 法	指導のポイントは次の5点である。1)研究テーマと分析データの整合性、2)参照すべき先行研究と知見の整理、3)分析手法の理解、4)分析結果の読み取りかた、5)問題設定に即した結論の導出。本講義ではゼミ形式を中心とする。他の学生の研究テーマに対しても興味・関心をもち、さまざまな分析手法にふれながらディスカッションをおこなうことで、各学生の研究・論文の質を向上させていく。
成 績 評 価 方 法	出席については、60%以上の出席率が望ましい。年度当初に報告した計画に沿って研究を進め、課題が達成され、さらには、その課題の質が高い場合には、高く評価される。また、他の学生の課題についてのディスカッションにおける貢献度も加味して評価する。
教 科 書	とくに指定しない。テーマや必要な分析手法に合わせて指示する。
履修上の注意・備考	規則正しく出席して、分析作業や論文執筆のリズムを作っていくことに積極的に取り組むこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-212-26	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	三輪 哲				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	計量教育社会学論文指導 Dissertation Research in Quantitative Sociology of Education				

授 業 の 目 標・概 要	この授業は、計量的なアプローチに基づく社会学研究をおこない、論文執筆をしようとしている者を指導・支援することを目的とする。受講者の関心・レベル・進度に応じ、必要な指導をおこなうことで、各々の論文執筆の技量向上と、研究成果の創出をめざす。
授 業 計 画	初回授業時に、受講者ごとに目標設定をし、それを達成するように計画を組むことになる。受講者の人数と関心、要望に応じ、柔軟に対応しつつ進行する。
授 業 の 方 法	受講者の発表と、討論・議論による。必要に応じ、ミニ講義をしたり、個別指導をおこなうこともある。
成 績 評 価 方 法	発表の質、議論への貢献、目標達成の度合いを総合的に評価する。
教 科 書	特に使用しない。
履修上の注意・備考	原則として、担当教員を指導教員とした大学院生を対象とする。それ以外で受講意向がある者は、事前に担当教員までメール(miwa@iss.u-tokyo.ac.jp)で連絡すること。
そ の 他	受講者は、他者の研究にも関心をもつこと。学年、テーマ、データ、使用統計ソフトウェアなどは、特に問わない。

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-27	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	三 輪 哲				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	計量教育社会学論文指導 Dissertation Research in Quantitative Sociology of Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	この授業は、計量的なアプローチに基づく社会学研究をおこない、論文執筆をしようとしている者を指導・支援することを目的とする。受講者の関心・レベル・進度に応じ、必要な指導をおこなうことで、各々の論文執筆の技量向上と、研究成果の創出をめざす。
授 業 計 画	初回授業時に、受講者ごとに目標設定をし、それを達成するように計画を組むことになる。受講者の人数と関心、要望に応じ、柔軟に対応しつつ進行する。
授 業 の 方 法	受講者の発表と、討論・議論による。必要に応じ、ミニ講義をしたり、個別指導をおこなうこともある。
成 績 評 価 方 法	発表の質、議論への貢献、目標達成の度合いを総合的に評価する。
教 科 書	特に使用しない。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	原則として、担当教員を指導教員とした大学院生を対象とする。それ以外で受講意向がある者は、事前に担当教員までメール(miwa@iss.u-tokyo.ac.jp)で連絡すること。
そ の 他	受講者は、他者の研究にも関心をもつこと。学年、テーマ、データ、使用統計ソフトウェアなどは、特に問わない。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-28	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	石田 賢示				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	計量教育社会学論文指導 Dissertation Research in Quantitative Sociology of Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育社会学あるいは関連する社会科学分野において、独自に計量分析に関する研究論文を執筆できるようになることが主たる目的である。1年間で、受講者各自が目標を定め、研究内容について参加者のあいだで議論する。目標として、学会報告、ディスカッションペーパー、学位論文のチャプター、投稿論文など幅広いアウトプットを許容する。成績評価は、ワークショップにおけるプレゼンテーションの内容、および他の参加者の報告に対するコメントなどによる貢献にもとづく。This class aims to help participants who major in the sociology of education or relevant fields in social sciences become able to write a quantitative research paper. For a year, each participant is supposed to present their research projects, and all participants discuss each presentation. We accept various outputs for each goal, such as conference presentations, discussion papers, chapters in a thesis, and refereed journal articles. The class evaluation is based on the quality of the presentation in our workshop and one's contribution, such as comments on other participants' presentations.社会科学の問題関心は多様化している。近年は複数のタイプの方法論を組み合わせて問題にアプローチする混合研究法への関心も高まっている。本授業では、計量分析を中心とする者だけでなく、自身の研究に何らかの形で計量分析を活用しようと試みる者も歓迎する。There have been various issues in social sciences. Recently, many scholars have been interested in the mixed-mode research method, which approaches their research questions by combining several types of methodologies. In this class, anyone who tries quantitative analyses in some way for one's research project is welcomed, as well as those who specialise in quantitative methods.
授 業 計 画	初回授業時に受講者の目標、意向を確認し、その内容に沿ってスケジュールを立てる。The schedule of this workshop will be based on the goals and intentions of the participants at the first session.
授 業 の 方 法	受講者の発表と、その内容に対する議論を基本とする。Presentations by the participants and discussion on the contents.
成 績 評 価 方 法	発表内容、議論への貢献をもとに評価する。Class evaluation is based on the quality of the presentation and contribution to the discussion.
教 科 書	特に使用しない。none
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	一般的な計量分析手法やその考え方、ソフトウェアの使用法に関する授業ではない。必要な者は適宜対応する授業科目を履修、または自学自習すること。This class is not assumed to be one for helping students learn general quantitative methods and theories and usage of statistical software. If necessary, please take other relevant cour
そ の 他	日本語と英語の両方での発表を受け付ける。報告は英語、議論は日本語、など言語の組み合わせも可能とする。Presentations are accepted in both Japanese and English. Also, combining languages is available, such as a case of presentation in English and discussion in Japanese.多様な研究関心を歓迎するが、特に研究トピックの具体的・実質的内容についての詳細

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-212-29	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	石田 賢示				
授 業 科 目	教育社会学論文指導				
講 義 題 目	計量教育社会学論文指導 Dissertation Research in Quantitative Sociology of Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育社会学あるいは関連する社会科学分野において、独自に計量分析に関する研究論文を執筆できるようになることが主たる目的である。1年間で、受講者各自が目標を定め、研究内容について参加者のあいだで議論する。目標として、学会報告、ディスカッションペーパー、学位論文のチャプター、投稿論文など幅広いアウトプットを許容する。成績評価は、ワークショップにおけるプレゼンテーションの内容、および他の参加者の報告に対するコメントなどによる貢献にもとづく。This class aims to help participants who major in the sociology of education or relevant fields in social sciences become able to write a quantitative research paper. For a year, each participant is supposed to present their research projects, and all participants discuss each presentation. We accept various outputs for each goal, such as conference presentations, discussion papers, chapters in a thesis, and refereed journal articles. The class evaluation is based on the quality of the presentation in our workshop and one's contribution, such as comments on other participants' presentations.社会科学の問題関心は多様化している。近年は複数のタイプの方法論を組み合わせて問題にアプローチする混合研究法への関心も高まっている。本授業では、計量分析を中心とする者だけでなく、自身の研究に何らかの形で計量分析を活用しようと試みる者も歓迎する。There have been various issues in social sciences. Recently, many scholars have been interested in the mixed-mode research method, which approaches their research questions by combining several types of methodologies. In this class, anyone who tries quantitative analyses in some way for one's research project is welcomed, as well as those who specialise in quantitative methods.
授 業 計 画	初回授業時に受講者の目標、意向を確認し、その内容に沿ってスケジュールを立てる。The schedule of this workshop will be based on the goals and intentions of the participants at the first session.
授 業 の 方 法	受講者の発表と、その内容に対する議論を基本とする。Presentations by the participants and discussion on the contents.
成 績 評 価 方 法	発表内容、議論への貢献をもとに評価する。Class evaluation is based on the quality of the presentation and contribution to the discussion.
教 科 書	授業中に適宜紹介する。Relevant literature may be introduced during the workshop if necessary.
履修上の注意・備考	一般的な計量分析手法やその考え方、ソフトウェアの使用法に関する授業ではない。必要な者は適宜対応する授業科目を履修、または自学自習すること。This class is not assumed to be one for helping students learn general quantitative methods and theories and usage of statistical software. If necessary, please take other relevant cour
そ の 他	日本語と英語の両方での発表を受け付ける。報告は英語、議論は日本語、など言語の組み合わせも可能とする。Presentations are accepted in both Japanese and English. Also, combining languages is available, such as a case of presentation in English and discussion in Japanese.多様な研究関心を歓迎するが、特に研究トピックの具体的・実質的内容についての詳細

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-30	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	多喜 弘文				
授 業 科 目	高等教育論論文指導				
講 義 題 目	高等教育論論文指導 Dissertation Research in Higher Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育社会学・機会の不平等・高等教育に関わる様々なテーマにおいて、学位論文や研究論文の執筆を予定している大学院生を対象に論文指導を行う。
授 業 計 画	初回授業時に、受講者の研究テーマや問題関心を確認し、受講人数なども考慮に入れて授業計画を組む。研究発表とそれについての教員および受講者全員による議論を通じ、受講者がそれぞれの目標に向けて研究の質を高めていくことを目指す。
授 業 の 方 法	受講者による発表とそれについての議論を主体とする。必要に応じて実習形式のデータ分析や個別指導を行う。
成 績 評 価 方 法	発表の質、討論への積極的な参加・貢献を総合的に評価する。
教 科 書	指定しない。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-212-31	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	多喜 弘文				
授 業 科 目	高等教育論論文指導				
講 義 題 目	高等教育論論文指導 Dissertation Research in Higher Education				

授 業 の 目 標・概 要	教育社会学・機会の不平等・高等教育に関わる様々なテーマにおいて、学位論文や研究論文の執筆を予定している大学院生を対象に論文指導を行う。
授 業 計 画	初回授業時に、受講者の研究テーマや問題関心を確認し、受講人数なども考慮に入れて授業計画を組む。研究発表とそれについての教員および受講者全員による議論を通じ、受講者がそれぞれの目標に向けて研究の質を高めていくことを目指す。
授 業 の 方 法	受講者による発表とそれについての議論を主体とする。必要に応じて実習形式のデータ分析や個別指導を行う。
成 績 評 価 方 法	発表の質、討論への積極的な参加・貢献を総合的に評価する。
教 科 書	指定しない。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-212-32	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	橋本 鉦市				
授 業 科 目	高等教育論論文指導				
講 義 題 目	高等教育論論文指導 Dissertation Research in Higher Education				

授 業 の 目 標・概 要	(歴史)社会学的なアプローチに関する高等教育(政策)研究について、受講生各自の研究テーマにそって、史資料や各種データの収集・分析、実証的な学術論文の計画・執筆・評価ができるように指導を行う。
授 業 計 画	大学を中心とする高等教育制度の下で、その制度、組織、政策、法制、学問、文化、思想、構成員(学生・教員など)に関して、歴史社会学的なアプローチを中心とした方法論を学修しつつ、各種学術誌への投稿論文、修士論文等について、受講生の問題関心と選好するアプローチに即して、論文の準備・計画・執筆ができるように指導を行なう。
授 業 の 方 法	受講生個人の進捗状況に合わせた個人指導と、受講生全員が参加する橋本研究室全体での集団指導を平行して行う。
成 績 評 価 方 法	受講者各自の論文投稿のスケジュール、締め切りなどを考慮しつつ、それぞれの論文執筆の達成度合いに応じて、研究状況と研究成果によって評価を行う。
教 科 書	指定なし
履 修 上 の 注 意・備 考	本演習は、基本的に橋本を指導教員とする受講生に対して開講するものである。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-212-33	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	橋本 鉦市				
授 業 科 目	高等教育論論文指導				
講 義 題 目	高等教育論論文指導 Dissertation Research in Higher Education				

授 業 の 目 標・概 要	(歴史)社会学的なアプローチに関する高等教育(政策)研究について、受講生各自の研究テーマにそって、史資料や各種データの収集・分析、実証的な学術論文の計画・執筆・評価ができるように指導を行う。
授 業 計 画	大学を中心とする高等教育制度の下で、その制度、組織、政策、法制、学問、文化、思想、構成員(学生・教員など)に関して、歴史社会学的なアプローチを中心とした方法論を学修しつつ、各種学術誌への投稿論文、博士論文等について、受講生の問題関心と選好するアプローチに即して、論文の準備・計画・執筆ができるように指導を行なう。
授 業 の 方 法	受講生個人の進捗状況に合わせた個人指導と、受講生全員が参加する橋本研究室全体での集団指導を平行して行う。
成 績 評 価 方 法	受講者各自の論文投稿のスケジュール、締め切りなどを考慮しつつ、それぞれの論文執筆の達成度合いに応じて、研究状況と研究成果によって評価を行う。
教 科 書	指定なし
履 修 上 の 注 意・備 考	本演習は、基本的に橋本を指導教員とする受講生に対して開講するものである。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-212-34	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	中村 高康				
授 業 科 目	比較教育システム論論文指導				
講 義 題 目	比較教育システム論論文指導 Dissertation Research in Educational Systems				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育社会学・比較教育システム論に関わる様々なテーマにおいて研究論文の執筆を予定している大学院生を対象として論文指導を行う。
授 業 計 画	参加者の人数および問題関心に応じて、臨機応変に受講者と相談しながら進める。
授 業 の 方 法	発表・討論形式を主体とする。時に応じて個別指導を行う。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-212-35	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	中村 高康				
授 業 科 目	比較教育システム論論文指導				
講 義 題 目	比較教育システム論論文指導 Dissertation Research in Educational Systems				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育社会学・比較教育システム論に関わる様々なテーマにおいて研究論文の執筆を予定している大学院生を対象として論文指導を行う。
授 業 計 画	参加者の人数および問題関心に応じて、臨機応変に受講者と相談しながら進める。
授 業 の 方 法	発表・討論形式を主体とする。時に応じて個別指導を行う。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特に指定しない。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-212-36	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	額賀 美紗子				
授 業 科 目	比較教育学論文指導				
講 義 題 目	比較教育学論文指導 Dissertation Research in Comparative Education				

授 業 の 目 標・概 要	比較教育学、異文化間教育学、国際社会学の領域で研究を行うことを検討している修士課程の学生に対して指導を行う。上記研究領域の主テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチデザインの設計、先行研究レビュー、フィールドワークとインタビューを中心とする質的方法論、データ分析、論文の執筆など研究に必要な基本的スキルを履修者が獲得することを目標とする。
授 業 計 画	スケジュールは履修者の学年や人数によって調整するため、第一回目のオリエンテーションで指示する。
授 業 の 方 法	毎週開催のゼミでの個人発表と議論に加えて、適宜個別指導を組み合わせる。
成 績 評 価 方 法	各自の研究の進捗状況に応じてゼミ出席、個人発表、論文執筆などから総合的に評価する。
教 科 書	特に指定しない
履修上の注意・備考	毎回のゼミ出席と数回の研究報告を求める
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-37	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	額賀 美紗子				
授 業 科 目	比較教育学論文指導				
講 義 題 目	比較教育学論文指導 Dissertation Research in Comparative Education				

授 業 の 目 標・概 要	比較教育学、異文化間教育学、国際社会学の領域で研究を行うことを検討している博士課程の学生に対して指導を行う。上記研究領域の主テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチデザインの設計、先行研究レビュー、フィールドワークとインタビューを中心とする質的方法論、データ分析、論文の執筆など研究に必要な基本的スキルを履修者が獲得することを目標とする。
授 業 計 画	スケジュールは履修者の学年や人数によって調整するため、第一回目のオリエンテーションで指示する。
授 業 の 方 法	毎週開催のゼミでの個人発表と議論に加えて、適宜個別指導を組み合わせる。
成 績 評 価 方 法	各自の研究の進捗状況に応じてゼミ出席、個人発表、論文執筆などから総合的に評価する。
教 科 書	特に指定しない
履修上の注意・備考	毎回のゼミ出席と数回の研究報告を求める
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-38	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	荻 巢 崇 世				
授 業 科 目	比較教育学論文指導				
講 義 題 目	比較教育学論文指導 Dissertation Research in Comparative Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	比較教育学、国際教育開発論の領域で研究を行うことを検討している修士課程の学生に対して指導を行う。上記研究領域の主テーマに関する知識を深めるとともに、リサーチデザインの設計、先行研究レビュー、フィールドワークとインタビューを中心とする質的方法論、データ分析、論文の執筆など研究に必要な基本的スキルを履修者が獲得することを目標とする。
授 業 計 画	スケジュールは履修者の学年や人数によって調整するため、第一回目のオリエンテーションで指示する。
授 業 の 方 法	毎週開催のゼミでの個人発表と議論に加えて、適宜個別指導を組み合わせる。
成 績 評 価 方 法	各自の研究の進捗状況に応じてゼミ出席、個人発表、論文執筆などから総合的に評価する。
教 科 書	特に指定しない
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	毎回のゼミ出席と数回の研究報告を求める
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-39	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	荻 巢 崇 世				
授 業 科 目	比 較 教 育 学 論 文 指 導				
講 義 題 目	比 較 教 育 学 論 文 指 導 Dissertation Research in Comparative Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	比 較 教 育 学、国 際 教 育 開 発 論 の 領 域 で 研 究 を 行 う こ と を 検 討 し て い る 修 士 課 程 の 学 生 に 対 し て 指 導 を 行 う。上 記 研 究 領 域 の 主 テー マ に 関 す る 知 識 を 深 め る と と も に、リ サ ー チ デ ザ イ ン の 設 計、先 行 研 究 レ ビ ュ ー、フ ィ ー ル ド ワ ー ク と イ ン タ ビ ュ ー を 中 心 と す る 質 的 方 法 論、デ ー タ 分 析、論 文 の 執 筆 な ど 研 究 に 必 要 な 基 本 的 ス キ ル を 履 修 者 が 獲 得 す る こ と を 目 標 と す る。
授 業 計 画	ス ケ ジ ュ ー ル は 履 修 者 の 学 年 や 人 数 に よ っ て 調 整 す る た め、第 一 回 目 の オ リ エ ン テー シ ョ ン で 指 示 す る。
授 業 の 方 法	毎 週 開 催 の ゼ ミ で の 個 人 発 表 と 議 論 に 加 え て、適 宜 個 別 指 導 を 組 み 合 わ せ る。
成 績 評 価 方 法	各 自 の 研 究 の 進 捗 状 況 に 応 じ て ゼ ミ 出 席、個 人 発 表、論 文 執 筆 な ど か ら 総 合 的 に 評 価 す る。
教 科 書	特 に 指 定 し な い
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	毎 回 の ゼ ミ 出 席 と 数 回 の 研 究 報 告 を 求 め る
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-212-40	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	BRINTON MARYC.				
授 業 科 目	比較教育システム論特殊研究				
講 義 題 目	Gender inequality, labor markets and employment in contemporary Japan Gender inequality, labor markets and employment in contemporary Japan				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	The purposes of this course are: 1) to analyze gender inequality in the Japanese labor market and Japanese society more generally, and 2) to compare Japan's labor market institutions and gender-role norms with other postindustrial countries.
授 業 計 画	Day 1: Women's Economic Participation in the 20th Century: Japan in Broad Historical Perspective Claudia Goldin. "The U-Shaped Female Labor Force Participation Function in Economic Development and Economic History." Read pp. 61-68, 85-88. Day 2: How Women Entered the White-Collar Sector Mary C. Brinton. 2007. "Gendered Offices: A Comparative-Historical Examination of Clerical Work in Japan and the U.S." In The Political Economy of Low Fertility: Japan in Comparative Perspective, edited by Frances McCall Rosenbluth. Stanford: Stanford University Press. Day 3: Japan's "Dual Labor Market": How Do Women Fit In? Yashiro Naohiro. 2011. "Myths about Japanese Employment Practices: An Increasing Insider-Outsider Conflict of Interests." Contemporary Japan 23: 133-155. Day 4: The Effect of Dual Labor Markets on Gender and Family Mary C. Brinton and Dong-Ju Lee. 2016. "Gender-Role Ideology, Labor Market Institutions, and Post-industrial Fertility." Population and Development Review 42, 3: 405-433. Day 5: Types of Discrimination Cass Sunstein. 1991. "Why Markets Don't Stop Discrimination." Social Philosophy and Policy 8, 2: 22-37. Day 6: The Effect of Overwork on Gender and Family Youngjoo Cha. 2010. "Reinforcing Separate Spheres: The Effect of Spousal Overwork on Men's and Women's Employment in Dual-Earner Households." American Sociological Review 75, 2: 303-329. Day 7: Parental Leave and Other Work-Family Policies Mary C. Brinton and Eunmi Mun. 2016. "Between State and Family: Managers' Implementation and Evaluation of Parental Leave Policies in Japan." Socio-Economic Review 14, 2: 257-281. Day 8: Women in Management Positions Makiko Fuwa. 2021. "Women Managers' Impact on Use of Family-Friendly Measures among Their Subordinates in Japanese Firms." Work, Employment, and Society 35, 4: 716-734.
授 業 の 方 法	The class will be taught in English, and I will use powerpoint slides to show the main points as I lecture. The slides will be made available to students after each class. Questions during class and group discussions may be held in either English or Japanese
成 績 評 価 方 法	Attendance (50 points), short assignments (discussion questions submitted to the instructor) (50 points)
教 科 書	『縛られる日本人: 人口減少をもたらす「規範」を打ち破れるか』(Chūō Kōron Shinsha, 2022).
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	Students should purchase the textbook and skim it (become familiar with it) before the course starts. As we go through the course, I will designate particular chapters that are relevant to each class session. All of the course readings except the textbook
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-213-01	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	牧野 篤				
授 業 科 目	生涯学習論基本研究				
講 義 題 目	生涯学習論基本研究Ⅱ Theory of Lifelong LearningⅡ				

授 業 の 目 標・概 要	社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための、院生各自の基本的な視点・研究の枠組み・方法論を形成するための基礎的な訓練とその発展を、文献の講読と検討およびフィールド調査によって、集団的に進める。ただし、コロナ禍の影響もあり、フィールド調査ができない可能性も高いため、基本的には文献講読とする。今年度は昨年度に引き続き「社会基盤としての社会教育再考」を大きなテーマにとりあげる。文献研究の中心的なテーマは「社会教育のとらえ返し」とし、戦後に構想され、急速に社会に普及した社会教育・生涯学習の理念や機能に対して、どのような議論がなされ、それがどのような社会的な要請を背景にしていたのか、その結果、社会教育や生涯学習の概念はどのように変容したのか、そしてそれはどう実践されてきていて、それを今度どう実践していくべきなのかをとらえ、社会教育・生涯学習の実践のあり方への理解を通して、教育・学習という営みと社会とのかかわりを理解する。臨時教育審議会の資料なども活用する。
授 業 計 画	社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための基本的な「構え」の形成とその展開を促すために、社会教育学・生涯学習論とくに公民館に関する古典的な文献とともに、最新の研究成果をレビューする。さらに、フィールド調査を重ねることで、その応用を学ぶとともに、院生各自の基本的な研究の視点と枠組みを発展させることを支援する。調査報告書を作成することで、研究論文の書き方などを習得する。フィールド調査などを行いたい、コロナ禍の状況下でもあるので、基本的に文献講読を中心に進める。基本的に対面開講とするが、コロナ禍の状況によっては対面・オンラインの併用、またはオンライン開講へと切り換える。リンクは、UTAS および ITC-LMS 上に記載する。また、対面参加に不安を感じる受講者には、オンラインでの参加を認めるので、事前に連絡すること。
授 業 の 方 法	基本的に演習形式をとり、グループ討議を通して、各自の研究の視点と枠組みを発展させる。また、研究論文の書き方などを習得するとともに、研究成果の地域社会への還元のあるあり方を体得する。対面での開講が困難だと判断した場合は、基本的にオンライン開講とする。リンクは、後ほど、UTAS および ITC-LMS 上で連絡する。
成 績 評 価 方 法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教 科 書	牧野篤『発達する自己の虚構—教育を可能とする概念をとらえ返し』(東京大学出版会、2021 年)を基本的テキストとして使用する。各自準備しておくこと。
履 修 上 の 注 意・備 考	社会教育学・生涯学習論の研究と地域社会への調査に対する強い関心、とくに人と触れ合うことで学ぶ自分をとらえようとする「構え」をもって、授業に臨んで欲しい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-213-02	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	影浦 峯				
授 業 科 目	図書館情報学基本研究				
講 義 題 目	図書館情報学研究方法論 Research Methods of Library and Information Science				

授 業 の 目 標・概 要	図書館情報学研究に関連する具体的な方法論を身につける。対人調査方法論、文献研究方法論、計量研究方法論等、方法論の観点から、および、翻訳研究、図書館研究、知識基盤研究といったテーマの観点から、学生の関心を考慮し、参加者の状況に応じて重点的な学習対象を決める。
授 業 計 画	第1回：概要紹介と参加者のグループ化第2回：研究テーマ提案・議論・研究テーマのとりまとめと分担者配分第3回～第12回：課題に対応した方法論の検討と議論第13回：課題の取りまとめと研究方法論の総合的なまとめ
授 業 の 方 法	授業初回に参加者を3つのグループにわけ、研究テーマを提出する。それぞれに対して、重要性、実現可能性、アプローチ、スケジュールなどを議論しながら、取り上げるテーマを確定し、そのテーマにそって毎週持ち帰りの課題を実行し、実行した課題に基づいて理論的枠組み、方法論、解釈、論文執筆法の各層にわたる議論を行なう。
成 績 評 価 方 法	授業への参加度と貢献度に基づき評価する。
教 科 書	特に指定しない。
履 修 上 の 注 意・備 考	特になし。
そ の 他	対面・オンラインは感染状況を踏まえ、通勤通学、検査体制といった社会的対応の状況を考慮した安全性評価に基づき授業開始までに判断する。安全性評価は定期的に行い、途中での切り替えも考える。ただし、いずれの場合でも個別事情に応じた学生のオンライン参加を許容する。グループ単位で持ち帰り課題を課すので、個人的な準備だけでなく、グループでのディスカッション力も重要となる。また、データ処理や統計の基礎を知らない学生は、学部の授業夏学期の情報・資料分析論演習を履修しておくことが望ましい。ただし、履修学生の関心等に応じて、内

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-213-03	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	影 浦 峯				
授 業 科 目	図 書 館 情 報 学 基 本 研 究				
講 義 題 目	図 書 館 情 報 学 総 合 研 究 Topics in Library and Information Science				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	大学院生の修士論文・博士論文のテーマを中心に、図書館情報学の重要課題について、全員で議論し、研究方法や内容について相互理解を深める。
授 業 計 画	第 1 回 全体の調整とスケジュールリング第 2 回 研究計画・テーマ発表(2名)第3回 研究計画・テーマ発表(2名)第 4 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 5 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 6 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 7 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 8 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 9 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 10 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 11 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 12 回 修士論文検討会第 13 回 研究計画・テーマ発表(2名)第 14 回 研究計画・テーマ発表(2名)
授 業 の 方 法	参加者の発表と討論を中心とする。
成 績 評 価 方 法	平常点。
教 科 書	使わない。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	図書館情報学研究室の大学院生は全員必修とする。
そ の 他	対面・オンラインは感染状況を踏まえ、通勤通学、検査体制といった社会的対応の状況を考慮した安全性評価に基づき授業開始までに判断する。安全性評価は定期的に行い、途中での切り替えも考える。ただし、いずれの場合でも個別事情に応じた学生のオンライン参加を許容する。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-213-04	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	李 正 連				
授 業 科 目	生涯学習論特殊研究				
講 義 題 目	生涯学習論特殊研究Ⅱ Seminar in Lifelong Learning Ⅱ				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための、院生各自の基本的な視点・研究の枠組み・方法論を形成するための基礎的な訓練とその発展を、文献の講読と検討およびフィールド調査によって、集団的に進める。
授 業 計 画	社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための基本的な「構え」の形成とその展開を促すために、社会教育学・生涯学習論に関する古典的な文献とともに、最新の研究成果をレビューする。
授 業 の 方 法	基本的に演習形式をとる。各自の研究の視点と枠組みを、集団的な討議と検討を通して、発展させる。
成 績 評 価 方 法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教 科 書	各テーマに応じて指定する。
履修上の注意・備考	社会教育学・生涯学習論の研究と地域社会への調査に対する強い関心、とくに人と触れ合うことで学ぶ自分をとらえようとする「構え」をもって、授業に臨んで欲しい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-213-05	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	堀田 聡子				
授 業 科 目	社会教育学特殊研究				
講 義 題 目	コンパッションに支えられたコミュニティ -概念と実践 Compassionate Communities: concept and practice				

授 業 の 目 標・概 要	人口減少・多死の時期を迎え、血縁・地縁・社縁といった従来の支え合いの機能が弱まるなか、世代や分野を超えたつながり、支え・支えられる関係の循環、人と資源の循環により一人ひとりの暮らしと地域をともに創っていく社会の在り方が模索されている。こうしたなか、生老病死をめぐる苦難や苦悩に突き動かされた具体的なアクションに結実する人間的な応答としての「コンパッション」に支えられたコミュニティ／コンパッション都市が広がりをを見せている。その理論と国内外の実践を学び、とくに先進地の一つとされるインド・ケララ州のコミュニティを基盤とする緩和ケアモデルに焦点をあて、私たち一人ひとりのなかにあるコンパッション、そして住民のコンパッションに満ちたコミュニティの諸相を紐解く。
授 業 計 画	今なぜコンパッション都市／コミュニティかコンパッション都市／コミュニティとはなにかコンパッション都市の実装国内外の事例からインド・ケララモデルに学ぶ行動戦略
授 業 の 方 法	講義、グループワーク
成 績 評 価 方 法	平常点及びレポートによる評価(予定)
教 科 書	https://www.instituteofpalliativemedicine.org/downloads/Palliative%20Care%20Workbook%20for%20Carers.pdf
履 修 上 の 注 意・備 考	原則として対面、状況によりオンライン
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-213-06	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	安田 節之				
授 業 科 目	社会教育学特殊研究				
講 義 題 目	プログラム評価論 Theory and Methods of Evaluating Programs				

授 業 の 目 標・概 要	教育機関や企業組織そして地域コミュニティには、対人援助・人材育成・組織開発・地域活性化などを目的とした多種多様な実践活動が存在する。これらの実践・介入活動に対して説明責任や科学的根拠(エビデンス)が求められる時代となっている。本授業では、様々な実践・介入活動をプログラムとして客観的に捉え、その結果や効果を評価し、活動の質向上につなげるための方法論を学ぶ。プログラムの価値は、経済的指標などで捉えることが困難な個人や集団に対する教育的・心理的効果として現れることが多いため、社会調査・実験心理学・心理測定といった方法論との親和性が高い。この授業では、プログラムを客観化・可視化する手順をまず習得したうえで、具体例を通してプログラムを実証的に評価するための方法を学ぶ。
授 業 計 画	1. イントロダクション2. プログラム評価の目的と評価者・ステークホルダー3. プログラムニーズの種類とアセスメントの方法4. ゴールの明確化5. インパクト理論6. ロジックモデル7. 個人・グループ発表8. 評価可能性アセスメントと評価クエスチョン9. アウトカム評価の概要と評価指標の作成10. 実験・準実験デザインによるアウトカム評価11. プログラムの導入(インプリメンテーション)評価とプロセス評価12. 評価アプローチ①(社会科学・理論主導、他)13. 評価アプローチ②(実用重視・エンパワメント、他)14. 評価報告書・技術報告書(テクニカルレポート)の内容と作成方法 15. 総 括
授 業 の 方 法	講義、ディスカッション、演習(個人・グループワーク)を中心に行う。
成 績 評 価 方 法	評価計画書(グループまたは個人)40%、グループワーク課題30%、授業参加状況(発言・発表)30%
教 科 書	安田節之『プログラム評価:対人・コミュニティ援助の質を高めるために(ワードマップ)』新曜社, 2011 年
履 修 上 の 注 意・備 考	■テキスト『プログラム評価:対人・コミュニティ援助の質を高めるために(ワードマップ)』(安田, 2011)2011 年, 新曜社)は事前の一読しておいてください。授業時に本の内容を踏まえたディスカッションを行います。■すでに携わっている実践・介入活動やプログラムがあることが望ましいです。■授業は夏季休業中の集中講義期間に実施します。※新型コロナウィルスの状況に応じて授業方法(オンライン/対面)の調整をします。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-213-07	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	宮田 玲				
授 業 科 目	図書館情報学特殊研究				
講 義 題 目	情報媒体構造論 Study of the Structure of Information Media				

授 業 の 目 標・概 要	知識媒体の構造について、言語表現から図書の構成までのいずれかのレベルに着目し、知識の展開・記録・伝達・流通を可能にしてきた基盤をめぐる問いの領域を理解するとともに、それに対する研究の広がり理解する。今年度は特に、辞書や事典といった参考図書における知識のパッケージングのテクノロジーを中心に扱う予定である。
授 業 計 画	初回に全体の領域を概説する。第 2 回以降は、実際の辞書や(専門)事典の形式的・内容的構造の具体的な分析を通じて、分野の知識がいかなる形で編成されているのか、そのためにどのような技術が使われているのかを理解する。また、自ら辞書ないし事典の項目を執筆する作業を通じて、素材の収集、取捨選択、文書の構成の各プロセスを操作可能な知識として学ぶ。対象とする題材や分野は、受講生と相談しながら決める。
授 業 の 方 法	講義 1 割、発表 4 割、ディスカッション 5 割で行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加度、作業の達成度を考慮した総合評価。
教 科 書	教科書及び参照資料は授業時に紹介する。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-213-08	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	河村 俊太郎				
授 業 科 目	図書館情報学特殊研究				
講 義 題 目	図書館情報学理論研究 Theory of Library and Information Studies				

授 業 の 目 標・概 要	図書館、図書館情報学に関わる英語または日本語の文献を輪読する。輪読を通じて、文献の読み方、そして基本的な概念や歴史などについても学んで行く。
授 業 計 画	1 オリエンテーション2-12 テキストの輪読13 まとめ
授 業 の 方 法	テキストの訳読担当者を毎回事前に指定し、輪読を行う。担当者が担当部分を発表した後、参加者による討議や講評を行う。
成 績 評 価 方 法	発表内容及び授業への参加の度合いによって評価する。
教 科 書	デービス・ベアード『物のかたちをした知識 -実験機器の哲学-』（青土社、2005）[Davis Baird "Thing Knowledge -A Philosophy of Scientific Instruments-" (University of California Press, 2004)], Geoffrey C. Bowker, Susan Leigh Star "Sorting Things Out -Classification and its Consequence-" (MIT Press, 1999) や図書館情報学関連分野の博士論文を元に書籍化した図書などの中から受講者と購読するものを選択する。
履 修 上 の 注 意・備 考	準備学習として、これまでの自分の文献読解の方法について、意識的に見直してみる。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-213-09	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	池内 有為				
授 業 科 目	図書館情報学特殊研究				
講 義 題 目	学術コミュニケーション論 Scholarly Communication				

授 業 の 目 標・概 要	研究のプロセス、すなわち研究計画の立案から実施、成果発表、そして評価、保存に至るまでの活動は、情報通信技術や人工知能の発達に伴い大きく変化している。講義では、学術コミュニケーションに関するトピックを解説した上で、さまざまな論点について受講生による議論やプレゼンテーションを行う。本講義は、受講生がアカデミアの一員として、より良い学術コミュニケーションや科学研究のあり方について考えを深めることを目的とする。また、適切かつ効率的な研究活動を行うために、国内外の学術情報政策や、学協会、大学図書館、学術出版者（非商業出版社を含む）、研究助成機関といったステークホルダーの動向を理解することを目指す。
授 業 計 画	01. ガイダンス：学術コミュニケーションの動向とステークホルダー 02. 学術雑誌と査読制度 03. 研究評価 04. インパクトファクター 05. オルトメトリクス 06. 研究不正 07. 出版物のオープンアクセス 08. 研究データの管理と共有 09. 市民科学 10. 学術情報のプラットフォーム 11. 学術情報流通とメタデータ 12. 学術情報流通と著作権 13. 総括：オープンサイエンスの展望
授 業 の 方 法	各テーマについて、講義と演習（議論やプレゼンテーション）を行う。
成 績 評 価 方 法	演習と課題によって評価する。
教 科 書	なし。
履修上の注意・備考	講義で指示する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-213-10	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	朱 心 茹				
授 業 科 目	図 書 館 情 報 学 特 殊 研 究				
講 義 題 目	情報可視化の理論と実践 Information Visualization: Theory and Practice				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	情報可視化をテーマとして、記号操作の技術を身につける。情報可視化に関しては、問いの設定、データの取得と整理、探索的可視化、説明的可視化といった一連のプロセスを独立して実行し、データと視覚記号を適切に結びつけることでデータを説明・解釈しやすい形に変換できるようになることを目指す。記号操作の道具としては主に Python と JavaScript を用いるが、特定の道具に依存しない技術の習得を目指す。Focusing on information visualization, this course aims to equip students with the skill of symbol manipulation. It intends to teach the ability to independently execute a series of processes related to information visualization, including question formulation, data acquisition and organization, exploratory visualization, and explanatory visualization. The goal is to enable students to transform data into a form that is easier to describe and interpret by appropriately linking data with visual symbols. While Python and JavaScript will primarily be used as tools for symbol manipulation, the course aims to teach techniques that do not depend on specific tools.
授 業 計 画	第 1 回 講義の説明、環境構築 第 2-3 回 データ可視化のプロセス 第 4-5 回 視覚記号と視覚変数 第 6-7 回 量的データの可視化 第 8-9 回 質的データの可視化 第 10-11 回 テキストデータの可視化 第 12 回 情報可視化作品の制作と質疑応答 第 13 回 発表とディスカッション
授 業 の 方 法	講義 4 割、演習 4 割、ディスカッション 2 割で行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加度、作業の達成度とレポートを考慮した総合評価。
教 科 書	教科書及び参照資料は授業時に紹介する。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	初回授業は原則対面で行うが、その後は状況に応じて対面・オンラインを判断する。いずれの場合でも個別事情に応じた学生のオンライン参加を認める。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-213-11	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	牧野 篤				
授 業 科 目	生涯学習論論文指導				
講 義 題 目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	博士論文・修士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、個人指導・ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授 業 計 画	院生諸君の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と集団的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持しつつ、質の高い論文とはどういうものであるのかというイメージを作り上げる支援を行う。とくに社会教育学・生涯学習論は、研究対象が広く、特定の研究方法に依拠して研究を進めることができないため、研究の課題意識や対象によって研究方法をつくり、また組み換える必要がある。特に近年、研究の設計において、起点となるべき「なぜ」が問われず、「何を」から着手する傾向が強くなっているが、研究を深めるためにも「なぜ」という問いを設定することの重要性を認識して欲しい。院生それぞれの研究に即して、検討を進める。
授 業 の 方 法	個別指導と集団での議論・討論を組み合わせ、必要に応じて学外の専門家を招いてのトークセッションなどを行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教 科 書	必要に応じて適宜紹介する。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	博士院生として、自らの研究課題を大事にしながら、自分の研究の方向性をつくるよう、努力して欲しい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-213-12	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	牧野 篤				
授 業 科 目	生涯学習論論文指導				
講 義 題 目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	博士論文・修士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、個人指導・ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授 業 計 画	院生諸君の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と集団的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持しつつ、質の高い論文とはどういうものであるのかというイメージを作り上げる支援を行う。とくに社会教育学・生涯学習論は、研究対象が広く、特定の研究方法に依拠して研究を進めることができないため、研究の課題意識や対象によって研究方法をつくり、また組み換える必要がある。特に近年、研究の設計において、起点となるべき「なぜ」が問われず、「何を」から着手する傾向が強くなっているが、研究を深めるためにも「なぜ」という問いを設定することの重要性を認識して欲しい。院生それぞれの研究に即して、検討を進める。
授 業 の 方 法	個別指導と集団での議論・討論を組み合わせ、必要に応じて学外の専門家を招いてのトークセッションなどを行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教 科 書	必要に応じて適宜紹介する。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	博士院生として、自らの研究課題を大事にしながら、自分の研究の方向性をつくるよう、努力して欲しい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-213-13	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	李 正 連				
授 業 科 目	生涯学習論論文指導				
講 義 題 目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	博士論文・修士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、個人指導・ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授 業 計 画	院生諸君の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と終端的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持するとともに、質の高い論文とはどういうものであるのかというイメージを作り上げる支援を行う。
授 業 の 方 法	個別指導と集団での議論・討論を組み合わせ、必要に応じて学外の専門化を招いてのトークセッションなどを行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-213-14	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	李 正 連				
授 業 科 目	生涯学習論論文指導				
講 義 題 目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	博士論文・修士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、個人指導・ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授 業 計 画	院生諸君の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と終端的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持するとともに、質の高い論文とはどういうものであるのかというイメージを作り上げる支援を行う。
授 業 の 方 法	個別指導と集団での議論・討論を組み合わせ、必要に応じて学外の専門化を招いてのトークセッションなどを行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-213-15	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	新藤 浩伸				
授 業 科 目	生涯学習論論文指導				
講 義 題 目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授 業 の 目 標・概 要	修士論文、博士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授 業 計 画	院生の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と集団的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持するとともに、質の高い論文執筆に向けた支援を行う。
授 業 の 方 法	オンラインでの開講となる場合、別途示す Zoom アドレスにて行う。個別指導と集団での議論・討議を組み合わせ、必要に応じて学外の専門家を招いてのトークセッションなどを行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教 科 書	使用しない。
履 修 上 の 注 意・備 考	年度内の発表機会、執筆論文を各自設定し、それに向けて計画的に取り組むこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-213-16	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	新藤 浩伸				
授 業 科 目	生涯学習論論文指導				
講 義 題 目	生涯学習論論文指導 Dissertation Research in Lifelong Learning				

授 業 の 目 標・概 要	修士論文、博士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。必要に応じて、ゲストを囲む合評会などを考えたい。
授 業 計 画	院生の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と集団的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持するとともに、質の高い論文執筆に向けた支援を行う。
授 業 の 方 法	オンラインでの開講となる場合、別途示す Zoom アドレスにて行う。個別指導と集団での議論・討議を組み合わせ、必要に応じて学外の専門家を招いてのトークセッションなどを行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加と討議にもとづいて評価する。
教 科 書	使用しない。
履 修 上 の 注 意・備 考	年度内の発表機会、執筆論文を各自設定し、それに向けて計画的に取り組むこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-213-17	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	影 浦 峽				
授 業 科 目	図 書 館 情 報 学 論 文 指 導				
講 義 題 目	図 書 館 情 報 学 論 文 指 導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	図 書 館 情 報 学 ・ 言 語 情 報 処 理 ・ 計 量 語 彙 論 ・ 情 報 メ デ ィ ア 論 分 野 で 修 士 ・ 博 士 論 文 の 執 筆 を め ざ す 大 学 院 生 の た め に 、 個 別 お よ び グ ル ー プ で 論 文 指 導 を 行 う 。 修 士 課 程 2 年 お よ び 博 士 課 程 3 年 以 上 の 場 合 は 修 士 論 文 お よ び 博 士 論 文 の 執 筆 お よ び 提 出 を 、 そ れ 以 外 の 年 次 の 学 生 に は 、 修 士 論 文 、 博 士 論 文 に つ な が る 学 会 発 表 、 論 文 執 筆 を 交 え な が ら 各 段 階 で 必 要 な ノ ウ ハ ウ お よ び 蓄 積 を 蓄 え る こ と を 目 標 と す る 。
授 業 計 画	初 回 に 、 各 自 、 自 分 の 研 究 テ ー マ と 年 度 の 目 標 を 提 出 し て も ら い 、 そ れ に 応 じ て 、 各 自 の 目 標 を 設 定 す る と と も に 、 個 別 指 導 お よ び 全 体 指 導 の ス ケ ジ ュ ー ル を 決 め る 。
授 業 の 方 法	第 1 回 : 研 究 テ ー マ 、 年 度 目 標 の 提 出 と そ れ に 基 づ く 議 論 第 2 回 - 第 4 回 : 個 別 指 導 第 5 回 : グ ル ー プ 指 導 お よ び 相 互 の 情 報 交 換 第 6 回 - 第 9 回 : 個 別 指 導 第 10 回 : グ ル ー プ 指 導 お よ び 相 互 の 情 報 交 換 第 11 回 - 第 14 回 : 個 別 指 導 第 15 回 : グ ル ー プ 指 導 お よ び 相 互 の 情 報 交 換
成 績 評 価 方 法	各 自 の 目 標 達 成 度 に 応 じ て 行 な う 。
教 科 書	用 い な い 。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	特 に な し
そ の 他	対 面 ・ オ ン ラ イ ン は 感 染 状 況 を 踏 ま え 、 通 勤 通 学 、 検 査 体 制 と い っ た 社 会 的 対 応 の 状 況 を 考 慮 し た 安 全 性 評 価 に 基 づ き 授 業 開 始 ま で に 判 断 す る 。 安 全 性 評 価 は 定 期 的 に 行 い 、 途 中 で の 切 り 替 え も 考 え る 。 た だ し 、 い ず れ の 場 合 で も 個 別 事 情 に 応 じ た 学 生 の オ ン ラ イ ン 参 加 を 許 容 す る 。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-213-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	影浦 峯				
授 業 科 目	図書館情報学論文指導				
講 義 題 目	図書館情報学論文指導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	図書館情報学・言語情報処理・計量語彙論・情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程2年および博士課程3年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。
授 業 計 画	初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。
授 業 の 方 法	第1回：研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論第2回－第4回：個別指導第5回：グループ指導および相互の情報交換第6回－第9回：個別指導第10回：グループ指導および相互の情報交換第11回－第14回：個別指導第15回：グループ指導および相互の情報交換
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度に応じて行なう。
教 科 書	用いない。
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	対面・オンラインは感染状況を踏まえ、通勤通学、検査体制といった社会的対応の状況を考慮した安全性評価に基づき授業開始までに判断する。安全性評価は定期的に行い、途中での切り替えも考える。ただし、いずれの場合でも個別事情に応じた学生のオンライン参加を許容する。

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-213-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	河村 俊太郎				
授 業 科 目	図書館情報学論文指導				
講 義 題 目	図書館情報学論文指導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	図書館情報学・言語情報処理・計量語彙論・情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程2年および博士課程3年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。
授 業 計 画	初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。
授 業 の 方 法	第1回：研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論第2回－第4回：個別指導第5回：グループ指導および相互の情報交換第6回－第9回：個別指導第10回：グループ指導および相互の情報交換第11回－第14回：個別指導第15回：グループ指導および相互の情報交換
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度に応じて行なう。
教 科 書	用いない。
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	特になし

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-213-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	河村 俊太郎				
授 業 科 目	図書館情報学論文指導				
講 義 題 目	図書館情報学論文指導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	図書館情報学・言語情報処理・計量語彙論・情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程2年および博士課程3年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。
授 業 計 画	初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。
授 業 の 方 法	第1回：研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論第2回－第4回：個別指導第5回：グループ指導および相互の情報交換第6回－第9回：個別指導第10回：グループ指導および相互の情報交換第11回－第14回：個別指導第15回：グループ指導および相互の情報交換
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度に応じて行なう。
教 科 書	用いない。
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	特になし

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-213-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	池内 有為				
授 業 科 目	図書館情報学論文指導				
講 義 題 目	図書館情報学論文指導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	図書館情報学・言語情報処理・計量語彙論・情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程2年および博士課程3年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。
授 業 計 画	初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。
授 業 の 方 法	第1回：研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論第2回－第4回：個別指導第5回：グループ指導および相互の情報交換第6回－第9回：個別指導第10回：グループ指導および相互の情報交換第11回－第14回：個別指導第15回：グループ指導および相互の情報交換
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度に応じて行なう。
教 科 書	用いない。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-213-22	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	池内 有為				
授 業 科 目	図書館情報学論文指導				
講 義 題 目	図書館情報学論文指導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	図書館情報学・言語情報処理・計量語彙論・情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程2年および博士課程3年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。
授 業 計 画	初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。
授 業 の 方 法	第1回：研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論第2回－第4回：個別指導第5回：グループ指導および相互の情報交換第6回－第9回：個別指導第10回：グループ指導および相互の情報交換第11回－第14回：個別指導第15回：グループ指導および相互の情報交換
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度に応じて行なう。
教 科 書	用いない。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-213-23	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	宮田 玲				
授 業 科 目	図書館情報学論文指導				
講 義 題 目	図書館情報学論文指導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	図書館情報学・言語情報処理・計量語彙論・情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程2年および博士課程3年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。
授 業 計 画	初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。
授 業 の 方 法	第1回：研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論第2回－第4回：個別指導第5回：グループ指導および相互の情報交換第6回－第9回：個別指導第10回：グループ指導および相互の情報交換第11回－第14回：個別指導第15回：グループ指導および相互の情報交換
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度に応じて行なう。
教 科 書	用いない。
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	特になし

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-213-24	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	宮 田 玲				
授 業 科 目	図 書 館 情 報 学 論 文 指 導				
講 義 題 目	図 書 館 情 報 学 論 文 指 導 Dissertation Research in Library and Information Studies				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	図 書 館 情 報 学 ・ 言 語 情 報 処 理 ・ 計 量 語 彙 論 ・ 情 報 メ デ ィ ア 論 分 野 で 修 士 ・ 博 士 論 文 の 執 筆 を め ざ す 大 学 院 生 の た め に 、 個 別 お よ び グ ル ー プ で 論 文 指 導 を 行 う 。 修 士 課 程 2 年 お よ び 博 士 課 程 3 年 以 上 の 場 合 は 修 士 論 文 お よ び 博 士 論 文 の 執 筆 お よ び 提 出 を 、 そ れ 以 外 の 年 次 の 学 生 に は 、 修 士 論 文 、 博 士 論 文 に つ な が る 学 会 発 表 、 論 文 執 筆 を 交 え な が ら 各 段 階 で 必 要 な ノ ウ ハ ウ お よ び 蓄 積 を 蓄 え る こ と を 目 標 と す る 。
授 業 計 画	初 回 に 、 各 自 、 自 分 の 研 究 テ ー マ と 年 度 の 目 標 を 提 出 し て も ら い 、 そ れ に 応 じ て 、 各 自 の 目 標 を 設 定 す る と と も に 、 個 別 指 導 お よ び 全 体 指 導 の ス ケ ジ ュ ー ル を 決 め る 。
授 業 の 方 法	第 1 回 : 研 究 テ ー マ 、 年 度 目 標 の 提 出 と そ れ に 基 づ く 議 論 第 2 回 - 第 4 回 : 個 別 指 導 第 5 回 : グ ル ー プ 指 導 お よ び 相 互 の 情 報 交 換 第 6 回 - 第 9 回 : 個 別 指 導 第 10 回 : グ ル ー プ 指 導 お よ び 相 互 の 情 報 交 換 第 11 回 - 第 14 回 : 個 別 指 導 第 15 回 : グ ル ー プ 指 導 お よ び 相 互 の 情 報 交 換
成 績 評 価 方 法	各 自 の 目 標 達 成 度 に 応 じ て 行 な う 。
教 科 書	用 い な い 。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	特 に な し
そ の 他	特 に な し

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-214-01	単 位 数	2	学 期	S2
担 当 教 員	阿曾沼 明裕				
授 業 科 目	大学経営政策基本研究				
講 義 題 目	高等教育論 Introduction to Higher Education				

授 業 の 目 標・概 要	この授業では、大学・高等教育論を学ぶための基礎的な知識を得ることを目的とする。高等教育の制度的な概念、中世以来の大学の歴史、高等教育の多様性とその系譜、アメリカ・ヨーロッパの高等教育、学位、入学システムについて学ぶとともに、大学・高等教育機関の基本的な機能である教育機能に焦点を当て、その構造と機能について学ぶ。そうした学びを経て、日本の高等教育の構造的な特徴についても理解を深める。
授 業 計 画	まず前半で、高等教育の制度的な概念、中世以来の大学の歴史、高等教育の多様性とその系譜、19 世紀以降のヨーロッパの高等教育、学位、入学システムについて講義を行い、高等教育論の基礎を学ぶ。後半では、重要文献を受講生が報告する形式で授業を進める。第1回 高等教育の制度的概念 第2回 大学の起源と発展(1) 第3回 大学の起源と発展(2) 第4回 高等教育の多様性とその系譜 第5回 19 世紀以降の欧米の高等教育 第6回 大学と学位 第7回 教育と職業との関係に関する理論 第8回 入学システムと大学教育 第9回 文献報告(大学の入り口) 第10回 文献報告(専門教育と一般教育) 第11回 文献報告(アメリカの学士教育) 第12回 文献報告(日本の学士教育) 第13回 文献報告(カレッジ・インパクト) 第14回 文献報告(職業レリバンズ、教育力)
授 業 の 方 法	前半は講義形式で行い、後半は受講生が高等教育に関する重要な文献を報告し、ディスカッションを行う。また、今年度はオンラインでの授業を予定している。
成 績 評 価 方 法	出席状況、授業における報告、最後の課題レポートまたは試験(試験といってもレポート的な論述式)による。毎回(2時限に一回)リフレクション・ペーパーを提出、ただし原則これは成績には含めない。
教 科 書	橋本鉦市・阿曾沼明裕編『よくわかる高等教育論』ミネルヴァ書房(2021) 中村康高編『リーディングス 日本の高等教育1 大学への進学一選抜と接続』玉川大学出版部(橋本鉦市・阿曾沼明裕企画編集、2011) 杉谷祐美子編『リーディングス 日本の高等教育2 大学の学びー教育の内容と方法』玉川大学出版部(橋本鉦市・阿曾沼明裕企画編集、2011) 小方直幸編『リーディングス 日本の高等教育4 大学から社会へー人材育成と知の還元』玉川大学出版部(橋本鉦市・阿曾沼明裕企画編集、2011)
履 修 上 の 注 意・備 考	大学経営政策コース以外の所属の方でこの授業を受講される予定の方は、予めメールで連絡をください。このコースでは、LMS として Google classroom を使用しますので、参加のためのクラスコードをお知らせします。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-02	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	阿曾沼 明裕				
授 業 科 目	大学経営政策基本研究				
講 義 題 目	高等教育政策論 Higher Education Policy				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	この授業では日本の高等教育政策・制度の構造と機能について理解を深めることを目的とする。高等教育政策は大学・高等教育の問題に取り組む際に政策に関する知識は欠かせない。だが、必ずしも高等教育政策研究者(政策評価研究、政策過程分析)になるわけではない。高等教育政策に資するための研究(政策のための研究)の訓練の場でもない。高等教育の問題に取り組む際に必要な、あるいは知っておくといわれる、政策の在り方、政策の構造や機能、メカニズムを理解するための枠組みや知識を得るための授業である。
授 業 計 画	まず授業の前半では、高等教育政策を考える際に必要ないくつかの基本的な理屈(理論、現実を捉える枠組み)を学ぶ。その後大雑把に日本の高等教育の流れを、戦前と戦後に渡って概観したうえで、後半では、主要な高等教育政策について取り上げる。その際、政府の役割を、①制度的枠組みの構築、②「規制」と「補助」を通じた量と質のコントロールと考え、そのいくつかの政策事例を取り上げ、戦後日本の高等教育政策に対する理解を深める。Ⅰ. 教育と社会の理論 1. 教育と社会・経済発展 2. 投資としての高等教育 3. 高等教育における市場 4. 政府の存在する根拠Ⅱ. 日本の高等教育のマクロな流れ 5. 戦前日本の高等教育制度・政策の概略 6. 戦後日本の高等教育制度・政策の概略 Ⅲ. 主要な高等教育政策 7. 制度・枠組みの構築①—学制改革 8. 制度・枠組みの構築②—教育課程・質保証の枠組み作り 9. 制度・枠組みの構築③—ガバナンスの枠組み作り 10. 政府の規制と補助①—高等教育計画 11. 政府の規制と補助②—財政補助 12. 高等教育政策の構造変化① 13. 高等教育政策の構造変化②
授 業 の 方 法	授業の前半では、主に講義を行い、後半は、毎回3～4種類の文献を取り上げ、3～4人がひとり20分程度で文献の内容を報告し、疑問点や問題点を議論する。なお、ディスカッション重視の授業もあるが(大経の授業にはそのタイプが多いのでそれは他に任せ)、この授業はコースでの基本的な知識の習得を目指すものである(質問や発言は大歓迎)。加えて、授業はあくまでも道案内にすぎず、受講生は、授業での話を聞くだけでなく、授業で取り上げる教科書・文献を予習・復習で自ら読むこと。
成 績 評 価 方 法	出席状況、報告の参加状況、レポートあるいは試験(レポートに近い記述式)による。
教 科 書	金子元久・小林雅之『教育の政治経済学』放送大学教育振興会(2000)橋本鉦市・阿曾沼明裕編『よくわかる高等教育論』ミネルヴァ書房(2021)大崎仁『大学改革 1945～1999』有斐閣選書(1999)村澤昌崇『リーディングス日本の高等教育6 大学と国家—制度と政策』玉川大学出版部(2010)黒羽亮一『新版 戦後大学政策の展開』玉川大学出版部(2001)このほか授業で取り上げる文献は別途そのつど提示する。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	大学経営政策コース以外の所属の方でこの授業を受講される予定の方は、予めメールで連絡をください。このコースでは、LMSとして Google classroom を使用しますので、参加のためのクラスコードをお知らせします。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-03	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	阿曾沼 明裕、両角 亜希子、福留 東土				
授 業 科 目	大学経営政策基本研究				
講 義 題 目	大学経営政策演習(1) Seminar on Higher Education Policy and Management (1)				

授 業 の 目 標・概 要	高等教育研究に関わる課題設定、方法論、論文執筆に関わる基礎的な作法や考え方を修得することを目的とする。受講者による論文の協同執筆による投稿論文の執筆を主とした取組を考えている。
授 業 計 画	予め授業のテーマ設定は行わず、受講者の関心と高等教育研究の動向を踏まえて、年間の取り組み課題を決定する。個々の受講者の課題関心も考慮するが、高等教育研究に対する視野を拡げるため、例えば他の受講者が設定した課題であっても、その共有や取り組みを前提とする。アプローチ方法も、量的、質的、そして資料分析など、設定された課題に応じて選択する。なお、受講者数によって、取り上げる課題の数等が変更となる場合がある。①導入②第 1 クール:テーマの設定③第 1 クール:課題設定・先行研究の検討・枠組の決定④第 1 クール:論文執筆(導入と方法)⑤第 1 クール:論文執筆(考察Ⅰ)⑥第 1 クール:論文執筆(考察Ⅱ)⑦第 1 クール:論文執筆(結論と全体の見直し)⑧第 2 クール:テーマの設定⑨第 2 クール:課題考察・先行研究の検討・枠組の決定⑩第 2 クール:論文執筆(導入と方法)⑪第 2 クール:論文執筆(考察Ⅰ)⑫第 2 クール:論文執筆(考察Ⅱ)⑬第 2 クール:論文執筆(結論と全体の見直し)
授 業 の 方 法	受講者は毎回の授業の狙いと成果を理解し、担当箇所について予め準備・執筆を行い、授業時に持ちよって、改善・改訂を行う。
成 績 評 価 方 法	授業時と授業前後の実質的な取組状況によって判断する。
教 科 書	どのテーマ・方法論を採用するかは、授業時に受講者の関心も踏まえながら、受講者間での調整を含めて決定する。
履 修 上 の 注 意・備 考	この授業は通年で隔週に実施される予定。博士課程の学生を対象とした授業。授業開始前にグーグルクラス(関連ホームページに掲載 URL)に登録すること
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-04	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	阿曾沼 明裕、両角 亜希子、福留 東土				
授 業 科 目	大学経営政策基本研究				
講 義 題 目	大学経営政策研究 Research Methods for Higher Education Policy and Management				

授 業 の 目 標・概 要	論文作成に必要な知識、技能、考え方等を講義・演習形式を組み合わせで修得する
授 業 計 画	1:導入(高等教育研究とは)2:論文講読(大学経営①)3:論文講読(大学経営②)4:論文講読(比較大学①)5:論文講読(比較大学②)6:論文講読(大学政策①)7:論文講読(大学政策②)8:協同学習①9:協同学習②10:個人発表前半(関心と課題)11:個人発表後半(関心と課題)12:個人発表前半(先行研究と方法)13:個人発表後半(先行研究と方法)
授 業 の 方 法	受講者全員に同様に取り組んでもらうものと、個々の学生の関心に応じて取り組んでもらうものを組合せ、共同で学び発表するスタイルと、個人で学び発表するスタイルの双方を用いる。
成 績 評 価 方 法	授業への出席と発表。
教 科 書	講義時に指示します。
履修上の注意・備考	大学経営・政策コースの学生が対象グーグルクラスルームを用いるが、4月以降にコース事務室から登録方法を連絡するので、履修希望者はそれに従って登録すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-214-05	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	福留 東土				
授 業 科 目	大学経営政策基本研究				
講 義 題 目	比較大学論 Comparative Study in Universities				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	大学とは本来、普遍的な知の拠点として、国や地域の枠組みにとらわれずに世界的に知的活動を展開させる性格を潜在的に有している。一方、近代社会の成立以降、大学が本質的な機能として担ってきた高等教育は各国の教育制度において人材養成・配分機能の重要な一角を担い、ゆえに、教育内容の特性、中等教育制度との関係、労働市場との関係などの点において、その構造と機能は国ごとの独自性を持っている。また、大学の活動のもうひとつの主軸である研究活動は、それ自体は普遍性を志向する活動であるが、その具体的な態様は、研究資金と研究の場の提供を通じて社会における諸勢力(とりわけ政府)との関係に規定されており、その実態は国によって異なっている。すなわち、大学は本来的な性向として普遍性を追求しつつも、その教育機能をとっても研究機能をとっても、あるいは社会貢献機能をとっても、現実的には各国の政治・経済・文化等、広い意味での社会の諸条件の中でそれら機能を果たしている社会的組織である。またそこでは、それら諸条件の時代的变化の中で歴史的に形成されてきた大学の外的・内的構造が紐帯として現実の大学のあり方を大きく規定している。大学・高等教育について包括的な理解を持つ上では、普遍的・一般的な大学のあり方を各国の特殊性を捨象して捉えることが必要である。しかし、大学・高等教育は歴史的な社会変動や各国独自の社会的諸条件から独立して真空の中に存在しているわけではない。それゆえ、大学・高等教育をその実態を伴ったかたちで把握する上では、歴史的にみた大学・高等教育の変容、各国の諸条件の違いを反映した大学・高等教育の特殊性を視野に入れなければならない。さらには、そのことと関係しつつ、大学という存在の定義自体が国によって異なり、またとりわけ現代では一国の内部でも多様化しているという実態を踏まえるとき、そもそも大学をどう定義付けうるのかという問題自体、一義的な解答を与えられる問ではない。本講義では、アメリカの大学を対象に検討を行うが、それは、アメリカの大学が戦後日本の大学改革のモデルとなり、あるいは現在世界で大学改革のモデルと位置付けられていることが直接の理由ではない。アメリカの大学システムは高度な多様性を備えており、その多様性の検討を通して、大学・高等教育のあり方を多角的に検討し、我々の持つ大学像を拡張することが主な目的となる。さらには、教育や学術、社会との連携など、多方面でこれまで様々な取組が行われてきた歴史を振り返る中で、現代の問題にも通じる、大学・高等教育の本質的な使命や課題にアプローチする視座を、本授業を通して培ってもらいたい。
授 業 計 画	1 導入講義／データにみる日米の大学 2 多様な大学：カーネギー大学分類の分析 3 比較・歴史研究の射程と方法／アメリカ大学の構造的特質 4 テーマ別日米比較(1)：学士課程教育 5 テーマ別日米比較(2)：入学者選抜 6 テーマ別日米比較(3)：大学院教育 7 アメリカ大学史(1)：カレッジの時代 8 アメリカ大学史(2)：アメリカのリベラル・エデュケーション 9 アメリカ大学史(3)：ユニバーシティへの胎動と実務的教育の展開 10 アメリカ大学史(4)：拡大と多様化・階層化と標準化—19世紀末から20世紀前半の大学 11 アメリカ大学史(5)：大衆化・民主化・多文化主義—戦後の大学 12 コロナ禍における大学の日米比較 13 研究大学モデルに関するケーススタディ
授 業 の 方 法	講義はできるだけ事前講義または補足講義とし、授業中は受講生の発表、およびディスカッションを重視する。講義と資料の配信に Google Classroom を用いる。授業の課題は以下の4つとする。1.事前課題：授業に先立ち、指定の課題論文を読んでくること。授業の補足講義がある場合はそれを視聴してくること。授業では、グループディスカッションなど討論形式を多く取り入れるので、必ず事前課題を行ってこよう。2.授業での発表：単位取得を希望する受講生は、学期中に一度授業内での発表を行うこと。以下の2つからいずれかを選択
成 績 評 価 方 法	授業での発表 25%課題、ディスカッション、リフレクションを含めた授業への貢献度 35%期末レポート 40%
教 科 書	主に講師作成の資料による。以下は授業前半で用いる論文の一部。詳細は開講時に指示する。ロジャー・ガイガー(福留東土・張燕訳)「アメリカ高等教育史」。福留東土「大学の理念・制度・歴史」大学経営・政策コース編『大学経営・政策入門』東信堂、2018年、20-38頁。Robert Birnbaum, "Governance and

	Management: US Experiences and Implication for Japan's Higher Education."William Tierney, "Globalization, International Rankings, and the American Model: A Reassessment."
履修上の注意・備考	できる限り毎回ハイフレックス方式(受講生が対面とオンラインを選択可能)で授業を行う。オンラインのみでの開講となる場合には事前に連絡する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-06	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	両角 亜希子				
授 業 科 目	大学経営政策基本研究				
講 義 題 目	大学経営論 Management of University				

授 業 の 目 標・概 要	大学の経営について、基礎的な知識を身につけるとともに、その現代的な問題点について各自の問題意識を発展させる。
授 業 計 画	下記の内容を扱う予定だが、受講生の関心を見つつ、どのテーマを重点的に扱うかを決定する。主に日本の大学を念頭に進めるが、適宜、国際比較をしながら理解を深めてもらう。(1)ガイダンス、日本の大学の制度的特徴(2)大学のガバナンス①(国公立)(3)大学のガバナンス②(私立)(4)大学の組織モデル(5)大学の組織文化とリーダーシップ(6)大学の組織編制原理(7)大学の施設マネジメント①(国公立)(8)大学の施設マネジメント②(私立)(9)大学の人事マネジメント①(教職員)(10)大学の人事マネジメント②(管理職・経営者)(11)大学の財務①(制度的特徴、財務構造、補助金制度)(12)大学の財務マネジメント②(財務指標による分析)(13)大学の戦略・計画・IR、合併と連携
授 業 の 方 法	講義のほかに、グループ学習や履修者による発表、ケースメソッドを用いた授業などを行う予定。
成 績 評 価 方 法	試験、課題、授業への参加状況などを総合的に評価する。
教 科 書	特に用いない。授業中に必要に応じて参考資料を配布する予定。
履修上の注意・備考	履修予定で初回の授業(4/6)に出られない場合は、前日までにメールにて連絡すること。初回授業までにグーグルクラスルームに登録を済ませておくこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-214-07	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	福留 東土、鳥居 朋子、米澤 彰純				
授 業 科 目	大学経営政策特殊研究				
講 義 題 目	大学経営政策各論(3) Topics in Higher Education Policy and Management(3)				

授 業 の 目 標・概 要	本授業では、グローバルな視野に立った際にみえる大学・高等教育の構造と課題を中心に議論する。専門家による講義を通して専門的知識を習得するとともに、大学・高等教育の国際動向、およびそれを踏まえた各国の大学・高等教育について自ら深く考察する視野を獲得することを目標とする。
授 業 計 画	1. グローバルシティズンシップと異文化理解(福留)2 大学と国民国家(米澤)3. 学術的卓越をめぐる国際競争と協力(米澤)4. 国境を越える教員・学生の移動と大学教育の質保証(米澤)5. 大学のグローバルな展開がもたらすリスクと展望(米澤)6. 大学カリキュラムの国際比較(福留)7. 米国の大学の質保証を巡る政策動向(中島)8. 米国におけるキャップストーンを包摂する学士課程教育(中島)9. 大学の IR と内部質保証(鳥居)10. IR と学習・教育改革の諸相(鳥居)11. 根拠に基づくプログラム・レビューのサイクル(鳥居)12. 大学における DEI の組織的推進(鳥居)
授 業 の 方 法	主に講義と質疑応答による。一部、グループディスカッションをはじめとする学生間の学び合いの手法を取り入れる。
成 績 評 価 方 法	授業への参加・貢献、各担当教員による課題レポートによる。
教 科 書	・米澤彰純、嶋内佐絵、吉田文『学士課程教育のグローバル・スタディーズ：国際的視野への転換を展望する』学士課程教育のグローバル・スタディーズ：国際的視野への転換を展望する』明石書店 2022・米澤彰純、嶋内佐絵、劉靖「東アジアにおける「大学」概念の形成と変容」教育学研究 86 (2), 225-236, 2019・鳥居朋子『大学の IR と学習・教育改革の諸相-変わりゆく大学の経験から学ぶ』玉川大学出版部 2021。・鳥居朋子編著『大学の質保証における教育プログラムの評価と改善 -IR 機能を活用した好循環づくりのティップス-』東北大学出版会 印刷中。・その他、配付資料による
履 修 上 の 注 意・備 考	下記の Google Classroom を用いて、授業資料の配布、諸連絡を行うので、受講者は事前に必ず登録しておくこと。授業には毎回出席すること。やむを得ない事情により欠席する場合は事前に TA まで連絡すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-214-08	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	両角 亜希子、溝上 慎一、稲永 由紀				
授 業 科 目	大学経営政策特殊研究				
講 義 題 目	大学経営政策各論(4) Topics in Higher Education Policy and Management(4)				

授 業 の 目 標・概 要	求められる大学教育のあり方が変化しています。教える側の論理のみならず、学ぶ側の視点がより重視されるとともに、その内容についても社会との関連性や連続性がより求められるようになっていきます。なぜそのような変化が起きてきたのか、そこでもとめられる大学教育の役割とはどのようなものなのか、基本的な知識を習得するとともに、その現代的な課題について各自の問題意識を発展させることを目的とします。
授 業 計 画	この授業では、3名の教員が4回ずつ、講義を順番に担当します。内容と日程の案は以下の通り。(※変更の可能性があります)溝上 10月5日 10月12日 10月19日 10月26日 稲永 11月2日 11月9日 11月16日 11月30日 両角 12月7日 12月14日 12月21日 1月11日 溝上担当分以下の大きく4つ内容について概説、最後には今後の大学教育の役割について考える。(1)大学教育へのアクティブ・ラーニング導入と学習パラダイムへの転換(2)学校から仕事・社会への移行(トランジション)(3)高大接続、学習指導要領改訂で大学前の学びが一気に変わる(4)トランジションさせられない要素の増大——近代学校教育の構造的破綻今日小学校から大学まで、学校教育全体で学校から仕事・社会への移行(トランジション)が国策として展開している。そのスターターを担ったのは大学教育であり、その本質的力学は教授パラダイムから学習パラダイムへの転換である。今日、大学の入り口前の整備(高大接続)、小学校・中学校・高校の教育では新学習指導要領において「社会に開かれた教育課程」としてトランジション教育が徹底的に進められている。ところが、社会の変化はすさまじくはやく、もはや学校教育(大学教育を含む)を通して十分に仕事・社会に生徒・学生を繋げられない状況も認識されるようになってきた。近代の学校教育の構造的破綻とも見える。(稲永担当分)この4回は、地域との連携による教育、職業統合的学習など、学外社会との連携による大学教育の展開について考えていきます。(1)学外社会との連携による教育の歴史的展開(2)職業統合的学習(work-integrated learning: WIL)(3)地域・社会との連携による教育(4)学外社会との連携を通じた教育がもたらすインパクト(両角担当分)これまでの講義をふまえて、具体的な事例を題材に、学外社会との連携による大学教育についての理解を深めます。受講者各自が具体的な事例を調べて、クラスで議論を行い、最終的にはポスター発表での発表し、最終レポートにまとめてもらいます。具体事例についての理解を深めるために、ゲスト講師を招いてともに議論する可能性も検討中です。
授 業 の 方 法	主に講義形式で行うが、グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れる。それぞれの担当講師の指示に従うこと。
成 績 評 価 方 法	授業への参加・貢献度、リフレクションシートの提出状況と内容、ポスター発表、最終レポートを総合的に勘案して評価する。
教 科 書	特に指定しない
履 修 上 の 注 意・備 考	授業日程・内容をよく確認の上、毎回の講義に出席し、課題をすべて提出すること。授業の形態(対面・オンライン等)は、ハイフレックス形式で行う。対面を基本とするが、オンラインでも参加できる。ただし、ポスター発表などは対面参加のみ認めるなど、授業内容によるので、それぞれの担当講師の指示に従うこと。この授業を履修するための前提知識は特に必要としない。この授業ではグーグルクラスルームを用いる。履修希望者は関連ホームページに記載のページにアクセスし、必ず授業開始前に登録すること。
そ の 他	この授業自体も知識伝達のみならず、探求の要素を含んでおり、学生同士の議論の場があります。そうした中で、よりよい学習の場を作るのは、教員だけでなく、受講者自身でもあります。そのため、以下の約束を守ってください。受講者全員が約束を守ること、信頼関係が構築され、安心して発言しやすい環境が作られます。そして、それが高質で満足度の高い議論につながることを理解してほしいと思います。 ①自分の考えを大勢の人に向けて発するには勇気がいりますが、ぜひ勇気をもって発言してください。また、建設的な反論も真の学習に欠かせないの

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-214-09	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	大多和 直樹				
授 業 科 目	大学経営政策特殊研究				
講 義 題 目	高等教育調査の方法と解析(1) Methods and Analyses of Surveys in Higher Education (1)				

授 業 の 目 標・概 要	・高等教育を対象とした社会調査の基礎を身につけることを目標とする。修士論文等の際に自ら調査を企画・実施し、データ分析まで行えるよう、一通り調査の各プロセスについて把握する。調査を身につけるにあたっては、技術的、知識的な側面にとどまらず、思考のあり方や調査に臨む際の態度などの側面もまた重要となる。授業では、実際に既存数量的データの二次分析(エクセル統計等を利用)を演習的に行う中で、そうした部分をも体得することを目指す。
授 業 計 画	<調査法講義>1. ガイダンス～社会調査:知的創造のためのデータ収集法2. 問いの重要性:研究は問いから始まる3. 問いから仮説へ4. 仮説検証を行う:クロス分析とは5. 検定の考え方:カイニ乗検定6. アウトプット=論文に触れる<調査実習・グループワーク>7. 問いの明確化と仮説の設定8. 仮説検証①クロス表を中心に9. 仮説検証②多変量解析(含:3重クロス)10. 仮説検証③仮説の再設定と再分析 11. 分析の統合、ストーリーにまとめる 12. 発表資料作成 13. 発表会
授 業 の 方 法	社会調査・統計分析の基礎を理論的に学んだ後、ミニ演習(既存調査データの二次分析)を行う。
成 績 評 価 方 法	平常点: ミニ演習など 40%レポート: 60%
教 科 書	耳塚寛明・中西啓喜 2021『教育を読み解くデータサイエンス: データ収集と分析の論理』ミネルヴァ書房
履修上の注意・備考	最初から最後まで通して参加できる学生に限る。
そ の 他	授業では統計解析を実際に行うが、その際、各自解析ソフトを用意することが求められる(SPSS が好ましい)。これについては最初の授業の際に説明する(まだ持っていない受講生は、それまでは購入等はしないほうが望ましい)。

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-214-10	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	濱中 義隆				
授 業 科 目	大学経営政策特殊研究				
講 義 題 目	高等教育調査の方法と解析(2) Methods and Analyses of Surveys in Higher Education (2)				

授 業 の 目 標・概 要	高等教育政策のみならず様々な社会的事象を分析する際の基礎となるデータ解析の手法について、統計学的な理論的知識を修得するとともに、実際に既存のデータを分析してみることを通して、幅広く自らの研究や実務に応用することができるようになることを目標とする。最も基本的な手法から順に多変量解析の初歩的な手法まで対象とするが、データ分析に用いるソフトウェア(表計算ソフトや統計パッケージ)の使い方については講義時間中に十分説明することは困難なため、各自で別途学習することが求められる。
授 業 計 画	1 イントロダクション 調査統計の思想と技法(量的調査と質的調査) 2 量的調査の基礎(操作化、測定、変数) 3 度数分布表と記述統計量 42つの変数間の関係の記述(クロス集計表、散布図、相関係数) 5 推測統計学の基礎(確率、期待値、確率分布) 6 統計的推測と統計的仮説検定の考え方 72つの平均値の差の検定(独立サンプルの t 検定) 8 複数の平均値の差の検定(分散分析) 9 多変量解析の考え方(擬似関係、媒介関係、交互作用とは) 10 三重クロス表の分析 11 重回帰分析とパス解析(1) 12 重回帰分析とパス解析(2) 13 ロジスティック回帰分析
授 業 の 方 法	講義と演習(課題発表)(上記授業計画参照)
成 績 評 価 方 法	課題レポート2回(50%)、発表(20%)、試験(30%)とする。
教 科 書	指定しない
履修上の注意・備考	受講生は夏学期の「高等教育調査と解析(1)」を受講している者に限る。統計学や社会調査法の基礎を学習していることが望ましい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-11	単 位 数	2	学 期	S2
担 当 教 員	福留 東土				
授 業 科 目	大学経営政策特殊研究				
講 義 題 目	比較大学経営論(2) Comparative Study in University Management (2)				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	本授業は、大学の比較研究に対する視野を醸成することを目的とする。米国の大学人とディスカッションすることを通して、米国の研究大学の制度と実態を学ぶ。それを通して、大学に関する比較考察の視点を獲得し、日本の大学のあり方について考察する上での示唆を得る。アメリカの大学は世界の大学改革のモデルと位置付けられているが、その実態は実は十分に理解されていない。まずは予断を入れずにアメリカの大学の実態を理解しようとするのが重要である。すべての受講生が関心あるテーマを見出せるよう、幅広いテーマで講師を依頼するので、各自の関心のあるテーマや研究テーマに関する理解を深める機会としてもらいたい。また、受講生各自の関心に即して事前調査やレポート執筆を行うことを通して、比較の視点から日本の大学像を相対化し、大学に対する幅広い知見を獲得することを目指す。受講に当たって英語力は問わない。英語力そのものよりも、言語は異なっても積極的に対話し、学ぼうとする姿勢を持って参加することが重要である。本授業は、大学の比較研究に対する視野を醸成することを目的とする。米国の大学を訪問して現地で講義を受け、米国の大学人とディスカッションすることを通して、米国の研究大学の制度と実態について学ぶ。それを通して、大学に関する比較考察の視点を獲得し、日本の大学のあり方について考察する上での示唆を得る。アメリカの大学は世界の大学改革のモデルと位置付けられているが、その実態は日本において十分に理解されていない。文化や制度的伝統の異なる海外の実態を、その背後にある文脈を含めて理解することは簡単な作業ではない。この授業では、まず予断を入れずにアメリカの大学の実態を理解しようとするのが重要である。その上で、受講生各自の関心に即して事前調査やレポート執筆を行うことを通して、比較の視点から日本の大学像を相対化し、大学に対する幅広い見識を獲得することを目指す。今年度は、大学ガバナンスと学士課程教育に関わるテーマを幅広く取り上げる。それを通して、アメリカの大学経営・教育の概要を把握してもらいたい。また、すべての受講生が関心あるテーマを見出せるよう、希望に応じてそれ以外のテーマを取り上げることも可能である。各自の関心あるテーマに関する理解を深める機会としてもらいたい。なお、福留による他の授業と関連する内容もあるが、他授業の履修を前提とはしない。必要に応じて、他授業の資料を共有する。
授 業 計 画	現地での講義は5日間(月～金)行う。その他、渡航前に事前学習会、渡航後に事後報告会を行う。詳細なスケジュールは決まり次第連絡する。
授 業 の 方 法	海外で5日間の集中講義を行う。また、事前学習会、現地での検討会、事後報告会を行う。事前学習として、講師による講義を配信するので、指定の期日までに必ず視聴しておくこと。
成 績 評 価 方 法	授業への参加・貢献度、および最終レポートによる。期末レポート 80%授業への参加・貢献、コメントシート 20%・期末レポートは原則として講義テーマの中から各自の興味関心に合わせてテーマ設定を行うこと。・レポートはタイトルを付し、A4・5枚程度を目安とする。
教 科 書	適宜指示する。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	・詳細なスケジュールは決まり次第、連絡する。履修希望者は授業ガイダンスに参加すること。・原則としてすべての事前学習会、講義に参加すること。・事前に期末レポートの執筆テーマを決め、事前学習会での報告と期末レポートの提出を期日を守って行うこと。・十分な準備を行った上で講義に臨み、現地のセッションでは講義を聴くだけでなく、積極的に質問・コメントをすること。・集中講義が全受講生にとって有意義な経験となるよう、受講生間で情報交換を図り、十分に協力し合うこと。
そ の 他	関連資料を Google Classroom にアップしていますので、合わせて見ておいて下さい。海外への渡航を伴う科目のため、早目に受講状況を把握する必要がありますので、ご協力をお願いします。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-214-12	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	両角 亜希子				
授 業 科 目	大学経営政策特殊研究				
講 義 題 目	大学経営事例研究(1) Case Study in University Management (1)				

授 業 の 目 標・概 要	大学経営に関する特定のテーマにをとり上げて、ケーススタディの方法や質的分析の方法を学び、実践することで身につけることを目指す。
授 業 計 画	大学経営事例研究の授業では、質的なデータを収集し、それを分析する方法について、実践をしながら学ぶことを目的としています。量的な分析と質的な分析はそれぞれに強みと弱みがあり、それらを組み合わせることで、問いに対してより深い理解が得られることも多く、様々な分析手法を身につけることはとても重要です。インタビュー等の質的データを用いて、修士論文・博士論文を執筆する方は少なくないですが、収集したデータをどのように整理・分析して、論文にしていけるのか、というところで悩みを抱える方が少なくありません。量的な方法と異なり、研究枠組みや仮説が最初からあるわけではなく、流動的であるため、その探索的な過程を楽しむというよりも不安に感じる方も多い印象を受けています。質的データの方法論については、グラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)、エスノグラフィー、ナラティブ分析などの様々な手法が開発されていますが、この授業ではそれらをすべて扱うことを目的としているわけではありません。質的な分析の基礎は、インタビューで得た発言を文字にして、それらをうまく言い表す名称や文句を抽象化してラベルを貼ることを通して、何らかのパターンを見出すコードをふり、類似したコードでカテゴリーを作り、それらの関係性などについて、カテゴリー/テーマをつなげ、データを説明するストーリーを構築するということにあると考えます。また、この手の手法は実践してみても、獲得していくことがとても重要だと考えます。そこで、本授業では、古典的な手法ともいえる KJ 法(言葉の組み立て工学)に着目して、それを実践してみることで、質的な方法論についての理解を深め、実際に使えるようになることを目指します。詳細は、第1回の授業で説明するので、履修を希望する者は必ず出席のこと。
授 業 の 方 法	発表、討議形式で行う。共通のテーマでの質的分析の実践・発表・文章化、各自の研究テーマでの質的分析の実践・発表・文章化。
成 績 評 価 方 法	授業への出席と討論等への貢献、研究内容(レポート課題等)によって総合的に評価を行う。
教 科 書	川喜多二郎『発想法』、上野千鶴子『情報生産者になる』
履修上の注意・備考	日程は現時点では下記を考えているが、変更もありうる。変更の場合は学内掲示で知らせるため、履修を希望する者は掲示を確認すること。7月15日(月、祝)、8月3日(土)、8月4日(日)、9月7日(土)の2-5限。第1回の授業に出られない場合は、必ず、担当講師に事前にメールで連絡すること。履修登録したものに事前ガイダンス(第1回授業までの課題等)について連絡する。授業開始前にグーグルクラスルーム(関連ホームページ記載のURL)に登録すること。
そ の 他	この授業ではグーグルクラスを用いる。オンライン授業URLに記載するので、登録すること。

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-214-13	単 位 数	2	学 期	通年
担 当 教 員	阿曾沼 明裕、溝上 慎一、栗田 佳代子、両角 亜希子、福留 東土、米澤 彰純				
授 業 科 目	大学経営政策論文指導				
講 義 題 目	大学経営政策論文指導 Individual Tutorial in University Management and Higher Education Policy				

授 業 の 目 標・概 要	博士論文、修士論文の作成のための論文指導を行う。
授 業 計 画	個々の学生の進捗状況に合わせて指導を行う。具体的なスケジュールは4月に決定する。
授 業 の 方 法	個々の学生の内容に応じて論文指導を行う。
成 績 評 価 方 法	授業への出席と発表。
教 科 書	講義時に指示します。
履修上の注意・備考	大学経営・政策コースの学生が対象グーグルクラスルームを用いるが、4月以降にコース事務室から登録方法を連絡するので、履修希望者はそれに従って登録すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-214-14	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	阿曾沼 明裕、溝上 慎一、栗田 佳代子、両角 亜希子、福留 東土、米澤 彰純				
授 業 科 目	大学経営政策論文指導				
講 義 題 目	大学経営政策論文指導 Individual Tutorial in University Management and Higher Education Policy				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	博士論文、修士論文の作成のための論文指導を行う。
授 業 計 画	個々の学生の進捗状況に合わせて指導を行う。具体的なスケジュールは4月に決定する。
授 業 の 方 法	個々の学生の内容に応じて論文指導を行う。
成 績 評 価 方 法	授業への出席と発表。
教 科 書	講義時に指示します。
履修上の注意・備考	大学経営・政策コースの学生が対象グーグルクラスルームを用いるが、4月以降にコース事務室から登録方法を連絡するので、履修希望者はそれに従って登録すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-214-15	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	栗田 佳代子				
授 業 科 目	共通科目				
講 義 題 目	大学教育開発論 Teaching Development in Higher Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	授業の概要 現在、大学教員としてのキャリアを進むにあたっては、研究者としてだけでなく、教育者としての資質も問われています。本授業は、東京大学フューチャーファカルティプログラムとして、学生が主体的に学ぶために必要な学生のモチベーションの高め方、授業デザインやシラバス、評価方法などを学びます。また、アクティブラーニングの手法を取り入れたグループワークを多く経験し、模擬授業の実践も行います。多様な研究領域から集う受講者相互の学び合いは、新しい視点の獲得につながり、また、プログラムの修了後も継続するネットワークを培います。本授業で学んだことは「目的・目標を明確にし、達成するためのデザイン」や「伝えたいことが確かに相手に伝わるコミュニケーション」を学ぶという点で研究活動の向上にも活きることでしょう。また、新型コロナウイルス感染症への対応のためすべての授業回をオンラインでの開催となりますが、オンライン授業の特性を生かした授業を体験し、自らも実施できることを目指します。目的と目標（目的）本授業では、未来の大学教員として、責務としての「教育」の重要性を認識し、学生の立場にたった教育の設計と実行を可能にすることを目的とします。そのために、授業実施に向けた実践的な知識やスキルを多様な専門領域の受講生とともに実際に体験し、互いに学び合いながら獲得し、さらに、研究だけでなく教育についても探究し続ける姿勢を身につけます。（目標）-高等教育の現状の概要について説明できる-効果的なデリバリースキルの観点を知り、自分のスキルの向上につなげる-グループワークに積極的に参加し、当事者およびファシリテーターとしてのコミュニケーション力をつける-学生が主体的に学べる 1 回の授業および授業全体のデザインができる-基礎知識をふまえた評価をデザインできる-学んだ知識を模擬授業として活用し実施できる-キャリアパスについて考え、日頃の活動や今後の展望について整理できる
授 業 計 画	大学教育開発論は木曜クラス、金曜クラスの 2 つ開講していますが、どちらも同じ内容です。金曜クラスが受講できない場合、木曜クラスに振り替えて、受講することができます。授業は原則的に隔週で 2 コマ続きで行います。下記の日程の予定ですが、万が一変更がある場合には予めお知らせします。DAY1 4/18 研究紹介演習・高等教育の現在、東大 FFP の概要と意義「教員としての 1 分間研究紹介」の実践を行います。また、その参観と相互評価を通して、受講者相互の連携を高め、学ぶ環境を整えます。高等教育の変化について学び大学のおかれている状況を理解し、東京大学フューチャーファカルティプログラムの概要と意義を確認します。演習：1 分間研究紹介と相互評価 DAY2 4/25 クラスデザイン 授業設計の基礎を学びつつ、構成の指針と観点も踏まえて、自身が設定した授業科目の 1 コマを設計について学びます。学生の主体的な学習が『実る』ために不可欠なモチベーションについて理解します。学習者主体の授業方法として注目を集めているアクティブラーニングの複数の手法について体験を通して学びます。演習：アクティブラーニングの方法体験、6 分間クラスデザインシートの作成 DAY3 5/9 評価 授業における評価の方法や意義について理解します。学生の学びを促し、レポート課題等の評価に役立つルーブリックを作成します。演習：ルーブリックによる採点とルーブリックの作成 DAY4 5/16 コースデザイン（シラバス）シラバスの基本的構成を知り、作成の目的と役割の重要性について理解します。自身の専門についての初年次教育を担当すると仮定したシラバスを作成します。また、特に授業の構造化に役立つグラフィックシラバスに取り組みます。演習：シラバス改善、グラフィックシラバス作成 DAY5 5/30 授業改善とふりかえり 模擬授業の事例の授業改善を中心にしつつ学生参加をうながすようなファシリテーションについて学びます。これまでの授業全体を通じた振り返りを行い、学んだこと等についてポスターツアーを経験しながら共有します。演習：模擬授業検討会、ポスターツアー DAY6 6/13 模擬授業 ～実施(1)と改善～ 4 グループ程度にわかれ、模擬授業の演習を行います。メンバー同士で議論を重ねつつ、授業デザインや教授方法について学びを深めながら、模擬授業の改善をはかります。演習：模擬授業実施と相互評価 DAY7 6/27 模擬授業 ～実施(2)～ 2 グループ程度にわかれ、2 回めの模擬授業を実施し相互評価を行います。演習：模擬授業実施と相互評価 DAY8 7/11 SAP チャート作成によるキャリアパス展望 自分の教育・研究、その他の活動についてふりかえって俯瞰し、その活動の核を見出し

	す。大学教員としてのキャリアパスを展望します。演習:SAP チャート作成
授 業 の 方 法	全てオンラインで受講できます。基本はフルオンラインの授業ですが、DAY8 のみハイブリッドで実施予定です。本授業では、アクティブラーニングの実際の方法を体験的に学ぶことを目的として、グループワークやペアワークをはじめとする相互学習形式を多く取り入れますので、ただ聴くだけではなく積極的な授業参加が求められる授業です。これらは、全てオンライン形式で実施します。携帯電話やタブレットのみでは受講できません。PC での受講が必須となります。また、本授業は基本的に日本語でのコミュニケーションを前提としています。英語で本内
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況 25%課題の提出状況および質的評価 75%(内訳)100 点満点とした場合の各配点授業の参加状況 25 個人ワークへの取り組み 10 グループワークへの貢献 15 * 授業の参加状況については、基本的な受講態度を考慮します。授業に集中し、真摯に取り組むグループワークや全体に貢献する姿勢を評価します。授業中に他用を行う、グループワークの進行を妨げる、加わらない、などの態度が見られる場合に減点とします。 * ただし、模擬授業の回については、原則出席してください。2 回(DAY6,DAY7)とも欠席の場合は、修了条件である「欠席回数が 2 回以下」を満たしていても、特別な場合を除き修了とは認められません。課題の提出状況および質的評価 75 研究紹介の実施 6 シラバス・グラフィックシラバス 15 クラスデザイン 10 模擬授業 20 各回の振り返り 24(3*8 回)
教 科 書	教科書は特に定めません。配布資料によって授業を進めます。
履修上の注意・備考	3 月中旬になるとエントリーフォームがオープンします。定員(25 名)がありますので選考を行います。単なる授業登録のみでは受講は認められませんのでご注意ください。前提知識は特に必要としません。本学の正規大学院生は「大学教育開発論」として 2 単位が認められます。単位取得を希望する者は、各研究科にて受講登録を行ってください(単位取得を希望しない場合には受講登録は不要です)。
そ の 他	(受講ルール) -本授業は一日で 2 コマ連続の実施です。基本的に全ての回に出席してください。授業における学習者間の学びが重要と考えますので、4 コマ分(2 日間)を越えて休んだ場合はいかなる理由でも不可とし、修了とはみなしませんが、やむを得ない場合異なる曜日開講の授業の振替受講が可能です)。なお、この例外として、DAY6,DAY7 いずれも欠席となる場合には、4 コマ分以内であっても修了とはみなしませんが(模擬授業の実施が大変重要であるためです)。(欠席の場合には授業日午前 10 時までに欠席

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-214-16	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	栗田 佳代子				
授 業 科 目	共通科目				
講 義 題 目	大学教育開発論 Teaching Development in Higher Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	授業の概要 現在、大学教員としてのキャリアを進むにあたっては、研究者としてだけでなく、教育者としての資質も問われています。本授業は、東京大学フューチャーファカルティプログラムとして、学生が主体的に学ぶために必要な学生のモチベーションの高め方、授業デザインやシラバス、評価方法などを学びます。また、アクティブラーニングの手法を取り入れたグループワークを多く経験し、模擬授業の実践も行います。多様な研究領域から集う受講者相互の学び合いは、新しい視点の獲得につながり、また、プログラムの修了後も継続するネットワークを培います。本授業で学んだことは「目的・目標を明確にし、達成するためのデザイン」や「伝えたいことが確かに相手に伝わるコミュニケーション」を学ぶという点で研究活動の向上にも活かせることでしょう。また、新型コロナウイルス感染症への対応のためすべての授業回をオンラインでの開催となりますが、オンライン授業の特性を生かした授業を体験し、自らも実施できることを目指します。目的と目標（目的）本授業では、未来の大学教員として、責務としての「教育」の重要性を認識し、学生の立場にたった教育の設計と実行を可能にすることを目的とします。そのために、授業実施に向けた実践的な知識やスキルを多様な専門領域の受講生とともに実際に体験し、互いに学び合いながら獲得し、さらに、研究だけでなく教育についても探究し続ける姿勢を身につけます。（目標）-高等教育の現状の概要について説明できる-効果的なデリバリースキルの観点を知り、自分のスキルの向上につなげる-グループワークに積極的に参加し、当事者およびファシリテーターとしてのコミュニケーション力をつける-学生が主体的に学べる 1 回の授業および授業全体のデザインができる-基礎知識をふまえた評価をデザインできる-学んだ知識を模擬授業として活用し実施できる-キャリアパスについて考え、日頃の活動や今後の展望について整理できる
授 業 計 画	大学教育開発論は木曜クラス、金曜クラスの 2 つ開講していますが、どちらも同じ内容です。金曜日に出られない場合、木曜の授業に振替をすることができます。授業は原則的に隔週で 2 コマ続きで行います。下記の日程の予定ですが、万が一変更がある場合には予めお知らせします。DAY1 4/19 研究紹介演習・高等教育の現在、東大 FFP の概要と意義「教員としての 1 分間研究紹介」の実践を行います。また、その参観と相互評価を通して、受講者相互の連携を高め、学ぶ環境を整えます。高等教育の変化について学び大学のおかれている状況を理解し、東京大学フューチャーファカルティプログラムの概要と意義を確認します。演習：1 分間研究紹介と相互評価 DAY2 4/26 クラスデザイン 授業設計の基礎を学びつつ、構成の指針や観点も踏まえて、自身が設定した授業科目の 1 コマを設計について学びます。学生の主体的な学習が『実る』ために不可欠なモチベーションについて理解します。学習者主体の授業方法として注目を集めているアクティブラーニングの複数の手法について体験を通して学びます。演習：アクティブラーニングの方法体験、6 分間クラスデザインシートの作成 DAY3 5/10 評価 授業における評価の方法や意義について理解します。学生の学びを促し、レポート課題等の評価に役立つルーブリックを作成します。演習：ルーブリックによる採点とルーブリックの作成 DAY4 5/17 コースデザイン（シラバス）シラバスの基本的構成を知り、作成の目的と役割の重要性について理解します。自身の専門についての初年次教育を担当すると仮定したシラバスを作成します。また、特に授業の構造化に役立つグラフィックシラバスに取り組みます。演習：シラバス改善、グラフィックシラバス作成 DAY5 5/31 授業改善とふりかえり 模擬授業の事例の授業改善を中心にしつつ学生参加をうながすようなファシリテーションについて学びます。これまでの授業全体を通した振り返りを行い、学んだこと等についてポスターツアーを経験しながら共有します。演習：模擬授業検討会、ポスターツアー DAY6 6/14 模擬授業 ～実施(1)と改善～ 4 グループ程度にわかれ、模擬授業の演習を行います。メンバー同士で議論を重ねつつ、授業デザインや教授方法について学びを深めながら、模擬授業の改善をはかります。演習：模擬授業実施と相互評価 DAY7 6/28 模擬授業 ～実施(2)～ 2 グループ程度にわかれ、2 回めの模擬授業を実施し相互評価を行います。演習：模擬授業実施と相互評価 DAY8 7/12 SAP チャート作成によるキャリアパス展望 自分の教育・研究、その他の活動についてふりかえって俯瞰し、その活動の核を見出します。大学教員とし

	でのキャリアパスを展望します。演習:SAP チャート作成
授 業 の 方 法	全てオンラインで受講できます。基本はフルオンラインの授業ですが、DAY8 のみハイブリッドで実施予定です。本授業では、アクティブラーニングの実際の方法を体験的に学ぶことを目的として、グループワークやペアワークをはじめとする相互学習形式を多く取り入れますので、ただ聴くだけではなく積極的な授業参加が求められる授業です。これらは、全てオンライン形式で実施します。携帯電話やタブレットのみでは受講できません。PC での受講が必須となります。また、本授業は基本的に日本語でのコミュニケーションを前提としています。英語で本内
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況 25%課題の提出状況および質的評価 75%(内訳)100 点満点とした場合の各配点授業の参加状況 25 個人ワークへの取り組み 10 グループワークへの貢献 15 * 授業の参加状況については、基本的な受講態度を考慮します。授業に集中し、真摯に取り組むグループワークや全体に貢献する姿勢を評価します。授業中に他用を行う、グループワークの進行を妨げる、加わらない、などの態度が見られる場合に減点とします。 * ただし、模擬授業の回については、原則出席してください。2 回(DAY6,DAY7)とも欠席の場合は、修了条件である「欠席回数が 2 回以下」を満たしていても、特別な場合を除き修了とは認められません。課題の提出状況および質的評価 75 研究紹介の実施 6 シラバス・グラフィックシラバス 15 クラスデザイン 10 模擬授業 20 各回の振り返り 24(3*8 回)
教 科 書	教科書は特に定めません。配布資料によって授業を進めます。
履修上の注意・備考	3 月中旬にエントリーフォームがオープンします。定員(25 名)がありますので選考を行います。単なる授業登録のみでは受講は認められませんのでご注意ください。前提知識は特に必要としません。本学の正規大学院生は「大学教育開発論」として 2 単位が認められます。単位取得を希望する者は、各研究科にて受講登録を行ってください(単位取得を希望しない場合には受講登録は不要です)。
そ の 他	(受講ルール) -本授業は一日で 2 コマ連続の実施です。基本的に全ての回に出席してください。授業における学習者間の学びが重要と考えますので、4 コマ分(2 日間)を越えて休んだ場合はいかなる理由でも不可とし、修了とはみなしませんが(原則登録曜日の受講としますが、やむを得ない場合異なる曜日開講の授業の振替受講が可能です)。なお、この例外として、DAY6,DAY7 いずれも欠席となる場合には、4 コマ分以内であっても修了とはみなしませんが(模擬授業の実施が大変重要であるためです)。(欠席の場合には授業日午前 10 時までに欠席

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-214-17	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	栗田 佳代子				
授 業 科 目	共通科目				
講 義 題 目	大学教育開発論 Teaching Development in Higher Education				

授業の目標・概要	
授 業 計 画	
授 業 の 方 法	
成 績 評 価 方 法	
教 科 書	
履修上の注意・備考	
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-214-18	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	栗田 佳代子				
授 業 科 目	共通科目				
講 義 題 目	大学教育開発論 Teaching Development in Higher Education				

授業の目標・概要	
授 業 計 画	
授 業 の 方 法	
成 績 評 価 方 法	
教 科 書	
履修上の注意・備考	
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-214-19	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	栗田 佳代子、HERVAS NICOLAS GABRI				
授 業 科 目	共通科目				
講 義 題 目	Teaching Development in Higher Education in English Teaching Development in Higher Education in English				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	This course (also called “The University of Tokyo Global Future Faculty Development Program” and represented with the acronym “UTokyo Global FFDP”) aims to contribute to the educational development of future university teachers. Participants learn about teaching & learning methods and assessment strategies, how to enhance students’ active learning, how to design a syllabus and lessons with a learner-directed approach, and how to engage into the teaching profession maintaining an inclusive stance. The course emphasizes the development of a critical and scholarly approach to the teaching profession, inviting the participants to learn through reflection, discussion, and learning by doing. The course is based on flipped classroom; participants watch short videos before the class and in class discuss, reflect, and practice with their peers. UTokyo Global FFDP seeks to contribute to the training of future faculty members. To do so, it aims to: ▪ Promote professional & educational reflection, discussion, and critical pedagogical thinking. ▪ Contribute to the development of key educational & transversal competences to support learner-directed teaching-learning processes. ▪ Nurture a scholarly, evidence-based, inclusive & ethical approach to teaching to educational research. ▪ Provide learning by doing opportunities for a congruent educational development. ▪ Support a cross-cultural & global approach to the academic profession and to teaching and learning. ▪ Cultivate continuous development, lifelong learning, and community-building attitudes and opportunities.
授 業 計 画	*The contents of the course below may be changed. 0. Briefing We introduce ourselves, present the course, explore the learning environment, and solve doubts before beginning. 1. The science of learning. How do students learn? We explore and discuss what the science of learning tells us about how people learn and its practical implications over the design of our courses and lessons. Many of these ideas involve an inclusive approach to education. 2. Teaching-learning methods, strategies, & techniques. How can we contribute to the students’ learning? We build on Day 1 to discuss active learning and learn and practice in relation with different methods, strategies and techniques that promote it. Among others, we address flipped classroom, peer-instruction, TBL, jigsaw, fishbowl, etc. 3. Assessment, feedback, and rubrics. How can we obtain information on how/what students learn? We learn and practice in relation with the different purposes of assessment, when/how/who can be involved, and its connections with formative feedback. Also, we practice the creation of questions for multiple-choice tests and rubrics. 4. Course and syllabus design. How can we design and improve our courses and syllabi? We learn and practice in relation with course and syllabus design, exploring their different components (with special emphasis on learning outcomes), and the integration of what we learnt on Day 2 and Day 3. 5. Class design. How can we design, deliver, and improve our classes? Building on the previous sessions, we learn and practice in relation with how to structure a class and its components/sequence. Participants design a brief class that they will teach in the following days. 6. Class design & instruction I. How can we design, deliver, and improve our classes? We teach the brief class designed during Day 5 and receive constructive feedback from our peers to improve it. 7. Class design & instruction II. How can we design, deliver, and improve our classes? We teach the same class (modified after receiving feedback) and we receive feedback to continue improving it. 8. Deconstructing knowledge and career paths. Is what we learnt unquestionable? And, from now on, which is my path as a university teacher? We problematize some contents addressed during the course, generating reflection and critical thinking. Also, we address our career paths as academics in higher education and reflect about our future career paths.
授 業 の 方 法	The following are the key features of this course in terms of its methods and format: ▪ Flipped classroom. Different sessions require to, beforehand, watch a video to make class participation fruitful. ▪ online (Zoom

	platform).▪ Google Classroom as a learning
成績評価方法	Assessment in this course is a continuous process with two goals: (1) offering qualitative feedback to guide learning, and (2) gathering information to adjust the course to the participants' learning moment. Grading involves a 100-point allotment system and includes two segments. These two segments incorporate activities that make possible to demonstrate the achievement of the learning outcomes. To complete the course, participants need to get a pass in both segments (assessment criteria are shared at the beginning of the course): a)Engagement and contribution during the classes: 25 points. Quality and quantity of the participants' contributions during the classes/groupwork (to assess by the participants through peer-/self-assessment and by the lecturer). b)Assignments: 75 points. Mainly assessed by the lecturer with sporadic peer-assessment.▪ Syllabus design: 25 points.▪ Class design & instruction: 25 points.▪ Other class assignments: 25 points.
教科書	None. Video materials, handouts and references for the different topics will be provided.
履修上の注意・備考	These are basic policies to follow the course satisfactorily. They are open to the participants' insights, and we will make our best to accommodate personal circumstances, so please let us know when these emerge.▪ Attendance. The course relies on cooperati
その他	Personal message to the participantsThis is Gabriel, lecturer of the course! If you read the whole syllabus to this point, congratulations and thank you! If not (…), try to do it; I know you have little time, but it can solve some doubts that might emerge

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時 間 割 コー ド	23-215-01	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	清河 幸子				
授 業 科 目	教授・学習心理学基本研究				
講 義 題 目	教授・学習過程の心理学 I Psychology of Learning and Instruction I				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	様々な心理学的現象がなぜ生じるのかについて、妥当かつシンプルな説明を示すことは研究を進めていく上で必須である。本科目では、各自の関心に合った英語論文を選定し、そこで示されている現象について、各自が説明を提示し、よりよい説明となるよう議論する。なお、現象は教授・学習もしくは認知心理学領域のものを歓迎するが、これに限定しない。
授 業 計 画	心理学的現象に関する説明を考え、よりよい説明となるよう、参加者全員で討論を行う。
授 業 の 方 法	出題者は英語論文を選定し、説明の対象となる現象について簡単にまとめ、報告する。それを受けて、「その現象がどのようにして生じたのか」についての説明を参加者全員が考え、課題として提出する。授業時には「たたき台」となる説明を中心に、どのような説明が望ましいかを全員で議論する。なお、より具体的な進め方については、初回授業時に詳しく説明する。
成 績 評 価 方 法	出題者としての発表、課題の提出、授業時の議論への参加によって総合的に評価する。
教 科 書	使用しない。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	担当回数は受講者数に応じて決定する。課題は毎回出される。積極的な参加を期待する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-215-02	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	遠藤 利彦				
授 業 科 目	発達心理学基本研究				
講 義 題 目	感情と進化・文化 Evolutionary and Cultural Psychology of Human Emotions				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	私たちが日々、経験した表出する種々の感情は、私たち個々人の内的生活や心理・生理的適応において、また私たち個人と他者との関係性の構築や維持において、あるいはまた私たちを取り巻く社会・文化的風土(climate)の形成において、きわめて多様かつ不可欠の役割を果たしていると考えられる。この演習では、主に進化に由来する感情の基本的性質と、それと人間関係、集団、文化との関わりなどについて広く概観・整理したテキストを批判的に精読することを通して、私たちの日常の社会的な生活全般における感情の機能と意味について、進化論と文化論、両方の視座から深く統合的に考究することにした。
授 業 計 画	初回に各回の担当者を定め、全体のスケジュールを組む。
授 業 の 方 法	各回の担当者が、テキストにおける担当箇所の概要とそれに対する自身のコメントを発表し、それに基づいて全員参加型の議論を行う。また、必要に応じて、教員が補足的あるいは発展的な内容の講義を行うものとする。
成 績 評 価 方 法	授業への出席状況と発表内容および毎回の議論への参加度などに基づいて、総合的に評価を行う。
教 科 書	教員が複数のテキストの候補を挙げ、参加者と相談の上、その内の1～2冊を選択・決定する。
履修上の注意・備考	授業時に指示する参考文献等に、授業後、可能な限り、目を通すこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-03	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	針 生 悦 子				
授 業 科 目	発達心理学基本研究				
講 義 題 目	ことばと認知の発達 I Language and Cognitive Development I				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	言語を獲得するとはどのようなことで、そのためには何が必要なのか。また、言語を獲得することで、思考や認知、人とのかかわり方などはどのような影響を受けるのか。このような問題意識のもと、基本的な文献の購読を行う。
授 業 計 画	この領域の基本文献をとりあげ、輪読する。
授 業 の 方 法	演習
成 績 評 価 方 法	授業における発表、討論への参加、レポートによる。
教 科 書	初回授業時に指示する。
履修上の注意・備考	初回授業時において、発表の割り当てやスケジュールなどを決定するので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-04	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	岡田 猛				
授 業 科 目	教育認知科学基本研究				
講 義 題 目	創造的認知の心理学 I Psychology of Creative Cognition I				

授 業 の 目 標・概 要	創造性、特に芸術表現活動についての心理学的・認知科学的な研究に関する文献講読により、この領域の基礎的な知見を獲得することを目指す。
授 業 計 画	文献の講読今年度は、広い意味で創造性に関連する論文を読んで議論する。論文のリストは初回の授業で配布。
授 業 の 方 法	広い意味での創造性や芸術創作活動に関する文献を通年で講読する。参加者には、毎回の授業に出席し議論に参加することと、担当論文の発表が求められる。社会人院生の受講しやすさのため、オンラインで授業を実施する予定である。
成 績 評 価 方 法	授業への出席と議論への参加、及び担当論文の発表。
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	毎回の出席
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-05	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	岡田 謙介				
授 業 科 目	教育情報科学基本研究				
講 義 題 目	心理統計学演習 Seminar on Psychological Statistics				

授 業 の 目 標・概 要	本科目は、(必ずしも統計学を専門としない)心理学を専攻する大学院生を主たる対象として、心理学研究を行う上で遭遇する課題に対して自ら取り組み、解決する力を養うことを大きな目的として開講する。本年度は、とくにベイズファクターを用いた心理学研究における仮説やモデルの評価を主題とし、こうした応用や実践を行っている論文、もしくはこれに関連する理論的な論文を各自が探し、読み、共有しあった上で、方法論的な観点を含めた議論を行う。参加者には、心理学の方法論に関連する英語論文・文献を読み、発表し、議論することが求められる。
授 業 計 画	初回において、心理学研究におけるベイズファクターを用いた仮説やモデルの評価に関するイントロダクションを行い、文献の例を提示する。第2回以降は、各発表者が自ら担当する論文を探し、それに関する発表をしてもらった上で議論を行う。授業計画は以下のとおりだが、受講者数に応じて適宜変更を行う。1. 心理学研究におけるベイズファクターを用いた仮説・モデルの評価に関するイントロダクション2. 先行研究の調査・文献収集3. 研究例の検討・議論(1)4. 研究例の検討・議論(2)5. 研究例の検討・議論(3)6. 研究例の検討・議論(4)7. 研究例の検討・議論(5)8. 研究例の検討・議論(6)9. 研究例の検討・議論(7)10. 研究例の検討・議論(8)11. 研究例の検討・議論(9)12. 研究例の検討・議論(10)13. 研究例の検討・議論(11)14. 研究例の検討・議論(12)15. まとめと考察、議論
授 業 の 方 法	演習形式による
成 績 評 価 方 法	発表内容と議論への参加などを総合的に評価する
教 科 書	関連文献を適宜指示する。参考文献は以下のとおり。岡田謙介(2018)ベイズファクターによる心理学的仮説・モデルの評価. 心理学評論, 61(1), 101-115.大久保街亜・岡田謙介(2012). 伝えるための心理統計: 効果量・信頼区間・検定力. 勁草書房. 南風原朝和(2014). 続・心理統計学の基礎—統合的理解を広げ深める. 有斐閣.
履 修 上 の 注 意・備 考	履修を考えている学生は必ず初回に参加すること(事情により参加できない場合には連絡すること)。発表者は自身のノート PC 等を持参して発表を行うことを原則とする。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-06	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	岡田 謙介				
授 業 科 目	教育情報科学基本研究				
講 義 題 目	心理統計学特論 Advanced Psychological Statistics				

授 業 の 目 標・概 要	本科目では、Psychological Review, Journal of Mathematical Psychology, Computational Brain & Behavior といった専門誌の論文購読を通して数理心理学の現在を学び、その内容と方法について考察することにより、最新の研究成果や方法を自身の研究に活用できるようになることを目標とする。授業では各回の担当者が自ら選択した論文について発表し、全員で討論を行う。
授 業 計 画	授業計画は以下のとおりだが、受講者数に応じて適宜変更を行う。1. 数理心理学に関するイントロダクション2. 先行研究の調査・文献収集3. 研究例の検討・議論(1)4. 研究例の検討・議論(2)5. 研究例の検討・議論(3)6. 研究例の検討・議論(4)7. 研究例の検討・議論(5)8. 研究例の検討・議論(6)9. 研究例の検討・議論(7)10. 研究例の検討・議論(8)11. 研究例の検討・議論(9)12. 研究例の検討・議論(10)13. 研究例の検討・議論(11)14. 研究例の検討・議論(12)15. まとめと考察、議論
授 業 の 方 法	演習(文献講読・議論)による
成 績 評 価 方 法	発表内容および議論への参加などに基づいて総合的に評価する。
教 科 書	Psychological Review, Journal of Mathematical Psychology, Computational Brain & Behavior 等の専門誌に掲載された論文を扱う
履修上の注意・備考	発表には各自の PC を利用してもらう予定である。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-07	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	植 阪 友 理				
授 業 科 目	教育認知科学基本研究				
講 義 題 目	教育認知科学特論 Seminar in Educational Cognitive Science				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	心理学的研究を行う上では、心理学的論文を批判的かつ建設的に見ることは重要なスキルである。そこで、この授業では、リサーチャー・ライク・アクティビティ(RLA)の一貫として「査読者になったつもりでコメントを書く」活動を行う。さらにそのコメントをめぐって、授業の中で議論を行う。最終的には、自分が研究を計画したり、論文を書いていく上での視点などを身につけることを目指す。参加者は、自分の興味関心がある領域の心理学系論文を1本選び、査読コメントを書く。1回目のコメントの際には、良いコメントとはどのようなものかについても共有する。論文は基本的に日本語の論文を用いる。単位を取ることを希望するものについては、欠席した場合には、その授業で扱われた論文に対するコメントを流すことを必須とする。
授 業 計 画	初回にガイダンスを行う。受講を希望する可能性のある学生は、必ず出席すること。初回のみ、「コメントとは？」を共有する。それ以降は毎回、学生がそれぞれの関心で選んだ論文を取り上げ、査読コメントを書いて共有し、議論する。授業の最後には、簡単なレポートを求める。その中で、コメント対象、論文大賞についても投票してもらうので、授業中に使用したレジュメや論文については廃棄しないこと。
授 業 の 方 法	担当者が発表したのち、グループおよび全体で議論する。
成 績 評 価 方 法	選んだ論文に対するコメント、授業中の議論への参加態度、授業後の振り返りシートへの記入状況、最終レポートへの回答から総合的に判断する。
教 科 書	適宜、指示する。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	授業に関する連絡は全てSlackを通じて行う。このため、受講する可能性があるものは、必ず初回に参加して登録すること。また、単位を取ることを希望する場合で、やむを得ず欠席する場合には、授業の前もしくは後にコメントをスラック上に流すことで、授業に参加したと同等であるとみなす。欠席後、コメントを流していない場合には、単位の取得にかかわることがあるため、留意すること。
そ の 他	心理学系論文に慣れていない学生については、追加で学ぶ必要がある可能性がある。その場合には、他のゼミ受講者や講師に相談すること。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-08	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	清河 幸子				
授 業 科 目	教授・学習心理学特殊研究				
講 義 題 目	教授・学習過程の心理学Ⅱ Psychology of Learning and InstructionⅡ				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	学習・問題解決を中心とした認知活動において、他者の取り組みやアイデアを参照することが果たす役割について検討した心理学的知見や、実験を主とした研究方法について理解することを目標とする。
授 業 計 画	学習・問題解決を中心とした認知活動において、他者の取り組みやアイデアを参照することが果たす役割について検討した実証研究を毎回発表者が紹介し、そこで明らかになったこと、今後検討すべき課題は何か等について受講者全員で討論する。初回授業時により具体的な進め方について指示を行うので、履修予定の人は必ず出席すること。
授 業 の 方 法	毎回2名が発表者となって、テーマに合致した実証研究を紹介する。その後、全員で討論を行う。
成 績 評 価 方 法	発表および討論への参加により評価する。
教 科 書	指定しない。
履修上の注意・備考	積極的な参加を期待する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-215-09	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	遠藤 利彦				
授 業 科 目	発達心理学特殊研究				
講 義 題 目	関係性と子どもの社会情緒的発達 Relationships and Children's Socio-Emotional Development				

授 業 の 目 標・概 要	近年の発達心理学およびその周辺諸科学の成果を広く概観・整理したテキストを精読しながら、特に子どもの社会情緒的発達の様相、および、それらに養育環境、とりわけ種々の関係性(親子関係や家族関係など)や社会文化の特質がいかなる影響を及ぼし得るかについて基本的知見を得る。また、早期段階における個人差が何に起因して生じ、また、それがその後の生涯発達過程においてどのような連続性あるいは不連続性を呈するかなどについても、遺伝と環境に関する最新の諸議論を踏まえつつ考究することとしたい。
授 業 計 画	初回に各回の担当者を定め、全体のスケジュールを組む。
授 業 の 方 法	各回の担当者が、テキストにおける担当箇所の概要とそれに対する自身のコメントを発表し、それに基づいて全員参加型の議論を行う。また、教員が必要に応じて、補足的あるいは発展的な内容の講義を行うものとする。
成 績 評 価 方 法	授業への出席状況と発表内容および毎回の議論への参加度などに基づき、総合的に評価を行う。
教 科 書	教員が複数のテキストの候補を挙げ、参加者と相談の上、その内の1～2冊を選択・決定する。
履修上の注意・備考	授業時に指示する参考文献等に、授業後、可能な限り、目を通すこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-10	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	針 生 悦 子				
授 業 科 目	発達心理学特殊研究				
講 義 題 目	ことばと認知の発達Ⅱ Language and Cognitive Development Ⅱ				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	言語や認知、社会性、またそれらの発達をアツカフた研究論文の購読を通じて、最新の研究動向、研究手法などについて学ぶ。
授 業 計 画	参加者が、論文を担当し、順次発表を行っていく。
授 業 の 方 法	演習形式
成 績 評 価 方 法	授業における発表や、討論への貢献、レポート
教 科 書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	初回授業時に、担当の割り当てをするので、履修希望者は必ず初回の授業に参加すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-215-11	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	岡田 猛				
授 業 科 目	教育認知科学特殊研究				
講 義 題 目	創造的認知の心理学Ⅱ Psychology of Creative Cognition Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	創造性、特に芸術表現活動についての心理学的・認知科学的な研究に関する文献講読により、この領域の基礎的な知見を獲得することを目指す。
授 業 計 画	文献の講読今年度は、広い意味で創造性に関連する論文を読んで議論する。論文のリストは初回の授業で配布。
授 業 の 方 法	広い意味での創造性や芸術創作活動に関する文献を通年で講読する。参加者には、毎回の授業に出席し議論に参加することと、担当論文の発表が求められる。オンラインで授業をする予定である。
成 績 評 価 方 法	授業への出席と議論への参加、及び担当論文の発表。
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	毎回の出席
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-215-12	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	宇佐美 慧				
授 業 科 目	教育情報科学特殊研究				
講 義 題 目	量的研究法 Quantitative Research Methods				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	心理学を含め行動科学における今後の展開が期待される機械学習(Machine Learning)に関する基礎的事項と統計ソフト R を用いた分析の実際について幅広く学ぶ。
授 業 計 画	指定された教科書の輪読を中心に進める。
授 業 の 方 法	教科書の輪読。
成 績 評 価 方 法	出席状況, 発表内容, また必要に応じて実施する試験の成績等を通して総合的に判断する。
教 科 書	Jacobucci,R., Grimm,K.J., & Zhang,Z. (2023). Machine Learning for Social and Behavioral Research (Methodology in the Social Sciences Series). Guilford Press.
履修上の注意・備考	他学部履修を希望する者は事前に教員に連絡すること。
そ の 他	特になし。

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-215-13	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	宇佐美 慧				
授 業 科 目	教育情報科学特殊研究				
講 義 題 目	心理統計学の近年の展開 Recent Developments in Psychometrics				

授 業 の 目 標・概 要	海外誌 Psychological Methods や Psychometrika に掲載された論文を対象に輪読を行い、心理統計学の最新の研究動向について幅広く学ぶことを目指す。
授 業 計 画	各回の論文の担当者は担当した論文の内容を要約し、受講者へ説明する。
授 業 の 方 法	論文輪読
成 績 評 価 方 法	出席状況、発表内容、討論参加の程度によって総合的に判断する。
教 科 書	特に指定しないが、参考文献を適宜教示する
履修上の注意・備考	受講者間で広く関心が共有できる話題を扱った心理統計学の論文を、原則 Psychological Methods および Psychometrika から選定し輪読します。心理統計学や量的研究法に関する最新の研究動向や議論について学び、自身の研究・実践に活かしたいと考えている方の受講を歓迎します。発表では、粘り強く担当論文と向き合い、自分の得た理解を他人に分かりやすく整理して説明する作業を重視します。心理統計学に関する学部程度の知識は前提として進めます。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-14	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	植 阪 友 理				
授 業 科 目	教育認知科学特殊研究				
講 義 題 目	教育認知科学演習 Advanced in Educational Cognitive Science				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	前期には、1本の論文を精読する技術を身につけた。後期(本授業)では、一定数の心理学的論文を読み込み、その中からいかに自分のオリジナリティのある主張を作っていく、人に伝えるのかを学ぶ。本授業では、リサーチャー・ライク・アクティビティ(RLA)の一貫として「学会の講演者になったつもりでレビューを紹介する」という活動を行う。学生は、自分の関心ある領域の国内外の論文を50本から100本読み、オリジナリティの視点からまとめ、最終的に30分ほどの講演を行うことが求められる。修士論文をこれから書く学生については、自分の具体的な実証研究を始める前の準備としても捉えることができるが、学会の講演者のように、幅広い視野とオリジナルの視点を求めたい。授業では、テーマ決め、良いレビューとは何か？、実際のレビュー論文の購読、中間発表などを行う。
授 業 計 画	初回にガイダンスを行う。受講を希望する可能性のある学生は、必ず出席すること。最初の何回かでこれまでの発表のビデオなどをみて、最終的な発表のイメージを持ってもらう。その後、テーマ決めを行い、各自が自分の作業を進める。中間発表までに、いくつかのレビュー論文を読むとともに、「良いレビューとは」について知る機会を設ける。中間発表を行ったあとには、「良いプレゼントとは」について知る機会を設ける。最後は、ゼミ以外のメンバーも招いた会において発表を行う。
授 業 の 方 法	演習形式で行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加態度および最終発表、その後の簡単なレポートを使って総合的に判断する。
教 科 書	適宜、指示する。
履修上の注意・備考	授業に関する連絡は全てSlackを通じて行う。このため、受講する可能性があるものは、必ず初回に参加して登録すること。
そ の 他	なし

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-15	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	山下 直人				
授 業 科 目	教育情報科学特殊研究				
講 義 題 目	教育学・心理学のための多変量解析の基礎 Introduction of Multivariate Analysis				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育学・心理学における量的研究において必要となる、様々な多変量解析の手法について、その数学的基礎、理論的性質、データへの適用法、結果の解釈の方法を学ぶ。
授 業 計 画	多変量解析の各手法を学習するにあたって、その導出および性質の理解に必要となる、線形代数や行列演算について学ぶ。その後、回帰分析、主成分分析、因子分析のそれぞれについて、1)数学的定式化、2)パラメータ推定の具体的演算、3)理論的な性質、4)適用例の紹介を行う。講義の中で、統計解析環境 R を使用する場合がある。
授 業 の 方 法	オンラインを利用し、主に講義形式で行う。
成 績 評 価 方 法	最終レポートと、普段の講義中の態度（質疑応答や演習の出来栄え）によって総合的に評価する。
教 科 書	特に使用しない。
履修上の注意・備考	講義の予習として、事前にアップロードする資料に目を通し、質問事項を整理しておくことが望ましい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-215-16	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	日高 昇平				
授 業 科 目	教育情報科学特殊研究				
講 義 題 目	計算認知科学概論 Introduction to Computational Cognitive Science				

授 業 の 目 標・概 要	本講義では人の認知過程の説明とする認知科学を概観し、その計算論的アプローチの基礎を習得することを目標とする。モノ一般を追究する古典科学、特殊なモノである計算機を追究する計算機科学・情報科学に対して、特殊な計算機である脳あるいは認知過程を追究する科学の一つが認知科学である。そのため、計算機の物理的側面やアルゴリズムとしての側面と切り分けて、認知計算処理の計算理論的な側面を理解する必要がある。この考え方の習得を目指して、認知科学の諸相を学び、演習を通じて習得する。
授 業 計 画	1 イントロダクション: 認知科学の歩き方 2 情報処理の水準 3 認知科学の小史 4 認知科学論文に学ぶ 15 認知科学論文に学ぶ 26 中間発表 7 認知過程の説明・モデル・実装 8 学習と統計的モデル 9 実験計画法を学ぶ 10 認知実験演習 111 認知実験演習 212 認知実験演習 313 最終発表・総括
授 業 の 方 法	授業形式および演習形式(グループワーク)の混合による。
成 績 評 価 方 法	授業態度、演習レポート、および最終発表・レポートによって成績を評価する。
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	認知科学とはどういう分野であるか事前に調べておくこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-215-17	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	奈須 正裕				
授 業 科 目	教授・学習心理学特殊研究				
講 義 題 目	教育実践と心理学 Educational Practice and Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育心理学を巡っては、長年に渡り、その「不毛性」が指摘されてきたが、1980 年代以降は、自己変革を前提として、どのようにすれば心理学は実践に貢献できるか、そのためには教育心理学や、その担い手である研究者はどうあるべきかが真摯に問われてきた。我が国に限らず、近年の教育政策は心理学研究の知見や理論、概念等を数多く用いており、心理学や心理学者への期待には非常に高いものがある。この授業の前半では、いくつかの具体的なトピックに即して、我が国の教育課程政策における心理学の貢献可能性について議論する。それを受けて、後半では参加者各自の研究関心に基づき、どのような研究が展開できそうか、また知見や理論をどのように政策に活かしていけそうかについて、報告と討論を行う。参加者相互の闊達な交流を通して、各自の研究生活の在り方の問い直しと、新たな展望の獲得を期待したい。
授 業 計 画	1) 教育研究・教育理論における実践性とは何か2) 近年の教育課程政策における心理学研究の貢献8) ～13) 参加者による報告と討論
授 業 の 方 法	授業はすべて対面で実施する。前半の 7 回は、講義を行う。後半の 6 回は、参加者による報告と討論を行う。
成 績 評 価 方 法	報告と討論の内容(50%)授業後のレポート(50%)
教 科 書	適宜、資料を配布する。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	教育学研究の教育実践への貢献可能性について、主に心理学の立場から考える授業であり、心理学研究に関する一定の知識や理解を要するが、それ以外の専攻の学生の参加も歓迎する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-215-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	清河 幸子				
授 業 科 目	教授・学習心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育心理学, 特に教授・学習, 認知の分野で修士論文を執筆する学生に対して, 研究指導を行う。
授 業 計 画	修士論文の作成を念頭において, 大学院における研究について受講生が報告し, 参加者全員で討論を行う。
授 業 の 方 法	演習形式で行う。受講者は担当回に自らの研究の進捗状況について報告する。その報告に対して, 参加者全員で討論を行う。
成 績 評 価 方 法	各自の研究の進捗状況および, 討論への参加状況を踏まえて, 総合的に評価する。
教 科 書	使用しない。
履修上の注意・備考	開講日時は, 受講者と相談の上, 決定する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-215-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	清河 幸子				
授 業 科 目	教授・学習心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育心理学, 特に教授・学習, 認知の分野で博士論文を執筆する学生に対して, 研究指導を行う。
授 業 計 画	博士論文の作成を念頭において, 大学院における研究について受講生が報告し, 参加者全員で討論を行う。
授 業 の 方 法	演習形式で行う。受講者は担当回に自らの研究の進捗状況について報告する。その報告に対して, 参加者全員で討論を行う。
成 績 評 価 方 法	各自の研究の進捗状況および, 討論への参加状況を踏まえて, 総合的に評価する。
教 科 書	使用しない。
履修上の注意・備考	開講日時は, 受講者と相談の上, 決定する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-215-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	植 阪 友 理				
授 業 科 目	教育認知科学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育心理学、特に、教育認知科学分野において、学び手の学習過程の研究や、教師に関する研究、効果的な指導法検討などの研究を行い、修士論文を書こうとしている学生に対し、指導を行う。
授 業 計 画	受講者との個別面談により指導を行う。
授 業 の 方 法	演習形式による。
成 績 評 価 方 法	研究や発表等により、総合的に判断する。
教 科 書	適宜、指示する。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	Slack で情報をやり取りするため、メールにて連絡し、登録のための手続きをとること(yuri-uesaka@g.ecc.u-tokyo.ac.jp)。
そ の 他	植阪研究室は教育学部棟 250 号室に加えて、薬学部607も研究室として利用している。薬学部 607 で面談を行う場合には、以下の道案内に従って訪問されたい。薬学部正面玄関をはいり、目の前右手に見える渡り廊下を渡り、十字路で右に曲がること。十字路右手裏にあるエレベーターで6階にあがり、エレベーターをおりたら、渡り廊下をわたり、扉をあける。扉からみて、左側の部屋607が研究室。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-215-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	植 阪 友 理				
授 業 科 目	教育認知科学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育心理学、特に、教育認知科学分野において、学び手の学習過程の研究や、教師に関する研究、効果的な指導法検討などの研究を行い、博士論文を書こうとしている学生に対し、指導を行う。
授 業 計 画	受講者との個別面談により指導を行う。
授 業 の 方 法	演習形式による。
成 績 評 価 方 法	研究や発表等により、総合的に判断する。
教 科 書	適宜、指示する。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	Slack で情報をやり取りするため、メールにて連絡し、登録のための手続きをとること(yuri-uesaka@p.u-tokyo.ac.jp/yuri.uesaka@ct.u-tokyo.ac.jp)。
そ の 他	植阪研究室は教育学部棟 250 号室に加えて、薬学部607も研究室として利用している。薬学部 607 で面談を行う場合には、以下の道案内に従って訪問されたい。薬学部正面玄関をはいり、目の前右手に見える渡り廊下を渡り、十字路で右に曲がること。十字路右手裏にあるエレベーターで6階に上がり、エレベーターをおりたら、渡り廊下をわたり、扉をあける。扉からみて、左側の部屋607が研究室。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-215-22	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	遠藤 利彦				
授 業 科 目	発達心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	修士論文または博士論文の執筆に向けた研究指導を行う。
授 業 計 画	修士論文および博士論文に関わる研究指導を履修者と相談の上、順次、進めていく。
授 業 の 方 法	基本的に演習形式で行う。
成 績 評 価 方 法	平常点。
教 科 書	特に用いない。
履修上の注意・備考	基本的に、履修は指導学生に限る。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-215-23	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	遠藤 利彦				
授 業 科 目	発達心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	修士論文または博士論文の執筆に向けた研究指導を行う。
授 業 計 画	修士論文および博士論文に関わる研究指導を履修者と相談の上、順次、進めていく。
授 業 の 方 法	基本的に演習形式で行う。
成 績 評 価 方 法	平常点。
教 科 書	特に用いない。
履修上の注意・備考	基本的に、履修は指導学生に限る。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-215-24	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	針 生 悦 子				
授 業 科 目	発達心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	心理学, 特に, 認知, 言語, および発達の分野で修士論文を書こうとしている学生に対して, 研究指導, 論文指導をおこなう。
授 業 計 画	履修者各自の研究関心に合わせて, 関連文献の講読を行い, ディスカッションを通じて, 研究テーマの絞り込みを行う。具体的な研究計画を立てたあとは, データの収集, 収集したデータの検討を行い, 修士論文の作成をめざす。
授 業 の 方 法	演習形式。参加者は, 各自の研究の経過や見通しについて発表をおこない, それに対して, 討論・助言をおこなっていく。
成 績 評 価 方 法	演習における発言や発表を総合的に評価する。
教 科 書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	参加者はできるだけ, 自分は現在何に取り組んでいるか(問題の絞り込みか, 研究計画の立案か, データ収集か, データの解析か, 論文執筆か)を自覚し, その段階における自身の問題を明確にしなが, 授業にのぞむこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-215-25	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	針 生 悦 子				
授 業 科 目	発達心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	心理学, 特に, 認知, 言語, および発達の分野で博士論文を書こうとしている学生に対して, 研究指導, 論文指導をおこなう。
授 業 計 画	履修者各自の研究関心に合わせて, 関連文献の講読を行い, ディスカッションを通じて, 研究テーマの絞り込みを行う。具体的な研究計画を立てたあとは, データの収集, 収集したデータの検討を行い, 報告書(論文)を作成する。このようなプロセスの積み重ねにより, 博士論文の作成をめざす。
授 業 の 方 法	演習形式と個別指導。参加者各自の研究の経過や見通しにもとづき, 議論・助言をおこなっていく。
成 績 評 価 方 法	研究の進め方やその成果を総合的に評価する。
教 科 書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	参加者はできるだけ, 自分は現在何に取り組んでいるか(問題の絞り込みか, 研究計画の立案か, データ収集か, データの解析か, 論文執筆か)を自覚し, その段階における自身の問題を明確にしなが, 討論・指導にのぞむこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-215-26	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	野澤 祥子				
授 業 科 目	発達心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	保育、社会性の発達に関わるテーマについて、教育心理学的なアプローチによる論文執筆に向けた指導を行う。
授 業 計 画	下記のような研究の進捗状況に応じて、必要な指導・助言を行う。準備期：各自の研究のアイデアを共有し、関連文献をレビューするとともに研究計画を明確化する。実施期：研究計画に基づき研究を実施する。研究の進捗状況を共有する。分析期：得られたデータを分析する。分析結果を共有する。まとめ期：分析結果に基づき、論文化を行う。
授 業 の 方 法	各自の研究計画や進捗状況、論文執筆について指導・助言を行う。
成 績 評 価 方 法	総合的に判断する。
教 科 書	授業時に指定する。
履修上の注意・備考	自ら主体的に研究に取り組み、疑問点を明確にして授業に臨むこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-215-27	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	野澤 祥子				
授 業 科 目	発達心理学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	保育、社会性の発達に関わるテーマについて、教育心理学的なアプローチによる論文執筆に向けた指導を行う。
授 業 計 画	下記のような研究の進捗状況に応じて、必要な指導・助言を行う。準備期：各自の研究のアイデアを共有し、関連文献をレビューするとともに研究計画を明確化する。実施期：研究計画に基づき研究を実施する。研究の進捗状況を共有する。分析期：得られたデータを分析する。分析結果を共有する。まとめ期：分析結果に基づき、論文化を行う。
授 業 の 方 法	各自の研究計画や進捗状況、論文執筆について指導・助言を行う。
成 績 評 価 方 法	総合的に判断する。
教 科 書	授業時に指定する。
履修上の注意・備考	自ら主体的に研究に取り組み、疑問点を明確にして授業に臨むこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-215-28	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	岡田 猛				
授 業 科 目	教育認知科学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育心理学の論文指導を通して、院生の研究論文を執筆能力を高める。
授 業 計 画	院生の研究論文を執筆能力を高めるために、教育心理学の論文指導を行う。
授 業 の 方 法	個別指導
成 績 評 価 方 法	総合的に判断する。
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-215-29	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	岡田 猛				
授 業 科 目	教育認知科学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育心理学の論文指導を通して、院生の研究論文を執筆能力を高める。
授 業 計 画	院生の研究論文を執筆能力を高めるために、教育心理学の論文指導を行う。
授 業 の 方 法	個別指導
成 績 評 価 方 法	総合的に判断する。
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-215-30	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	岡田 謙介				
授 業 科 目	教育情報科学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	心理統計学を中心とする分野で修士論文・博士論文等を執筆する学生に対し、各自の研究と発表、議論を通して本質的な研究力を涵養することを目的とした研究指導および論文指導を行う。
授 業 計 画	大学院における研究の計画および進行状況について、受講生からの報告に基づいて討論を行う。原則的に毎週開講し1日につき2名が発表を行う。扱う内容の例は以下のとおり。1. 研究のプロセス2. 先行研究の調査3. リサーチ・クエスションの設定4. 研究デザインの立案5. 研究倫理6. データの収集7. データの分析8. 仮説の検証9. 統計モデリング10. モデルの評価11. モデル比較12. 結論の導出13. 研究結果の統合14. オープンサイエンス15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	ディスカッションを伴う演習形式による。
成 績 評 価 方 法	各個人の論文執筆過程における研究計画・進行状況、およびその成果を総合的に評価する。
教 科 書	使用しない
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-215-31	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	岡田 謙介				
授 業 科 目	教育情報科学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	心理統計学を中心とする分野で修士論文・博士論文等を執筆する学生に対し、各自の研究と発表、議論を通して本質的な研究力を涵養することを目的とした研究指導および論文指導を行う。
授 業 計 画	大学院における研究の計画および進行状況について、受講生からの報告に基づいて討論を行う。原則的に毎週開講し1日につき2名が発表を行う。扱う内容の例は以下のとおり。1. 研究のプロセス2. 先行研究の調査3. リサーチ・クエスチョンの設定4. 研究デザインの立案5. 研究倫理6. データの収集7. データの分析8. 仮説の検証9. 統計モデリング10. モデルの評価11. モデル比較12. 結論の導出13. 研究結果の統合14. オープンサイエンス15. 査読とリライトのプロセス
授 業 の 方 法	ディスカッションを伴う演習形式による。
成 績 評 価 方 法	各個人の論文執筆過程における研究計画・進行状況、およびその成果を総合的に評価する。
教 科 書	使用しない
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-215-32	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	宇佐美 慧				
授 業 科 目	教育情報科学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育心理学、とくに、心理統計・教育測定の分野で修士論文・博士論文を書こうとしている学生に対し、研究指導、発表指導、論文指導等を行う。
授 業 計 画	年間にわたり、随時行う。
授 業 の 方 法	研究指導、発表指導
成 績 評 価 方 法	総合的に判断する
教 科 書	指導時に適宜紹介する
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-215-33	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	宇佐美 慧				
授 業 科 目	教育情報科学論文指導				
講 義 題 目	教育心理学論文指導 Dissertation Research in Educational Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育心理学、とくに、心理統計・教育測定の分野で修士論文・博士論文を書こうとしている学生に対し、研究指導、発表指導、論文指導等を行う。
授 業 計 画	年間にわたり、随時行う。
授 業 の 方 法	研究指導、発表指導
成 績 評 価 方 法	総合的に判断する
教 科 書	指導時に適宜紹介する
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-01	単 位 数	1	学 期	S1S2
担 当 教 員	高橋 美保、林 潤一郎、野中 舞子、日下 華奈子、稲吉 玲美、瀧井 有美子				
授 業 科 目	臨床心理システム論基本研究				
講 義 題 目	臨床心理実習 I (心理実践実習) Practicum in Clinical Psychology I (Advanced Practical Training in Psychology)				

授 業 の 目 標・概 要	目的: 相談室を運営するにあたってどんな事例が来談し、どう対応すべきかを教員・他の学生とともに議論をすることを通して心理専門職として求められるケース・マネジメントやシステム・オーガニゼーションについて学ぶ。外部実習についても検討し、自信のあり方について内省する機会を得る。学内研修機関である心理教育相談室および学外の連携研修機関(精神科病院、クリニック、学校、産業組織など)において臨床業務に参加し、現場実習を行う。その経験の見直しを兼ねてカンファレンスにおいて事例検討を行う。形態として、受付事例を検討する初期カンファレンス、一定期間経過した事例を検討する臨床検討会・継続終結カンファ、各ゼミが合同して行う合同カンファレンス、外部実習について振り返る実習カンファに分かれる。
授 業 計 画	1.オリエンテーション 2.初期・実習カンファレンス(1)3.合同カンファレンス(1)4.臨床検討会(1)5.初期・実習カンファレンス(2)6.合同カンファレンス(2)7.臨床検討会(2)8.初期・実習カンファレンス(3)9.合同カンファレンス(3)10.臨床検討会(3)11.初期・実習カンファレンス(4)12.合同カンファレンス(4)13.臨床検討会(4)
授 業 の 方 法	受講生は、S1、S2 タームを通じて、学内の心理教育相談室での実習を行う。これに加えて保健医療分野、福祉分野、教育分野それぞれより、少なくとも1施設を選択して心理に関する支援の実習を総計 225 時間以上(心理教育相談室での実習は 150 時間以上、学外施設での実習は 75 時間以上)行う。なお、このうち 153 時間以上は、担当ケースに関する実習とする。毎回、小グループに分かれたケース検討という形で授業を進める。受講生による担当ケースの発表とグループ討議、教員からのコメントによって授業を構成する
成 績 評 価 方 法	実習に対する取組み、出席状況と授業における発表とアクティブな参加状況、必要に応じて課題として出すレポートにより総合的に判断する
教 科 書	特になし
履 修 上 の 注 意・備 考	受講者の積極的なコミットメントを期待したい
そ の 他	初回のオリエンテーションは 158 教室にて 10:25 より開催するので、必ず出席すること。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-02	単 位 数	1	学 期	A1A2
担 当 教 員	高橋 美保、野中 舞子、稲吉 玲美				
授 業 科 目	臨床心理システム論基本研究				
講 義 題 目	臨床心理実習Ⅱ Practicum in Clinical PsychologyⅡ				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理実習Ⅰに引き続いて内部実習および外部実習を継続する。テーマ:臨床心理実習Ⅱでは、特に修士課程終了の活動への移行に向けての準備を行う。複数の臨床心理スーパーバイザーからスーパービジョンを受けることを通じて、臨床現場で臨床心理士として活動するための社会性、倫理、他職種との協働などの知識と技能の獲得を主要な教育訓練の目標とする。
授 業 計 画	1.オリエンテーション 2.初期・実習カンファレンス(1)3.合同カンファレンス(1)4.臨床検討会(1)5.初期・実習カンファレンス(2)6.合同カンファレンス(2)7.臨床検討会(2)8.初期・実習カンファレンス(3)9.合同カンファレンス(3)10.臨床検討会(3)11.初期・実習カンファレンス(4)12.合同カンファレンス(4)13.臨床検討会(4)
授 業 の 方 法	学内臨床実習＋外部施設研修＋事例検討会受講生は、A1、A2 タームを通じて、学内の心理教育相談室での実習を行う。これに加えて保健医療分野、福祉分野、教育分野それぞれより、少なくとも1施設を選択して心理に関する支援の実習を総計 225 時間以上(心理教育相談室での実習は 150 時間以上、学外施設での実習は 75 時間以上)行う。なお、このうち 153 時間以上は、担当ケースに関する実習とする。毎回、小グループに分かれたケース検討という形で授業を進める。受講生による担当ケースの発表とグループ討議、教員からのコメントによって授
成 績 評 価 方 法	実習に対する取り組み、出席状況における発表とアクティブな参加状況、必要に応じて課題として出すレポートにより総合的に判断する
教 科 書	特になし
履 修 上 の 注 意・備 考	受講者の積極的なコミットメントを期待したい
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-03	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	能智 正博、野中 舞子				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論基本研究				
講 義 題 目	臨床心理学特論 I Clinical Psychology I				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学の初学者を対象に、臨床心理学的実践の全体像と実践に携わるにあたっての心構えについて学ぶ機会を提供する。ねらいは、講義とディスカッションを通じ、臨床心理学的実践の過程で必要とされる知識と技能を身につけることである。In this course, students will learn the basic attitude to proceed the learning process to become clinical psychologists. They will acquire the knowledge about ethics and basic competency through lecture and discussion.
授 業 計 画	§ 1-2: 心理援助専門職になることの意味／動機を探る § 3-5: 臨床心理学の教育訓練の過程や初学者の体験 § 6-7: 現場実習の基本(学内実習を中心に) § 8-10: 倫理について § 11-12: 専門性の見直しと発展 § 13: まとめ
授 業 の 方 法	レポーターによる発表と、グループディスカッションを中心を授業を進める。グループダイナミクスを利用しながらグループワークをファシリテートするやり方についても体験的に学ぶことが出来るような構成とする。
成 績 評 価 方 法	平常点(レポーターを努めること、ディスカッションへの参加姿勢)(50%)、授業の最後に提出する課題レポート(50%)によって評価する。
教 科 書	コーリー & コーリー(下山監訳)『心理援助の専門職になるために』 金剛出版
履修上の注意・備考	自らについて考える内容を含むため、講義内容に不安がある場合は事前に担当教員に相談すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-216-04	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	高橋 美保				
授 業 科 目	臨床心理システム論基本研究				
講 義 題 目	臨床心理学特論Ⅱ Clinical Psychology Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	特論Ⅰにおける臨床心理学の専門性についての基本的な理解を前提に、特論Ⅱでは実際の臨床現場で様々な社会システムと関わっていく際に求められる実践的な態度、知識、技能について講義する。社会的場面で働く際に必要な専門性や集団をマネジメントする技法について、講義とワーク、ディスカッションを通して実践的に学ぶことをねらいとする。
授 業 計 画	1. オリエンテーション 2. コミュニティにおける心理援助(1) 3. コミュニティにおける心理援助(2) 4. コミュニティにおける心理援助の実際(1) 5. コミュニティにおける心理援助の実際(2) 6. グループを通しての心理援助(1) 7. グループを通しての心理援助(2) 8. 家族を通しての心理援助(1) 9. 家族を通しての心理援助(2) 10. 人生の移行について理解する(1) 11. 人生の移行について理解する(2) 12. ストレスとバーンアウト(1) 13. ストレスとバーンアウト(2) 14. ストレスとバーンアウト(3) 15. 振り返り
授 業 の 方 法	テーマを選択し、テーマごとにグループで発表を担当する。毎回、発表とワーク、グループシェアリングを組みこむ。
成 績 評 価 方 法	発表、毎回のレポートにより総合的に評価する。
教 科 書	「心理援助の専門職として働くために」 金剛出版 下山晴彦(監訳)
履修上の注意・備考	発表をグループで担当することからも、グループ単位でのチームワークや集団力動を直に体験して頂きたい。全体シェアリングにおいても積極的な参加を求めます。
そ の 他	特になし

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-05	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	能智 正博				
授 業 科 目	臨床心理システム論基本研究				
講 義 題 目	臨床心理面接特論Ⅱ Interview Methods for Clinical Psychology Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	近年、臨床心理学的な研究において質的研究の技法に近年ますます注目が集まっている。心理療法やカウンセリングなどの実践においても、面接結果をていねいに読み解いていくための手続きや技法は、質的な調査インタビューから学ぶところが大きい。この授業では、基本的なテキストの輪読をして質的なインタビュー調査の全体像を理解した後、各自が収集した語りデータを素材として分析法の実習を行う。手法としては比較的オーソドックスなカテゴリー分析を基本としながら他の方法にも目配りを行い、幅広く質的データの分析法を理解することを目標とする。
授 業 計 画	以下のようなトピックを扱う。・インタビューの手順・ナラティブの分析の諸技法・初期コーディングの手続き・発展的コーディングの手続き
授 業 の 方 法	質的データの分析をいくつかのステップに分けて学んでいく。受講生がインタビューで得られたテキストを提供し、それをエクササイズのマテリアルとして用いながら分析手続きの実際を体験する。ストラウス版のグラウンデッドセオリーの分析法を基本とするが、M-GTA, S-CAT, TEA 等にも触れる。収集したテキストの分析は各自進めていき、最終的に、分析結果をもとにしたレポートを執筆する。
成 績 評 価 方 法	出席と授業への参加:50% レポート:50%
教 科 書	使用しない。
履修上の注意・備考	臨床心理学コース限定の授業なので、他コースの学生は受講できません。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-06	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	滝沢 龍				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論基本研究				
講 義 題 目	臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践) Seminar on Assessment of Clinical Psychology I (Theory and Practice of Psychological Assessment)				

授 業 の 目 標・概 要	<全体テーマ> 公認心理師の実践における心理的アセスメント、および精神医学的症候・症状の理論と実践への応用の意義、およびその方法を解説し、実践場面における相談、助言、指導にどう応用していくかを、実例も交えながら検討していく。テーマ: アセスメントおよび症候・症状学の基礎知識と方法の解説 * 臨床活動におけるアセスメントの役割 * 精神症状・症候の分類 * 異常心理学及び精神医学 * 生物-心理-社会モデルの中での活用法 * 見立ての形成: ケースフォーミュレーション * 初回面接
授 業 計 画	1. 臨床心理学と精神医学: アセスメント・症候と診断のガイダンス 2. アセスメント・症候・症状学に関する文献購読と発表①: ビデオ13. アセスメント・症候・症状学に関する文献購読と発表②: ビデオ24. アセスメント・症候・症状学に関する文献購読と発表③: ビデオ35. アセスメント・症候・症状学に関する文献購読と発表④: ビデオ46. アセスメント・症候・症状学に関する文献購読と発表⑤: ビデオ57. アセスメント・症候・症状学に関する文献購読と発表⑥: ビデオ68. アセスメント・症候・症状学に関する文献購読と発表⑦: ビデオ79. アセスメント・症候・症状学に関する文献購読と発表⑧: ビデオ810. アセスメント・症候・症状学に関する文献購読と発表⑨: ビデオ911. アセスメント・症候・症状学に関する文献購読と発表⑩: ビデオ1012. アセスメント・症候・症状学に関する文献購読と発表⑪: ビデオ1113. 総括と議論
授 業 の 方 法	1) 臨床心理アセスメント及び精神症候・症状学に関する文献購読と発表2) ビデオ等を活用した精神障害やそのアセスメントの解説3) アセスメントと症候・症状学についての研究成果の発表
成 績 評 価 方 法	平常点 (80%): リアクションペーパー (主に出席点) と授業への参加状況などによって評価する。発表 (20%): 担当発表
教 科 書	『第2巻・臨床心理アセスメント』松田修・滝沢龍 (編著) 東京大学出版会
履 修 上 の 注 意・備 考	臨床心理学コースの学生のみ受講可能。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-07	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	滝沢 龍、高橋 美保				
授 業 科 目	発達臨床心理学基本研究				
講 義 題 目	臨床心理査定演習Ⅱ Seminar on Assessment of Clinical Psychology Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	目標: 心理アセスメント—見立てをたてるということ—は、心理的な問題を理解するために不可欠である。アセスメントには、臨床心理面接におけるクライエントの話をもとに行う場合と、心理検査をもとに行う場合がある。本演習では後者の心理検査を用いたアセスメントに焦点化し、心理援助実践において使われる心理検査の概要を把握するとともに、それらを適切に実施し、アセスメントする能力を獲得することを目標とする。概要: はじめにアセスメント全体の概説を行い、次に、様々な心理検査についての概要の説明をした上で、受講者全員が互いに検査を実施しあい、検査結果を書きあげるという一連のワークを行う。本演習では、検査者としての検査スキル、アセスメント能力の向上を図るとともに、検査をされる側の体験をすることも重視している。
授 業 計 画	1. ガイダンス・医療領域における検査(滝沢)2. 様々な面接・質問紙検査1(滝沢)3. 様々な面接・質問紙検査2(滝沢)4. 神経心理検査(滝沢)5. 投映法(高橋)6. 質問紙法(高橋)7. 知能検査(高橋)8. 総合所見(高橋)9. ロールシャッハ・テスト1(中村)10. ロールシャッハ・テスト2(中村)11. ロールシャッハ・テスト3(中村)12. ロールシャッハ・テスト4(中村)13. 治療的アセスメント(高橋)
授 業 の 方 法	講義と実習をおこなう。
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況(出席と課題発表)などによって評価する。
教 科 書	適宜指示する。
履修上の注意・備考	臨床心理学コースの学生のみ受講可能。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-08	単 位 数	1	学 期	S1S2
担 当 教 員	高橋 美保、野中 舞子、稲吉 玲美				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論基本研究				
講 義 題 目	臨床心理基礎実習 I Basic Practicum in Clinical Psychology I				

授 業 の 目 標・概 要	<全体テーマ>臨床心理活動の基礎となる実践技能を解説し、その上でシミュレーション学習を通して技能を習得する。現場で実践活動を行うための最低限の技能を習得することが目的となる。テーマ:臨床面接法の基礎理論と技能実習 * 臨床面接法とは * 臨床面接法の基礎理論と技能 * 共感的面接技能の基礎訓練 * ロールプレイ実習1とグループ討議 * 査定の面接技能の基礎理論と技能 * ロールプレイ実習2とグループ討議 テキスト:「心理臨床の基礎1:心理臨床の発想と実践」岩波書店 下山晴彦(著)
授 業 計 画	§ 1～2:レクチャー「臨床面接法とは」§ 3～9: 共感を用いた臨床面接のロールプレイとその振り返り § 10～14: アセスメント面接のロールプレイとその振り返り § 15: 質疑応答
授 業 の 方 法	講義とロールプレイの実施及びテープ起こしデータを用いた小グループでの話し合いという形態で授業を進める
成 績 評 価 方 法	出席状況と授業へのアクティブな参加状況、学期末およびセッションの区切りで課すレポートとで総合的に判断する
教 科 書	「臨床心理学をまなぶ1 これからの臨床心理学」東京大学出版会 下山晴彦(著)「臨床心理学をまなぶ2 実践の基本」東京大学出版会 下山晴彦(著)
履 修 上 の 注 意・備 考	ロールプレイとその振り返りを用いての体験学習であるので、積極的なコミットメントを期待したい
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-216-09	単 位 数	1	学 期	S1S2
担 当 教 員	高橋 美保、能智 正博				
授 業 科 目	発達臨床心理学基本研究				
講 義 題 目	臨床心理基礎実習Ⅱ Basic Practicum in Clinical Psychology Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	対人援助の基礎を理解した上で、心理的支援が社会的活動であることを理解するために、心理職である前に組織人としての自覚を持ち組織や協働できる心理職の素養を身に付ける。また、実践で用いるプレイセラピーの理論を理解した上で、児童臨床現場で必要となる臨床心理アセスメントまで心理療法の基礎を学ぶ。さらに、実践に向けて、インテーク面接から心理的支援の流れまでを、事例や体験を通して包括的に学ぶ。
授 業 計 画	第1回：対人援助の基礎第2回：対人援助の基礎第3回：組織としての相談機関第4回：プレイセラピーとは何か第5回：プレイセラピーの基本第6回：プレイセラピーの基本第7回：プレイセラピーのケース検討第8回：臨床心理学的アセスメント第9回：臨床心理学的アセスメント第10回：インテーク面接第11回：ケースフォーミュレーション第12回：心理支援とは第13回：心理支援の流れ
授 業 の 方 法	概説とディスカッションを中心とする。ただし、内容によっては、ロールプレイやワークなども交える。
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況、学期末レポートにより総合的に評価する
教 科 書	心理職の学びとライフキャリアー働くことと生きること 高橋美保 東大出版会, 2022
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-10	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	高橋 美保、林 潤一郎、日下 華奈子、瀧井 有美子				
授 業 科 目	発達臨床心理学基本研究				
講 義 題 目	臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践) Interview Methods for Clinical Psychology I (Theory and Practice of Psychological Support)				

授 業 の 目 標・概 要	目標: 心理面接の基礎と、ケース運営の一連の流れを理解するとともに、様々な心理療法や臨床実践における多様な関わりを学び、臨床実践力を高めることを目的とする。概要: 実際のケース運営と心理実践の様々な技法のポイントについて理解を深める。具体的には心理相談が、どのように始まりどのような経過を経て終わって行くのかについて、一連の流れを理解する。さらに、様々な心理療法の理論や技法を習得することに加え、臨床実践における多様な関わりを理解し、臨床実践を行うための基礎を習得する。
授 業 計 画	第1回: 試行カウンセリング振り返り第2回: ケースフォーミュレーション第3回: ケースマネジメント第4回: 適切な支援方法の選択・調整第5回: 来談者中心療法第6回: 力動的な心理療法第7回: 行動論、認知論に基づく心理療法第8回: 家族療法第9回: 保護者面接・並行面接第10回: 多文化間カウンセリング第11回: チームワークとリーダーシップ第12回: 地域支援と協働第13回: コンサルテーション
授 業 の 方 法	各テーマについての概説とディスカッションを行う。テーマによってはワーク、ロールプレイを行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況、学期末レポートにより総合的に評価する
教 科 書	特になし
履 修 上 の 注 意・備 考	特になし
そ の 他	特になし

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-11	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	能智 正博、滝沢 龍				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論特殊研究				
講 義 題 目	臨床心理学研究法 Research Methods in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学的な対人援助技法には、効果がありそれが持続すること、副作用や害がないことについて、良質なエビデンスが存在することが望ましい。場合によってはどのような形でエビデンスを取り出せばよいのか、新たな仮説を生成していくことも必要になる。本授業では、臨床心理学的な研究を行うための知識と技能を身につけるため、量的研究・質的研究両者の基礎を学ぶ。
授 業 計 画	1. ガイダンス(能智・滝沢)2. 質的研究と心理学(能智)3. どの質的研究を選ぶか(能智)4. ナラティブと質的研究(能智)5. 質的研究の質(能智)6. ディスコース心理学(能智)7. 状況分析(能智)8. 量的研究のデザイン(滝沢)9. 記述研究／偶然・バイアス・交絡(滝沢)10. ケースコントロール研究(滝沢)11. コホート研究(滝沢)12. ランダム化比較試験(滝沢)13. スクリーニング／メタアナリシス(滝沢)
授 業 の 方 法	ゼミ形式で行う。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	Hennekens, C.H. & Buring, J.F. (1987) Epidemiology n Medicine. LW&W.Hulley ら (2014). 医学的研究のデザイン 第4版 メディカル・サイエンス・インターナショナル Camic, P. M. (ed.) (2021) Qualiative research in psychology (2nd ed.) American Psychological Association.
履 修 上 の 注 意・備 考	積極的に発言してほしい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-216-12	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	高橋 美保				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	メンタルヘルスマネジメント基礎(産業・労働分野に関する理論と支援の展開) Mental Health Management Basic (Support Theory and Applications in Industry and Work Area)				

授 業 の 目 標・概 要	本授業では、産業・労働分野の支援で求められる知識やスキルの習得を目指す。産業・労働分野における支援のあり方について、組織へのコンサルテーションやチーム支援の技能を含めて学ぶ。
授 業 計 画	1.ガイダンス 2.産業心理臨床とは 3.キャリアの心理学 4.ストレスの心理学 5.産業・組織の心理学 6.産業精神保健 7.産業医学の基礎知識 8.組織内キャリア発達を支援する 9.うつと自殺の予防 10.職場復職支援 11.危機介入 12.職場のハラスメント 13.職場における連携 8.高齢化と働くことへのアプローチ 9.働くことと障害 10.仕事、仕事に関わるアイデンティティおよびキャリア上の成功の再定義 11.仕事の問題を抱えるクライアントとのカウンセリング 12.心理療法、および治療行為へのワーキング心理学の統合 13.産業臨床の現場の実践
授 業 の 方 法	課題図書に関する分担発表と、それに関するディスカッションにより構成される。適宜、グループワークを行う。
成 績 評 価 方 法	授業参加と発表、レポートによる総合評価
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可 (GCL は可)
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可 (GCL は可)
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-13	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	林 潤一郎				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	メンタルヘルスマネジメント応用（心の健康教育に関する理論と実践） Mental Health Management Applied (Theory and Practice of Mental Health Education)				

授 業 の 目 標・概 要	目標：本講義では、認知行動療法を中心に、メンタルヘルスとその問題についての理解の枠組みを学び、代表的な支援技術（マネジメント法）を身に着けることを目的とする。概要：代表的な精神障害に対する諸理論やモデル、それに基づく各支援技術を学び、障害のあるクライアントに対する臨床実践力を高める。その上で、各障害の枠組みを越え、クライアントの主観的体験世界にいかに関与し、個性や価値観を尊重した形で、各自が望むメンタルヘルスの維持増進のために、認知行動療法の発想や技術をどうすれば有効活用していけるのかを学び、応用力を高める。
授 業 計 画	第1回：オリエンテーション & メンタルヘルスの理解と支援における認知行動療法第2回：認知行動療法を実践活用していく際に役立つ参照枠と日常臨床での留意点第3回：認知行動療法の臨床技術（1）動機づけおよび関係性構築のための技術第4回：認知行動療法の臨床技術（2）アセスメント&フォーミュレーションの技術第5回：認知行動療法の臨床技術（3）認知面・行動面への介入技術第6回：認知行動療法の臨床技術（4）生理面・感情面への介入技術第7回：気分障害の代表的モデルと支援法第8回：不安障害の代表的モデルと支援法第9回：睡眠障害・ストレス関連障害の代表的モデルと支援法第10回：パーソナリティ障害の代表的モデルと支援法第11回：摂食障害・統合失調症の代表的モデルと支援法第12回：発達障害への代表的モデルと支援法第13回：合併例・複雑事例への対応
授 業 の 方 法	各テーマについての概説とディスカッションを行う。テーマによってはワーク、ロールプレイを行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況、学期末レポートにより総合的に評価する。
教 科 書	特になし。必要に応じて授業中に紹介する。
履 修 上 の 注 意・備 考	配布資料を事前にダウンロード・印刷の上、授業に臨むこと。授業での学びを適時復習し、日々の臨床実践での活用可能性を高めること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不可 (GCL は可)
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不可 (GCL は可)
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-14	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	大橋 靖史				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論特殊研究				
講 義 題 目	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 Support Theory and Applications in Forensics and. Criminology Area.				

授 業 の 目 標・概 要	本講義は、心理学的な実践の関係領域分野に関する知識、理論及び支援技能について理解することを目的とする心理学的実践の各領域に関する科目に位置づけられる。そのなかでも本講義は、司法・犯罪分野に関する基本的知識の習得に加え、支援の基本となる犯罪者・被疑者・被害者という当事者の視点から、司法・犯罪心理学を捉えなおすことを目的とする。この授業では、これまで裁く側・捜査する側の視点から捉えがちであった、司法・犯罪に関わる心理学を、犯罪者・被疑者・被害者という当事者の視点から捉えなおすことを通し、司法・犯罪心理学について再考する。なお、受講者に司法・犯罪心理学の基礎的な知識があれば事例を中心に授業を進めるが、知識が不十分であれば、事例の検討に入る前に基礎的な知識についても学ぶこととする。
授 業 計 画	4日間の集中授業とする。[1日目] 第1回 司法・犯罪心理学とは: 司法・犯罪心理学の概論とこれからの授業の進め方 第2回 犯罪者の視点からみた犯罪原因論(1) 第3回 犯罪者の視点からみた犯罪原因論(2) 第4回 犯罪者の視点からみた精神鑑定のあり方[2日目] 第5回 犯罪者の視点からみた矯正と更生(1) 第6回 犯罪者の視点からみた矯正と更生(2) 第7回 被疑者の視点からみた取調べの方法(1)[3日目] 第8回 被疑者の視点からみた取調べの方法(2) 第9回 被疑者の視点からみた目撃証言・被害供述 第10回 被害者の視点からみた被害者支援(1)[4日目] 第11回 被害者の視点からみた被害者支援(2) 第12回 司法領域における当事者支援 第13回 事例の検討、及び、全体のまとめ
授 業 の 方 法	初回は講義形式をとるが、その後は、アクティブラーニングの手法を導入し、受講生自らが、司法・犯罪心理学研究の理論及び心理的支援の実践について調べた内容を発表し、その発表をもとにディスカッションを展開する。
成 績 評 価 方 法	レジュメと発表内容 30 点、授業での発言回数とその内容 20 点、レポート 50 点の合計 100 点。
教 科 書	特に指定しない。授業内で適宜、紹介します。
履修上の注意・備考	予習、復習を欠かさないこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-15	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	高橋 美保、田中 究、大瀧 玲子、AN TINGTING				
授 業 科 目	臨床心理システム論特殊研究				
講 義 題 目	コミュニティアプローチ特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践) Community Approach (Support Theory and Practice for Family, Group, and Community)				

授 業 の 目 標・概 要	関係者とのコミュニケーションをセットでとらえる、すなわちシステムの一部としてとらえる視点を携える支援がコミュニティアプローチではもとめられる。その際、臨床実践における支援者は外部観察者に留まることはできない。そのため、支援者自身もシステムの一部として把握する視点が不可欠となる。さらに、支援者は支援システムを形成し来談者や家族と協力関係を結ばなければ、支援を始めることすらままならないのは言うまでもない。本科目では、システムという視点を活用したコラボレイティブな心理臨床実践に向けて、その基礎を学ぶ。
授 業 計 画	1. システムズアプローチにおけるコラボレーション 2. ロールプレイ-13. ロールプレイ-24. まとめ
授 業 の 方 法	まずシステムズアプローチについて、コラボレーションを中心に概説する。次に、同席面接のロールプレイを実施しながら、ジョイニング、円環性、コンテンツとコンテクスト、MRI コミュニケーション暫定的公理、コミュニケーション・パターンといった重要概念について説明する。
成 績 評 価 方 法	授業への参加の程度(50%)とレポート(50%)によって総合的に評価する。
教 科 書	田中究著『臨床コラボレーション入門ーシステムズアプローチ、ナラティブ・セラピー、ブリーフセラピーの基礎』(遠見書房)
履 修 上 の 注 意・備 考	予習:教科書を読み、コラボレーションを基軸としたシステムズアプローチについて大まかにイメージしておくこと。復習:ロールプレイの体験を振り返ることで、概念理解を深めること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-16	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	滝沢 龍				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開) Psychiatry (Support Theory and Applications in Medical and Health Area)				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学の分野に役立つ精神医学・メンタルヘルスの診断・治療・対処法について講義する。DSM 診断に沿って精神医学各論を実践的な診断・治療・予防に役立つ知識を身につけることを目標とする。
授 業 計 画	授業計画(初回ガイダンスで詳細の日程を配布する)1. ガイダンス／治療の要点(第20章)2. 神経発達症群(第1章)3. 統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害群(第2章)4. 双極性障害および関連障害群(第3章)5. 抑うつ障害群(第4章)6. 不安症群(第5章)／身体症状症および関連症群(第9章)7. 心的外傷およびストレス因関連障害群(第7章)／解離症群(第8章)8. 強迫症および関連症群(第6章)／食行動障害および摂食障害群(第10章)9. 睡眠-覚醒障害群(第12章)10. 秩序破壊的・衝動制御・素行症群(第15章)11. パーソナリティ障害群(第18章)12. 神経認知障害群(第17章)／身体疾患に伴う精神障害(症状精神病)13. 薬物療法・小テスト
授 業 の 方 法	毎回おおむね、・発表・講義(60分)、・質疑応答(30分:講義開始時に前回分15分、講義終了後に今回分15分)、・リアクションペーパー記入(15分)、で構成される。初回ガイダンス参加者の希望にて、講義の各論の内容・順番を調整することがある。
成 績 評 価 方 法	平常点(60%):リアクションペーパー(主に出席点)と授業への参加状況などによって評価する。発表(20%):担当が各章の要点を発表最終講義時に小テスト(20%)を行い、理解度を評価する。
教 科 書	「精神疾患・メンタルヘルスガイドブック —DSM-5 から生活指針まで—」(著)American Psychiatric Association、(訳)滝沢龍。(2016) 医学書院その他、適宜プリントを配布する。
履 修 上 の 注 意・備 考	授業内容は、各論や事例が中心となるので、精神医学・異常心理学・臨床心理学の分野での基本的な知識(症状学[精神症状の種類など]・診断学[面接法・査定法など])を学んだことがあることが望ましい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-216-17	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	田中 究				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	心理療法特論:スーパービジョン I Clinical Supervision I				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学コースで担当しているケースのスーパーヴィジョンを行う。知識を得ることとそれを用いることの間には隔たりがある。スーパーヴィジョンはその間隙を埋める営為である。スーパーヴィジョンでは、来談者やその関係者についての理解を深めることだけでなく、支援者自身の思考や感情、あるいはパーソナリティや行動様式を把握することが求められる。どのような意図のもと、どのような関わりによって何が引き起こされ、その結果どのような流れが形成されているのか、支援の実際を言語化し秩序立てることで、実践は臨床経験となり積み上げが可能になる。本授業ではスーパーヴィジョンの実際を通じて、支援者としての主体を形成する上での基礎を学ぶ。
授 業 計 画	1. イントロダクション 2. 支援者の志向性を保留すること 3. 意味の語用論的理解 4. 支援者と来談者の相互作用 5. 支援者の非言語メッセージ 6. 来談者の期待 7. 来談者の動機づけ 8. 来談者の未来イメージ 9. 支援者の理解と支援の実際の相互連関 10. 援助構造による規定 11. 個別事例理解の深化、抽象化、一般化 12. 現在の未来のシミュレート、過去の未来の探索 13. まとめ
授 業 の 方 法	基本的に履修者と個別に行う。
成 績 評 価 方 法	スーパーヴィジョンの準備(50%)と参加態度(50%)によって総合的に評価する。
教 科 書	なし。
履修上の注意・備考	スーパーヴィジョンの具体的な進め方については、ケースの個別状況によって履修者と協議の上決定する。履修にあたっては指導教員の承認を得ること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-216-18	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	田中 究				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	心理療法特論:スーパービジョンⅡ Clinical Supervision Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学コースで担当しているケースのスーパーヴィジョンを行う。知識を得ることとそれを用いることの間には隔たりがある。スーパーヴィジョンはその間隙を埋める営為である。スーパーヴィジョンでは、来談者やその関係者についての理解を深めることだけでなく、支援者自身の思考や感情、あるいはパーソナリティや行動様式を把握することが求められる。どのような意図のもと、どのような関わりによって何が引き起こされ、その結果どのような流れが形成されているのか、支援の実際を言語化し秩序立てることで、実践は臨床経験となり積み上げが可能になる。本授業ではスーパーヴィジョンの実際を通じて、支援者としての主体を形成する上での基礎を学ぶ。
授 業 計 画	1. イントロダクション 2. 支援者の志向性を保留すること 3. 意味の語用論的理解 4. 支援者と来談者の相互作用 5. 支援者の非言語メッセージ 6. 来談者の期待 7. 来談者の動機づけ 8. 来談者の未来イメージ 9. 支援者の理解と支援の実際の相互連関 10. 援助構造による規定 11. 個別事例理解の深化、抽象化、一般化 12. 現在的未来のシミュレート、過去の未来の探索 13. まとめ
授 業 の 方 法	基本的に履修者と個別に行う。
成 績 評 価 方 法	スーパーヴィジョンの準備(50%)と参加態度(50%)によって総合的に評価する。
教 科 書	なし。
履修上の注意・備考	スーパーヴィジョンの具体的な進め方については、ケースの個別状況によって履修者と協議の上決定する。履修にあたっては指導教員の承認を得ること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-19	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	福島 智				
授 業 科 目	発達臨床心理学特殊研究				
講 義 題 目	障害学演習 Seminar in Disability Studies				

授 業 の 目 標・概 要	「障害学」は、障害児・者を単に医療や福祉、特殊教育の対象としてのみとらえるのではなく、「障害」という切り口をとおして、人間の営みや社会のあり方を問い直すことをめざす学問・研究領域である。
授 業 計 画	1: 障害＝障害者、障害の定義2: 障害学＝ディスアビリティ・スタディーズ、障害学の国内外の研究・実践動向3: バリアフリーとユニバーサル・デザイン＝ バリアフリーとユニバーサル・デザインの概念と実践、両概念の関係と実践をめぐる状況4: 平等(論)＝障害をめぐる平等、現代政治・経済と平等論の関係5: 能力主義(メリトクラシー)＝「能力」をどう把握するか、「能力」と価値の序列6: 障害者権利条約(差別禁止法)＝障害者権利条約、(障害者)差別禁止7: 盲ろう者(視覚・聴覚重複障害者)＝「盲ろう」(deafblindness)、盲ろう者の実状8: ヘレン・ケラー＝盲ろう者としてのヘレン・ケラーの障害と生涯、アニー・サリヴァン9: 「盲ろう」という障害がもたらす困難＝コミュニケーションと情報の入手、移動10: 「盲ろう」の状態を通して考えるコミュニケーション＝「感覚」遮断と人間への影響、コミュニケーションは人にとってどういう意味を持つか11: 人間にとっての言語・コミュニケーション＝人にとってのコミュニケーションの意味、知的発達と感情的成長との関係12: コミュニケーションを支える感覚情報＝コミュニケーションを支える非言語的情報、非言語的情報はどれほどコミュニケーションに貢献しているか? 13: コミュニケーションにおける感覚・言語的・文脈＝「文脈」とは何か、「感覚・言語的文脈」とコミュニケーション14: 「苦悩」の意味と「生」の意味＝「苦悩」とは何か、我々の「生」を支えるものは何か。
授 業 の 方 法	本演習では、障害学関連の参考文献を参照しつつ、参加メンバー相互のディスカッションをとおして、「障害」をとりまく現代日本の状況について考察を深める。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	* 以下、いずれも必須ではない。可能なら事前に入手、通読すると望ましいもの。『盲ろう者として生きて』福島智、明石書店(2011) 『ぼくの命は言葉とともにある』福島智、致知出版社(2015)
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-216-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	高橋 美保				
授 業 科 目	臨床心理システム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理システム論の分野で修士論文を書こうとしている院生のために研究指導・論文指導を行う。
授 業 計 画	受講者の研究計画の発表とその後の進捗状況の報告を行う。また、ある程度研究が進んだ段階では研究論文の投稿計画、投稿論文の検討などを随時行う。いずれも、受講者の進捗に合わせた発表を行い、その内容についてディスカッションを行う。
授 業 の 方 法	研究の進捗状況と研究内容の報告およびそれについての議論を行う。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	特になし

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	高橋 美保				
授 業 科 目	臨床心理システム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	臨床心理システム論の分野で博士論文を書こうとしている院生のために研究指導・論文指導を行う。
授 業 計 画	受講者の研究計画の発表とその後の進捗状況の報告を行う。また、ある程度研究が進んだ段階では研究論文の投稿計画、投稿論文の検討などを随時行う。いずれも、受講者の進捗に合わせた発表を行い、その内容についてディスカッションを行う。
授 業 の 方 法	研究の進捗状況と研究内容の報告およびそれについての議論を行う。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	特になし

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-216-22	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	大橋 靖史				
授 業 科 目	臨床心理システム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	司法・犯罪領域における臨床心理学研究指導
授 業 計 画	司法・犯罪領域における臨床心理学に関する研究課題を設定し、研究・討議する。
授 業 の 方 法	研究・論文指導
成 績 評 価 方 法	達成評価
教 科 書	指定なし
履修上の注意・備考	履修にあたっては事前に相談のこと
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-23	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	大橋 靖史				
授 業 科 目	臨床心理システム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	司法・犯罪領域における臨床心理学研究指導
授 業 計 画	司法・犯罪領域における臨床心理学に関する研究課題を設定し、研究・討議する。
授 業 の 方 法	研究・論文指導
成 績 評 価 方 法	達成評価
教 科 書	指定なし
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	履修にあたっては事前に相談のこと
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-24	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	能智 正博				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学の分野で質的なアプローチに基づいて修士論文を書こうとしている院生のために、研究指導、および論文指導を行う。
授 業 計 画	受講生はそれぞれのセメスターに1回発表の機会が与えられ、研究計画、データ、分析過程の報告、論文草稿等を提示して指導を受けることができる。発表とディスカッションの結果を受けて、次のセメスターでは研究をさらに進めた段階の発表を行う。発表者以外の受講生は、発表に対するディスカッションに積極的に参加し、建設的な批判やアイデアの交換等を行う。
授 業 の 方 法	発表担当者の研究計画、データ、分析過程の報告、論文草稿等の提示を受けて、それについて受講生全員でディスカッションを行う。
成 績 評 価 方 法	平常点。
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	臨床心理学コース限定の授業なので、他コースの学生は受講することはできない。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-25	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	能智 正博				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標・概 要	臨床心理学の分野で質的なアプローチに基づいて博士論文を書こうとしている院生のために、研究指導、および論文指導を行う。
授 業 計 画	受講生は原則としてそれぞれのセメスターに1回発表の機会が与えられ、研究計画、データ、分析過程の報告、論文草稿等を提示して指導を受けることができる。発表とディスカッションの結果を受けて、次のセメスターでは研究をさらに進めた段階の発表を行う。発表者以外の受講生は、発表に対するディスカッションに積極的に参加し、建設的な批判やアイデアの交換等を行う。
授 業 の 方 法	発表担当者の研究計画、データ、分析過程の報告、論文草稿等の提示を受けて、それについて受講生全員でディスカッションを行う。
成 績 評 価 方 法	平常点。
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	臨床心理学コース限定の授業なので、他コースの学生は受講することはできない。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-216-26	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	滝沢 龍				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	臨床心理学・健康心理学・メンタルヘルスの分野、特にストレス、脆弱性、レジリエンス、ソーシャル・サポート、逆境体験（貧困・虐待・いじめ等）、心理的苦痛（抑うつ／不安）、精神疾患、心身の健康、ウェルビーイング、生活の質（QOL）、知能、パーソナリティ、生涯発達、脳・神経科学、バイオマーカー（生物学的指標）、双生児法、治療法や予防・対処法の効果研究、ランダム化比較試験、メタ分析などに関する分野で、量的なアプローチ（もしくは質的なアプローチとの組み合わせ）に基づいて修士論文を書こうとしている大学院生のために、研究指導および論文指導を行う。国内外での学会発表を推奨し、最終的に、英文雑誌で公表につなげることも目標のひとつとする。
授 業 計 画	1. オリエンテーション2～5. 先行研究レビュー6～8. Concept paper 作成／研究計画発表9～12. データ収集・解析過程の報告・発表13～15. 論文中間発表
授 業 の 方 法	研究の進捗状況を発表し、グループディスカッションをおこなう。適宜、個別指導をおこなう。参加者の関心領域に合わせて小グループを作ることもある。
成 績 評 価 方 法	平常点（100％）：授業への参加状況（出席と課題）やリーダーシップなどによって評価する。
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	臨床心理学コースの修士課程学生のみ受講可能。量的研究法・心理統計学の基本的知識を学んだことがあることが望ましい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生（特別聴講学生等）	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-27	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	滝沢 龍				
授 業 科 目	臨床心理カリキュラム論論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	臨床心理学・健康心理学・メンタルヘルスの分野、特にストレス、脆弱性、レジリエンス、ソーシャル・サポート、逆境体験（貧困・虐待・いじめ等）、心理的苦痛（抑うつ／不安）、精神疾患、心身の健康、ウェルビーイング、生活の質（QOL）、知能、パーソナリティ、生涯発達、脳・神経科学、バイオマーカー（生物学的指標）、双生児法、治療法や予防・対処法の効果研究、ランダム化比較試験、メタ分析などに関する分野で、量的なアプローチ（もしくは質的なアプローチとの組み合わせ）に基づいて修士論文を書こうとしている大学院生のために、研究指導および論文指導を行う。国内外での学会発表を推奨し、最終的に、英文雑誌で公表につなげることも目標のひとつとする。
授 業 計 画	1. オリエンテーション2～5. 先行研究レビュー6～8. Concept paper 作成／研究計画発表9～12. データ収集・解析過程の報告・発表13～15. 論文中間発表
授 業 の 方 法	研究の進捗状況を発表し、グループディスカッションをおこなう。適宜、個別指導をおこなう。参加者の関心領域に合わせて小グループを作ることもある。
成 績 評 価 方 法	平常点（100％）：授業への参加状況（出席と課題）やリーダーシップなどによって評価する。
教 科 書	特になし。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	臨床心理学コースの博士課程学生のみ受講可能。量的研究法・心理統計学の基本的知識を学んだことがあることが望ましい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コ ー ド	23-216-28	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	野中 舞子				
授 業 科 目	発達臨床心理学論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授業の目標・概要	
授 業 計 画	
授 業 の 方 法	
成 績 評 価 方 法	
教 科 書	
履修上の注意・備考	
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-216-29	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	野中 舞子				
授 業 科 目	発達臨床心理学論文指導				
講 義 題 目	臨床心理学論文指導 Dissertation Research in Clinical Psychology				

授業の目標・概要	
授 業 計 画	
授 業 の 方 法	
成 績 評 価 方 法	
教 科 書	
履修上の注意・備考	
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-216-30	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	福島 智				
授 業 科 目	発達臨床心理学論文指導				
講 義 題 目	障害学論文指導 Dissertation Research in Disability Studies				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	臨床心理学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は 400 字詰め原稿用紙に換算して 200 枚以内にまとめること。
授 業 計 画	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	* 以下、いずれも必須ではない。可能なら事前に入手、通読すると望ましいもの。・『ぼくの命は言葉とともにある』福島智、致知出版社(2015)・『盲ろう者として生きて』福島智、明石書店(2011)
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-216-31	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	福島 智				
授 業 科 目	発達臨床心理学論文指導				
講 義 題 目	障害学論文指導 Dissertation Research in Disability Studies				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	臨床心理学コースの学位論文(修士論文及び博士論文)の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。なお、修士学位論文は 400 字詰め原稿用紙に換算して 200 枚以内にまとめること。
授 業 計 画	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
授 業 の 方 法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。
成 績 評 価 方 法	各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教 科 書	* 以下、いずれも必須ではない。可能なら事前に入手、通読すると望ましいもの。・『ぼくの命は言葉とともにある』福島智、致知出版社(2015)・『盲ろう者として生きて』福島智、明石書店(2011)
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コ ー ド	23-217-01	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	野崎 大地				
授 業 科 目	身体教育科学基本研究				
講 義 題 目	身体教育科学の諸問題 I Topics in Physical Education I				

授 業 の 目 標・概 要	身体教育科学分野にはどのような解明すべき重要問題があり、それらの問題がどのようなアプローチによって研究されているのか、最新研究論文の精読を通して理解することを目的とする。
授 業 計 画	初回のガイダンス:教員の選定した論文リストを元に各回の担当者を決める。二回目以降:担当者による論文紹介およびそれに基づいて出席者全員で議論を行う。
授 業 の 方 法	担当者はパワーポイント等を用いて論文の詳細を説明する。担当者の論文説明に基づき、出席者全員で論文の新奇性、重要性、問題点などについて議論する。出席者にはあらかじめ論文を精読しておくことが求められる。
成 績 評 価 方 法	出席および担当回のプレゼンテーションを元に評価する。
教 科 書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	本学他研究科学生 履修可(5名まで)特別聴講学生(お茶の水女子大学大学院学生) 履修可(5名まで)
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-217-02	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	山本 義春、森田 賢治				
授 業 科 目	教育生理学基本研究				
講 義 題 目	身体システム論 I System Analysis of Human Activity I				

授 業 の 目 標・概 要	人間の活動あるいは行動に関する探究に際しては、自然科学から人文・社会科学にわたる幅広い分野の知見に基づく、微視的・巨視的両視点からの総合的なアプローチが必要である。本講義では、主として数理モデルおよび解析手法の立場から、このような総合的アプローチの方法論を身につける。Inquiry into human activities and behavior requires a comprehensive approach from both microscopic and macroscopic perspectives, based on knowledge from a wide range of fields from the natural sciences to the humanities and social sciences. In this course, students will learn the methodology of such an integrated approach mainly from the standpoint of mathematical modeling and analytical methods.
授 業 計 画	関連論文や自身の研究の紹介を行う。
授 業 の 方 法	論文・テーマの選択は、原則として担当教員が行う。一回に一名の受講者が内容を紹介し、その後参加者全員で討論を行う。担当教員もなるべく平易な解説を心掛けるので、参加者も「理論的に考える」ことを心掛けて欲しい。
成 績 評 価 方 法	平常点(出席・発表)による評価。
教 科 書	授業内で提示する。
履修上の注意・備考	生理学一般に馴染みのない人は夏学期に開講される学部講義「教育の生理学」を、数理解析一般について馴染みのない人は冬学期に開講される学部講義「バイオダイナミクス」を、それぞれ受講しておくことが望ましい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-217-03	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	多賀 徹太郎				
授 業 科 目	発達脳科学基本研究				
講 義 題 目	発達脳科学特論 I Developmental Brain Sciences I				

授 業 の 目 標・概 要	ヒトという複雑な系が生成・発展する「発達」の法則性を理解することを目指す。脳科学、生理学、発達心理学、認知科学、発生生物学、行動学、非線形物理学、システム工学などの分野の境界を乗り越えながら、オリジナルな研究を行うための実践的な力を養うことを目標とする。主として、履修者による文献講読を行う。
授 業 計 画	初回は教員による発達脳科学についての概説を行い、次回以降受講者の演習・発表を行う。
授 業 の 方 法	演習、発表、参加者全員によるディスカッション
成 績 評 価 方 法	発表および平常点で評価する。
教 科 書	特に指定しない
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-217-04	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	佐々木 司、東郷 史治				
授 業 科 目	健康教育学基本研究				
講 義 題 目	健康教育学の諸問題 I Topics in Health Education I				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	精神保健や発達の問題を中心に、健康問題に関連する諸要因の解析と、それに基づく介入・心理教育などについて学習する。また国際誌への論文投稿・採択に必要な、英文文献の読解力、特に方法論などに関する批判的読解力、英文論文の記述力を養うことも本授業の重要な目標の1つである。This is a journal-club style course. Students are required to select and present a recent paper in areas of mental health, sleep, school health and related ones. An aim of this course is to develop the ability of critical reading of scientific papers.
授 業 計 画	毎回担当学生が、精神保健とその疫学等に関連する英文論文を選び、その紹介を行う。興味あるテーマについて複数の論文を紹介し、仮説立案を行っても良い。最終的には、自ら英文論文を書くことが出来る力を養うことが目的である。文献の選び方は初回の授業で説明する。なお基本的に英語で授業を行うので、スライド(PPT)も基本的に英語で作成のこと(つまり英文文献の内容の日本語翻訳は不要、ということである)。口頭での説明は、英語で説明しきれない場合には、日本語で補っても良いが、なるべく英語で行うこと(ただし、英語での presentation の練習と思って気楽に参加して欲しい)。
授 業 の 方 法	各学生の発表に対して、質疑応答を教員・学生が行う。Students are recommended to actively make comments and/or questions to the presentation.
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	指定なし
履修上の注意・備考	The course may be in English when foreign students participate. 留学生が参加する場合には、英語での授業とすることもある
そ の 他	特になし

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コ ー ド	23-217-05	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	野崎 大地				
授 業 科 目	身体教育科学特殊研究				
講 義 題 目	身体教育科学の諸問題Ⅱ Topics in Physical Education Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	身体教育科学分野にはどのような解明すべき重要問題があり、それらの問題がどのようなアプローチによって研究されているのか、最新研究論文の精読を通して理解することを目的とする。
授 業 計 画	初回のガイダンス:各回の担当者を決定する。二回目以降:担当者による書籍内容の解説および参加者全員での討論。
授 業 の 方 法	担当者はパワーポイント等を用いて書籍の内容を説明する。担当者の説明に基づき、出席者全員で内容の新奇性、重要性、問題点などについて議論する。出席者にはあらかじめ書籍を精読しておくことが求められる。
成 績 評 価 方 法	出席および担当回のプレゼンテーションを元に評価する。
教 科 書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	本学他研究科学生 履修可(5名まで)特別聴講学生(お茶の水女子大学大学院学生) 履修可(5名まで)
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-217-06	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	山本 義春、森田 賢治				
授 業 科 目	教育生理学特殊研究				
講 義 題 目	身体システム論Ⅱ System Analysis of Human Activity Ⅱ				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。
授 業 計 画	引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。
授 業 の 方 法	引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。
成 績 評 価 方 法	平常点(出席・発表)による評価。
教 科 書	授業内で提示する。
履修上の注意・備考	引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-217-07	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	多賀 徹太郎				
授 業 科 目	発達脳科学特殊研究				
講 義 題 目	発達脳科学特論Ⅱ Developmental Brain SciencesⅡ				

授 業 の 目 標・概 要	S1 に引き続き行う。ヒトという複雑な系が生成・発展する「発達」の法則性を理解することを目標とする。脳科学、生理学、発達心理学、認知科学、行動学、発生生物学、非線形物理学、システム工学などの分野の境界を乗り越えながら、オリジナルな研究を行うための実践的な力を養うことを目標とする。主として、文献購読を行う。
授 業 計 画	初回は教員による発達脳科学についての概説を行い、次回以降受講者の演習・発表を行う。
授 業 の 方 法	演習と発表。参加者全員によるディスカッション。
成 績 評 価 方 法	発表および平常点で評価する。
教 科 書	特に指定しない
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-217-08	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	佐々木 司、東郷 史治				
授 業 科 目	健康教育学特殊研究				
講 義 題 目	健康教育学の諸問題Ⅱ Topics in Health Education Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	健康教育学の諸問題Ⅰで学習した知識を元に、研究計画の立案を含めたさらに専門的な学習を進める。かつ英語での presentation の練習も行う。方法論や結果と考察との一貫性に関する批判的論文読解の力を養うことも大きな目標である。This course will be given in a journal-club style. Students are required to select a recent paper on mental health (especially adolescents' mental health) or related issues and give a presentation, once or twice. The presentation and discussion are recommended to be made in English in principle, which may help you practice presentations in international meetings. Development of ability for critical reading of scientific papers is also a major aim of this course.
授 業 計 画	健康教育に関連する英文論文を各自選択し、それについての説明を行う。あるいはあるテーマについての英文文献検索を行い、テーマに関する複数の論文について review し、新たな研究遂行に役立つ仮説構築を行っても良い(ある程度習熟レベルが進んだ学生には後者をむしろ勧める)。
授 業 の 方 法	健康教育学の諸問題Ⅰと同様であるが、学習の進んだ学生で健康教育学に関する研究を志す学生については、自分の研究計画を立案・発表し、それについての意見を求める機会としても良い。なお発表および質疑応答は原則として英語で行う。ただし英語でのやりとりに慣れていない学生も多いと思われるので、どうしても分からない時は日本語の使用もOKとする。将来の英語での学会発表や論文書きの練習と思って、気楽に考えて参加してほしい。
成 績 評 価 方 法	平常点(英文論文の紹介を1回以上行うことが単位取得には必須)
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-217-09	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	西田 淳志				
授 業 科 目	健康教育学特殊研究				
講 義 題 目	予防科学で支える思春期の well-being Promoting Adolescent Well-being by Preventive Science				

授業の目標・概要	思春期の心身の well-being は、その後の長期的な人生に多大な影響を与える。ゆえに、思春期の心身の well-being を増進するための戦略を科学的に見出すことが重要となる。本授業では、国内外の疫学的なエビデンスに基づいて、思春期の well-being に影響を与える諸要因、特に社会環境要因 (social determinants of adolescent health) について概説し、それに対する効果的な介入戦略、予防戦略 (学校保健など) の例を紹介する。また、思春期の well-being に影響を及ぼす人生早期の逆境体験 (児童虐待など) の予防戦略に関する国際的な議論や課題についても概説する。The physical and mental well-being of adolescents has a significant impact on one's long-term life. Therefore, it is important to scientifically discover strategies to improve the physical and mental well-being of adolescents. In this class, we will outline various factors that influence adolescent well-being, especially social environmental factors (social determinants of adolescent health), based on domestic and international epidemiological evidence, and develop effective intervention strategies for them, and provide examples of prevention strategies (e.g., school intervention). We also outline strategies to prevent early life adversity experiences (such as child abuse) that impact adolescent well-being.
授 業 計 画	予防科学概論、長期的人生における思春期の well-being の重要性、思春期の well-being がもたらす次世代への影響、思春期の well-being に影響を与える社会環境要因、思春期の well-being を高めるための school intervention、思春期の well-being を高めるための胎生期からの支援戦略 (児童虐待の科学的予防戦略を含む)、予防科学と社会政策、などについて講義をする。毎回、講義の最後にミニレポートを課す。Introduction to preventive science will be covered in this course, with a focus on the importance of adolescent well-being in the long-term. We will explore how adolescent well-being influences the next generation and discuss social and environmental factors that affect it. The lectures will cover school interventions aimed at improving well-being, as well as strategies to support adolescent well-being from the embryonic stage, including scientific prevention strategies for child abuse. Additionally, we will discuss prevention science and social policy. A mini-report will be assigned at the end of each lecture.
授 業 の 方 法	毎回の講義においては、特定のテーマについてグループディスカッションを行い、また、講義の最後にはミニレポートを課す。
成 績 評 価 方 法	平常点 (毎回の講義の最後に課すミニレポート、授業中の積極的な発言、等を評価する)
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	授業の中での積極的な発言、質問を歓迎します。毎回の講義の最後でミニレポートを記載していただきます。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-217-10	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	野崎 大地				
授 業 科 目	身体教育科学論文指導				
講 義 題 目	身体教育科学論文指導 Dissertation Research in Physical Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	各履修者が行っている研究の内容(目的、結果)を随時発表し、参加者が議論を重ねることで、国際的に通用する論文の執筆、出版を目指す。
授 業 計 画	履修者は毎週研究の進捗状況についてパワーポイント等を用いて報告する。それを題材に参加者全員で議論する。
授 業 の 方 法	履修者は毎週研究の進捗状況についてパワーポイント等を用いて報告する。それを題材に参加者全員で議論する。
成 績 評 価 方 法	平常点(出席・発表)による評価。
教 科 書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	特に無し。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-217-11	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	野崎 大地				
授 業 科 目	身体教育科学論文指導				
講 義 題 目	身体教育科学論文指導 Dissertation Research in Physical Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	各履修者が行っている研究の内容(目的、結果)を随時発表し、参加者が議論を重ねることで、国際的に通用する論文の執筆、出版を目指す。
授 業 計 画	履修者は毎週研究の進捗状況についてパワーポイント等を用いて報告する。それを題材に参加者全員で議論する。
授 業 の 方 法	履修者は毎週研究の進捗状況についてパワーポイント等を用いて報告する。それを題材に参加者全員で議論する。
成 績 評 価 方 法	平常点(出席・発表)による評価。
教 科 書	講義中に指定する。
履修上の注意・備考	特に無し。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-12	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	森田 賢治				
授 業 科 目	身体教育科学論文指導				
講 義 題 目	身体教育科学論文指導 Dissertation Research in Physical Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	身体教育科学に関する研究・論文執筆のための指導・討論
授 業 計 画	学習や情動の脳神経・身体機構などを中心とした身体教育科学に関する研究・論文執筆のための指導・討論を行う
授 業 の 方 法	履修者全員での討論などを行う
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特に指定しない
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-13	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	森田 賢治				
授 業 科 目	身体教育科学論文指導				
講 義 題 目	身体教育科学論文指導 Dissertation Research in Physical Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	身体教育科学に関する研究・論文執筆のための指導・討論
授 業 計 画	学習や情動の脳神経・身体機構などを中心とした身体教育科学に関する研究・論文執筆のための指導・討論を行う
授 業 の 方 法	履修者全員での討論などを行う
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特に指定しない
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-217-14	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	山本 義春				
授 業 科 目	教育生理学論文指導				
講 義 題 目	教育生理学論文指導 Dissertation Research in Educational Physiology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育生理学に関する博士論文・修士論文の執筆のための討論会を履修者全員で行う。Discussions for writing doctoral and master's theses on educational physiology will be held for all students enrolled in the course.
授 業 計 画	随時討論会を行う。
授 業 の 方 法	学生の発表に基づき討議を行う。
成 績 評 価 方 法	平常点(出席)による評価。
教 科 書	授業内で提示する。
履修上の注意・備考	授業内で提示する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-15	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	山本 義春				
授 業 科 目	教育生理学論文指導				
講 義 題 目	教育生理学論文指導 Dissertation Research in Educational Physiology				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育生理学に関する博士論文・修士論文の執筆のための討論会を履修者全員で行う。Discussions for writing doctoral and master's theses on educational physiology will be held for all students enrolled in the course.
授 業 計 画	随時討論会を行う。
授 業 の 方 法	学生の発表に基づき討議を行う。
成 績 評 価 方 法	平常点(出席)による評価。
教 科 書	授業内で提示する。
履修上の注意・備考	授業内で提示する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-217-16	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	東郷 史治				
授 業 科 目	教育生理学論文指導				
講 義 題 目	教育生理学論文指導 Dissertation Research in Educational Physiology				

授 業 の 目 標・概 要	教育生理学に関する修士論文執筆のための研究指導、論文指導をする。
授 業 計 画	あらかじめ発表の担当スケジュールを決め、それに従い、毎回 1、2 名が発表等をする。
授 業 の 方 法	研究の進捗状況の発表、あるいは関連研究論文の紹介をし、履修者全員で討論する。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	疫学統計の基本的事項について学習しておくこと。また各自の研究テーマに関する先行研究について適宜、確認すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-17	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	東郷 史治				
授 業 科 目	教育生理学論文指導				
講 義 題 目	教育生理学論文指導 Dissertation Research in Educational Physiology				

授 業 の 目 標・概 要	教育生理学に関する博士論文執筆のための研究指導、論文指導をする。
授 業 計 画	あらかじめ発表の担当スケジュールを決め、それに従い、毎回 1、2 名が発表等をする。
授 業 の 方 法	研究の進捗状況の発表、あるいは関連研究論文の紹介をし、履修者全員で討論する。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	疫学統計の基本的事項について学習しておくこと。また各自の研究テーマに関する先行研究について適宜、確認すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	多賀 徹太郎				
授 業 科 目	発達脳科学論文指導				
講 義 題 目	発達脳科学論文指導 Dissertation Research in Developmental Brain Sciences				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	発達脳科学に関する修士論文の執筆のための討論会を履修者全員で行う。
授 業 計 画	受講者は必ず研究発表を行い、総合討論を行う。また、必要に応じて個別の研究指導を設ける。
授 業 の 方 法	討論を中心とする。
成 績 評 価 方 法	総合的に評価する。
教 科 書	特に指定なし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	多賀 徹太郎				
授 業 科 目	発達脳科学論文指導				
講 義 題 目	発達脳科学論文指導 Dissertation Research in Developmental Brain Sciences				

授 業 の 目 標・概 要	発達脳科学に関する博士論文の執筆のための討論会を履修者全員で行う。
授 業 計 画	受講者は必ず研究発表を行い、総合討論を行う。また、必要に応じて個別の研究指導を設ける。
授 業 の 方 法	討論を中心とする。
成 績 評 価 方 法	総合的に評価する。
教 科 書	特に指定なし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-217-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	佐々木 司				
授 業 科 目	健康教育学論文指導				
講 義 題 目	健康教育学論文指導 Dissertation Research in Health Education				

授 業 の 目 標・概 要	健康教育学の研究課題の進行状況について各学生が発表・議論し、その中で研究ならびに論文執筆の基本的な方法について学習することを目標とする。
授 業 計 画	各学生の研究の進行に応じて指導するが、できるだけ早い時期から研究室の meeting に参加すること。学部の授業である「教育の疫学」で学ぶ知識が基礎となるので、そちらも出来るだけ履修すること。
授 業 の 方 法	各回とも、担当学生が自分の研究の進行状況について発表する
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特になし
履 修 上 の 注 意・備 考	年間の指導の中で、疫学と統計の基本的知識を習得していくことも必須なので、そのもりで参加のこと。分からないこと、理解できないことは、例え基本的なことであっても遠慮せずに質問のこと。ただ座っているだけの参加は無意味と心得てほしい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-217-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	佐々木 司				
授 業 科 目	健康教育学論文指導				
講 義 題 目	健康教育学論文指導 Dissertation Research in Health Education				

授 業 の 目 標・概 要	健康教育学の研究課題の進行状況について各学生が発表・議論し、その中で研究ならびに論文執筆の基本的な方法について学習することを目標とする
授 業 計 画	各学生の研究の進行に応じて指導するが、できるだけ早い時期から研究室の meeting に参加すること。学部の授業である「教育の疫学」で学ぶ知識が基礎となるので、そちらも出来るだけ履修すること。
授 業 の 方 法	各回とも、担当学生が自分の研究の進行状況について発表する
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特になし
履 修 上 の 注 意・備 考	年間の指導の中で、疫学と統計の基本的知識を習得していくことは必須であるので、そのつもりで参加のこと(大学院生であっても、講義「教育の疫学入門」を履修することが望ましい)。分からないこと、理解できないことは、例え基本的なことであっても遠慮せずに質問のこと。
そ の 他	特になし

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コ ー ド	23-217-22	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	西田 淳志				
授 業 科 目	健康教育学論文指導				
講 義 題 目	健康教育学論文指導 Dissertation Research in Health Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	健康教育学に関する各自の研究の進捗状況を発表し、それについての議論等を通じて、研究や論文執筆の基本的方法を学習することを目指す。
授 業 計 画	各学生の研究の進捗状況に応じて指導する。
授 業 の 方 法	各回とも担当学生が自分の研究の進捗状況について発表する。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	発表については事前の準備にしっかりと取り組み、授業中の議論には積極的に参加すること。わからないことは遠慮なく質問すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-217-23	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	西田 淳志				
授 業 科 目	健康教育学論文指導				
講 義 題 目	健康教育学論文指導 Dissertation Research in Health Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	健康教育に関する各自の研究の進捗を発表し、それに関する議論を通じて、研究や論文執筆の方法論を学習することを目指す。
授 業 計 画	各学生の研究の進捗状況に応じて指導する。
授 業 の 方 法	各回とも、担当学生が自分の研究の進捗状況について発表する。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	発表の準備については事前にしっかりと取り組み、授業中は積極的に議論に参加すること。わからないことは遠慮なく質問すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-301-01	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	野澤 祥子				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(授業研究・発展研究)				
講 義 題 目	保育学研究 Studies on Early Childhood Education				

授 業 の 目 標・概 要	保育者の専門性と保育・幼児教育の実践に関して、国内外の動画及び文献等での議論・検討を行う。
授 業 計 画	上記テーマに関する近年の研究文献(日本語・英語)を読みあう。最近の研究動向と受講者の関心を踏まえて文献を選定する。保育・幼児教育の国内外の実践に関する動画を視聴する。議論を通して、理解を深める。
授 業 の 方 法	文献の講読と議論を中心に行う。
成 績 評 価 方 法	演習への参加、報告・議論、期末レポート
教 科 書	学期当初に講読文献を指定
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	原則として隔週で3、4時間目2コマ連続で実施予定日程は初回時に教示する

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-301-02	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	浅井 幸子				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(カリキュラム研究・発展研究)				
講 義 題 目	教職経験の研究 Research on Teaching Experience				

授 業 の 目 標・概 要	この授業では教育の経験をとらえる理論と方法を考察する。今年度はレッジョ・エミリアとスウェーデンのレッジョ・インスパイアの幼児教育に関する文献を読む。
授 業 計 画	以下の文献をとりあげる予定である。Giamminuti, S., Cagliari, P., Giudici, C. and Strozzi, P., 2023, The Role of the Pedagogista in Reggio Emilia: Voices and Ideas for a Dialectic Educational Experience, Routledge. 他にレッジョ・エミリアのプロジェクトの記録や、パブリケーション(学校で作成する冊子)を読む。
授 業 の 方 法	文献購読グループワーク
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-03	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	一柳 智紀				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(授業研究・基礎研究)				
講 義 題 目	授業における学習研究 Research on Learning in Classroom				

授 業 の 目 標・概 要	近年教育分野でもその重要性が指摘されてきた「心理的安全性」について、基本文献と最近の動向を英語で当該分野の文献を読んで議論ができるようにする。
授 業 計 画	「心理的安全性」に関する基本文献と関連文献を読み、議論する
授 業 の 方 法	グループで特定文献の論文を担当しその論文について発表するとともに協働で議論をしながら理解を深める。
成 績 評 価 方 法	本演習への参加、報告や議論ならびに期末レポートによって評価
教 科 書	Edmondson A. (1999). Psychological Safety and Learning Behavior in WorkTeams, Administrative science quarterly, 44(2), 350-383 およびこれを引用した教育分野(特に授業実践)に関する英語論文を読む予定です。
履 修 上 の 注 意・備 考	原則として2コマ連続で実施する予定です。評価は平常点とレポート等の報告、最終小レポートを総括して行う
そ の 他	初回授業時に課題や次回以降の詳細をアナウンスします。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-04	単 位 数	2	学 期	S1
担 当 教 員	藤江 康彦				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(カリキュラム研究・基礎研究)				
講 義 題 目	授業研究の理論と方法 Theory and Method of Research on Teaching and Curriculum				

授 業 の 目 標・概 要	授業研究、学習研究、教師研究に関する内外の文献を講読しながら、授業研究の理論を構築し検討する。
授 業 計 画	第1回 ガイダンス第2回～第7回 発表担当者による文献の概要報告および議論と解説
授 業 の 方 法	1. 授業研究や教育実践研究の理論や方法について文献を購読することを通して理解する。2. 事例研究や質的研究法に関する文献の購読を通して研究の方法論的基礎を固める。3. 国内外の「授業研究」や「教育実践研究」に関する文献を講読することを通して、授業研究の可能性や課題について検討する。
成 績 評 価 方 法	報告や議論への参加状況による平常点ならびに期末レポートによる。
教 科 書	授業の初回に提示する。
履 修 上 の 注 意・備 考	授業の初回に文献レポートの分担を決めますので、受講希望者は確定していなくても出席をしてください。授業は対面で行いますが、LMS 等を用いての資料配付や成果の共有などを行いますので、できるだけネットワークに接続できるノートパソコンやタブレットなどの端末を持参してください。
そ の 他	特になし。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-05	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	伊藤 守				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	現代思想と情動論の展開 Contemporary Thought and Affect Theory				

授 業 の 目 標・概 要	情動概念に関する基本的理解と共に「情動的世界」の多層性・多面性を理解することが目標となる。具体的には、私的でありかつ公共的でもある情動の両義性、つまり個性と集団性が対立的なものではなく相互包摂であること、さらにコンピュータ科学における「情動」現象の「実装化」への試みやメディア環境における情動現象の生起等、現在社会における情動に関連する事象にも目を向けることもこの講義の目標である。
授 業 計 画	前半は、スピノザ、ジェームズ、ホワイトヘッド、ドゥルーズ&ガタリ、そしてマッスミの議論を生命組織の創造性や即興性といった＜ontopower＞の力動性を中心に検討し、後半は受講生から教育分野における情動論の議論の核心点を報告してもらう。
授 業 の 方 法	毎回、事前に論文を読んで報告し、全員で議論するスタイルとする。
成 績 評 価 方 法	出席と各自の報告内容ならびに議論への参加度で評価する。
教 科 書	教科書は指定しないが、毎回関連文献や論文を指定する。
履修上の注意・備考	事前に文献を読んで参加することが必須であり、受講する場合はこの点に十分留意してほしい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-06	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	楠見 孝				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	実践知と叡智:熟達化と生涯発達からの検討 Practical Knowledge and Wisdom:Perspective from Expertise and Lifelong Development				

授 業 の 目 標・概 要	[概要] 実践知と叡智の特質と認知過程を支える批判的思考と省察, 自伝的記憶, 学習過程としての熟達化や経験学習, アンラーニング, そして生涯発達について概説します。さらに, それらをとらえる認知心理学, 認知科学と教育学などの関連領域の主要な理論とモデルに関して, 研究方法とデータに基づいて検討します。あわせて, 学校や職場における具体例について, ICT や大規模データ, 生成AIの利活用の諸問題も含めて検討します。[目標] 受講生が, 実践知と叡智に関する理論, 方法論を理解して, 自分の研究テーマと関連づけて検討し, 研究の展開に結びつけることを目指します。
授 業 計 画	1. 仕事の熟達化と熟達者, 経験学習 2. 実践知を支えるスキル(教員, 看護師, 会社員の事例)3. 叡智と生涯発達, 実践知の共有と継承 4. 職場におけるラーニングとアンラーニング (ICT, プログラミング教育と教育データ, 生成 AI の利活用の事例)5. 実践知を支える批判的思考と省察, 自伝的記憶 6. 受講者の発表(自身の研究あるいは授業に関するテーマ, 参考書①, ⑩などに所収された論文紹介)7. 全体討論とまとめ
授 業 の 方 法	講義と演習を組み合わせで行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況と発表などに基づいて, 総合的に評価を行う。
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	・受講者の関心や人数によって, 授業計画は調整する。・予習:上記の参考書を読んで, 問いをたてる。・復習:自らの問いが, 授業によって解決できたかを確認し, さらなる問いをたてる自分の研究に関連するテーマや関心を持ったテーマについては, 自ら資料を収集し, 探究を深め, 最終回での発表の準備を進める。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-301-07	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	木村 優				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	教職専門性開発研究概論 Research on Professional Development of Teachers				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	本授業では、教師の専門性の内実及び専門性開発の過程についての基盤理論(専門職の資本、専門職の学び合うコミュニティ、専門職の学び合うネットワーク、ミドルからのリーダーシップ等)を理解・習得した上で、複雑で不確実であるが豊かな教育理論の生成と変革のアリーナである教育実践をベースにした教職専門性開発研究を推進するための素養を受講院生が協働で磨き合うことを目標とする。In this class, we aim to cultivate graduate students understanding and mastering the basic theories of teacher professionalism and the process of professional development (professional capital, professional learning communities, professional learning networks, leadership from the middle, etc.), and then they study collaboratively to refine their skills to promote research on teacher professional development based on educational practice, which is a complex, uncertain, but rich arena for the creation and transformation of educational theories.
授 業 計 画	授業は以下、4つのサイクルで展開する。第1サイクル(第1回) 教職をめぐる社会的状況と教師研究・教育研究の展望第2サイクル(第2回～第6回) 専門職としての教師の資本第3サイクル(第7回～第13回) Leadership from the middle as the beating heart of educational transformation 第4サイクル(第14回) 教職専門性開発研究の展望第1サイクルでは、わが国の教育政策・教師政策の動向を踏まえた上で、受講院生それぞれの教師研究または教育研究の展望を確認する。第2サイクルでは、ハーグリーブス&フラン『専門職としての教師の資本—21世紀を革新する教師・学校・教育政策のグランドデザイン』(Hargreaves, A. & Fullan, M. (2012) “Professional Capital: Transforming teaching in every school,” New York: Teachers College Press の邦訳)を吟味検討し、教師の専門性の内実及び専門性開発の過程についての基盤理論を理解・習得する。授業では、第1・2・3・4・5・6章を扱う。第3サイクルでは、Hargreaves, A (2024) “Leadership from the middle: The beating heart of educational transformation,” New York and London: Routledge を吟味検討し、教職専門性開発を推進するための革新理論を探究する。授業では、全7章を扱う。第4サイクルでは、先のサイクルを通じた探究をふまえ、受講院生それぞれの教職専門性開発研究の展望を拓く。The class will proceed in the following four cycles.Cycle 1 (1st session) Social conditions surrounding the teaching profession and prospects for teacher research and educational researchCycle 2 (2nd-6th sessions) Professional Capital of the teachersThird cycle (Part 7 - 13) Leadership from the middle as the beating heart of educational transformationCycle 4 (14th) Prospects for research on professional development of teachersIn the first cycle, we will confirm the prospects of each graduate students' teacher research or educational research based on the trends of education policy and teacher policy in Japan.In the second cycle, we will review Hargreaves, A. & Fullan, M. (2012), Professional Capital: Transforming teaching in every school,” New York: Teachers College Press) to understand and master the basic theories of the nature of teacher professionalism and the process of professional development. We will examine Chapters 1, 2, 3, 4, 5, and 6 in the class.In the third cycle, we will review Hargreaves, A (2024) “Leadership from the middle: The beating heart of educational transformation,” New York and London: Routledge. We will explores innovative theories for promoting professional development in the teaching profession. The class will cover a total of seven chapters of this book.In the fourth cycle, based on the exploration through the previous cycles, each graduate students will develop their own perspectives on research on professional development in teaching.
授 業 の 方 法	授業は資料及び文献講読をベースとしたゼミナール形式で行う。なお、受講院生が多数の場合、適宜、少人数のグループワークを取り入れ、学びの共有や意見の交流を行う。受講院生には、第2サイクル及び第3サイクルで扱う文献を事前に確認いただき、同文献を協働で吟味検討するためのレジュメを章分担で作成いただいて授業当日に臨んでいただく。そのため、授業前オリエンテーションをオンラインまたは書面で実施し、受講院生同士で担当章の分担を決める。一つの章を複数受講院生で担当するのも歓迎

	迎。レジュメには、まず、(1)担当章の概要を示し、
成績評価方法	成績評価は、授業全般における対話への参画の程度、作成レジュメの精度、教職専門性開発研究の展望から見る同研究へのエンゲージメントの程度、を総合して行う。Grading will be based on the degree of participation in the overall class dialogue, the accuracy of the prepared resumes, and the degree of engagement in the research from the perspective of the research on professional development in teaching.
教科書	(1)ハーグリーブス・A & フラン・M, 木村 優・篠原岳司・秋田喜代美(監訳)(2022)『専門職としての教師の資本—21 世紀を革新する教師・学校・教育政策のグランドデザイン』, 金子書房(Hargreaves, A. & Fullan, M. (2012) “Professional Capital: Transforming teaching in every school,” New York: Teachers College Press)を吟味検討し、教師の専門性(2)Hargreaves, A (2024) “Leadership from the middle: The beating heart of educational transformation,” New York and London: Routledge
履修上の注意・備考	受講院生は、教師・教職専門性を扱った学術論文や学術書について事前に吟味しておくこと。また、履修に際しては、授業中の全体またはグループでの対話に積極的に参加すること。また、互いの受講院生の声(意見)によく耳を澄まし、ときには他の受講院生に意見を求めるなど、対話における知的及び心理的安全性の保障、協働探究の活性化に努めること。授業後には、授業で扱った文献を再吟味・再検討し、自身の教師研究・教育研究推進のためのフレームリフレクションに役立てること。Graduate students are expected t
その他	本授業の挑戦的な課題へのチャレンジの中で、仲間との協働探究を楽しもう。Enjoy collaborative inquiry with your peers in the challenge of the issues in this class.

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時 間 割 コー ド	23-301-08	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	濱田 秀行				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	国語科教育の理論と実践 The Theory and Practice of Japanese Language Education				

授 業 の 目 標・概 要	今日の学校教育における国語科の授業実践とその理論について学ぶ。教科「国語」の公式の枠組みである「学習指導要領」の学力観・指導観や実際の授業事例、教科書教材について検討することを通して、国語科教育の理論を踏まえながら実践について議論ができるようになる。／Learn about Japanese language class practice and its theory in school education.
授 業 計 画	1. オリエンテーション 2. 国語科授業実践の基本的な枠組 3. 国語科学習指導の実際 4. 国語科の教科内容(「読むこと」を例に)5. 「読むこと」をとらえ直す(教科書教材の構成)6. 「読むこと」をとらえ直す(教材分析)7. 指導と評価の一体化 8-9. 授業事例1の検討 10. 国語科授業実践のコンテキスト 11. 協働による読みの深まり 12-13. 授業事例2の検討
授 業 の 方 法	グループワーク, グループディスカッションを中心とする。
成 績 評 価 方 法	授業中の議論への参加状況とレポートから評価を行う。
教 科 書	文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 国語編』東洋館出版社
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	テキストは、文部科学省の Web ページから PDF ファイルをダウンロードし授業中に参照できるよう準備すれば購入しなくても良い。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-09	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	永田 佳之				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	地球規模課題とESD Global Issues and ESD				

授 業 の 目 標・概 要	教育が普及すればするほど環境はなぜ悪化するのか。もしそうであればそのような教育にどんな価値があるのであろうー環境教育やESDの論客であるDavid Orrが私たちにこう問いかけたのは30年ほど前である('Earth in Mind')。この授業では、この問いを基層に据え、履修者が各々の答えを探究していく。上記の問いの他にも幾つかの〈正答のない問い〉を共有し、それぞれの思索を深める契機とする。講義内容のテキストスタイルとして、縦系として「教育開発」を、横系として「環境」や「持続可能性(サステナビリティ)」などのグローバルな課題を設け、人類にとって喫緊の問題である気候変動(気候危機)などのサブトピックも織り込んでいく。また、ポスト・コロナ時代における教育の在り方を幼児教育から高等教育に至るまで国内外の理論や原理、実践も紹介しながら考察を深める。
授 業 計 画	1 基本的な問いの共有2 持続可能な社会と教育3 環境教育・ESD・Efs4 エコフォビアを超えて5 プラネタリー・バウンダリーと未来世代6 気候変動の本質的な課題7 不確実性の時代と学校教育8 ESDの来し方行く末①9 ESDの来し方行く末②10 ESD for 2030 - SDGsと教育 - 11 世界の優良実践①12 世界の優良実践②13 日本の教育を捉え直す 14 「平和・人権・持続可能な開発のための教育に関する勧告」と「教育の未来」報告書 15 ポスト・コロナ時代の学校をデザインする
授 業 の 方 法	資料配布など、部分的にオンラインの活用も検討するが、基本は教室での対面による授業を行う。〈正答のない問い〉を中心に進め、グループ討議や発表も適宜、取り入れていく。全ての講義への参加を前提とし、最終授業で課す〈正答のない問い〉に関するレポートを通して、一連の講義で深めた思索の共有をしてもらう。
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況(発表・発言など)60%、レポート 40%を目安に総合的に判断する。
教 科 書	リチャード・ダン『ハーモニーの教育: ポスト・コロナ時代における世界の新たな見方と学び方』山川出版社。
履 修 上 の 注 意・備 考	教科書をはじめ、事前に参考書などの文献をよく読んで授業に臨むこと。
そ の 他	以下の URL も参照: ・気候変動教育プラットフォーム https://climate-empowerment.nagatalab.jp ・BE*hive (暮らしから捉え直す SDGs) http://kyosei.u-sacred-heart.ac.jp/event/201207/ ・Operation Green. https://operationgreen.info/ecoshift_school/ 初日と最終日以外をオンラインで実施する可能性があるが、URL などの詳細は初日の対面の授業で伝えます。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-11	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	齋藤 宙治				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	子どもの権利の諸問題 Issues in Children's Rights				

授 業 の 目 標・概 要	学校教育を考えるうえで、子どもの権利の視点は必須である。この科目は、子どもの権利に関する英語の基本文献を読むことを通じて、学際的・社会科学的視点から、子どもの権利に関する理解を多角的に深めることを目的とする。あわせて、法や権利について、実証的に分析する視座とその基礎的能力を修得することを目的とする。全 35 章からなる書籍の中から 12 章分程度を厳選して取り扱う。文献自体は英語だが、毎回の発表者による要約報告と議論は日本語で行う。
授 業 計 画	おおむね、以下の内容を予定している。ただし、若干の変更があり得る。1. 導入 2. 子どもの権利の歴史 3. 子どもの権利条約の課題 4. 文化人類学と子どもの権利 5. 社会学と子どもの権利 6. 心理学と子どもの権利 7. 学校と子どもの教育権 8. 子どもの遊ぶ権利 9. デジタル技術と子どもの権利 10. 子どもと労働 11. 子どもの書く権利 12. 地方政府・行政への子どもの参加 13. 子どもの権利に関する子どもの声
授 業 の 方 法	文献輪読による演習形式。各回(毎回 1 章分を予定)の発表担当者に要約報告してもらったあと、全員で議論する。議論を円滑にするために、発表者以外の受講者からも事前に簡単なリアクションペーパーを提出してもらう(A4 で 1 頁以内、1 人 3~5 回程度を予定)。具体的な進行や発表担当回の割当ては、受講者数に応じて、初回に決める。
成 績 評 価 方 法	担当回の発表、リアクションペーパー、議論への参加度による。期末レポートは課さない。
教 科 書	Martin D. Ruck et al. eds., Handbook of Children's Rights: Global and Multidisciplinary Perspectives, Routledge, 2017 (該当箇所は授業内で指示する)
履 修 上 の 注 意・備 考	法学政治学研究科総合法政専攻との合併で開講する。受講者には議論への積極的な参加を求める。文献の内容を細かく和訳・解説することを目的とする授業ではない。文献の内容はあくまでも議論のための素材であり、受講者の興味関心に合わせて、発展的な議論を行いたい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-12	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	宗前 清貞				
授 業 科 目	教職開発・理論研究(教職開発・発展研究)				
講 義 題 目	教育制度の公共政策分析 Public Policy Studies of Education Systems				

授 業 の 目 標・概 要	この授業は、公共政策学の基礎的知識を習得し、それを教育政策や制度の分析・評価に応用できることを目的とする。具体的な政策領域において、従来は固有の知識体系を前提として分析が行われる事例が多いが、制度や政策は「広義の政治」の出力なので、政治学に由来する政策分析の考え方を習得することは重要である。本講義を通じて、政策過程に対する基礎的かつ主要なアプローチを理解し、学術論文執筆に活用できるようになることが目標である。
授 業 計 画	A 序説 1.公共政策学という考え方(対面講義)B 利益アプローチ 2.キューバミサイル危機の事例研究(調査発表)3.アリソンによる3モデルの理解(講義、討論)4.アクターアプローチ論文(討論)C アイディアアプローチ 5.政策移転の政策学(討論)6.行政改革・分権改革の政治学(討論)D 地方行政 7.政策波及の動態分析(討論)8.政策廃止の要因分析(討論)9.生活保護の政官関係(討論)10.第一線職員の行政管理(討論)E 政策論と制度論 11.書評のありよう(講義、討論)12.自殺研究読解(討論)13.国民皆保険の形成過程(対面討論)
授 業 の 方 法	演習形式で行う。割り振られた課題の発表を行い、討論を行う。また関連する概念や考え方を適宜講義する。なお、初回と最終回は教室にて対面で実施する。それ以外の回は ZOOM による遠隔方式で行う。また講義内で扱った論文の筆者によるオーサートーク(ライブまたは録画)を設ける予定。
成 績 評 価 方 法	平常点(授業への参加度、要旨メモの完成度、欠席回数)および課題リポート(書評または政策過程分析)による
教 科 書	秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉(2020)『公共政策学の基礎[第3版]』有斐閣
履 修 上 の 注 意・備 考	この講義では政治学的知識の習熟を前提としていないが、時間の制約がある大学院講義であることを考慮すると、講師による個別フォローには限界がある。そのため、もしも政治学・行政学の知識に不安がある場合には、上述の参考書を必要に応じて入手し、適宜参照されたい。そのうえで質問がある場合にはできる限り対応する予定である。また授業で用いる論文等は(レポジトリ等で電子的に入手できる場合を除き)教員側で準備し配布する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-301-13	単 位 数	2	学 期	S2
担 当 教 員	浅井 幸子				
授 業 科 目	教職開発・実践研究(カリキュラム研究・事例研究)				
講 義 題 目	カリキュラムの事例研究 Case Studies of Curriculum				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	授業の映像を検討すること、授業を参観しエッセイを書くこと、授業研究の方法に関する文献を読むこと等の活動を通して、複雑な教育実践を理解するための多様な方法について考察する。
授 業 計 画	以下の三つの活動を行う予定である。①授業の映像を検討する。②授業を参観する。③授業の記録や授業研究の論文を読む。
授 業 の 方 法	文献や映像やレポートをもとに、参加者でディスカッションを行う。グループでの検討を取り入れる。
成 績 評 価 方 法	参加と課題レポートによる。
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	特になし。

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-14	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	藤江 康彦				
授 業 科 目	教職開発・実践研究(授業研究・事例研究)				
講 義 題 目	授業の事例研究 Case Studies of Classroom Lessons				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	授業研究をはじめとする教育実践研究に関する内外の文献を講読しながら、授業研究や教育実践研究の、教育学研究、子どもや教師の学習や学習環境に関する研究、子どもや教師の学習を支える研究的実践、などの多様な在り方について理解し、研究者、実践者としてどのように取り組んでいくかを考察することを目指す。研究者として、あるいは実践者としてどのように教育実践研究を進めていくのか、について研究手法も含めて検討する。教育実践研究において多くとられる事例研究や質的研究について、その進めかたや留意点、認識論について理解することを通して、質の高い教育実践研究のあり方についても検討する。また、さまざまな校種や教科の授業における映像記録、逐語記録、授業記録、実践記録などの視聴や読み取りを通して、授業、子ども、教師、教材の多様性と固有性、相互関係のあり方の複雑性や相補性などについて、検討し考察する。実際にフィールドワークを行うことも予定している。自分や他者が記録をどう切り出してきたか、どう読み取ったかを交流することを通して、授業、子ども、教師教材などをとらえる視点をメタ的にとらえ事例への視点の多様性や固有性について気づくとともに、授業を対象として分析研究を行う際の方法を学ぶ。
授 業 計 画	第1回:教育実践研究、事例研究の基本的な考え方第2回:文献購読①第3回:文献購読②第4回:フィールドワーク第5回:事例分析①第6回:事例分析②第7回:事例分析③
授 業 の 方 法	文献購読については一回の授業ごとに国内外の授業研究や事例研究、質的研究に関する文献を複数選び、分担者を決めて購読する。購読ののちグループ協議、全体協議をおこなう。事例分析については、フィールドワークによって得られたデータを素材として行う予定である。詳細は授業の初回時に説明する。
成 績 評 価 方 法	演習への参加状況、課題レポート、学期末のレポートをもとに総合的に評価する。
教 科 書	使用しない
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	文献購読や授業映像の文字起こしや分析作業は、授業時間外での作業やグループワークが発生する場合がある。このことを了承のうえで参加されたい。
そ の 他	履修希望者は、必ず初回の授業に出席すること。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-15	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	藤村 宣之				
授 業 科 目	教職開発・実践研究(教職開発・事例研究)				
講 義 題 目	教科教育の心理学的事例研究 Psychological Case Studies on Learning in Subject Areas				

授 業 の 目 標・概 要	各教科の授業についての心理学的分析をテーマとする。中等教育を中心とした各教科の授業について、映像や授業記録にみられる発話やワークシートの記述内容にもとづいて心理学的に分析を行う方法について具体的資料をもとに理解し、その方法に熟達することを目標とする。中等教育における各教科(数学科, 理科, 国語科)の授業が子どもの認知発達や概念発達を促進するうえでの有効性と課題について、発話分析やワークシートの記述内容の分析などをもとに個別および協同で検討を行い、心理学の視点から考察を行う。
授 業 計 画	1: イントロダクション2: 授業の心理学的分析の方法3: 中学校数学科授業の事例研究①(個別探究)4: 中学校数学科授業の事例研究②(協同探究)5: 高校数学科授業の事例研究①(個別探究)6: 高校数学科授業の事例研究②(協同探究)7: 中学校理科授業の事例研究①(個別探究)8: 中学校理科授業の事例研究②(協同探究)9: 高校理科授業の事例研究①(個別探究)10: 高校理科授業の事例研究②(協同探究)11: 中学校国語科授業の事例研究①(個別探究)12: 中学校国語科授業の事例研究②(協同探究)13: 高校国語科授業の事例研究(個別探究・協同探究)
授 業 の 方 法	各教科の授業についての指導案, ワークシート, 授業映像等の資料にもとづいて, 個別に検討を行い(個別探究), 集団での発表・検討・討論(協同探究)を行った後, さらに個別に考察を深める。
成 績 評 価 方 法	授業時の発表・小レポートおよび最終レポートによる。
教 科 書	『協同探究学習で育む「わかる学力」—豊かな学びと育ちを支えるために』(藤村宣之・橘春菜・名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著, ミネルヴァ書房, 2018 年)
履 修 上 の 注 意・備 考	各回の授業およびそこでの討論への参加, 個別探究の小レポート, および最終レポートの提出が必要である。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コード	23-301-16	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	一柳 智紀				
授 業 科 目	教職開発・実践研究(教職開発・実地研究)				
講 義 題 目	授業の実地研究 Fieldwork on Classroom Lessons				

授 業 の 目 標・概 要	各自研究テーマを設定し、学校において観察、記録、実習、調査等のフィールドワークを実施し、その報告を作成し提出する。
授 業 計 画	最初2時間程度、ガイダンスを行い、この授業の趣旨や実施計画、評価方法の概要を説明したのち、参加者はそれぞれ研究テーマ、対象とする学校の選択を行い、履修計画を作成する。その履修計画に基づき、依頼する学校や教師との協議ののち、フィールドワークを実施する。
授 業 の 方 法	各自のフィールドワークを中心とするゼミナールであり、個人研究が基本となる。この実地研究の履修に関しては、修士課程における履修において特段の事情や要望がない限り、最低2単位は東京大学附属中等教育学校において実施することを基本とする。なお、専任、非常勤を問わず勤務校におけるフィールドワークは認められない。中間報告会、最終報告会、附属中等教育学校の公開研究会(2月)への参加がもめられる。
成 績 評 価 方 法	フィールドワークの実施状況および研究レポートによって評価する。
教 科 書	必要に応じて授業中に指示する。
履 修 上 の 注 意・備 考	時間割上の開講時間以外の活動が多くなることに留意されたい。受講希望者は必ず初回の授業(10月2日)に出席すること。出席のない場合は履修を認めない。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-301-17	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	北村 友人				
授 業 科 目	教職開発・実践研究(教職開発・実地研究)				
講 義 題 目	教科学習の実地研究 Fieldwork on Learning in Subject Areas				

授 業 の 目 標・概 要	学校におけるフィールドワーク(授業観察・調査など)のやり方を学ぶとともに、それを研究としてまとめる技法を学ぶ。また、現場の教育に対する理解を深めることも目的とする。履修者は、自ら設定した研究テーマに基づいてフィールドワークを行い、その報告を作成して提出する。
授 業 計 画	最初2時間程度ガイダンスを行って、授業の趣旨や実施計画、評価方法の概要を説明する。その後、履修者はそれぞれの研究テーマを定め、学校の選択を行って、履修計画を作成する。その計画に基づいて学校や教師と調整を行い、フィールドワークを実施する。
授 業 の 方 法	各自のフィールドワークを中心とするゼミナールであり、個人研究が基本となる。この実地研究の履修に関しては、修士課程の履修において特段の事情や要望がないかぎり、最低2単位は東京大学附属中等学校において実施することを基本とする。なお、専任、非常勤を問わず、勤務校におけるフィールドワークは認められない。
成 績 評 価 方 法	フィールドワークの実施状況および研究レポートによって評価する。
教 科 書	使用しない。
履 修 上 の 注 意・備 考	フィールドワークを実施する際には、15 時間以上実施することが必要である。本講義の履修にあたっては、すでに事例研究を履修していることが条件となる。また、東京大学教育学部附属中等教育学校で開催される公開研究会への参加を、基本的に必須とする(研究会は、2022 年 2 月中旬に開催予定)。もしこの研究会への参加が難しいと予想される場合は、事前に担当教員に相談をすること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-301-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	一柳 智紀				
授 業 科 目	教職開発・論文指導(授業研究・論文指導)				
講 義 題 目	授業研究論文指導 Mentoring Seminar of Research on Classroom Lessons				

授 業 の 目 標・概 要	授業研究について、教育心理学的なアプローチによって、各自の研究テーマにそって実証的な論文執筆ができるように指導を行う。
授 業 計 画	学校における子どもと教師の学習・発達過程や、それを支える社会文化的環境に関して、修士論文、博士論文等の執筆を希望する者に対して具体的に、それぞれの問題意識に即して論文執筆が当該年にできるように指導を行なう。
授 業 の 方 法	個人指導および集団での論文指導を行う。個人指導:研究の進行に応じて、適宜教員による個別指導を行う。集団指導:自らの研究テーマについてのプレゼンテーションを行い、参加者で検討する。それによって、研究主題の立て方、研究方法、論文の読み方、コメントの仕方、書き方などを学んでいく。
成 績 評 価 方 法	本授業におけるプレゼンテーションの内容、授業への貢献度、論文の執筆状況にもとづいて評価する。
教 科 書	指定しない。
履修上の注意・備考	参加者の都合に応じて時間を柔軟に設定します。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-301-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	一柳 智紀				
授 業 科 目	教職開発・論文指導(授業研究・論文指導)				
講 義 題 目	授業研究論文指導 Mentoring Seminar of Research on Classroom Lessons				

授 業 の 目 標・概 要	授業研究について、教育心理学的なアプローチによって、各自の研究テーマにそって実証的な論文執筆ができるように指導を行う。
授 業 計 画	学校における子どもと教師の学習・発達過程や、それを支える社会文化的環境に関して、修士論文、博士論文等の執筆を希望する者に対して具体的に、それぞれの問題意識に即して論文執筆が当該年にできるように指導を行なう。
授 業 の 方 法	個人指導および集団での論文指導を行う。個人指導:研究の進行に応じて、適宜教員による個別指導を行う。集団指導:自らの研究テーマについてのプレゼンテーションを行い、参加者で検討する。それによって、研究主題の立て方、研究方法、論文の読み方、コメントの仕方、書き方などを学んでいく。
成 績 評 価 方 法	本授業におけるプレゼンテーションの内容、授業への貢献度、論文の執筆状況にもとづいて評価する。
教 科 書	指定しない。
履修上の注意・備考	参加者の都合に応じて時間を柔軟に設定します。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-301-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	藤江 康彦				
授 業 科 目	教職開発・論文指導(カリキュラム研究・論文指導)				
講 義 題 目	カリキュラム研究論文指導 Mentoring Seminar of Research on Curriculum				

授 業 の 目 標・概 要	授業やカリキュラム、そしてそれらを構成する諸事象を対象にして研究論文を執筆するために必要な知識や技能を身につけ、学位論文を作成することを目指す。
授 業 計 画	1. 「授業」、「教師や子どもの学習」、「カリキュラム」などに関する理論や実践についての研究をレビューし、自らのリサーチクエスチョンを明確にする。2. 「観察法」、「面接法」などの調査方法やデータの質的分析法といった研究方法、機材の取扱方などを習得し、効果的に用いることができるようにする。3. リサーチクエスチョンから研究を立ち上げ、文献探索やフィールドワークを行う。その過程で、研究方法や研究倫理について学ぶ。4. 研究のアイデアを他者と交流させ、研究を展開する。5. 研究を学位論文や学術論文の体裁に執筆しまとめる。
授 業 の 方 法	1. 集団指導:参加者は、自らの研究テーマについてのプレゼンテーションを行う。その発表内容について、参加者全員で集団的に検討を行う。2. 個別指導:研究の進行に応じて、適宜教員による個別指導を行う。
成 績 評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーションの内容、授業への貢献度、論文の執筆状況にもとづいて評価する。
教 科 書	指定しない。
履修上の注意・備考	履修者は藤江の指導学生に限定する。修士課程の学生向けの論文指導ゼミである。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-301-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	藤江 康彦				
授 業 科 目	教職開発・論文指導(カリキュラム研究・論文指導)				
講 義 題 目	カリキュラム研究論文指導 Mentoring Seminar of Research on Curriculum				

授 業 の 目 標・概 要	授業やカリキュラム、そしてそれらを構成する諸事象を対象にして研究論文を執筆するために必要な知識や技能を身につけ、学位論文を作成することを目指す。
授 業 計 画	1. 「授業」、「教師や子どもの学習」、「カリキュラム」などに関する理論や実践についての研究をレビューし、自らのリサーチクエスチョンを明確にする。2. 「観察法」、「面接法」などの調査方法やデータの質的分析法といった研究方法、機材の取扱方などを習得し、効果的に用いることができるようにする。3. リサーチクエスチョンから研究を立ち上げ、文献探索やフィールドワークを行う。その過程で、研究方法や研究倫理について学ぶ。4. 研究のアイデアを他者と交流させ、研究を展開する。5. 研究を学位論文や学術論文の体裁に執筆しまとめる。
授 業 の 方 法	1. 集団指導:参加者は、自らの研究テーマについてのプレゼンテーションを行う。その発表内容について、参加者全員で集団的に検討を行う。2. 個別指導:研究の進行に応じて、適宜教員による個別指導を行う。
成 績 評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーションの内容、授業への貢献度、論文の執筆状況にもとづいて評価する。
教 科 書	指定しない。
履修上の注意・備考	履修者は藤江の指導学生に限定する。博士課程の学生向けの論文指導ゼミである。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-301-22	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	浅井 幸子				
授 業 科 目	教職開発・論文指導(カリキュラム研究・論文指導)				
講 義 題 目	カリキュラム研究論文指導 Mentoring Seminar of Research on Curriculum				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	研究論文を執筆するための指導を行う。
授 業 計 画	具体的な論文の執筆過程に即して、テーマの立て方、資史料調査、分析の方法、記述の方法等を学ぶ。
授 業 の 方 法	個別指導とグループ指導を予定している。
成 績 評 価 方 法	研究の成果によって評価を行う。
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-301-23	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	浅井 幸子				
授 業 科 目	教職開発・論文指導(カリキュラム研究・論文指導)				
講 義 題 目	カリキュラム研究論文指導 Mentoring Seminar of Research on Curriculum				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	研究論文を執筆するための指導を行う。
授 業 計 画	具体的な論文の執筆過程に即して、テーマの立て方、資史料調査、分析の方法、記述の方法等を学ぶ。
授 業 の 方 法	個別指導とグループ指導を予定している。
成 績 評 価 方 法	研究の成果によって評価を行う。
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 不可

時 間 割 コー ド	23-302-01	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	藤村 宣之				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(数学・科学教育・基礎研究)				
講 義 題 目	数学的・科学的思考の発達と学習過程 Development of Mathematical and Scientific Thinking and Learning Processes				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	子どもの数学的思考・科学的思考の発達と学習過程について、教育心理学や発達心理学領域の領域で、どのような知見が得られているか、またどのような心理学的方法論を用いて研究を行うことが可能かについて、教科書や国内外の学術誌掲載論文等の実証的研究をもとに理解を深めることを目標とする。 数学的思考、科学的思考の発達については、問題解決(problem solving)、概念変化(conceptual change)、概念的理解(conceptual understanding)と手続き的知識(procedural knowledge)の関係性、他者との社会的相互作用(social interaction)などに焦点をあて、認知発達研究や個別・協同介入研究の知見やそれを導く心理学の研究的方法論について、解説と検討を行う。数学、科学に関する学習過程については、言語に関わる学習を含めて、探究や協同を含む教科学習の認知プロセスに焦点をあて、その知見と方法論について解説と検討を行う。
授 業 計 画	1: 数学的思考・科学的思考をめぐる状況と教育心理学・発達心理学研究2: 数学的思考・科学的思考をとらえる視点①手続き的知識3: 数学的思考・科学的思考をとらえる視点②概念的理解4: 数学的思考・科学的思考をとらえる視点③定型の問題解決5: 数学的思考・科学的思考をとらえる視点④非定型の問題解決6: 数学的思考・科学的思考の発達をとらえる視点①概念変化7: 数学的思考・科学的思考の発達をとらえる視点②探究過程8: 数学的思考・科学的思考の発達をとらえる視点③社会的相互作用9: 教科学習の認知プロセス①授業を通じた言語的思考の高まり10: 教科学習の認知プロセス②授業を通じた数学的思考の高まり11: 教科学習の認知プロセス③授業を通じた科学的思考の高まり12: 教科学習の認知プロセス④思考・理解の時間的・空間的広がりや深まり13: 教科教育の心理学の展開: 発達と学習の相互関係を探る
授 業 の 方 法	授業の内容について、教科書や参考書を用いて教員が解説を行い、参加者全体で質疑、討論を行う。また指定した文献について、各参加者はレポートとコメントを行い、参加者全体で討論を行う。
成 績 評 価 方 法	期末レポート、授業時のレポート、および授業への参加状況を総合して評価する。
教 科 書	『協同的探究学習で育む「わかる学力」—豊かな学びと育ちを支えるために』(藤村宣之・橘春菜・名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著, ミネルヴァ書房, 2018 年)
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	期末レポートや授業におけるレポートに加えて、他の参加者のレポートや教員による解説に関する討論に対する積極的な参加が望まれる。
そ の 他	初回は対面で授業を行う。以降の授業形態については、後日、連絡する。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-02	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	斎藤 兆史				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(言語教育・基礎研究)				
講 義 題 目	英語教授法 English Language Teaching Methodologies				

授 業 の 目 標・概 要	外国語教授法、特に英語教授法に関する諸理論を細かく検討し、それらが日本の学校英語教育に応用可能なものかどうかを議論する。
授 業 計 画	第1回: Grammar-Translation Method 第2回: 訳読第3回: Oral Method 第4回: Audio-Lingual Method 第5回: Total Physical Response 第6回: Suggestopedia 第7回: Silent Method 第8回: Oral Introduction 第9回: Communicative Approach 第10回: Task-Based Language Teaching 第11回: Focus on Form 第12回: Content and Language Integrated Learning 第13回: 多読第14回: その他の教授法第15回: まとめ
授 業 の 方 法	毎回の発表担当者がそれぞれの教授法の歴史、理論、実践などについて調査し、それを授業で発表する。その発表に基づいて議論をし、それぞれの教授法についての理解を深めるとともに、それらが現在の日本の英語教育の現場に応用可能なものかを検討する。
成 績 評 価 方 法	授業への貢献度、発表、授業への取り組み、最終レポートを総合的に評価する。
教 科 書	使用しない。
履修上の注意・備考	発表を担当する時でなくても授業で扱う教授法を勉強し、問題意識を持って授業に臨むこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-302-03	単 位 数	2	学 期	A1
担 当 教 員	北村 友人				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(人文社会教育・基礎研究)				
講 義 題 目	Education in the Era of Globalization: Asian Contexts Education in the Era of Globalization: Asian Contexts				

授業の目標・概要	This course aims at helping students better understand current situations of education in Asia, particularly under the influence of globalization. We will discuss theoretical, institutional and practical dimensions of education, with particular interests of how education could contribute to the promotion and realization of more sustainable society.
授 業 計 画	(1) Introduction to the course(2) Globalization and education(3) Global education networks and discourses(4) Global model of education and international agencies(5) Education for Sustainable Development (ESD)(6) Local contexts of education and global mobility of the people(7) Global agenda in education(8) Concluding session
授 業 の 方 法	Each student will assign one of the reading materials and make presentation on it in the class. Based on the presentation, we will discuss various issues raised in the reading material. Also, students will write a short essay for each reading material to
成績評価方法	Final term paper (30%), In-class presentation (30%), Short essays for reading materials (20%), Participation and contribution to discussion in classes (20%)
教 科 書	Joel Spring (2015) Globalization of Education: An Introduction (2nd Edition). New York and London: Routledge.
履修上の注意・備考	Active participation in the discussion is expected.
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-04	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	濱田 秀行				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(言語教育・発展研究)				
講 義 題 目	国語科教育の理論と実践 The Theory and Practice of Japanese Language Education				

授 業 の 目 標・概 要	今日の学校教育における国語科の授業実践とその理論について学ぶ。教科「国語」の公式の枠組みである「学習指導要領」の学力観・指導観や実際の授業事例、教科書教材について検討することを通して、国語科教育の理論を踏まえながら実践について議論ができるようになる。／Learn about Japanese language class practice and its theory in school education.
授 業 計 画	1. オリエンテーション 2. 国語科授業実践の基本的な枠組 3. 国語科学習指導の実際 4. 国語科の教科内容(「読むこと」を例に)5. 「読むこと」をとらえ直す(教科書教材の構成)6. 「読むこと」をとらえ直す(教材分析)7. 指導と評価の一体化 8-9. 授業事例1の検討 10. 国語科授業実践のコンテクスト 11. 協働による読みの深まり 12-13. 授業事例2の検討
授 業 の 方 法	グループワーク, グループディスカッションを中心とする。
成 績 評 価 方 法	授業中の議論への参加状況とレポートから評価を行う。
教 科 書	文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 国語編』東洋館出版社
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	テキストは、文部科学省の Web ページから PDF ファイルをダウンロードし授業中に参照できるよう準備すれば購入しなくても良い。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-302-05	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	永田 佳之				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(人文社会教育・発展研究)				
講 義 題 目	地球規模課題とESD Global Issues and ESD				

授業の目標・概要	教育が普及すればするほど環境はなぜ悪化するのか。もしそうであればそのような教育にどんな価値があるのであろう — 環境教育や ESD の論客である David Orr が私たちにこう問いかけたのは 30 年ほど前である('Earth in Mind')。この授業では、この問いを基層に据え、履修者が各々の答えを探究していく。上記の問いの他にも幾つかの〈正答のない問い〉を共有し、それぞれの思索を深める契機とする。講義内容のテキストスタイルとして、縦系として「教育開発」を、横系として「環境」や「持続可能性(サステナビリティ)」などのグローバルな課題を設け、人類にとって喫緊の問題である気候変動(気候危機)などのサブトピックも織り込んでいく。また、ポスト・コロナ時代における教育の在り方を幼児教育から高等教育に至るまで国内外の理論や原理、実践も紹介しながら考察を深める。
授 業 計 画	1 基本的な問いの共有 2 持続可能な社会と教育 3 環境教育・ESD・EfS4 エコフォビアを超えて 5 プラネタリー・バウンダリーと未来世代 6 気候変動の本質的な課題 7 不確実性の時代と学校教育 8 ESD の来し方行く末① 9 ESD の来し方行く末② 10 ESD for 2030 – SDGs と教育 – 11 世界の優良実践① 12 世界の優良実践② 13 日本の教育を捉え直す 14 「平和・人権・持続可能な開発のための教育に関する勧告」と「教育の未来」報告書 15 ポスト・コロナ時代の学校をデザインする
授 業 の 方 法	資料配布など、部分的にオンラインの活用も検討するが、基本は教室での対面による授業を行う。〈正答のない問い〉を中心に進め、グループ討議や発表も適宜、取り入れていく。全ての講義への参加を前提とし、最終授業で課す〈正答のない問い〉に関するレポートを通して、一連の講義で深めた思索の共有をしてもらう。
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況(発表・発言など)60%、レポート 40%を目安に総合的に判断する。
教 科 書	リチャード・ダン『ハーモニーの教育: ポスト・コロナ時代における世界の新たな見方と学び方』山川出版社。
履修上の注意・備考	教科書をはじめ、事前に参考書などの文献をよく読んで授業に臨むこと。
そ の 他	以下の URL も参照: ・気候変動教育プラットフォーム https://climate-empowerment.nagatalab.jp ・BE*hive (暮らしから捉え直す SDGs) http://kyosei.u-sacred-heart.ac.jp/event/201207/ ・Operation Green. https://operationgreen.info/ecoshift_school/ 初日と最終日以外をオンラインで実施する可能性があるが、URL などの詳細は初日の対面の授業で伝えます。

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-07	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	荒木 啓史				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(教育内容開発・発展研究)				
講 義 題 目	Research Methods in Education Research Methods in Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	Are you a quantitative researcher or a qualitative researcher (or a mixed methodologist)? This is a frequently asked question in academia. However, what do “quantitative” and “qualitative” mean in educational research? Are there any risks by adopting this dichotomous perspective when you investigate your research question? Understanding the advantage and the limitation of various research methods, ranging from classical approaches to state-of-the-art ones, is essential for students to conduct high-quality independent research whilst critically assessing prior academic work. This course aims to develop students’ knowledge and skills concerning research methods in education via lectures, discussions, presentations, and other assignments. Having successfully completed the course, students will be able to:– understand and explain the basic concept, advantages, and limitations of research methods in education;– critically assess previous educational research in terms of research methods;– design and use appropriate research methods in accordance with their own research interests/questions.
授 業 計 画	[The schedule below is subject to change.]■Day 1 (1 August 2024, 8:30–14:45)1. Introduction to research methods in education2. Research questions3. Literature review■Day 2 (2 August 2024, 8:30–16:40)4. Qualitative research 1: Scope and basic concepts5. Qualitative research 2: Application and further development6. Quantitative research 1: Scope and basic concepts7. Quantitative research 2: Application and further development■Day 3 (5 August 2024, 8:30–14:45)8. Mixed methods 1: Scope and basic concepts9. Mixed methods 2: Application and further development10. Research writing■Day 4 (6 August 2024, 8:30–14:45)11. Presentation by students 112. Presentation by students 213. Summary and feedback
授 業 の 方 法	I will give an introductory lecture at the beginning of each class, followed by discussions around the advantage and the limitation of existing research methods in education. Students are encouraged to read the relevant literature (see “Reference” below)
成 績 評 価 方 法	Term paper (30%); Presentation (20%); Minute papers (30%); Contribution to discussions in classes (20%).
教 科 書	There is no textbook for this course. I will prepare materials for each class and share them with students. In the meantime, students are encouraged to read the literature as indicated below.
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	Although the primary language of instruction will be English, all students regardless of English proficiency are welcome to take this course. If you are interested in this course but foresee a clash with other courses and/or assignments, feel free to reac
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-302-08	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	伊藤 守				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(教育内容開発・発展研究)				
講 義 題 目	現代思想と情動論の展開 Contemporary Thought and Affect Theory				

授 業 の 目 標・概 要	情動概念に関する基本的理解と共に「情動的世界」の多層性・多面性を理解することが目標となる。具体的には、私的でありかつ公共的でもある情動の両義性、つまり個性と集団性が対立的なものではなく相互包摂であること、さらにコンピュータ科学における「情動」現象の「実装化」への試みやメディア環境における情動現象の生起等、現在社会における情動に関連する事象にも目を向けることもこの講義の目標である。
授 業 計 画	前半は、スピノザ、ジェームズ、ホワイトヘッド、ドゥルーズ&ガタリ、そしてマッサミの議論を生命組織の創造性や即興性といった＜ontopower＞の力動性を中心に検討し、後半は受講生から教育分野における情動論の議論の核心点を報告してもらう。
授 業 の 方 法	毎回、事前に論文を読んで報告し、全員で議論するスタイルとする。
成 績 評 価 方 法	報告内容、ならびに議論への参加の積極性で評価。
教 科 書	無し
履修上の注意・備考	事前に論文を読んで参加ことを重視するので、この点に留意して受講すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-09	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	楠見 孝				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(教育内容開発・発展研究)				
講 義 題 目	実践知と叡智:熟達化と生涯発達からの検討 Practical Knowledge and Wisdom:Perspective from Expertise and Lifelong Development				

授 業 の 目 標・概 要	[概要] 実践知と叡智の特質と認知過程を支える批判的思考と省察, 自伝的記憶, 学習過程としての熟達化や経験学習, アンラーニング, そして生涯発達について概説します。さらに, それらをとらえる認知心理学, 認知科学と教育学などの関連領域の主要な理論とモデルに関して, 研究方法とデータに基づいて検討します。あわせて, 学校や職場における具体例について, ICT や大規模データ, 生成AIの利活用の諸問題も含めて検討します。[目標] 受講生が, 実践知と叡智に関する理論, 方法論を理解して, 自分の研究テーマと関連づけて検討し, 研究の展開に結びつけることを目指します。
授 業 計 画	1. 仕事の熟達化と熟達者, 経験学習 2. 実践知を支えるスキル(教員, 看護師, 会社員の事例)3. 叡智と生涯発達, 実践知の共有と継承 4. 職場におけるラーニングとアンラーニング (ICT, プログラミング教育と教育データ, 生成 AI の利活用の事例)5. 実践知を支える批判的思考と省察, 自伝的記憶 6. 受講者の発表(自身の研究あるいは授業に関するテーマ, 参考書①, ⑩などに所収された論文紹介)7. 全体討論とまとめ
授 業 の 方 法	講義と演習を組み合わせで行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況と発表などに基づいて, 総合的に評価を行う。
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	・受講者の関心や人数によって, 授業計画は調整する。・予習:上記の参考書を読んで, 問いをたてる。・復習:自らの問いが, 授業によって解決できたかを確認し, さらなる問いをたてる自分の研究に関連するテーマや関心を持ったテーマについては, 自ら資料を収集し, 探究を深め, 最終回での発表の準備を進める。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-302-10	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	木村 優				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(教育内容開発・発展研究)				
講 義 題 目	教職専門性開発研究概論 Research on Professional Development of Teachers				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	本授業では、教師の専門性の内実及び専門性開発の過程についての基盤理論(専門職の資本、専門職の学び合うコミュニティ、専門職の学び合うネットワーク、ミドルからのリーダーシップ等)を理解・習得した上で、複雑で不確実であるが豊かな教育理論の生成と変革のアリーナである教育実践をベースにした教職専門性開発研究を推進するための素養を受講院生が協働で磨き合うことを目標とする。In this class, we aim to cultivate graduate students understanding and mastering the basic theories of teacher professionalism and the process of professional development (professional capital, professional learning communities, professional learning networks, leadership from the middle, etc.), and then they study collaboratively to refine their skills to promote research on teacher professional development based on educational practice, which is a complex, uncertain, but rich arena for the creation and transformation of educational theories.
授 業 計 画	授業は以下、4つのサイクルで展開する。第1サイクル(第1回) 教職をめぐる社会的状況と教師研究・教育研究の展望第2サイクル(第2回～第6回) 専門職としての教師の資本第3サイクル(第7回～第13回) Leadership from the middle as the beating heart of educational transformation 第4サイクル(第14回) 教職専門性開発研究の展望第1サイクルでは、わが国の教育政策・教師政策の動向を踏まえた上で、受講院生それぞれの教師研究または教育研究の展望を確認する。第2サイクルでは、ハーグリーブス&フラン『専門職としての教師の資本—21世紀を革新する教師・学校・教育政策のグランドデザイン』(Hargreaves, A. & Fullan, M. (2012) “Professional Capital: Transforming teaching in every school,” New York: Teachers College Press の邦訳)を吟味検討し、教師の専門性の内実及び専門性開発の過程についての基盤理論を理解・習得する。授業では、第1・2・3・4・5・6章を扱う。第3サイクルでは、Hargreaves, A (2024) “Leadership from the middle: The beating heart of educational transformation,” New York and London: Routledge を吟味検討し、教職専門性開発を推進するための革新理論を探究する。授業では、全7章を扱う。第4サイクルでは、先のサイクルを通じた探究をふまえ、受講院生それぞれの教職専門性開発研究の展望を拓く。The class will proceed in the following four cycles.Cycle 1 (1st session) Social conditions surrounding the teaching profession and prospects for teacher research and educational researchCycle 2 (2nd-6th sessions) Professional Capital of the teachersThird cycle (Part 7 - 13) Leadership from the middle as the beating heart of educational transformationCycle 4 (14th) Prospects for research on professional development of teachersIn the first cycle, we will confirm the prospects of each graduate students' teacher research or educational research based on the trends of education policy and teacher policy in Japan.In the second cycle, we will review Hargreaves, A. & Fullan, M. (2012), Professional Capital: Transforming teaching in every school,” New York: Teachers College Press) to understand and master the basic theories of the nature of teacher professionalism and the process of professional development. We will examine Chapters 1, 2, 3, 4, 5, and 6 in the class.In the third cycle, we will review Hargreaves, A (2024) “Leadership from the middle: The beating heart of educational transformation,” New York and London: Routledge. We will explores innovative theories for promoting professional development in the teaching profession. The class will cover a total of seven chapters of this book.In the fourth cycle, based on the exploration through the previous cycles, each graduate students will develop their own perspectives on research on professional development in teaching.
授 業 の 方 法	授業は資料及び文献講読をベースとしたゼミナール形式で行う。なお、受講院生が多数の場合、適宜、少人数のグループワークを取り入れ、学びの共有や意見の交流を行う。受講院生には、第2サイクル及び第3サイクルで扱う文献を事前に確認いただき、同文献を協働で吟味検討するためのレジュメを章分担で作成いただいて授業当日に臨んでいただく。そのため、授業前オリエンテーションをオンラインまたは書面で実施し、受講院生同士で担当章の分担を決める。一つの章を複数受講院生で担当するのも歓迎

	迎。レジュメには、まず、(1)担当章の概要を示し、
成績評価方法	成績評価は、授業全般における対話への参画の程度、作成レジュメの精度、教職専門性開発研究の展望から見る同研究へのエンゲージメントの程度、を総合して行う。Grading will be based on the degree of participation in the overall class dialogue, the accuracy of the prepared resumes, and the degree of engagement in the research from the perspective of the research on professional development in teaching.
教科書	(1)ハーグリーブス・A & フラン・M, 木村 優・篠原岳司・秋田喜代美(監訳)(2022)『専門職としての教師の資本—21 世紀を革新する教師・学校・教育政策のグランドデザイン』, 金子書房(Hargreaves, A. & Fullan, M. (2012) “Professional Capital: Transforming teaching in every school,” New York: Teachers College Press)を吟味検討し、教師の専門性(2)Hargreaves, A (2024) “Leadership from the middle: The beating heart of educational transformation,” New York and London: Routledge
履修上の注意・備考	受講院生は、教師・教職専門性を扱った学術論文や学術書について事前に吟味しておくこと。また、履修に際しては、授業中の全体またはグループでの対話に積極的に参加すること。また、互いの受講院生の声(意見)によく耳を澄まし、ときには他の受講院生に意見を求めるなど、対話における知的及び心理的安全性の保障、協働探究の活性化に努めること。授業後には、授業で扱った文献を再吟味・再検討し、自身の教師研究・教育研究推進のためのフレームリフレクションに役立てること。Graduate students are expected t
その他	本授業の挑戦的な課題へのチャレンジの中で、仲間との協働探究を楽しもう。Enjoy collaborative inquiry with your peers in the challenge of the issues in this class.

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時 間 割 コー ド	23-302-11	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	齋藤 宙治				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(教育内容開発・発展研究)				
講 義 題 目	子どもの権利の諸問題 Issues in Children's Rights				

授 業 の 目 標・概 要	学校教育を考えるうえで、子どもの権利の視点は必須である。この科目は、子どもの権利に関する英語の基本文献を読むことを通じて、学際的・社会科学的視点から、子どもの権利に関する理解を多角的に深めることを目的とする。あわせて、法や権利について、実証的に分析する視座とその基礎的能力を修得することを目的とする。全 35 章からなる書籍の中から 12 章分程度を厳選して取り扱う。文献自体は英語だが、毎回の発表者による要約報告と議論は日本語で行う。
授 業 計 画	おおむね、以下の内容を予定している。ただし、若干の変更があり得る。1. 導入 2. 子どもの権利の歴史 3. 子どもの権利条約の課題 4. 文化人類学と子どもの権利 5. 社会学と子どもの権利 6. 心理学と子どもの権利 7. 学校と子どもの教育権 8. 子どもの遊ぶ権利 9. デジタル技術と子どもの権利 10. 子どもと労働 11. 子どもの書く権利 12. 地方政府・行政への子どもの参加 13. 子どもの権利に関する子どもの声
授 業 の 方 法	文献輪読による演習形式。各回(毎回 1 章分を予定)の発表担当者に要約報告してもらったあと、全員で議論する。議論を円滑にするために、発表者以外の受講者からも事前に簡単なリアクションペーパーを提出してもらう(A4 で 1 頁以内、1 人 3~5 回程度を予定)。具体的な進行や発表担当回の割当ては、受講者数に応じて、初回に決める。
成 績 評 価 方 法	担当回の発表、リアクションペーパー、議論への参加度による。期末レポートは課さない。
教 科 書	Martin D. Ruck et al. eds., Handbook of Children's Rights: Global and Multidisciplinary Perspectives, Routledge, 2017 (該当箇所は授業内で指示する)
履 修 上 の 注 意・備 考	法学政治学研究科総合法政専攻との合併で開講する。受講者には議論への積極的な参加を求める。文献の内容を細かく和訳・解説することを目的とする授業ではない。文献の内容はあくまでも議論のための素材であり、受講者の興味関心に合わせて、発展的な議論を行いたい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-12	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	宗前 清貞				
授 業 科 目	教育内容開発・理論研究(教育内容開発・発展研究)				
講 義 題 目	教育制度の公共政策分析 Public Policy Studies of Education Systems				

授 業 の 目 標・概 要	この授業は、公共政策学の基礎的知識を習得し、それを教育政策や制度の分析・評価に応用できることを目的とする。具体的な政策領域において、従来は固有の知識体系を前提として分析が行われる事例が多いが、制度や政策は「広義の政治」の出力なので、政治学に由来する政策分析の考え方を習得することは重要である。本講義を通じて、政策過程に対する基礎的かつ主要なアプローチを理解し、学術論文執筆に活用できるようになることが目標である。
授 業 計 画	A 序説 1.公共政策学という考え方(対面講義)B 利益アプローチ 2.キューバミサイル危機の事例研究(調査発表)3.アリソンによる3モデルの理解(講義、討論)4.アクターアプローチ論文(討論)C アイディアアプローチ 5.政策移転の政策学(討論)6.行政改革・分権改革の政治学(討論)D 地方行政 7.政策波及の動態分析(討論)8.政策廃止の要因分析(討論)9.生活保護の政官関係(討論)10.第一線職員の行政管理(討論)E 政策論と制度論 11.書評のありよう(講義、討論)12.自殺研究読解(討論)13.国民皆保険の形成過程(対面討論)
授 業 の 方 法	演習形式で行う。割り振られた課題の発表を行い、討論を行う。また関連する概念や考え方を適宜講義する。なお、初回と最終回は教室にて対面で実施する。それ以外の回は ZOOM による遠隔方式で行う。また講義内で扱った論文の筆者によるオーサートーク(ライブまたは録画)を設ける予定。
成 績 評 価 方 法	平常点(授業への参加度、要旨メモの完成度、欠席回数)および課題リポート(書評または政策過程分析)による
教 科 書	秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉(2020)『公共政策学の基礎[第3版]』有斐閣
履 修 上 の 注 意・備 考	この講義では政治学的知識の習熟を前提としていないが、時間の制約がある大学院講義であることを考慮すると、講師による個別フォローには限界がある。そのため、もしも政治学・行政学の知識に不安がある場合には、上述の参考書を必要に応じて入手し、適宜参照されたい。そのうえで質問がある場合にはできる限り対応する予定である。また授業で用いる論文等は(レポジトリ等で電子的に入手できる場合を除き)教員側で準備し配布する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-13	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	藤村 宣之				
授 業 科 目	教育内容開発・実践研究(教育内容開発・事例研究)				
講 義 題 目	教科教育の心理学的事例研究 Psychological Case Studies on Learning in Subject Areas				

授 業 の 目 標・概 要	各教科の授業についての心理学的分析をテーマとする。中等教育を中心とした各教科の授業について、映像や授業記録にみられる発話やワークシートの記述内容にもとづいて心理学的に分析を行う方法について具体的資料をもとに理解し、その方法に熟達することを目標とする。中等教育における各教科(数学科, 理科, 国語科)の授業が子どもの認知発達や概念発達を促進するうえでの有効性と課題について、発話分析やワークシートの記述内容の分析などをもとに個別および協同で検討を行い、心理学の視点から考察を行う。
授 業 計 画	1: イントロダクション2: 授業の心理学的分析の方法3: 中学校数学科授業の事例研究①(個別探究)4: 中学校数学科授業の事例研究②(協同探究)5: 高校数学科授業の事例研究①(個別探究)6: 高校数学科授業の事例研究②(協同探究)7: 中学校理科授業の事例研究①(個別探究)8: 中学校理科授業の事例研究②(協同探究)9: 高校理科授業の事例研究①(個別探究)10: 高校理科授業の事例研究②(協同探究)11: 中学校国語科授業の事例研究①(個別探究)12: 中学校国語科授業の事例研究②(協同探究)13: 高校国語科授業の事例研究(個別探究・協同探究)
授 業 の 方 法	各教科の授業についての指導案, ワークシート, 授業映像等の資料にもとづいて, 個別に検討を行い(個別探究), 集団での発表・検討・討論(協同探究)を行った後, さらに個別に考察を深める。
成 績 評 価 方 法	授業時の発表・小レポートおよび最終レポートによる。
教 科 書	『協同探究学習で育む「わかる学力」—豊かな学びと育ちを支えるために』(藤村宣之・橘春菜・名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著, ミネルヴァ書房, 2018 年)
履 修 上 の 注 意・備 考	各回の授業およびそこでの討論への参加, 個別探究の小レポート, および最終レポートの提出が必要である。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コ ー ド	23-302-14	単 位 数	2	学 期	S2
担 当 教 員	浅井 幸子				
授 業 科 目	教育内容開発・実践研究(教育内容開発・事例研究)				
講 義 題 目	カリキュラムの事例研究 Case Studies of Curriculum				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	授業の映像を検討すること、授業を参観しエッセイを書くこと、授業研究の方法に関する文献を読むこと等の活動を通して、複雑な教育実践を理解するための多様な方法について考察する。
授 業 計 画	以下の三つの活動を行う予定である。①授業の映像を検討する。②授業を参観する。③授業の記録や授業研究の論文を読む。
授 業 の 方 法	文献や映像やレポートをもとに、参加者でディスカッションを行う。グループでの検討を取り入れる。
成 績 評 価 方 法	参加と課題レポートによる。
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。
そ の 他	特になし。

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-302-15	単 位 数	2	学 期	A2
担 当 教 員	藤江 康彦				
授 業 科 目	教育内容開発・実践研究(教育内容開発・事例研究)				
講 義 題 目	授業の事例研究 Case Studies of Classroom Lessons				

授 業 の 目 標・概 要	授業研究をはじめとする教育実践研究に関する内外の文献を講読しながら、授業研究や教育実践研究の、教育学研究、子どもや教師の学習や学習環境に関する研究、子どもや教師の学習を支える研究的実践、などの多様な在り方について理解し、研究者、実践者としてどのように取り組んでいくかを考察することを目指す。研究者として、あるいは実践者としてどのように教育実践研究を進めていくのか、について研究手法も含めて検討する。教育実践研究において多くとられる事例研究や質的研究について、その進めかたや留意点、認識論について理解することを通して、質の高い教育実践研究のあり方についても検討する。また、さまざまな校種や教科の授業における映像記録、逐語記録、授業記録、実践記録などの視聴や読み取りを通して、授業、子ども、教師、教材の多様性と固有性、相互関係のあり方の複雑性や相補性などについて、検討し考察する。実際にフィールドワークを行うことも予定している。自分や他者が記録をどう切り出してきたか、どう読み取ったかを交流することを通して、授業、子ども、教師教材などをとらえる視点をメタ的にとらえ事例への視点の多様性や固有性について気づくとともに、授業を対象として分析研究を行う際の方法を学ぶ。
授 業 計 画	第1回:教育実践研究、事例研究の基本的な考え方第2回:文献購読①第3回:文献購読②第4回:フィールドワーク第5回:事例分析①第6回:事例分析②第7回:事例分析③
授 業 の 方 法	文献購読については一回の授業ごとに国内外の授業研究や事例研究、質的研究に関する文献を複数選び、分担者を決めて購読する。購読ののちグループ協議、全体協議をおこなう。事例分析については、フィールドワークによって得られたデータを素材として行う予定である。詳細は授業の初回時に説明する。
成 績 評 価 方 法	演習への参加状況、課題レポート、学期末のレポートをもとに総合的に評価する。
教 科 書	使用しない
履 修 上 の 注 意・備 考	文献購読や授業映像の文字起こしや分析作業は、授業時間外での作業やグループワークが発生する場合がある。このことを了承のうえで参加されたい。
そ の 他	履修希望者は、必ず初回の授業に出席すること。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-302-16	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	北村 友人				
授 業 科 目	教育内容開発・実践研究(教育内容開発・実地研究)				
講 義 題 目	教科学習の実地研究 Fieldwork on Learning in Subject Areas				

授 業 の 目 標・概 要	学校におけるフィールドワーク(授業観察・調査など)のやり方を学ぶとともに、それを研究としてまとめる技法を学ぶ。また、現場の教育に対する理解を深めることも目的とする。履修者は、自ら設定した研究テーマに基づいてフィールドワークを行い、その報告を作成して提出する。
授 業 計 画	最初2時間程度ガイダンスを行って、授業の趣旨や実施計画、評価方法の概要を説明する。その後、履修者はそれぞれの研究テーマを定め、学校の選択を行って、履修計画を作成する。その計画に基づいて学校や教師と調整を行い、フィールドワークを実施する。
授 業 の 方 法	各自のフィールドワークを中心とするゼミナールであり、個人研究が基本となる。この実地研究の履修に関しては、修士課程の履修において特段の事情や要望がないかぎり、最低2単位は東京大学附属中等学校において実施することを基本とする。なお、専任、非常勤を問わず、勤務校におけるフィールドワークは認められない。
成 績 評 価 方 法	フィールドワークの実施状況および研究レポートによって評価する。
教 科 書	使用しない。
履修上の注意・備考	フィールドワークを実施する際には、15 時間以上実施することが必要である。本講義の履修にあたっては、すでに事例研究を履修していることが条件となる。また、東京大学教育学部附属中等教育学校で開催される公開研究会への参加を、基本的に必須とする(研究会は、2022 年 2 月中旬に開催予定)。もしこの研究会への参加が難しいと予想される場合は、事前に担当教員に相談をすること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-302-17	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	一柳 智紀				
授 業 科 目	教育内容開発・実践研究(教育内容開発・実地研究)				
講 義 題 目	授業の実地研究 Fieldwork on Classroom Lessons				

授 業 の 目 標・概 要	各自研究テーマを設定し、学校において観察、記録、実習、調査等のフィールドワークを実施し、その報告を作成し提出する。
授 業 計 画	最初2時間程度、ガイダンスを行い、この授業の趣旨や実施計画、評価方法の概要を説明したのち、参加者はそれぞれ研究テーマ、対象とする学校の選択を行い、履修計画を作成する。その履修計画に基づき、依頼する学校や教師との協議ののち、フィールドワークを実施する。
授 業 の 方 法	各自のフィールドワークを中心とするゼミナールであり、個人研究が基本となる。この実地研究の履修に関しては、修士課程における履修において特段の事情や要望がない限り、最低2単位は東京大学附属中等教育学校において実施することを基本とする。なお、専任、非常勤を問わず勤務校におけるフィールドワークは認められない。中間報告会、最終報告会、附属中等教育学校の公開研究会(2月)への参加がもめられる。
成 績 評 価 方 法	フィールドワークの実施状況および研究レポートによって評価する。
教 科 書	必要に応じて授業中に指示する。
履 修 上 の 注 意・備 考	時間割上の開講時間以外の活動が多くなることに留意されたい。受講希望者は必ず初回の授業(10月2日)に出席すること。出席のない場合は履修を認めない。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コ ー ド	23-302-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	斎藤 兆史				
授 業 科 目	教育内容開発・論文指導(言語教育・論文指導)				
講 義 題 目	外国語教育論文指導 Dissertation Research in Foreign Language Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	外国語教育関係の研究手法を教授し、最終的に論文を書き上げるまでの指導を行う。
授 業 計 画	履修者それぞれの研究内容と進度に合わせ、適切な方法論や資料の扱い方を教授する。
授 業 の 方 法	基本的に面談指導を行う。
成 績 評 価 方 法	論文執筆に向けての計画、資料収集の状況、執筆の進捗、論文の内容、面談への取り組みなどを総合的に評価する。
教 科 書	なし。
履修上の注意・備考	十分な計画、資料、草稿を準備して面談に臨むこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-302-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	斎藤 兆史				
授 業 科 目	教育内容開発・論文指導(言語教育・論文指導)				
講 義 題 目	外国語教育論文指導 Dissertation Research in Foreign Language Education				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	外国語教育関係の研究手法を教授し、最終的に論文を書き上げるまでの指導を行う。
授 業 計 画	履修者それぞれの研究内容と進度に合わせ、適切な方法論や資料の扱い方を教授する。
授 業 の 方 法	基本的に面談指導を行う。
成 績 評 価 方 法	論文執筆に向けての計画、資料収集の状況、執筆の進捗、論文の内容、面談への取り組みなどを総合的に評価する。
教 科 書	なし。
履修上の注意・備考	十分な計画、資料、草稿を準備して面談に臨むこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-302-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	北村 友人				
授 業 科 目	教育内容開発・論文指導(人文社会教育・論文指導)				
講 義 題 目	人文社会教育論文指導 Dissertation Research in Humanities and Social Sciences Education				

授 業 の 目 標・概 要	修士論文を執筆するための指導を行うことが、本演習の目的である。
授 業 計 画	論文執筆を進めるうえで、以下の項目についての理解を深めることを目指している。1. 研究テーマの確定と研究課題の設定 2. 先行研究のレビューならびに理論枠組みの構築 3. 研究方法論とデータの分析 4. 研究のオリジナリティ 5. 論文執筆のための心得
授 業 の 方 法	受講者と新年度のはじめに面談を行い、それぞれの研究関心に沿った論文執筆のための指導計画を考える。なお、個別指導と集団指導を組み合わせで行う。詳細については、初回のゼミ(対面)で説明する。
成 績 評 価 方 法	学位論文の執筆へ向けて、個別にどの程度達成できているかを評価する。
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-302-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	北村 友人				
授 業 科 目	教育内容開発・論文指導(人文社会教育・論文指導)				
講 義 題 目	人文社会教育論文指導 Dissertation Research in Humanities and Social Sciences Education				

授 業 の 目 標・概 要	博士論文を執筆するための指導を行うことが、本演習の目的である。
授 業 計 画	論文執筆を進めるうえで、以下の項目についての理解を深めることを目指している。1. 研究テーマの確定と研究課題の設定 2. 先行研究のレビューならびに理論枠組みの構築 3. 研究方法論とデータの分析 4. 研究のオリジナリティ 5. 論文執筆のための心得
授 業 の 方 法	受講者と新年度のはじめに面談を行い、それぞれの研究関心に沿った論文執筆のための指導計画を考える。なお、個別指導と集団指導を組み合わせで行う。詳細については、初回のゼミ(対面)で説明する。
成 績 評 価 方 法	学位論文の執筆へ向けて、個別にどの程度達成できているかを評価する。
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-302-24	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	藤村 宣之				
授 業 科 目	教育内容開発・論文指導(教育内容開発・論文指導)				
講 義 題 目	教育内容開発論文指導 Research of Dissertation				

授 業 の 目 標・概 要	小学校・中学校・高校の教科等の教育や関連する認知過程に関する実証的研究について、修士論文執筆に向けての論文指導を行う。心理学的アプローチによる研究を中心に、研究の進め方、論文の書き方などに関する指導を行う。
授 業 計 画	各参加者の研究テーマに関して、先行研究の検討、研究目的・研究計画の設定、実証的研究の実施、研究結果の心理学的分析、分析結果にもとづく考察について、研究の進行プロセスに応じて指導を行う。
授 業 の 方 法	参加者は、一人ずつ自身の教育内容開発コース修士課程の研究題目についてのプレゼンテーションを行い、その発表内容について、参加者全員で集団的に検討を行う。
成 績 評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーションの内容、および授業への参加度にもとづいて評価する。
教 科 書	特に指定しない。
履 修 上 の 注 意・備 考	教育内容開発コースの修士論文作成に向けての研究発表を行うだけではなく、他の参加者の研究発表にも参加することが必須である。
そ の 他	第1回の授業はハイフレックスで行う。オンラインでの参加も可能であるが、対面での参加を希望する者は教室に来ること。以降の予定については、後日、連絡する。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-302-25	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	藤村 宣之				
授 業 科 目	教育内容開発・論文指導(教育内容開発・論文指導)				
講 義 題 目	教育内容開発論文指導 Research of Dissertation				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	小学校・中学校・高校の教科等の教育や関連する認知過程に関する実証的研究について、博士論文執筆に向けての論文指導を行う。心理学的アプローチによる研究を中心に、研究の進め方、論文の書き方などに関する指導を行う。
授 業 計 画	各参加者の研究テーマに関して、博士論文の構想にもとづいて、博士論文を構成する個々の実証的研究について、先行研究の検討、研究目的・研究計画の設定、実証的研究の実施、研究結果の心理学的分析、分析結果にもとづく考察について参加者は発表を行い、研究の進行プロセスに応じて指導を行う。
授 業 の 方 法	参加者は、一人ずつ自身の教育内容開発コース博士課程の研究題目についてのプレゼンテーションを行い、その発表内容について、参加者全員で集团的に検討を行う。
成 績 評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーションの内容、および授業への参加度にもとづいて評価する。
教 科 書	特に指定しない。
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	教育内容開発コースの博士論文作成に向けての研究発表を行うだけではなく、他の参加者の研究発表にも参加することが必須である。
そ の 他	第1回の授業はハイフレックスで行う。オンラインでの参加も可能であるが、対面での参加を希望する者は教室に来ること。以降の予定については、後日、連絡する。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-303-01	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	村上 祐介、橋野 晶寛				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究(教育政策研究・基礎研究)				
講 義 題 目	教育政策基礎論 Foundation of Education Policy				

授 業 の 目 標・概 要	この授業の目的は、教育政策・行政の研究に関する理論的視点や知識を習得することにある。単に教育に関する法制度や政策について知るだけでなく、教育政策・行政に関する理念・価値や考え方としてどのような類型や対立軸があるのかを理解し、教育政策・行政を考えるうえでの分析視角を獲得することが目標である。
授 業 計 画	※受講者の状況により、順序は変更することがある。※前半を村上、後半を橋野が担当する。1 授業に関するガイダンス 2 事前統制と事後統制 3 権力の集中と分散 4 集権と分権 5 統合と分立 6 民主性と専門性 7 個別行政と総合行政 8 教育政策・財政の基礎Ⅰ 9 教育政策・財政の基礎Ⅱ 10 教育政策・財政の基礎Ⅲ 11 教育政策・財政における諸問題Ⅰ 12 教育政策・財政における諸問題Ⅱ 13 教育政策・財政における諸問題Ⅲ
授 業 の 方 法	・内容について討議を行いながら授業を進める。・事前に課題文献を読んでおくことを前提とする。・発表者を設定する場合は、事前または授業時に発表資料を提出する。・前半については、教科書の該当章及び各回ごとに指定する文献を講読する。・後半については、教科書の内容をふまえて教育政策・財政に関する洋図書について輪読する。・授業は原則として対面で行うが、事情がある場合はオンラインでの参加も可とする。
成 績 評 価 方 法	平常点(授業への参加)と期末レポートによる。
教 科 書	村上祐介・橋野晶寛(2020)『教育政策・行政の考え方』有斐閣 Lovenheim, Michael and Sarah Turner (2018) Economics of Education, Worth Publishers.Fishkin, Joseph (2014) Bottlenecks: A New Theory of Equal Opportunity, Oxford University Press.
履 修 上 の 注 意・備 考	・事前に文献に目を通す時間を確保することが求められる。・教育政策・行政に関して学部レベルの知識を有していることを前提に授業を進めるため、教育政策・行政をはじめて学ぶ場合は、早い段階で学部レベルのテキスト(参考書に挙げている文献など)に目を通しておくことが望ましい。
そ の 他	オンラインで接続する必要がある場合は、前半、後半ごとに Zoom の URL を設定する。URL は LMS を参照のこと。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-303-02	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	齋藤 宙治				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究(教育政策研究・基礎研究)				
講 義 題 目	子どもの権利の諸問題 Issues in Children's Rights				

授 業 の 目 標・概 要	学校教育を考えるうえで、子どもの権利の視点は必須である。この科目は、子どもの権利に関する英語の基本文献を読むことを通じて、学際的・社会科学的視点から、子どもの権利に関する理解を多角的に深めることを目的とする。あわせて、法や権利について、実証的に分析する視座とその基礎的能力を修得することを目的とする。全 35 章からなる書籍の中から 12 章分程度を厳選して取り扱う。文献自体は英語だが、毎回の発表者による要約報告と議論は日本語で行う。
授 業 計 画	おおむね、以下の内容を予定している。ただし、若干の変更があり得る。1. 導入 2. 子どもの権利の歴史 3. 子どもの権利条約の課題 4. 文化人類学と子どもの権利 5. 社会学と子どもの権利 6. 心理学と子どもの権利 7. 学校と子どもの教育権 8. 子どもの遊ぶ権利 9. デジタル技術と子どもの権利 10. 子どもと労働 11. 子どもの書く権利 12. 地方政府・行政への子どもの参加 13. 子どもの権利に関する子どもの声
授 業 の 方 法	文献輪読による演習形式。各回(毎回 1 章分を予定)の発表担当者に要約報告してもらったあと、全員で議論する。議論を円滑にするために、発表者以外の受講者からも事前に簡単なリアクションペーパーを提出してもらう(A4 で 1 頁以内、1 人 3~5 回程度を予定)。具体的な進行や発表担当回の割当ては、受講者数に応じて、初回に決める。
成 績 評 価 方 法	担当回の発表、リアクションペーパー、議論への参加度による。期末レポートは課さない。
教 科 書	Martin D. Ruck et al. eds., Handbook of Children's Rights: Global and Multidisciplinary Perspectives, Routledge, 2017 (該当箇所は授業内で指示する)
履 修 上 の 注 意・備 考	法学政治学研究科総合法政専攻との合併で開講する。受講者には議論への積極的な参加を求める。文献の内容を細かく和訳・解説することを目的とする授業ではない。文献の内容はあくまでも議論のための素材であり、受講者の興味関心に合わせて、発展的な議論を行いたい。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-03	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	勝野 正章				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究(学校教育経営・基礎研究)				
講 義 題 目	現代学校改革の諸問題 Issues in Contemporary School Reforms				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	現代日本(及び諸外国)の学校改革に関する政策や制度改革、及びその学校教育に及ぼす影響について、考察を深めることを目的とし、そのために必要な理論や概念の獲得を目指す。授業は、その週でとりあげる理論・概念や課題について、指定された文献の内容を基に議論を行い、理解を深める形で進める。参加者は、指定された文献を読んで、内容に関する意見・疑問を整理して授業に臨み、議論に参加することが求められる。
授 業 計 画	文献リスト及びスケジュールは3月末までにITC-LMSに掲示するので確認すること。
授 業 の 方 法	予め指定された文献を読んで、感想・意見・疑問点などをA4で1枚程度にまとめ、授業日の3日前(月曜日)午後9時までにITC-LMSを通じて提出すること。可能な範囲でできる限り、英語での発表・議論を取り入れる。
成 績 評 価 方 法	課題の提出、及び授業での議論への参加を総合して評価する。
教 科 書	なし
履 修 上 の 注 意 ・ 備 考	なし
そ の 他	なし

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-04	単 位 数	2	学 期	S1S2
担 当 教 員	橋野 晶寛				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究(教育政策研究・発展研究)				
講 義 題 目	教育政策研究方法論Ⅱ Research Design and Methods of Education Policy Studies Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	この授業では、教育政策研究・政策評価において必要とされる実証分析の方法について学ぶ。教育行政・学校経営分野での適用を念頭において、教育政策研究で用いられる機会の多い計量的手法について基本的な考え方を理解することを目指す。また、そうした手法の適用が対象である教育政策に関する知見の課題設定・前提・含意に具体的に何をもたらすか、という点を考察する。
授 業 計 画	前半では、教育政策研究における実証分析の基礎的手法について学ぶ。後半については、初回に受講者と相談の上で扱うトピックを決定する。前半：統計的因果推論の諸手法の基礎後半：以下のトピックからいずれかを選択(受講者と相談の上で決定)1) 統計的因果推論の教育政策・行財政研究への応用と発展的トピック 2) パネル・クラスターデータの分析手法 3) 計量テキスト分析・機械学習 4) 量的/質的研究の方法論的基盤授業実施形態については、原則として対面で実施する。1. 近年の教育政策研究の動向と課題 2. 既習事項の復習(線形回帰モデル等)3. 教育政策研究における実証分析の基礎 14. 教育政策研究における実証分析の基礎 25. 教育政策研究における実証分析の基礎 36. 教育政策研究における実証分析の基礎 47. 教育政策研究における実証分析の基礎 58. 教育政策研究における実証分析の基礎 69. 選択したトピック 110. 選択したトピック 211. 選択したトピック 312. 選択したトピック 413. 選択したトピック 5
授 業 の 方 法	文献輪読(発表・議論)による。
成 績 評 価 方 法	平常点(発表および授業中の発言)に基づいて評価する。日程の都合等で発表を担当できない場合は、期末に相応のレポートを提出してもらう。
教 科 書	特に指定しない。都度関連資料を配布する。
履修上の注意・備考	データ分析に関する入門的事項の理解があることが望ましい。
そ の 他	扱うトピックの候補および検討文献の詳細は、第 1 回授業資料(事前に LMS「教材」にアップロードしておく)を参照すること。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-05	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	宗前 清貞				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究(教育政策研究・発展研究)				
講 義 題 目	教育制度の公共政策分析 Public Policy Studies of Education Systems				

授 業 の 目 標・概 要	この授業は、公共政策学の基礎的知識を習得し、それを教育政策や制度の分析・評価に応用できることを目的とする。具体的な政策領域において、従来は固有の知識体系を前提として分析が行われる事例が多いが、制度や政策は「広義の政治」の出力なので、政治学に由来する政策分析の考え方を習得することは重要である。本講義を通じて、政策過程に対する基礎的かつ主要なアプローチを理解し、学術論文執筆に活用できるようになることが目標である。
授 業 計 画	A 序説 1.公共政策学という考え方(対面講義)B 利益アプローチ 2.キューバミサイル危機の事例研究(調査発表)3.アリソンによる3モデルの理解(講義、討論)4.アクターアプローチ論文(討論)C アイディアアプローチ 5.政策移転の政策学(討論)6.行政改革・分権改革の政治学(討論)D 地方行政 7.政策波及の動態分析(討論)8.政策廃止の要因分析(討論)9.生活保護の政官関係(討論)10.第一線職員の行政管理(討論)E 政策論と制度論 11.書評のありよう(講義、討論)12.自殺研究読解(討論)13.国民皆保険の形成過程(対面討論)
授 業 の 方 法	演習形式で行う。割り振られた課題の発表を行い、討論を行う。また関連する概念や考え方を適宜講義する。なお、初回と最終回は教室にて対面で実施する。それ以外の回は ZOOM による遠隔方式で行う。また講義内で扱った論文の筆者によるオーサートーク(ライブまたは録画)を設ける予定。
成 績 評 価 方 法	平常点(授業への参加度、要旨メモの完成度、欠席回数)および課題レポート(書評または政策過程分析)による
教 科 書	秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉(2020)『公共政策学の基礎[第3版]』有斐閣
履 修 上 の 注 意・備 考	この講義では政治学的知識の習熟を前提としていないが、時間の制約がある大学院講義であることを考慮すると、講師による個別フォローには限界がある。そのため、もしも政治学・行政学の知識に不安がある場合には、上述の参考書を必要に応じて入手し、適宜参照されたい。そのうえで質問がある場合にはできる限り対応する予定である。また授業で用いる論文等は(レポジトリ等で電子的に入手できる場合を除き)教員側で準備し配布する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-06	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	伊藤 守				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究(学校開発政策・発展研究)				
講 義 題 目	現代思想と情動論の展開 Contemporary Thought and Affect Theory				

授 業 の 目 標・概 要	情動概念に関する基本的理解と共に「情動的世界」の多層性・多面性を理解することが目標となる。具体的には、私的でありかつ公共的でもある情動の両義性、つまり個性性と集団性が対立的なものではなく相互包摂であること、さらにコンピュータ科学における「情動」現象の「実装化」への試みやメディア環境における情動現象の生起等、現在社会における情動に関連する事象にも目を向けることもこの講義の目標である。
授 業 計 画	前半は、スピノザ、ジェームズ、ホワイトヘッド、ドゥルーズ&ガタリ、そしてマッサミの議論を生命組織の創造性や即興性といった＜ontopower＞の力動性を中心に検討し、後半は受講生から教育分野における情動論の議論の核心点を報告してもらう。
授 業 の 方 法	毎回、事前に論文を読んで報告し、全員で議論するスタイルとする。
成 績 評 価 方 法	報告内容、ならびに議論への参加の積極性から評価する。
教 科 書	必要な論文を事前に配布する。
履修上の注意・備考	報告と議論への参加を重視するので、この点に留意して受講すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-303-07	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	楠見 孝				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究(学校開発政策・発展研究)				
講 義 題 目	実践知と叡智:熟達化と生涯発達からの検討 Practical Knowledge and Wisdom:Perspective from Expertise and Lifelong Development				

授 業 の 目 標・概 要	[概要] 実践知と叡智の特質と認知過程を支える批判的思考と省察, 自伝的記憶, 学習過程としての熟達化や経験学習, アンラーニング, そして生涯発達について概説します。さらに, それらをとらえる認知心理学, 認知科学と教育学などの関連領域の主要な理論とモデルに関して, 研究方法とデータに基づいて検討します。あわせて, 学校や職場における具体例について, ICT や大規模データ, 生成AIの利活用の諸問題も含めて検討します。[目標] 受講生が, 実践知と叡智に関する理論, 方法論を理解して, 自分の研究テーマと関連づけて検討し, 研究の展開に結びつけることを目指します。
授 業 計 画	1. 仕事の熟達化と熟達者, 経験学習 2. 実践知を支えるスキル(教員, 看護師, 会社員の事例)3. 叡智と生涯発達, 実践知の共有と継承 4. 職場におけるラーニングとアンラーニング (ICT, プログラミング教育と教育データ, 生成 AI の利活用の事例)5. 実践知を支える批判的思考と省察, 自伝的記憶 6. 受講者の発表(自身の研究あるいは授業に関するテーマ, 参考書①, ⑩などに所収された論文紹介)7. 全体討論とまとめ
授 業 の 方 法	講義と演習を組み合わせで行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況と発表などに基づいて, 総合的に評価を行う。
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	・受講者の関心や人数によって, 授業計画は調整する。・予習:上記の参考書を読んで, 問いをたてる。・復習:自らの問いが, 授業によって解決できたかを確認し, さらなる問いをたてる自分の研究に関連するテーマや関心を持ったテーマについては, 自ら資料を収集し, 探究を深め, 最終回での発表の準備を進める。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-08	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	木村 優				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究(学校開発政策・発展研究)				
講 義 題 目	教職専門性開発研究概論 Research on Professional Development of Teachers				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	本授業では、教師の専門性の内実及び専門性開発の過程についての基盤理論(専門職の資本、専門職の学び合うコミュニティ、専門職の学び合うネットワーク、ミドルからのリーダーシップ等)を理解・習得した上で、複雑で不確実であるが豊かな教育理論の生成と変革のアリーナである教育実践をベースにした教職専門性開発研究を推進するための素養を受講院生が協働で磨き合うことを目標とする。In this class, we aim to cultivate graduate students understanding and mastering the basic theories of teacher professionalism and the process of professional development (professional capital, professional learning communities, professional learning networks, leadership from the middle, etc.), and then they study collaboratively to refine their skills to promote research on teacher professional development based on educational practice, which is a complex, uncertain, but rich arena for the creation and transformation of educational theories.
授 業 計 画	授業は以下、4つのサイクルで展開する。第1サイクル(第1回) 教職をめぐる社会的状況と教師研究・教育研究の展望第2サイクル(第2回～第6回) 専門職としての教師の資本第3サイクル(第7回～第13回) Leadership from the middle as the beating heart of educational transformation 第4サイクル(第14回) 教職専門性開発研究の展望第1サイクルでは、わが国の教育政策・教師政策の動向を踏まえた上で、受講院生それぞれの教師研究または教育研究の展望を確認する。第2サイクルでは、ハーグリーブス&フラン『専門職としての教師の資本—21世紀を革新する教師・学校・教育政策のグランドデザイン』(Hargreaves, A. & Fullan, M. (2012) “Professional Capital: Transforming teaching in every school,” New York: Teachers College Press の邦訳)を吟味検討し、教師の専門性の内実及び専門性開発の過程についての基盤理論を理解・習得する。授業では、第1・2・3・4・5・6章を扱う。第3サイクルでは、Hargreaves, A (2024) “Leadership from the middle: The beating heart of educational transformation,” New York and London: Routledge を吟味検討し、教職専門性開発を推進するための革新理論を探究する。授業では、全7章を扱う。第4サイクルでは、先のサイクルを通じた探究をふまえ、受講院生それぞれの教職専門性開発研究の展望を拓く。The class will proceed in the following four cycles.Cycle 1 (1st session) Social conditions surrounding the teaching profession and prospects for teacher research and educational researchCycle 2 (2nd-6th sessions) Professional Capital of the teachersThird cycle (Part 7 - 13) Leadership from the middle as the beating heart of educational transformationCycle 4 (14th) Prospects for research on professional development of teachersIn the first cycle, we will confirm the prospects of each graduate students' teacher research or educational research based on the trends of education policy and teacher policy in Japan.In the second cycle, we will review Hargreaves, A. & Fullan, M. (2012), Professional Capital: Transforming teaching in every school,” New York: Teachers College Press) to understand and master the basic theories of the nature of teacher professionalism and the process of professional development. We will examine Chapters 1, 2, 3, 4, 5, and 6 in the class.In the third cycle, we will review Hargreaves, A (2024) “Leadership from the middle: The beating heart of educational transformation,” New York and London: Routledge. We will explores innovative theories for promoting professional development in the teaching profession. The class will cover a total of seven chapters of this book.In the fourth cycle, based on the exploration through the previous cycles, each graduate students will develop their own perspectives on research on professional development in teaching.
授 業 の 方 法	授業は資料及び文献講読をベースとしたゼミナール形式で行う。なお、受講院生が多数の場合、適宜、少人数のグループワークを取り入れ、学びの共有や意見の交流を行う。受講院生には、第2サイクル及び第3サイクルで扱う文献を事前に確認いただき、同文献を協働で吟味検討するためのレジュメを章分担で作成いただいて授業当日に臨んでいただく。そのため、授業前オリエンテーションをオンラインまたは書面で実施し、受講院生同士で担当章の分担を決める。一つの章を複数受講院生で担当するのも歓迎

	迎。レジュメには、まず、(1)担当章の概要を示し、
成績評価方法	成績評価は、授業全般における対話への参画の程度、作成レジュメの精度、教職専門性開発研究の展望から見る同研究へのエンゲージメントの程度、を総合して行う。Grading will be based on the degree of participation in the overall class dialogue, the accuracy of the prepared resumes, and the degree of engagement in the research from the perspective of the research on professional development in teaching.
教科書	(1)ハーグリーブス・A & フラン・M, 木村 優・篠原岳司・秋田喜代美(監訳)(2022)『専門職としての教師の資本—21 世紀を革新する教師・学校・教育政策のグランドデザイン』, 金子書房(Hargreaves, A. & Fullan, M. (2012) “Professional Capital: Transforming teaching in every school,” New York: Teachers College Press)を吟味検討し、教師の専門性(2)Hargreaves, A (2024) “Leadership from the middle: The beating heart of educational transformation,” New York and London: Routledge
履修上の注意・備考	受講院生は、教師・教職専門性を扱った学術論文や学術書について事前に吟味しておくこと。また、履修に際しては、授業中の全体またはグループでの対話に積極的に参加すること。また、互いの受講院生の声(意見)によく耳を澄まし、ときには他の受講院生に意見を求めるなど、対話における知的及び心理的安全性の保障、協働探究の活性化に努めること。授業後には、授業で扱った文献を再吟味・再検討し、自身の教師研究・教育研究推進のためのフレームリフレクションに役立てること。Graduate students are expected t
その他	本授業の挑戦的な課題へのチャレンジの中で、仲間との協働探究を楽しもう。Enjoy collaborative inquiry with your peers in the challenge of the issues in this class.

本研究科他コース学生	履修 可
本学他研究科学生	履修 可
他大学生(特別聴講学生等)	履修 可

時 間 割 コー ド	23-303-09	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	濱田 秀行				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究(学校開発政策・発展研究)				
講 義 題 目	国語科教育の理論と実践 The Theory and Practice of Japanese Language Education				

授 業 の 目 標・概 要	今日の学校教育における国語科の授業実践とその理論について学ぶ。教科「国語」の公式の枠組みである「学習指導要領」の学力観・指導観や実際の授業事例、教科書教材について検討することを通して、国語科教育の理論を踏まえながら実践について議論ができるようになる。／Learn about Japanese language class practice and its theory in school education.
授 業 計 画	1. オリエンテーション 2. 国語科授業実践の基本的な枠組 3. 国語科学習指導の実際 4. 国語科の教科内容(「読むこと」を例に)5. 「読むこと」をとらえ直す(教科書教材の構成)6. 「読むこと」をとらえ直す(教材分析)7. 指導と評価の一体化 8-9. 授業事例1の検討 10. 国語科授業実践のコンテクスト 11. 協働による読みの深まり 12-13. 授業事例2の検討
授 業 の 方 法	グループワーク, グループディスカッションを中心とする。
成 績 評 価 方 法	授業中の議論への参加状況とレポートから評価を行う。
教 科 書	文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 国語編』東洋館出版社
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	テキストは、文部科学省の Web ページから PDF ファイルをダウンロードし授業中に参照できるよう準備すれば購入しなくても良い。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-10	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	永田 佳之				
授 業 科 目	学校開発政策・理論研究(学校開発政策・発展研究)				
講 義 題 目	地球規模課題とESD Global Issues and ESD				

授 業 の 目 標・概 要	教育が普及すればするほど環境はなぜ悪化するのか。もしそうであればそのような教育にどんな価値があるのであろう — 環境教育や ESD の論客である David Orr が私たちにこう問いかけたのは 30 年ほど前である('Earth in Mind')。この授業では、この問いを基層に据え、履修者が各々の答えを探究していく。上記の問いの他にも幾つかの〈正答のない問い〉を共有し、それぞれの思索を深める契機とする。講義内容のテキストスタイルとして、縦系として「教育開発」を、横系として「環境」や「持続可能性(サステナビリティ)」などのグローバルな課題を設け、人類にとって喫緊の問題である気候変動(気候危機)などのサブトピックも織り込んでいく。また、ポスト・コロナ時代における教育の在り方を幼児教育から高等教育に至るまで国内外の理論や原理、実践も紹介しながら考察を深める。
授 業 計 画	1 基本的な問いの共有 2 持続可能な社会と教育 3 環境教育・ESD・EfS4 エコフォビアを超えて 5 プラネタリー・バウンダリーと未来世代 6 気候変動の本質的な課題 7 不確実性の時代と学校教育 8 ESD の来し方行く末① 9 ESD の来し方行く末② 10 ESD for 2030 – SDGs と教育 – 11 世界の優良実践① 12 世界の優良実践② 13 日本の教育を捉え直す 14 「平和・人権・持続可能な開発のための教育に関する勧告」と「教育の未来」報告書 15 ポスト・コロナ時代の学校をデザインする
授 業 の 方 法	資料配布など、部分的にオンラインの活用も検討するが、基本は教室での対面による授業を行う。〈正答のない問い〉を中心に進め、グループ討議や発表も適宜、取り入れていく。全ての講義への参加を前提とし、最終授業で課す〈正答のない問い〉に関するレポートを通して、一連の講義で深めた思索の共有をしてもらう。
成 績 評 価 方 法	授業への参加状況(発表・発言など)60%、レポート 40%を目安に総合的に判断する。
教 科 書	リチャード・ダン『ハーモニーの教育: ポスト・コロナ時代における世界の新たな見方と学び方』山川出版社。
履 修 上 の 注 意・備 考	教科書をはじめ、事前に参考書などの文献をよく読んで授業に臨むこと。
そ の 他	以下の URL も参照: ・気候変動教育プラットフォーム https://climate-empowerment.nagatalab.jp ・BE*hive (暮らしから捉え直す SDGs) http://kyosei.u-sacred-heart.ac.jp/event/201207/ ・Operation Green. https://operationgreen.info/ecoshift_school/ 初日と最終日以外をオンラインで実施する可能性があるが、URL などの詳細は初日の対面の授業で伝えます。

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コード	23-303-12	単 位 数	2	学 期	集中
担 当 教 員	村上 祐介				
授 業 科 目	学校開発政策・実践研究(教育政策研究・事例研究)				
講 義 題 目	教育行政事例研究Ⅱ Case Study in Educational Administration Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	この授業は、学校改善に資する教育行財政や政治のあり方や教育行政の専門性のあり方について、最近の事例研究の講読などを通じて議論し理解を深めることを目的とする。前半は教育行政の専門性に関する文献を取り上げる。後半は近年公刊された米国の学校改善の事例分析を講読する。
授 業 計 画	授業に関するガイダンス第Ⅰ部 教育行政の専門性教育行政の専門性に関わる諸問題(中立性、教育行政専門職員に関する議論など)について、最近の研究を中心に検討する。第Ⅱ部 学校改善の事例研究米国ロサンゼルス近郊の地域で学校改善がなぜ成功したのかを分析した事例研究(Fuller, 2022)を中心に、学校改善と教育行財政・政治との関係について考える。
授 業 の 方 法	・受講者は、集中講義の期間中 1 日につき 1 回以上(受講者数によっては 2 回以上)、当該文献に関する簡単なメモ(意義や疑問点など)を作成する。・第 2 部については、事前に報告者を割り当て、文献の要約とコメントを行うこととするが、受講者数によって変更の可能性がある。・上記の報告資料やメモを基に議論を行う。
成 績 評 価 方 法	授業への参加度と提出された資料・メモの内容により評価を行う。試験は行わない。
教 科 書	Fuller, B. (2022). When schools work: Pluralist politics and institutional reform in Los Angeles. Johns Hopkins University Press.その他の文献は開講時まで指示する(履修上の注意を参照)
履修上の注意・備考	詳細な進行予定と課題文献については、開講時まで LMS に掲載する。LMS からののお知らせメールの配信が届く設定にするか、開講前に定期的に LMS を確認のこと。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-13	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	福島 尚子				
授 業 科 目	学校開発政策・実践研究(学校教育経営・事例研究)				
講 義 題 目	学校経営実践の開発Ⅱ Developmental Study of School Management Ⅱ				

授 業 の 目 標・概 要	本科目は学校経営政策の動向を踏まえ、様々な領域における学校経営実践について調べ、その特徴や促進要件・阻害要件を分析し、より自律的な学校経営実践を開発する基礎的知識や能力を養うことを目的とする。そのため、各受講生には調査、分析、発表、討議などへの積極的参加を促す。
授 業 計 画	講義の前半では中央教育審議会答申「今後の地方教育行政の在り方について」(1998 年)などの学校経営政策上重要なものに触れ、近年の学校経営政策上の動向について踏まえる。講義の後半では、学校経営上の諸領域について先駆的な実践についてとりあげ、各回で討議・分析していく。
授 業 の 方 法	初回授業において授業の方法を説明するとともに、受講生による発表の役割分担をする。受講生はその興味関心や専門分野に応じて学校経営上の諸領域について分担をし、発表担当回までにその領域での先駆的な実践について、活字資料や先行研究などからその政策的背景・概要・特徴・意義・問題点・促進要件・阻害要件などについて発表できるようにする。各々その実践を分析する上でポイントになる事柄について論点をひとつ以上立て、各回の担当者の発表後、全員でその論点を討議する。
成 績 評 価 方 法	発表担当回の発表内容や論点の立て方 40 点担当回以外の授業における参加度 40 点期末レポート 20 点
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	授業の出席はもちろんだが、授業への積極的参加を高く評価する。担当回における発表に向けて、自分が専門ではない領域ではあっても、その実践をより良くするため、これまでの教育学で学んできた様々な規範論・権利論、条理論や権限論を踏まえた意見や、個別の生育歴や経験を踏まえた素朴で素直な意見を大事にして欲しい。その意味で、研究の視点も大事だが、子ども、教職員、管理職、保護者など、様々な主体の視点に立つことが求められる。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 可

時 間 割 コー ド	23-303-14	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	村上 祐介				
授 業 科 目	学校開発政策・実践研究(教育政策研究・実地研究)				
講 義 題 目	教育行政実地研究 Fieldwork in Educational Administration				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	教育行政・政策の現場におけるフィールドワーク(観察、調査、実習など)を通して、教育政策・教育行政の理論的・実践的問題を探究し、自らの問題意識と調査研究の構想を深めることを目標とする。受講生はそれぞれの研究テーマに即して研究計画を作成し、フィールドワークを進める。具体的な進め方は、受講生の研究テーマや対象となるフィールドによって異なるため、それに即して検討する。
授 業 計 画	初回の授業時にガイダンスを行い、実地研究の方法と進め方について説明する。その後、受講生各自が研究計画書を作成し、それについて議論を進めながら各自で研究を進める。適宜、中間報告と最終報告を行い、期末レポートを作成する。
授 業 の 方 法	受講生による研究報告と討論によって授業を進める。
成 績 評 価 方 法	中間報告と最終報告、期末レポートによって評価を行う。
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	受講生の研究計画や状況に合わせながら授業を実施する。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-303-15	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	橋野 晶寛				
授 業 科 目	学校開発政策・実践研究(教育政策研究・実地研究)				
講 義 題 目	教育政策実地研究 Fieldwork in Education Policy				

授 業 の 目 標・概 要	教育政策に関する調査を通して、研究の構想および調査の設計を深めることを目標とする。受講生それぞれの研究テーマに即して研究計画を作成し、調査を進める。
授 業 計 画	初回授業時に、実地研究の方法と進め方について説明する。受講生各自が研究計画書を作成し、それについて議論を進めながら各自で研究を進めた上で、中間報告と最終報告を行う。1. オリエンテーション 2. テーマ設定 3. 調査の計画 4~8. フィールドワーク 9. 中間発表 10~12. 調査データの分析と討論 13. 最終発表
授 業 の 方 法	受講生による研究報告と討論による。
成 績 評 価 方 法	中間報告、最終報告(レポート)によって評価する。
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	特になし。学校開発政策コース修士 1 年生は、原則としてこの実地研究を履修すること。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-303-16	単 位 数	2	学 期	A1A2
担 当 教 員	勝野 正章				
授 業 科 目	学校開発政策・実践研究(学校教育経営・実地研究)				
講 義 題 目	学校経営実地研究 Fieldwork in School Management				

授 業 の 目 標・概 要	学校経営の現場におけるフィールドワーク(観察、調査、実習・インターンシップ的なものも含む)を通して学校経営の理論的・実践的問題を研究する。
授 業 計 画	最初に受講生各自の研究計画書に基づいて、研究目的・テーマ・方法・計画の適切性、妥当性について協議を行い、その後は研究計画にしたがって各自で研究を進める。12 月に進捗状況を確認するための中間報告、年度末に最終報告を求める。
授 業 の 方 法	受講生の研究テーマや対象となるフィールドによって異なるため、個別に相談しながら決めていく。現職者には自らの勤務する教育機関などで職務を行いながら、問題解決のための研究をアクションリサーチとして実施することを勧める。
成 績 評 価 方 法	中間報告、最終報告(レポート)によって評価する。
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	なし

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コ ー ド	23-303-17	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	勝野 正章				
授 業 科 目	学校開発政策・論文指導				
講 義 題 目	学校経営研究論文指導 Dissertation Research in School Management				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	修士論文の作成、執筆を目的とした指導を行う。
授 業 計 画	具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。
授 業 の 方 法	教育行政研究論文指導(村上教授)、教育政策研究論文指導(橋野准教授)との共同の論文指導となる。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	なし

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コ ー ド	23-303-18	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	勝野 正章				
授 業 科 目	学校開発政策・論文指導				
講 義 題 目	学校経営研究論文指導 Dissertation Research in School Management				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	博士論文の作成、執筆を目的とした指導を行う。
授 業 計 画	具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。
授 業 の 方 法	教育行政研究論文指導(村上教授)、教育政策研究論文指導(橋野准教授)との共同の論文指導となる。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	なし
履修上の注意・備考	なし
そ の 他	なし

本 研 究 科 他 コ ー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

時 間 割 コード	23-303-19	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	村上 祐介				
授 業 科 目	学校開発政策・論文指導				
講 義 題 目	教育行政研究論文指導 Dissertation Research in Educational Administration				

授 業 の 目 標・概 要	修士論文の作成、執筆を目的とした指導を行い、その完成を目指す。また受講者の研究計画を全員で検討することを通じて、自らの修士論文の作成・執筆に役立てる。
授 業 計 画	具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。
授 業 の 方 法	学校経営研究論文指導(勝野教授)、教育政策研究論文指導(橋野准教授)との共同の論文指導となる。原則としてオンラインで授業を行う予定であるが、ガイダンスなどは対面またはハイフレックスで授業を実施する可能性がある。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コース 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-303-20	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	村上 祐介				
授 業 科 目	学校開発政策・論文指導				
講 義 題 目	教育行政研究論文指導 Dissertation Research in Educational Administration				

授 業 の 目 標・概 要	博士論文の作成、執筆を目的とした指導を行い、その完成を目指す。また受講者の研究計画を全員で検討することを通じて、自らの博士論文の作成・執筆に役立てる。
授 業 計 画	具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。
授 業 の 方 法	学校経営研究論文指導(勝野教授)、教育政策研究論文指導(橋野准教授)との共同の論文指導となる。原則としてオンラインで授業を行う予定であるが、ガイダンスなど一部、対面またはハイフレックスで授業を実施する可能性がある。
成 績 評 価 方 法	平常点
教 科 書	特になし
履修上の注意・備考	特になし
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-303-21	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	橋野 晶寛				
授 業 科 目	学校開発政策・論文指導				
講 義 題 目	教育政策研究論文指導 Dissertation Research in Education Policy				

授 業 の 目 標・概 要	修士論文の作成、執筆を目的とした指導を行い、その完成を目指す。また受講者の研究計画を全員で検討することを通じて、自らの修士論文の作成・執筆に役立てる。
授 業 計 画	具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。
授 業 の 方 法	学校経営研究論文指導(勝野教授)、教育行政研究論文指導(村上教授)との共同の論文指導として実施する。
成 績 評 価 方 法	平常点による
教 科 書	特になし
履 修 上 の 注 意・備 考	・受講は、学校開発政策コース所属大学院生に限る。・今年度はオンラインで実施するが、初回もしくは 4 月のいずれかの回において対面で授業実施する回を設ける。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履 修 不 可
本 学 他 研 究 科 学 生	履 修 不 可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履 修 不 可

時 間 割 コー ド	23-303-22	単 位 数	2	学 期	通 年
担 当 教 員	橋野 晶寛				
授 業 科 目	学校開発政策・論文指導				
講 義 題 目	教育政策研究論文指導 Dissertation Research in Education Policy				

授 業 の 目 標 ・ 概 要	博士論文の作成、執筆を目的とした指導を行い、その完成を目指す。また受講者の研究計画を全員で検討することを通じて、自らの修士論文の作成・執筆に役立てる。
授 業 計 画	受講者と相談し、決定する。
授 業 の 方 法	学校経営研究論文指導(勝野教授)、教育行政研究論文指導(村上准教授)との共同の論文指導として実施する。
成 績 評 価 方 法	平常点による。
教 科 書	特になし。
履修上の注意・備考	・受講は、学校開発政策コース所属大学院生に限る。・今年度はオンラインで実施するが、初回もしくは 4 月のいずれかの回において対面で授業実施する回を設ける。
そ の 他	

本 研 究 科 他 コー ス 学 生	履修 不可
本 学 他 研 究 科 学 生	履修 不可
他 大 学 生 (特 別 聴 講 学 生 等)	履修 不可

vii. 教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧	削除
viii. 事務室のオフィスアワー及び連絡方法一覧	削除
ix. 地図	削除